

2018 年度 シラバス

《目 次》

2018年度開講科目一覧	1
卒業研究	212
索 引	222

※各科目の最新シラバスについては、el-Campus（エルキャンパス）のシラバスを確認してください。

※本学に設置しているパソコンは、「Windows」です。スクーリング受講時、その他図書館などの施設は、これを使用します。

※課題（レポート等）作成時に Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel 等の基本ソフトが必要となる場合があります。

※メジャー（専修）については、2014 年度以降設定した名称を表記しました。2013 年度以前の入学者は、該当する『シラバス』を確認してください。メジャー（専修）欄が空白の場合は、メジャーに該当しません。

※科目は、50 音順に配列します。222 ページの索引を参考にしてください。

※シラバス内容に変更がある場合は el-Campus（エルキャンパス）の「学校からのお知らせ」等で案内します。

大手前大学 現代社会学部 現代社会学科 通信教育課程

メジャー（専修）名	科目に該当するメジャーが記載されています。該当しない科目もあります。 2013年度以前の入学者は、該当する『シラバス』を確認してください。
授業科目名	授業科目名称が記載されています。
担当教員	科目の担当教員名が記載されています。
レベルナンバー	基礎・発展の度合いを示す指標です。 数値が低いほど基礎的な内容に、高いほど発展的な内容になっています。
単位数	単位数が記載されています。
授業方法	科目的授業方法が記載されています。 <ul style="list-style-type: none"> ◆通信授業：教材（教科書、PDF教材）とデジタル教材を併用した授業 ◆メディア授業：主にデジタル教材を中心に教材（教科書、PDF教材）を併用して期間内に学習を進める授業 ◆メディア授業（ライブ型）：受講する日程があらかじめ決められている授業 同時双方向性を確立した学習で、定められた開講日程にてライブ配信される授業を受講 ◆スクーリング：各会場（キャンパス等）の教室で受講する授業
デジタル教材活用度	★が多いほどデジタル教材が充実、活用されています。 ★★★ デジタル教材を中心に学習を進めます。 ★★☆ デジタル教材と教科書を併用して学習を進めます。 ★☆☆ 教科書を使用して学習を進め、与えられた課題に取り組みます。 ☆☆☆ スクーリング
単位修得試験受験資格	単位修得試験を受験するための資格を記載しています。 <ul style="list-style-type: none"> ◆通信授業：全ての教材（課題）が「済」になることが必要です。 ◆メディア授業：受講クール内に全ての教材（課題）が「済」になることが必要です。 ◆メディア授業（ライブ型）：全授業に出席することが必要です。 ◆スクーリング：出席状況、平常点、課題提出等が指定されています。
単位修得試験実施方法	単位修得試験の実施方法を記載しています。 <ul style="list-style-type: none"> ◆通信授業 Web 試験：el-Campus で実施する試験 レポート：作成したレポートを定められた期間に el-Campus で提出する試験 ◆メディア授業 Web 試験：el-Campus で実施する試験 レポート：作成したレポートを定められた期間に el-Campus で提出する試験 ◆スクーリング(詳細は授業中に教員が指示します。) 現地試験：スクーリング最終日に受験する筆記試験等 現地試験（レポート）：スクーリング最終日に受験する課題試験 現地試験（課題）：スクーリング最終日に受験する課題試験 レポート：作成したレポートを教員が指示した期日までに el-Campus で提出する試験 <p>注）上記の他に、提出課題、平常点を重視する科目もあります。</p>
試験会場	スクーリングにて現地試験が行われる会場名（キャンパス等）が記載されています。
学習目標	学習目標が記載されています。
学習の進め方	効果、効率のよい授業学習の進め方が記載されています。
授業時間外学習	授業時間以外の予習、復習に必要な学修活動が記載されています。
学習内容	回ごとの学習内容がタイトルと概要に分けて記載されています。

課題	各回に指定された課題が記載されています。課題には、確認テスト、レポート等があり、科目ごとに異なります。
成績評価方法	成績評価の方法および配分が記載されています。
教科書	使用する教科書の情報が記載されています。教科書を使用しない科目は「なし」と記載しています。
参考書（任意購入）	使用する参考書名等が記載されています。
必須ソフト・ツール	受講（試験受験時）に必要なソフトやツールが記載されています。
備考	スクーリングの受講者上限人数（目安）や履修に関する注意事項等、モバイル端末対応科目について記載されています。

※資格について 各資格修得するために必要な科目名称等は、『2018年度 学生便覧』P.78～P.94を参照してください。

※モバイル対応について オンデマンド教材をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末で視聴できる科目です。ただし、課題や単位修得試験は受講できません。パソコンで受講してください。

メジャー(専修)名				授業科目名	NPO 概論			担当者	前田 佐保			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>レスター・サラモンが「世界的非営利革命」と呼び、成長を続ける NPO。深化する地域および地球的規模の課題や、多様化する人々の価値観やニーズに効果的かつ効率的に対応できる、新たな「公共の担い手」として注目され、わが国でも 1990 年代以降、急速に台頭してきた。1995年の阪神・淡路大震災を契機としたボランティアや NPO への関心の高まりは、1998年の特定非営利活動促進法制定へと結実、着実に発展を遂げている。一方、新公益法人制度が 2008 年 12 月に施行され、NPO セクターは新たな段階へ突入した。</p> <p>本授業では、最新の動向にも触れながら、NPO とは何か、ダイナミックに動いている NPO の世界を多角的に理解することをめざす。</p>											
学習の進め方	<p>本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。学習を始める時にはオンデマンド教材で各回の学習概要を確認してから進めてください。また、参考資料・文献なども参照してください。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。前半と後半に 2 回ディスカッションを設けていますので、積極的に参加して議論を深めましょう。</p>											
授業時間外学習	<p>・スライドのみの学習ではなく、必ず教科書をきちんと理解し、必要に応じて参考図書にもあたりながら理解を確実にしてください。</p>											
学習内容	<p style="text-align: center;">概 要</p> <p>第 1 回 NPO とは何か NPO の定義や概念、特徴、NPO 法人や公益法人などさまざまな非営利組織の法人制度を理解する。「NPO」という考え方方に触れ、実は身近な存在である NPO を“発見”し、NPO の輪郭を掴むことをめざす。</p> <p>第 2 回 NPO セクターの歴史、背景 NPO のルーツ、市民活動の変遷・発展の歴史を辿り、NPO セクターがなぜ台頭してきたのかを理解する。</p> <p>第 3 回 NPO セクターの現状 国際比較も踏まえ、世界および日本の社会における NPO セクターの位置づけを学び、NPO 独自の存在意義・役割、課題や可能性について理解を深める。</p> <p>第 4 回 NPO の活動 福祉、青少年、環境、まちづくり、国際交流・協力など多岐にわたる NPO の活動を知る。セクターの発展に重要な役割を果たす中間支援組織についても取り上げる。社会変革の触媒としての NPO の特徴を理解する。</p> <p>第 5 回 NPO の組織、マネジメント 人・物・金などの経営資源を有効に活かしてミッションを達成するためには組織のマネジメントが重要である。固有の組織形態や意思決定構造などを踏まえた上で、NPO のマネジメントについて考える。NPO でのキャリア、ボランティア、資金調達、NPO 支援制度・施策についても触れる。</p> <p>第 6 回 協働・連携 社会課題の解決に多セクターの連携は不可欠であり、従来その橋渡しを担ってきたのが NPO であるが、近年は CSR や協働の機運の高まりで企業や行政も NPO との連携を模索してきている。その現状や課題について考察する。</p> <p>第 7 回 社会的企業／社会起業家の台頭 社会イノベーションの担い手として世界的に注目が集まる社会的企業／社会起業家の最新動向(ソーシャルファイナンス含む)について触れる。特にその台頭の背景と NPO の関係について概観する。</p> <p>第 8 回 基盤整備の新しい動きと NPO の未来 発展に向けて NPO セクター内外でさまざまな基盤整備が進められている。世紀の改革といわれる新公益法人制度の概要や寄付税制、会計基準策定や評価など信頼性向上・アカウンタビリティへの NPO 側の自主的な動きにも触れながら、NPO セクターの今後を展望する。</p>											
	確認テスト(30%)、ディスカッション(30%)、単位修得試験(40%)により総合評価する。											
	<p>教科書</p> <p>著書『テキストブック NPO～非営利組織の制度・活動・マネジメント』 著者 雨森孝悦 出版社 東洋経済新報社 出版年度 2010 年 2 月 18 日 ISBN 9784492100196</p>											
	<p>『NPO マネジメントハンドブック』、柏木宏著、明石書店、2,310 円(税込)、2004 年 『NPO ジャーナル』vol.1 ~ 24、関西国際交流団体協議会編、明石書店、700 円(税込)、2003~2009 年 『ソーシャル・エンタープライズ』、谷本寛治編著、中央経済社、2,940 円(税込)、2006 年 『台頭する非営利セクター』、レスター・M・サラモン／H・K・アンハイア著、ダイヤモンド社、2,446 円(税込)、1996 年 『NPO データブック』、山内直人編、有斐閣、3,150 円(税込)、1999 年 『NPO 入門<第 2 版>』、山内直人著、日本経済新聞出版社、872 円(税込)、2004 年</p>											
	必須ソフト・ツール											
	備考											

メジャー(専修)名				授業科目名	Web 制作応用			担当者	栗谷 幸助			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	エディター(Dreamweaver など)を活用して、HTML5 の仕様によるコーディングや CSS3 によるレイアウト設定を行ないながら、1つの Web サイトを作成することによって、Web 標準に沿ったサイト構築の流れと基本を理解する。また、JavaScript やjQuery によるプログラミングにより、いくつかの動的表現を作成することによって、動きのある Web サイトの構築の流れと基本を理解する。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 また、中間課題の標準所要時間は 4 時間、単位修得試験(制作試験)の標準所要時間は 4 時間です。 適切な学習スピードの自己管理をお願いします。											
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した HTML5、CSS3、JavaScript に関連した専門用語を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと											
学習内容	概 要								課 題			
	第 1 回 HTML5 概要と書式、新しい要素と属性								確認テスト			
	HTML5 概要と書式、新しい要素と属性について説明											
	第 2 回 HTML5 の新しい要素と属性(続き)と今までの HTML との相違点								確認テスト			
	HTML5 の新しい要素と属性(続き)の説明と、今までの HTML との相違点を説明											
	第 3 回 CSS3 の概要と書式、新しいプロパティ								確認テスト			
	CSS3 の概要と書式、新しいプロパティの説明											
	第 4 回 CSS3 の新しいプロパティ(続き)と CSS3 セレクタ、レイアウト								確認テスト			
	CSS3 の新しいプロパティ(続き)と CSS3 セレクタ、レイアウトの説明											
	第 5 回 CSS3 を使ったレイアウト(続き)、テキスト装飾、レスポンシブデザイン、スマホ向け機能								確認テスト			
	CSS3 を使ったレイアウト(続き)、テキスト装飾、レスポンシブデザイン、スマホ向け機能の説明											
	第 6 回 Web サイト HTML5 コーディング(1)								確認テスト			
	Web サイトの HTML5 コーディング											
	第 7 回 Web サイト HTML5 コーディング(2)								確認テスト			
	Web サイトの HTML5 コーディング											
	第 8 回 Web サイト HTML5 コーディング(3)								中間課題			
	Web サイトの HTML5 コーディング											
	第 9 回 JavaScript 基礎(1)								確認テスト			
	JavaScript 基礎											
	第 10 回 JavaScript 基礎(2)								確認テスト			
	JavaScript 基礎											
	第 11 回 JavaScript 基礎(3)								確認テスト			
	JavaScript 基礎											
	第 12 回 JavaScript 基礎(4)								確認テスト			
	JavaScript 基礎											
	第 13 回 jQuery 基礎(1)								確認テスト			
	jQuery 基礎											
	第 14 回 jQuery 基礎(2)								確認テスト			
	jQuery 基礎											
	第 15 回 jQuery 基礎(3)											
	jQuery 基礎											
成績評価方法	評価項目: 中間課題、単位修得試験 【A 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 160 点以上。 中間課題では、HTML5 の仕様に則り meta 要素の記述やページ内の情報に対しての適切な要素でのマークアップが行なえているれば 40 点。ページの見た目やレイアウトに関するスタイルシートの設定において、CSS3 のプロパティを有効に活用した CSS コードが行なえているれば 40 点。Web ページのデザインにおいて、優れた表現が行なわれているれば 20 点加点。 単位修得試験では、HTML ファイルで JavaScript を使用するための適切な記述が行なえているれば 10 点。JavaScript および jQuery を使用して、ページ内で正しく動作する動的表現が行なえているれば 40 点。ページ内の情報を伝える上で適切な動的表現が実装できているれば 30 点。学習内で使用をした以外の jQuery プラグインを使用した動的表現を実装するなど、優れた表現が行なわれているれば 20 点加点。 【B 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 140 点以上。 観点は、A 評価の欄に書いた通り。 【C 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 120 点以上。 観点は、A 評価の欄に書いた通り。											

	【D 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 100 点以上。 観点は、A 評価の欄に書いた通り。
教科書	なし
参考書(任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	「Adobe Creative Cloud」または、「Dreamweaver CC」を単体でご用意下さい。 CS6 以前のバージョンは不可です。 ※PC 側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認下さい。 ※ソフトウェアの動作の確認には、Adobe 社の提供する 7 日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloud デスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html
備考	【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 Web サイトを通じて、自分で発信したいコンテンツを持っていると、具体的に理解を深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	Web 制作入門			担当者	栗谷 幸助			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	エディター(Dreamweaver)を活用して、HTML コーディング、CSS によるレイアウト設定により、1つの Web サイト作成を行なうことによって、Web サイト構築の流れと基本を理解する。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 また、中間課題の標準所要時間は 1.5 時間、単位修得試験(制作試験)の標準所要時間は 4 時間です。 適切な学習スピードの自己管理をお願いします。											
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した Dreamweaver の機能とタグ等の専門用語を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと											
学習内容	概 要								課 題			
	第 1 回 HTML 概要とよく使うタグについて								確認テスト			
	HTML 概要とよく使うタグについて											
	第 2 回 テキスト関連のタグ								確認テスト			
	テキスト関連のタグの説明											
	第 3 回 リスト関連のタグと画像関連のタグ								確認テスト			
	リスト関連のタグと画像関連のタグの説明											
	第 4 回 リンク関連のタグ								確認テスト			
	リンク関連のタグの説明											
	第 5 回 リンク関連のタグ(続き)								確認テスト			
	リンク関連のタグの説明											
	第 6 回 テーブル関連のタグとフォーム関連のタグ								確認テスト			
	テーブル関連のタグとフォーム関連のタグの説明											
	第 7 回 フォーム関連のタグ(続き)								確認テスト、中間課題			
	フォーム関連のタグの説明											
	第 8 回 CSS 概要と書式について								確認テスト			
	CSS 概要と書式について											
成績評価方法	【A 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 160 点以上。 中間課題では、DTD 宣言文や meta 要素・タイトルなど HTML ファイル作成において必要な基本記述が全て記述されていれば 20 点。ページ内の情報が XHTML の仕様に則り もれなく全てマークアップされていれば 50 点。情報に対して適切な要素(タグ)が選ばれていれば 30 点。 単位修得試験では、外部 CSS ファイルを作成し 適切な形で HTML ファイルへの読み込みが行なえていれば 10 点。ページ内の情報に必要な見た目やレイアウトに関する設定がもれなく行なわれていれば 50 点。見た目やレイアウトに関する設定を行なう上で適切なプロパティが選ばれていれば 30 点。Web ページのデザインにおいて、優れた表現が行なわれていれば 10 点加点。											
	【B 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 140 点以上。 観点は、A 評価の欄に書いた通り。											
	【C 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 120 点以上。 観点は、A 評価の欄に書いた通り。											

	【D 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 100 点以上。 観点は、A 評価の欄に書いた通り。
教科書	なし
参考書(任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	「Adobe Creative Cloud」または、「Dreamweaver CC」を単体でご用意下さい。 CS6 以前のバージョンは不可です。 ※PC 側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認下さい。 ※ソフトウェアの動作の確認には、Adobe 社の提供する 7 日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloud デスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html
備考	【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 Web サイトを通じて、自分で発信したいコンテンツを持っていると、具体的に理解を深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	Web ライティング			担当者	福田 多美子			
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>Web ライティングの役割、重要性を以下の 5 つの視点から理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【基礎】基本的な文章の書き方として、正しい文章、分かりやすい文章が書けるようになる。 ・【集客】SEO の基礎を知り、検索されやすいライティングができるようになる。 ・【成約①】エモーショナルライティングを習得し、読む人に行動させる文章が書けるようになる。 ・【成約②】キヤッチコピーが作れるようになる。 ・【リピート】メールマガジン／ステップメールの活用法が分かる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>また、中間課題の標準所要時間は 4 時間、単位修得試験(制作試験)の標準所要時間は 8 時間です。</p> <p>適切な学習スピードの自己管理をお願いします。</p>											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 インターネットで、気に入った商品／サービスの説明文章を見つけておく。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 学んだ内容を生かして、気に入った商品／サービスの説明文章を分析してみる。新たな説明文章を書いてみる。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第 1 回 Web ライティング概論								確認テスト			
	Web ライティング概論											
	第 2 回 ロジカルライティング(1)								確認テスト			
	ロジカルライティング(1)											
	第 3 回 ロジカルライティング(2)								確認テスト、中間課題			
	ロジカルライティング(2)											
	第 4 回 SEO ライティング(1)								確認テスト			
	SEO ライティング(1)											
	第 5 回 SEO ライティング(2)								確認テスト			
	SEO ライティング(2)											
	第 6 回 エモーショナルライティング								確認テスト			
	エモーショナルライティング											
成績評価方法	評価項目: 中間課題、単位修得試験											
	<p>【A 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 160 点以上。</p> <p>中間課題では、設問 1～3 すべての枠が埋まっているれば、1 枠当たり 10 点 × 8 枠 = 80 点。仕上げたコラムに小見出しが付いていれば 10 点加点。コラムに習得したライティングテクニック(一文一義、箇条書きなど)の工夫があれば 10 点加点。習得したライティングテクニックに反することはマイナス 2 点ずつ減点する。</p> <p>単位修得試験では、設問 1～5 がすべて埋まっていて、テキストの内容から逸脱していなければ 1 問あたり 10 点 × 5 問 = 50 点。仕上げた原稿を以下の 5 つの観点でチェックして、1 チェックあたり 10 点 × 5 = 50 点とする。</p> <p>チェックの観点は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIDCAS の法則、または PASONA の法則の流れになっているか(漏れなく、順番が合っているかどうか) ・キヤッチコピーが適切か ・3つの理由が適切か ・CTA(Call to Action)直前に書くべきことが書かれているか ・クロージングにつながっているか 											
	<p>【B 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 140 点以上。</p> <p>観点は、A 評価の欄に書いた通り。</p>											
	<p>【C 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 120 点以上。</p> <p>観点は、A 評価の欄に書いた通り。</p>											
	<p>【D 評価】中間課題と単位修得試験において 200 点満点中 100 点以上。</p> <p>観点は、A 評価の欄に書いた通り。</p>											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『SEO に強い Web ライティング 売れる書き方の成功法則 64』、ふくだ たみこ、ソーテック社、2,138 円(税込)、2016 年											
必須ソフト・ツール	Microsoft Office PowerPoint											
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>インターネットを業務で使う程度の知識。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>											

メジャー(専修)名				授業科目名	アカデミック・ライティング			担当者	杉田 米行			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	大学で書くレポートの最低限のルールを身につけながら、レポートを学術的に書くことができるようになる。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 第1、2、4、7回では、ワークシートを使った演習を行います。											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 レポートは難しくない！と考え、楽しみながら最後までやると決意して下さい。 el-Campus その他の学習内「レポートの書き方」を読んでおいて下さい。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 習ったことをしっかりと身につけましょう。ワークシートは何度も復習しましょう。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 アカデミック・ライティングとは？								レポート(ワーク・課題シート提出)			
	アカデミック・ライティングの特徴を学ぶ。											
	第2回 最小単位である「文章」の上手な書き方								レポート(ワーク・課題シート提出)			
	適切な文章の書き方を学ぶ。											
	第3回 パラグラフ・ライティングI								レポート(課題シート提出)			
	適切なパラグラフの書き方を学ぶ(その1)。											
	第4回 パラグラフ・ライティングII								レポート(ワーク・課題シート提出)			
	適切なパラグラフの書き方を学ぶ(その2)。											
成績評価方法	第5回 パラグラフからパラグラフへ								レポート(課題シート提出)			
	パラグラフとパラグラフの関係を学ぶ。											
	第6回 レポートの構成								レポート(課題シート提出)			
	レポートの構成を理解する。											
	第7回 序論超カンタン基本テンプレートと結論超カンタン基本テンプレート								レポート(ワーク・課題シート提出)、レポート			
	序論超カンタン基本テンプレートと結論超カンタン基本テンプレートを理解する。											
	第8回 アカデミック・ライティングのまとめ								レポート(課題シート提出)			
	総復習をして理解を深める。											
	提出された課題と試験の成績 【A評価】すべての面にわたって極めて良好な理解をしている。 材料さえあれば、独力でレポートを書くことができる能力がある。 【B評価】すべての面にわたって良好な理解をしている。 材料さえあれば、参考書等をみたりしながらでも、独力でレポートを書くことができる能力がある。 【C評価】弱い部分もあるが、参考書やまわりの人と相談しながら前向きにアカデミック・ライティングの力を付けようと努力している。 参考書を見るだけでなく、教員や友人などまわりの人と相談することができれば、レポートを書きあげることができる能力がある。 【D評価】前向きに努力をしており、今後経験を積むことによって、レポートを形式面で向上させることができる潜在能力がある。 アカデミック・ライティングを身に着けたいという不断の努力をし、失敗をしても、何度も挑戦していく能力がある。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word 2010 以上または Word for Mac 2011 以上											
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます											

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	医学一般			担当者	堀川 諭			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	医学の進歩によって人間の寿命は大幅に伸びました。その一方、困難な課題も次々と登場しています。たとえば、プリオンのような新たな感染症の出現、再生医療、臓器移植といった新たな問題です。 本授業では、広く医学の基本的知識を学ぶとともに、現代医学が抱えるさまざまな問題についても理解を深めることができます。											
学習の進め方	教科書を主教材として学習を進めます。各章のレポートを提出し、単位修得試験のレポートに取り組んでください。											
授業時間外学習	・関連したサイトの閲覧を奨めます。											
学習内容	概要								課題			
	第1章 人の成長・発達と老化 身体の成長・発達、精神の成長・発達、老化								レポート			
	第2章 身体構造と心身の機能 身体部位の名称、各器官の構造と機能								レポート			
	第3章 疾病の概要 生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患								レポート			
	第4章 障害の概要 視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害、認知症、高次脳機能障害、精神障害								レポート			
	第5章 リハビリテーションの概要 リハビリテーションとは、リハビリテーションにおける障害評価、リハビリテーションの諸段階、リハビリテーションにかかる専門職、リハビリテーションの四つの側面								レポート			
	第6章 國際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要 國際障害分類(ICIDH)から國際生活機能分類(ICF)への変遷、心身機能と身体構造・活動・参加の概念、背景因子、健康状態と生活機能低下の概念								レポート			
	第7章 健康のとらえ方 健康の概念とプライマリヘルスケア、日本人の人口統計、人口の高齢化と家族、国民健康づくり対策、感染症対策、産業保健、歯科保健								レポート			
成績評価方法	各章のレポート(50%)、単位修得試験のレポート(50%)											
教科書	著書『新・社会福祉士養成講座 第1巻「人体の構造と機能及び疾病 医学一般』』 著者 社会福祉士養成講座編集委員会 出版社 中央法規 出版年度 2015年 ISBN 9784805851005											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	el-Campus にて専用のレポート様式をダウンロードして使用してください。 本授業は、本学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。											

メジャー(専修)名				授業科目名	イギリスの文化と歴史			担当者	太田 素子			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	イギリスの文化と歴史について学ぶ。まず出来るだけ簡潔にイギリスの歴史を概観する。その上で、イギリスの食と文化、イギリスの物語を取り上げて、最近の新しい研究領域の視点から、イギリス文化を理解できるようにする。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。特に第1回～第4回の歴史の授業では前もって教科書をよんでおいてください。各回の学習の最後には、課題があります。											
授業時間外学習	・教科書を前もって読んでおくこと。 ・毎回、授業後に、その回の要点をまとめておくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 イントロダクション・古代から中世へ イギリスの正式名称と国旗、立憲君主国イギリス、先史時代～中世のイギリス								確認テスト			
	第2回 絶対王政の時代:ヘンリー8世とエリザベス1世 絶対王政、ヘンリー8世と6人の王妃、イングランド国教会、エリザベス1世								確認テスト			
	第3回 イギリス革命 イギリス革命、市民革命と議会制民主主義、ピューリタン								確認テスト			
	第4回 大英帝国の繁栄・20世紀イギリス 産業革命、大英帝国の繁栄、ヴィクトリア女王、万国博覧会とクリスタルパレス、20世紀のイギリス								確認テスト			
	第5回 イギリスの食と文化 飽食の現代、嗜好品の時代、イギリス人は紅茶好き・紅茶と砂糖の文化史、イギリス料理はまずい?								確認テスト			
	第6回 イギリスの物語 物語とは、シェイクスピア、シャーロック・ホームズ、不思議の国のアリス、ロード・オブ・ザ・リング、ハリー・ポッター								確認テスト			
成績評価方法	毎回の確認テスト(35%) 単位修得試験(65%)											
教科書	著書『コンプトン英国史・英文学史』 著者 加藤憲市・加藤治訳 出版社 大修館書店 出版年度 2008年4月20日 ISBN 9784469243765											
参考書(任意購入)	『図説 イギリスの歴史』、指昭博、河出書房新社、1,800円(税込)、2002年											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	異文化コミュニケーション			担当者	神谷 善美			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化の他者と円滑なコミュニケーションをすることの重要性を理解し、そのことをコミュニケーション相手にも伝わるようにな説明できるようになること。 ・日本社会のグローバル化により多様な考え方が増えた昨今、「他文化を知ることは自文化を知ることである」という認識を持ち、他者との適切なコミュニケーション方法を見つけることができるようになること。 											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 異なる文化をもつ仲間やグループに、積極的に接することができるような環境を作ることを勧める。 パソコン操作に関する基本的な知識を身につけておくこと。 el-Campus「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で学んだことを自分の体験と照らし合わせて理解しておくこと。 授業内容をよく理解した上で、課題および次回の学習に取り込むこと。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 異文化コミュニケーションについて 異文化コミュニケーションの基礎概念の定義、学ぶ目的、意義、自分にとっての意味を考える。								ディスカッション			
	第2回 常識を疑う 文化の概念の中で、自分の常識が人にとってどう映るかを考え行動したり、コミュニケーションを行えば、結果的に自分のためになること、ともに相手を理解するきっかけになること、お互い理解し合える足掛かりとなり、平和への第一歩になることを理解する。								確認テスト			
	第3回 文化と価値観 価値観とは何かを学び、価値観を持つことや価値観形成に与える影響、他者の価値観を認めることができ自分自身の成長につながることを理解する。								レポート			
	第4回 コミュニケーションとステレオタイプ コミュニケーションや異文化コミュニケーションの基本概念を学ぶ。 ステレオタイプについて学ぶ。 偏見・差別について考える。								確認テスト			
	第5回 異文化理解 異文化理解のプロセスを学習する。 偏見や差別に対する考え方を理解する。 異文化への態度について考える。								確認テスト			
	第6回 コミュニケーションスタイル コンテキストについての定義や概念を学ぶ。 コンテキストによるコミュニケーションの違いを比較し、自身のコミュニケーションスタイル探し、理解を深める。								確認テスト			
	第7回 異文化比較 異文化と自文化の比較の意義を考え、自文化と他文化の比較方法を考察する。								レポート			
	第8回 コミュニケーションの道具としての言語 世界の言語事情を考察し、世界の共通語としての位置付けについて考える。 コミュニケーションの道具として言語をどう扱うかを考察する。								確認テスト			
	第9回 言語コミュニケーション 言語に対して、構造的、実用的、文化的、角度から分類し考察するとともに、言語と文化の密接な関係について、そして言語メッセージを通して行うコミュニケーションについて考察する。								確認テスト			
	第10回 非言語コミュニケーション 非言語コミュニケーションの特徴を理解する。非言語コミュニケーションの種類を挙げ、比較文化的視点で考察し理解を深める。								確認テスト			
	第11回 異文化理解トレーニング カルチャーショック、クリティカル・インシデントについて学びその事例を考察する。								ディスカッション、レポート			
	第12回 異文化適応力 自己解決力を高めるために、自己向上を図ることの大切さを考察する。								確認テスト			
	第13回 アイデンティティと文化 アイデンティティとは何かについて考察し、個人が持つアイデンティティの種類、社会の中でのアイデンティティ形成について考察する。								確認テスト			
	第14回 異文化コミュニケーション・スキル 異文化理解について考え、異文化理解メソッドの活用法を考察する。								確認テスト			
	第15回 異文化コミュニケーションを学んで考えること 第1回から第14回までの講義全体をまとめる。								レポート			
成績評価方法	評価材料: ディスカッション、レポート、単位修得試験(Web 試験) 【A 評価】											

	<p>ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるとともに、他者への意見にコメントや質問を行い、積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べ、他の人の意見に関心を持ってコメントができていること。 レポートでは、課題に対し、的を射た内容や意見が具体例を挙げて記載されていること。 単位修得テストでは、要求されている的確な答えを選択できていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得する能够在するようになるとともに、異文化の相手に対し適切なコミュニケーション手段をもって積極的に行動に移すことができる。</p> <p>【B 評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるとともに、他者への意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べことができていること。 レポートでは、課題に対し、適切な内容が記載されていること。 単位修得テストでは、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得する能够在するようになるとともに、適切なコミュニケーション手段をもって行動に移すことができる。</p> <p>【C 評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べることができていること。 レポートでは、課題に対し、適切な内容が記載されていること。 単位修得テストでは、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得する能够在するようになるとともに、適切な手段をもって行動に移そうとする姿勢を身につける能够在する。</p> <p>【D 評価】 ディスカッションにおいて、テーマに沿った意見を述べることができていること。 レポートでは、課題に対し、習ったことがあるレベルの内容が記載されていること。 単位修得テストでは、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得する能够在するようになるとともに、行動に移そうとする姿勢を身につける能够在する。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本科目を履修するまでに、自分と違う習慣や文化を持っている人や集団を見過ごさず注意深く観察しておく。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	異文化コミュニケーション演習			担当者	安藤 幸一						
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆								
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員への指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス) 東京会場						
学習目標	外国文化だけでなく、日本文化の中にも存在する、異なった文化間のコミュニケーション技術を学びます。アクティビティやグループ活動、ディスカッションを多用し、頭だけでなく心と身体で学ぶことができるようになります。														
学習の進め方	初日の1時限に「アイスブレーキング」として、講師そして受講者が互いに知り合い、リラックスした環境で講義が進むようにアクティビティを準備しています。2時限以降は、各回のテーマに関する簡単な講義を行い、グループ討論、ゲーム、アクティビティ及び映像教材を使い、その内容を全身で理解できるような授業展開を予定しています。受講者一人一人の積極的、主体的な参加を期待します。														
授業時間外学習	初日終了後に2日目授業に向けた課題を提示します。2日目終了後に単位修得試験(レポート)を提示します。														
学習内容	概 要			課 題											
	第1回 アイスブレーク・互いを知る 互いを知ること、「人間関係」を、アクティビティを通じて実感する。														
	第2回 文化とは何か 映像教材を使って「常識」と「自文化」について学び、異文化を鏡とする「自分自身の発見」について考える。														
	第3回 コミュニケーションとは何か コミュニケーションの様々な形について学び、アクティビティを通じて対話の基礎を学ぶ。														
	第4回 言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション・母語・外国語 非言語による意思疎通、母語の重要性、及び「共通語としての」英語習得法について学ぶ。 【演習2日目に向けた課題の提示】														
	第5回 ステレオタイプと偏見 異文化コミュニケーションを阻害する要因である「偏見」について映像教材を使って学び、グループディスカッションを行う。														
	第6回 意見の対立と合意の形成 アクティビティを使って、異なる意見の対立とことに異文化間の問題解決の方法について学ぶ。														
	第7回 文化比較の意味 日本と西欧を対照的に比較し、グループごとにその違いを数分で表現できるようなスキット(寸劇)を作り、演じ、相互評価を行う。														
	第8回 異文化コミュニケーションの方法 2日間の演習の総まとめを通して、授業終了後に戻っていくそれぞれの「日常世界」における「異文化コミュニケーション」の実践を考える。 【単位修得試験レポート提示・説明】														
	評価対象活動 アクティビティ、グループ活動、ディスカッション、単位修得試験(レポート試験) ■ABCD 評価基準 【A評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、①論理的理解、②行動力、③自分自身の意見の論拠・明快さの3つのいずれについても、本演習の中で大きな進歩があった。 【B評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、①論理的理解、②行動力、③自分自身の意見の論拠・明快さの3つの内少なくとも2つの評価基準において、本演習の中で大きな進歩があった。 【C評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、①論理的理解、②行動力、③自分自身の意見の論拠・明快さの3つの内少なくとも2つの評価基準において、本演習の中で一定の進歩があった。 【D評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、①論理的理解、②行動力、③自分自身の意見の論拠・明快さの1つの評価基準において、本演習の中で一定の進歩があった。														
成績評価方法															
教科書	なし														
参考書(任意購入)	「異文化コミュニケーション ワークブック」、八代京子・荒木晶子・樋口容視子著、三修社、2001年														
必須ソフト・ツール	なし														
備考	【受講者上限人数】 夙川会場:50名 東京会場:30名														

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	医療人類学入門			担当者	野波 侑里			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>・医療人類学的研究を通して、健康・病気・医療について社会・文化との関係を学ぶことにより、健康・病気・医療に関する自らの考えをふりかえり、多様な観点から現状を理解し、比較し、分析して自らの意見を述べることができるようになる。また主体的に医療を選択できるようになる。</p> <p>・異なる社会・文化における医療・病気・健康に関する考え方を学ぶことを通して、グローバル社会における異文化理解を深め、他の社会文化の価値観を理解し、尊重できるようになる。</p>											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 本授業では、ノートを一冊「アイデアノート」として使用しますので準備してください。詳細はオリエンテーションで説明します。ノートの代わりのワークシートも配布資料として準備していますので、利用することも可能です。</p> <p>各回の開始前に、回のポイントとなる事項について、既存の知識や考えを記入します。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の最後に、学んだこと、考えたことを「アイデアノート」に記入します。 「アイデアノート」は、単位修得試験の参考にすることができます。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 医療人類学とは								確認テスト			
	人類学、医療人類学という学問分野の誕生とその背景、研究分野と具体的研究例を学ぶ。											
	第2回 医療的多元論								確認テスト、ディスカッション			
	医学と医療の違い、医療的多元論について概説する。											
	第3回 ヘルスケアシステム								確認テスト			
	医療人類学における疾病/病い/病気、治療と癒しの違い、ヘルスケアシステムについて概説する。											
	第4回 病いの語り								レポート			
	病いにおける病者とその家族の語りの特徴とその意味について概説する。											
成績評価方法	第5回 医療化								ディスカッション			
	医療化について、様々な具体例をもとに学ぶ。											
	第6回 病人と社会								確認テスト			
	病いになった時の社会と個人の関係について、特に生物医学の医療現場における医師と病人の関係について学ぶ。											
	第7回 心と身体と文化・社会								確認テスト			
	心と身体が文化と社会とどのように関係しているかについて様々な観点から学ぶ。											
	第8回 近年の日本における医療人類学的研究								レポート			
	近年の日本の医療人類学研究から、文化人類学・医療人類学的研究について学ぶ。											
	<p>確認テスト、レポート課題、ディスカッションの内容(質問やコメント含む)、単位修得試験</p> <p>【A評価】各回の確認テストにおいて満点に近い成績をおさめている。 ディスカッションにおいて、内容に適した自己の意見を述べるとともに、他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行えている。 レポート課題において、独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、本授業で学習した以上の成果をもって独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、多様な方向から分析し、独創的で論理的な解決法を見つけて意見を述べることができる。</p> <p>【B評価】確認テストにおいてほぼ満点に近い成績をおさめている。 ディスカッションにおいて、適切な受け答えが行われており、他者に何らかの影響を与えられている。 レポート課題において、論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、学習内容をもとに、論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、多様な方向から分析し、論理的な解決法を見つけて意見を述べることができる。</p> <p>【C評価】確認テストにおいて、所定の条件を充足している。 ディスカッションにおいて、双方に何らかの話題が通じ合っている。 レポート課題において、自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、学習内容をもとに、自らの意見を述べることができる。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、分析し、ある程度納得できる解決法を見つけて意見を述べることができる。</p> <p>【D評価】確認テスト、ディスカッション、レポート課題、単位修得試験において、所定の条件を充足している。 全ての課題を通して、学習内容を理解していることを示している。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、解決法を見つけることができる。</p>											

教科書	なし
参考書(任意購入)	各回の授業でお知らせします。
必須ソフト・ツール	
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます

メジャー(専修)名				授業科目名	宇宙科学			担当者	山田 義弘			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標 教科書とデジタル教材から「宇宙科学」全般を学ぶことにより、宇宙の過去・現在・未来を理解する。												
学習の進め方		教科書とデジタル教材を活用します。「太陽系」、「恒星」、「銀河」、「宇宙論」、「宇宙開発」を学習しますが、天体の概説、宇宙論の基礎、宇宙開発の諸分野で、理解の難しい現象や概念は、デジタル教材で数式を使わないで説明しますから、容易に理解できると思われます。										
授業時間外学習		<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の星や天文現象に興味を持っておくこと。 ・興味を持った分野や現象をさらに深く探ってみること。 										
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 オリエンテーション 「宇宙科学」の概要説明 各自が掲示板に感想を掲載する								ディスカッション			
	第2回 太陽系 ★約 46 億年前、太陽を中心とする太陽系ができた。太陽系には 8 個の惑星(水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星)が太陽の周りを回り、160 個以上の衛星が惑星の周りを回っていることを理解する。 ★小惑星は火星軌道と木星軌道の間の小惑星帯に集中している。軌道が確定した小惑星の数は、約 60 万個(2017 年 12 月現在)ある。また“ ほうき星 ”とも呼ばれる彗星も小惑星と同様に太陽系の一員であることを理解する。								確認テスト			
	第3回 恒星 ★1 年間の星の動きを追うと見える星の位置は変わる。地球が太陽の周りを公転しているからだ。太陽が天球上を通る道を黄道と呼ぶ。星占いでも使われる“ 黄道 12 星座 ”とか全天に 88 星座があることなどを理解する。 ★人に誕生と死があるように、夜空に輝く恒星にも誕生と死がある。太陽の誕生も別の恒星の死がキッカケだった。星々の生と死は連続とつながっている。恒星の一生とは、いったいどのようなものかを理解する。								確認テスト			
	第4回 銀河 ★私たちがいる銀河を「銀河系」と呼ぶ。銀河系は直径 10 万光年(1 光年は光が 1 年間に進む距離)、数本の腕をもつ渦巻状の銀河だと考えられている。その中で私たちの太陽系はどのような位置にあるのかを理解する。 ★現在、最も遠くの銀河をとらえたのは、日本の“ すばる望遠鏡 ”(国立天文台ハワイ観測所の口径 8.2m 反射望遠鏡)だ。2003 年 3 月、約 128 億年前の銀河をとらえることに成功した。遠い銀河について理解する。								レポート			
	第5回 宇宙論 ★宇宙が膨張していることを発見したのは、エド温・ハップル。それまで宇宙は大きさの変化しない定常宇宙という考え方が主流だった。ハップルによって、宇宙は膨張し進化することが明らかになったことを理解する。 ★宇宙の終わりはいったいどうなるのだろうか。50 億年後には、太陽の膨張によって地球は太陽に飲み込まれる。宇宙はお構いなく膨張を続ける。現在の宇宙は加速膨張しているとさえいわれていることを理解する。								レポート			
	第6回 宇宙開発 ★宇宙に思いを馳せ、その謎を一步一步解き明かしてきた無数の科学者がいるのと同じように、宇宙へ行きたいという夢が人を突き動かし、その夢と技術がリレーされて宇宙開発が進められてきたことを理解する。 ★日本の宇宙開発は、全長 23cm の「ペンシルロケット」から始まった。いま日本の宇宙開発は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が担い、世界でもトップクラスの宇宙開発と宇宙探査を目指していることを把握する。								レポート			
成績評価方法	確認テスト(50%)、単位修得試験(50%)より総合評価する。											
教科書	著書『宇宙のしくみ』 著者 渡部潤一(監修)、坂元志歩(執筆・編集) 出版社 新星出版社 出版年度 2010 年 6 月 15 日 ISBN 9784405106512											
参考書(任意購入)	『宇宙のふしぎ』、渡部潤一著、ソフトバンククリエイティブ、1,000 円(税込)、2009 年 『宇宙の物語』、藤井旭著、PHP 研究所、2,625 円(税込)、2009 年 『宇宙論の飽くなき野望』、佐藤勝彦著、技術評論社、1,659 円(税込)、2008 年											
必須ソフト・ツール												
備考	天文台の大型望遠鏡で月面、惑星、星雲・星団を見たい人が多ければ、兵庫県内の天文施設で 1 泊 2 日の観測体験ツアー(実費)を実施したい。											

メジャー(専修)名				授業科目名	英語A(実用文法)			担当者	石谷 春奈				
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★						
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—				
学習目標	実社会で英文を作成するために、多様な場面での確かな英語を運用する力を身につけることを目標とする。「依頼・勧誘の方」など発想別に組み立てられた教科書を使用して、それぞれの目的に相応しい英文法を使い分ける学習をする。												
学習の進め方	<p>本授業は、主に教科書を学習して進めます。各章の解説をよく読んで理解してから、例文を一つずつ丁寧に見てください。わからない単語や語句は必ず辞書で調べ、すべての例文を和訳してみましょう。解説は、運用方法を中心に書かれていますので、基本的な文法については別に文法書を一冊手元に置いておくことをおすすめします。</p> <p>一通り理解できたら教科書の「EXERCISES」に取り組み、オンデマンド教材で答えを確認して下さい。各章の学習の最後には課題がありますので、課題を終わらせて次の章に進みましょう。</p>												
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力に応じた文法書を用意して自己学習すること。 ・ノートを取りながら学習を進めること。 												
学習内容	概 要								課 題				
	第1章 現在の表し方								確認テスト				
	現在時のことと表す文法形式として、単純現在時制、現在進行形、現在完了形、現在完了進行形を学習する。												
	第2章 過去の表し方								確認テスト				
	過去時のことと表す文法形式として、単純過去時制、過去進行形、過去完了形、過去完了進行形を学習する。												
	第3章 未来の表し方								確認テスト				
	主語の意思や話し手の意図と関係のない未来の出来事や状態を表す文法形式を学習する。												
	第4章 仮定の表し方								確認テスト				
	仮定・条件を表すには、話し手の取る態度によって開放条件と却下条件の二つがあり、文法形式として仮定法過去と仮定法過去完了を学習する。												
	第5章 使役の表し方								確認テスト				
	使役とは、誰かに何かをさせることである。使役を表すさまざまな動詞を学習する。												
	第6章 命令の表し方								確認テスト				
	命令とは、誰かに何かを言いつけることである。直接命令のほかに、間接命令、助動詞を使った命令を学習する。												
	第7章 許可の表し方								確認テスト				
	相手の願っていることを許す場合、相手に許しを請う場合の2つの許可の表現を学習する。												
	第8章 依頼・勧誘の表し方								確認テスト				
	依頼・勧誘とは話し手が利益を受けるために、人に何かを頼んだり誘ったりすることである。助動詞、法、テンス、相などを利用して、相手の意思や能力を尋ねる表現を学習する。												
	第9章 提案の表し方								確認テスト				
	提案とは、こうしたらどうかと自分の意見や考えを提起することである。話し手(自分)を含む表現、含めない表現を学習する。												
	第10章 意図・決意の表し方								確認テスト				
	助動詞や動詞を使って、意図や決意を表す学習をする。												
	第11章 推量・可能性の表し方								確認テスト				
	推量・可能性は、話し手が自分の述べる事柄に関してどの程度事実であるか、あるいは可能であるか、という話し手の判断・態度を表明することである。助動詞、副詞による表現を学習する。												
	第12章 原因・理由の表し方								確認テスト				
	原因・理由を表す文法として、接続詞、前置詞、to 不定詞やthat節、副詞などを学習する。												
	第13章 目的・結果の表し方								確認テスト				
	目的を表す文法として、to 不定詞やthat節など、結果を表す文法として接続詞、副詞やso/such…that構文などを学習する。												
	第14章 譲歩・様態の表し方								確認テスト				
	譲歩・様態を表す文法として、副詞節や群前置詞などを学習する。												
	第15章 比較の表し方								確認テスト				
	2つの事柄を比較し特性の度合いが等しいことを示す場合はas…as、程度に差があることを示す場合は「比較級+than」、3つ以上の事柄の中で度合いの特性が最も高いことを示す場合は最上級で表すことを学習する。												
	第16章 強調の表し方								確認テスト				
	強意語、再帰代名詞、It is…that構文などさまざまな文法的手段によって強調する方法を学習する。												
成績評価方法	各章ごとの確認テスト(60%)、単位修得試験(40%)												
教科書	著書『コミュニケーションのための英文法・英作文』 著者 岸野英治 出版社 英宝社 出版年度 2011年3月1日												

	ISBN 9784269320185
参考書(任意購入)	
必須ソフト・ツール	
備考	本授業は、本学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。

メジャー(専修)名				授業科目名	英語B(翻訳)			担当者	日下 元及			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「直訳」と「翻訳」の違いを理解し、自然な日本語に翻訳するために必要な能力を身につける。 ・イギリスの文化・政治・社会についての知識を深め、また、学習者みずからそれらの情報を入手できるようになることで、英文学作品をより深く味わえるようになる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回で取り上げられる教科書の該当部分について、自分の訳を作つてから授業動画をみるよう心がけてください。実力がめきめきとります。各回の学習の最後には課題がありますので、課題を終わらせ、次の回に進みましょう。学習の手順は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教科書を予習する 2.指示に従い、オンデマンド教材で学習する 3.課題(教科書の指定された箇所を翻訳)に取り組む <p>課題をするときに、手元に英和辞書だけでなく、国語辞書も忘れずに。 授業で習った訳し方のコツや語句の多くは、授業後の課題をこなすために役立ちます。しっかりと復習してから課題に取り組みましょう</p>											
授業時間外学習												
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 イントロダクション: 翻訳とは <ul style="list-style-type: none"> ・「自然な日本語訳」とは何かを学ぶ。 ・教科書である小説とその著者について理解を深める。 								レポート			
	第2回 物語冒頭前編: 晚餐会にて <ul style="list-style-type: none"> ・場面を思い描く練習をする。 ・小説を理解するうえで必要な色々な資料に当たる。 <small>教科書 pp.3-4</small>								レポート			
	第3回 物語冒頭後編: パッキンガム宮殿にて <ul style="list-style-type: none"> ・長文の上手な区切り方、訳し方を学ぶ。 ・it や sheなどの代名詞の訳し方を学ぶ。 <small>教科書 pp.4-5</small>								レポート			
	第4回 女王による「読書のすゝめ」 <ul style="list-style-type: none"> ・小説の文化/社会背景に関する知識を養う。 ・訳しにくい単語の訳し方を学ぶ。 <small>教科書 pp.22-23</small>								レポート			
	第5回 女王の議会開会 <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの政治的行事に関する知識を養う。 ・長文を正しく理解する練習をする、その1。 <small>教科書 pp.32-33</small>								レポート			
	第6回 女王、首相との定期会見 <ul style="list-style-type: none"> ・「英語らしい表現」の訳し方を学ぶ。 ・長文を正しく理解する練習をする、その2。 <small>教科書 pp.54-55</small>								レポート			
	第7回 女王のクリスマス放送 <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの文化に関する知識を養う。 <small>教科書 pp.58-59</small>								レポート			
	第8回 女王の80歳の誕生日会 <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの現代政治事情を学ぶ。 ・小説の背景知識を持つことが翻訳に役立つことを理解する。 <small>教科書 p.111 & p.116</small>								レポート			
成績評価方法	各回のレポート(40%)、出席点(課題を全て提出すれば自動的に差し上げます)(20%)、単位修得試験(40%)											
教科書	著書『The Uncommon Reader』 著者 Alan Bennett 出版社 Faber and Faber 出版年 2008 年 ISBN 9781846681332											
参考書(任意購入)	『やんごとなき読者』、アラン・ベネット(市川恵里訳)、白水社、1,995 円(税込)、2009 年 『The Uncommon Reader (オーディオ CD)』、Alan Bennett、BBC Audiobooks、1,693 円(税込)、2008 年 『The Queen (DVD: 104 分)』、Helen Mirren、エイベックス・エンタテインメント、1,995 円(税込)、2007 年 『Translation Studies: Theories and Applications (2nd edition)』、Jeremy Munday、Routledge、2,828 円(税込)、2008 年 <翻訳版> 『翻訳学入門』、ジェレミー・マンディ、鳥飼玖美子、みすず書房、4,515 円(税込)、2009 年 『Aspects of Language and Translation (3rd edition)』、George Steiner、Oxford University Press、1,750 円(税込)、1998 年											
必須ソフト・ツール												

備考	<p>・英語の小説を読むのに慣れていない方は、教科書の英語を難しめに感じるかもしれません。 そのような時は参考文献にある、翻訳『やんごとなき読者』を参考にしてかまいません。 ただし参考にするといっても、翻訳本に載っている訳の丸写しや、少しだけ書き換えたものを提出するというのは厳禁です。 まず自分の力で訳を作り、どうしても参考にしたい部分だけを見るということ。 もちろん、インターネットの翻訳ソフト使用は論外です。 レポートの採点は訳の正確さよりも、目標の達成度や努力の結果に重点を置きます。 ・課題提出には Microsoft の Word が必須です。</p>
----	--

メジャー(専修)名				授業科目名	英語C(文書作成)			担当者	石谷 春奈			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な段落構成や件名をつけて、自分の目的に相応しい英文メールを作成することができる。 相手との関係を考慮した英文で自分の気持ちを相手に伝えることができる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>第3、6回の授業のあとにはレポート作成があり、オンデマンド授業の理解度を測ります。全てのオンデマンドの授業を丁寧に受講しましょう。</p> <p>第3回レポートは提出後に添削します。単位修得試験時には添削内容をふまえてレポートを書き直し、提出する必要があります。※第6回は希望者のみ添削には時間をするため、第3、6回のレポートの提出期限は単位修得試験レポート提出期間の【前日23:59】までとします。</p> <p>例) 単位修得試験レポート提出期間が【10(月)～16(日)】の場合、第3、6回レポートの提出期限は【9(日)23:59】となります。</p> <p>※期限を過ぎて提出された場合は、レポート試験提出期間中の添削は保証しかねます。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を活用すること。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 Unit1 SELF-INTRODUCTION 自己紹介のE-mailが書ける。								確認テスト			
	第2回 Unit2 EXPRESSING THANKS 感謝を伝えるためのE-mailが書ける。								確認テスト			
	第3回 Unit4 CONGRATULATIONS! お祝いの気持ちを伝えるためのE-mailが書ける。								確認テスト、レポート			
	第4回 Unit7 APOLOGIZING おわびの気持ちを伝えるためのE-mailが書ける。								確認テスト			
	第5回 Unit9 ASKING FOR ADVICE アドバイスを求めるためのE-mailが書ける。								確認テスト			
	第6回 Unit11 MAKING A SUGGESTION 提案するためのE-mailが書ける。								確認テスト、レポート			
	第7回 Unit12 ASKING A FAVOR 依頼のE-mailが書ける。								確認テスト			
	第8回 Unit14 SENDING A GIFT お礼のE-mailが書ける。								確認テスト			
	第9回 Unit16 A POLITE REQUEST ていねいに依頼するE-mailが書ける。								確認テスト			
	第10回 Unit19 MAKING A COMPLAINT 苦情のE-mailが書ける。								確認テスト			
成績評価方法	各回の課題(60%)、単位修得試験(40%)											
教科書	著書『はじめてのEメール英作文』 著者 松居司、フィリップ・ヒンダー 出版社 南雲堂 出版年度 2011年4月11日 ISBN 9784523175049											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	英語D(英会話)			担当者	田中 キャサリン			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	Attend the 2/3 days of schooling 2/3 以上の出席			単位修得試験 実施方法	現地試験			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャン パス)			
学習目標	<p>This course is designed for learners who have a basic knowledge of English grammatical structures and expressions but did not have the chance to use them in a meaningful and communicative way. It will provide a cursory review of the four skills of listening, speaking, reading and writing through active participation in pair work, small discussion groups and short presentations. At the end of the course, learners will be able to achieve some level of confidence in using English practically.</p> <p>本授業は、基礎的な英文法や英語表現の知識はもっているものの、英語をコミュニケーションの道具として、生き生きとした意味を表す内容をもって使うことのできなった学習者のためにデザインされました。授業では、ペア練習、小ディスカッショングループ、簡単なプレゼンテーション等、積極的なクラス参加によって、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4要素を「復習」していきます。スクーリング終了後は、学習者が、一定のレベルの自信をもって、実践的に英語を使うことができるようになっていることを目標とします。</p>											
学習の進め方	<p>Students will work in pairs and small groups to practice and reinforce the lessons. There will be many activities that will require students to participate fully and actively, so be ready at all times.</p> <p>ペアまたは小グループで練習を行い英語力を強化していきます。積極的な参加が求められる演習がたくさんありますので、心づもりをしてください。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で自己紹介ができるように準備をしておく。 											
学習内容	概 要								課 題			
	<p>1. Introduction of the course</p> <p>Going Back to Basics: The 4 Skills of Listening, Speaking, Reading and Writing: Going through the syllabus and expectations of this class.</p> <p>基礎にかえる: 聞く、話す、読む、書くの4つのスキル: シラバスとこの授業で期待されていることを確認する。</p>								Write down YOUR expectations of the course			
	<p>2. Getting to know each other: how do we introduce ourselves.</p> <p>お互いを知る: 自己紹介の仕方</p>								One-minute self introductions			
	<p>3. People.</p> <p>英語への恐怖心を克服する: 英語に対する恐怖心を克服するには何が必要か。</p>								Examining your fear of speaking English			
	<p>4. Work, Rest, and Play.</p> <p>聞く、話す、読む、書くの基礎: 聞いて、話して、読んで、書いてみよう。</p>											
	<p>5. Going Places.</p> <p>もっと聞いて、話して、読んで、書いて練習する。クイズ。</p>											
	<p>6. Food.</p> <p>Prepare for the coming of the native English friends. Who are they?</p> <p>世界各国の私の友達と英語を使って練習する: ネイティブスピーカーを迎えて。誰がやってくるのでしょうか。</p>											
	<p>7. Sports.</p> <p>質問の仕方と答え方。</p>								Formulating questions			
	<p>8. Destinations.</p> <p>ネイティブスピーカーを囲んでQ&Aセッションを実際にを行う。</p>											
	<p>9. Communication.</p> <p>上手なコミュニケーションのためのジェスチャーとマナー</p>											
	<p>10. Moving Forward.</p> <p>コミュニケーションの壁を打ち破る。クイズ</p>											
	<p>11. Types of Clothing.</p> <p>ロールプレイなどを使い、それまでに学習した内容を復習する。</p>											
	<p>12. Lifestyles</p> <p>旅に出よう!</p>											
	<p>13. Achievements.</p> <p>お気に入りの店で買い物をする。</p>											
	<p>14. Consequences.</p> <p>電話でレストランの予約をする。</p>											
	<p>15. Feedback from students and final test.</p> <p>授業の感想と最終テスト</p>											
成績評価方法	<p>A test will be given just before the end of each day to assess if students are learning the materials. Participation is more than 50 percent of the grade. Students must participate in this class.</p> <p>各日の最後にその日学習したことの確認テストを行います。授業への参加が評価の50%以上を占めますので、積極的に参加することが求められます。</p> <p>Quizzes/クイズ 20%, tests/テスト 30%, and participation and attendance/授業参加態度と出席 50%</p>											

教科書	著書 『World English Level 1 Student Book with Online Workbook』 Second Edition 著者 Kristin L. Johannsen,Martin Milner, and Rebecca Tarver Chase 出版社 CENGAGE Learning ISBN 9781305089549
参考書(任意購入)	
必須ソフト・ツール	
備考	受講者上限数 演習 40 名

メジャー(専修)名				授業科目名	英語表現 I (基礎)			担当者	堂村 由香里			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	あらゆる分野の人にとって必要とされる英語の基礎力を身につけることを目標とします。(1)現在、過去、未来、そして進行中の出来事の表現 (2)疑問文の作り方 (3)受動態、不定詞、動名詞の用法 (4)比較級 (5)分詞、接続詞の働き などについて学びます。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。英和辞書(紙ベースでも電子辞書でも可)、あるいは英英辞書を準備の上、わからない単語や文法事項は丁寧に辞書をひき、単語の意味だけでなく用例や語法も含め、辞書を「読む」という姿勢で、学習に臨んでください。 教科書に掲載している問題はオンデマンド教材で答え合わせを行います。各 Unit の学習の最後には確認テストがありますので、確認テストを終わらせ、次の Unit に進みましょう。学習を済ませた教材の音声に合わせて発話練習(シャドーイング)を行い、英文を定着させましょう。(教科書付属の CD-ROM はこの科目では使いません。練習問題が入っていますので、発展学習を希望する方はご参照ください。)											
授業時間外学習	英語雑誌や英字新聞を読んだり、インターネット上の英語サイトを見て生の英語に触れること。											
学習内容	概 要								課 題			
	Unit1 I Love Music ! 現在形、現在進行形; 友人とのあいさつ→自己紹介をする								確認テスト			
	Unit2 Cherry Blossoms are Special. 過去形、過去進行形; お花見に行く→文化を紹介する								確認テスト			
	Unit3 Life in Japan 未来表現; 学校生活について→予定を語る								確認テスト			
	Unit4 Shopping for Beautiful Eyes 助動詞(1); 薬局での買い物→商品をたずねる								確認テスト			
	Unit5 I Love Sports ! 疑問文(1)what, who; スポーツのたのしみ→意見を言う								確認テスト			
	Unit6 A Part-time Job 疑問文(2)when, where, why, how; アルバイト探し→条件をたずねる								確認テスト			
	Unit7 Love and Peace 受動態; 音楽のメッセージ→夢を語る								確認テスト			
	Unit8 "Cosplay" is Cool ! 不定詞; コスプレコンテスト→推量する								確認テスト			
	Unit9 Africa or Italy ? 動名詞; 海外旅行の行き先→興味を語る								確認テスト			
	Unit10 No Smoking, Please. 分詞; タバコのマナー→忠告する								確認テスト			
	Unit11 Let's Go to a Movie ! 助動詞(2); 映画のストーリー→病状を説明する								確認テスト			
	Unit12 Which Class is Better? 原級・比較級比較; クラス登録のアドバイス→比較する								確認テスト			
	Unit13 The Best Concert 最上級比較; デートの誘い→友人を誘う								確認テスト			
	Unit14 To Chicago, Please. 接続詞; ネットでチケット手配→手順を説明する								確認テスト			
成績評価方法	確認テスト(40%)、単位修得試験(60%)											
教科書	著書 『English Quest Intro』 著者 酒井志延・清田洋一・大崎さつき・田辺 章・箕輪美里・Michael Farquharson 出版社 ピアソン桐原 出版年度 2011年8月20日 初版 ISBN 9784342547409											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	英語表現Ⅱ(応用)			担当者	西村 道信			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語表現上の違いが理解できる。 日常的な会話表現から文章表現まで学習し、比較することにより、その違いを説明できる。 ネイティブの話し方や速度に慣れ、正確に聞き取ることができ、コミュニケーションができる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、配布された教科書を読み、各自で学習していただきます。学習の進め方は、教科書の指示通りに学習して下さい。先ず予備学習から始めます。</p> <p>次に付属の DVD を観て NEWS STORY を聞き取り、空白を埋めます。</p> <p>その後で、内容理解の問題を解いて下さい。</p> <p>ただし、NEWS STORY の空白部分は聞き取りが難しいものもありますので、答えをオンデマンド教材で確認できるようにしてあります。学習に活用して下さい。教科書は Unit 1 から Unit 15 まであり、各 Unit が終わる毎に確認テストがあります。そして確認テストがすべて終了した後、単位修得試験を受けることになります。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> News Story のリスニングについては、すべて聞き取れるようにしておくこと。 Exercise をすべて行い、News Story の内容と照合しながら解答を確認しておくこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	Unit 1 Loss of Hearing イヤホンの音量に気をつけて難聴を防ぐ								確認テスト			
	Unit 2 Bringing up Baby: Gorilla ゴリラの母親代わりの飼育係が赤ちゃんゴリラをどのように育てるか								確認テスト			
	Unit 3 Dear Santa サンタに手紙を出す子供達の願いにどのように報いるか								確認テスト			
	Unit 4 Tiffany vs. Costco Costco で偽物の Tiffany が販売されていると知った Tiffany の反応								確認テスト			
	Unit 5 Malala's Family Speaks マララの女子教育への情熱に世界が共感								確認テスト			
	Unit 6 Real Answers: Hand Sanitizers vs. Soap 除菌効果を巡るローションと石鹼の対決結果								確認テスト			
	Unit 7 Arming Teachers? 銃社会のアメリカは生徒を守るために先生にも銃を持たせるのか								確認テスト			
	Unit 8 Incoming: Asteroid! もし巨大な隕石が地球を直撃したらどうなるか								確認テスト			
	Unit 9 Afghan Youth Orchestra アフガンの子供達のオーケストラがカーネギーホールで演奏する願いとは								確認テスト			
	Unit 10 So Long Saturday: Mail Delivery Ends アメリカの郵便サービスも財政難には勝てず土曜日には手紙が届かない								確認テスト			
	Unit 11 Driving Drowsy 居眠り運転の危険性についての認識を深める								確認テスト			
	Unit 12 Pay Raise? Raising Minimum Wage 大統領は最低賃金の引き上げを提案したが、その結果はどうか								確認テスト			
	Unit 13 On the Run: Syria シリアの内戦から逃ってきた家族と子供の生活をスクープ								確認テスト			
	Unit 14 Unlikely Alliance: Gay Marriage 同性愛者どうしの結婚に関するオバマ大統領の見解								確認テスト			
	Unit 15 Future Fish: Taste of the Future? 遺伝子操作で生まれた魚の味はどのようなものか								確認テスト			
成績評価方法	確認テスト(30%)、単位修得試験(70%)の総合評価とする。											
教科書	著書『ABC World News 16』 著者 山根繁他編 出版社 金星堂 出版年度 2014年1月2版 ISBN 9784764739741											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	本授業は、本学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。											

メジャー(専修)名				授業科目名	映像制作入門			担当者	小倉 以索			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	自分自身の作品を Premiere を使って編集し、AfterEffects を使って映像加工を行うことができるようになる。											
学習の進め方	<p>プロの使用するソフトを使い、様々な映像制作を通して、映像編集の基礎を学んでいきます。 その上で、テーマ性を持たせたオリジナル映像を反復制作していきます。 また、中間課題の標準所要期間は2週間、単位修得試験(制作試験)の標準所要期間は1ヵ月です。 適切な学習スピードの自己管理をお願いします。</p>											
授業時間外学習	<p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した Adobe のアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 はじめに AfterEffects と Premiere についての概要(ソフト、できること、使われている事例)を説明								確認テスト			
	第2回 CM 映像を制作する CM 映像を制作する								確認テスト			
	第3回 企業イメージムービーの制作(Premiere 基礎) 企業イメージムービーの制作(Premiere 基礎)								確認テスト			
	第4回 ロゴアニメの制作(AfterEffects の基礎) ロゴアニメの制作(AfterEffects の基礎)								中間課題			
	第5回 映像の知識(初級編)と SFX ムービー制作(AfterEffects の基礎) 映像の知識(初級編)と SFX ムービー制作(AfterEffects の基礎)								確認テスト			
	第6回 ミュージックビデオの制作 ミュージックビデオの制作								確認テスト			
	第7回 AfterEffects3D レイヤーを使ったロゴアニメ制作 AfterEffects3D レイヤーを使ったロゴアニメ制作								確認テスト			
	第8回 マルチカメラ・音声の組み合わせ編集 マルチカメラ・音声の組み合わせ編集(セミナー映像を活用)											
成績評価方法	<p>評価項目: 中間課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】中間課題と単位修得試験の合計(100点満点換算)が90点以上の場合。 中間課題では、AfterEffects の基礎操作を理解・実施できるかを判定致します。A評価は基礎操作を十分に理解・実施できる状態です。 単位修得試験では、架空のお店のコンセプト企画からオリジナリティが認められ、AfterEffects と Premiere を連携とそれらの基礎・応用操作を十分に駆使できている状態。</p> <p>【B評価】中間課題と単位修得試験の合計(100点満点換算)が80点以上89点以下の場合。 中間課題では、AfterEffects の基礎操作を理解・実施できるかを判定致します。A評価は基礎操作を理解・実施できる状態です。 単位修得試験では、架空のお店のコンセプト企画からオリジナリティが認められ、AfterEffects と Premiere を連携とそれらの基礎・応用操作を駆使できている状態。</p> <p>【C評価】中間課題と単位修得試験の合計(100点満点換算)が70点以上79点以下の場合。 中間課題では、AfterEffects の基礎操作を理解・実施できるかを判定致します。A評価は基礎操作を必要最低限、理解・実施できる状態です。 単位修得試験では、架空のお店のコンセプト企画からオリジナリティは比較的弱いが、AfterEffects と Premiere を連携とそれらの基礎操作を駆使できている状態。</p> <p>【D評価】中間課題と単位修得試験の合計(100点満点換算)が60点以上69点以下の場合。 中間課題では、AfterEffects の基礎操作を理解・実施できるかを判定致します。A評価は基礎操作を最低限、理解・実施できる状態です。 単位修得試験では、架空のお店のコンセプト企画からオリジナリティは弱いが、AfterEffects と Premiere を連携とそれらの基礎操作を必要最低限駆使できている状態。</p>											
	教科書											
	参考書(任意購入)											
	必須ソフト・ツール											
	<p>「Adobe Creative Cloud」または、「After Effects CC」と「Premiere Pro CC」と「Illustrator CC」と「Photoshop CC」を各々単体でご用意下さい。CS6以前のバージョンは不可です。</p> <p>※パソコン側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.htmlをご確認下さい。</p> <p>※ソフトウェアの動作の確認には、Adobe社の提供する7日間無償の体験版もご利用下さい。</p> <p>Adobe Creative Cloud デスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html</p>											

備考	<p>【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 映像を通じて、自分で発信したいコンテンツ・テーマ・被写体等を持っていると、具体的に理解を深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>
----	--

メジャー(専修)名				授業科目名	音楽とコミュニケーション			担当者	萬 圭介			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	音楽の科学的な要素を理解し説明することができる。 音楽の効果、その仕組み等を理解し、その魅力を人に伝えることができる。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書は一通り目を通しておく事。どこから読んでも構いませんので興味を持った項目から読み進めましょう。 受講後には、単位修得試験で取り上げたテーマを実践しましょう。それぞれに音楽でのコミュニケーションを積極的に楽しんで頂ければと思います。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 音楽はどうやって私たちの耳に届くのか 音の性質を理解し、その伝わり方、その要素について学習します。								確認テスト・レポート			
	第2回 音楽を作るもの 音楽の3要素についてとその役割、また様々な音階などを学習します。								確認テスト・レポート			
	第3回 音楽を奏てる 発音方法により分類されたそれぞれの楽器の特徴を学習します。								確認テスト・レポート			
	第4回 音楽の楽しみ方と技術革新(1) オーディオの仕組み、メディアの進化や歴史を学習します。								確認テスト・レポート			
	第5回 音楽の楽しみ方と技術革新(2) 音響技術やその原理、レコーディングやエフェクターについて学習します。 また映像に対する音楽の影響力についても学習します。								確認テスト・レポート			
成績評価方法	各回の課題(50%)、単位修得試験(50%)											
教科書	著書『CDでわかる 音楽の科学』 著者 岩宮真一郎 出版社 ナツメ社 出版年度 2011年3月30日 4版 ISBN 9784816347771											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	オンライン教育概論			担当者	合田 美子			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること*(第8回を除く)*			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	一			
学習目標	<p>オンライン教育・e ラーニングを活用し教育効果を考慮した授業設計と運用方法について説明することができる。オンライン教育・e ラーニングに関する ICT 技術の基礎を理解しラーニングシステムの教育への応用方法を提案できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得試験受験資格:全ての教材が「済」になること*(第8回を除く)* ・成績評価方法:以下を追加してください。 ・第8回学習内容及び小テストは、e ラーニングに関する法が変わっているため参考とし、成績評価には加味しない。 											
学習の進め方	<p>e ラーニングシステム上のオリエンテーションに従って学習を進めること。まず、各章にある学習目標とポイントの解説教材を視聴し、事前に該当範囲の教科書を一読しておくと、より理解が深まります。読み終わったら、理解度の確認のために小テストを受験すること。単位修得試験の範囲は全授業回で扱う内容とする。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上でオンライン(e ラーニング)教材を検索し、どんな教材が提供されているか観察し、学習の効果・効率は上がりそうか、興味は維持できそうかなど、検討してみる。 ・受講後は、授業での学習内容を踏まえて、インターネット上のオンライン(e ラーニング)教材をいくつか検索し、教材の良い点、改善ができるような点を考え、提案書としてまとめる練習をする。 											
学習内容	<p>概 要</p> <p>第 1 回 e ラーニングの基礎知識(1)(教科書:第 1 章)</p> <p>e ラーニングとは、e ラーニングの学習形態</p> <p>第 2 回 e ラーニングの基礎知識(2)(教科書:第 2 章)</p> <p>e ラーニングプロフェッショナルの種類</p> <p>第 3 回 e ラーニングとインストラクショナルデザイン(1)(教科書:第 4 章)</p> <p>インストラクショナルデザイン(ID)とは、ADDIE モデル</p> <p>第 4 回 e ラーニングとインストラクショナルデザイン(2)(教科書:第 6 章)</p> <p>分析・設計・開発フェーズ、ID を支える学習理論</p> <p>第 5 回 e ラーニングとインストラクショナルデザイン(3)(教科書:第 8 章)</p> <p>実施フェーズ、学習支援の大切さ</p> <p>第 6 回 e ラーニングとインストラクショナルデザイン(4)(教科書:第 9 章)</p> <p>評価フェース、e ラーニングにおける PDCA</p> <p>第 7 回 ICT とラーニングシステムとコンテンツ(教科書:第 12 章)</p> <p>ラーニングシステムとは</p> <p>第 8 回 e ラーニングのための法知識の基礎(教科書:第 10 章)</p> <p>e ラーニングで必要な法的知識</p> <p>第 9 回 ICT 活用による企業内教育と新たな人材開発(教科書:第 2 章)</p> <p>e ラーニングを活用した企業内教育の現状と可能性</p> <p>第 10 回 まとめ</p> <p>オンライン教育・e ラーニングの現状と今後の課題</p>											
	<p>学習活動(ディスカッションなど)への参加状況と確認テスト(40%)と単位修得試験(60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストは、各章の内容から 5 問出題。合格基準は 80%である。合格するまで何度でも受験可。 ・単位修得試験は、授業範囲内から選択式問題と記述式問題を出題する。 ・第 8 回学習内容及び小テストは、e ラーニングに関する法が変わっているため参考とし、成績評価には加味しない。 											
	<p>教科書</p> <p>著書『これ 1 冊でわかる e ラーニング専門家の基礎 -ICT・ID・著作権から資格取得準備まで-』</p> <p>著者 玉木欽也監修</p> <p>出版社 東京電機大学出版局</p> <p>出版年度 2010 年 3 月 30 日 1 版</p> <p>ISBN 9784501547608</p>											
	<p>参考書(任意購入)</p> <p>1.インストラクショナルデザインを使って教材を作成するコツを紹介している 『教材設計マニュアル』、鈴木克明、北大路書房、2,310 円(税込)、2002 年</p> <p>2.e ラーニング専門家の職責をインストラクショナルデザインのプロセスに沿って解説している 『e ラーニング専門家のためのインストラクショナルデザイン』、玉木欽也監修、東京電機大学出版局、2,520 円(税込)、2006 年</p>											
	必須ソフト・ツール											
	備考											

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア			授業科目名	カウンセリング心理学			担当者	【夙川】辻野 達也、 【東京】具 英姫			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャン パス)東京会場			
学習目標	カウンセリング心理学の定義、起源、歩みについて講じるとともに、代表的なカウンセリングを概観する。また、カウンセラーに必要な基本的態度に触れ、面接のプロセス時における課題や留意点について概説する。											
学習の進め方	パワーポイントを用いて説明する。必要に応じプリント類、ビデオを使用する。 また、カウンセリングのためのワーク、エクササイズも適宜行う。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は積極的にノートテイキングし、その後の復習に役立てること。 ・ノート、配布資料、教科書に加え、授業中に紹介する関連図書も読み、復習することを推奨。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 カウンセリング心理学の定義											
	定義を学ぶ											
	第2回 カウンセリング心理学の起源と歩み											
	歴史について知る											
	第3回 カウンセラーに必要な基本的態度 その1											
	ラポールについて学ぶ											
	第4回 カウンセラーに必要な基本的態度 その2											
	質問することについて考える											
	第5回 カウンセリングルームについて											
	快適な相談室の環境について考える											
	第6回 面接の実際 受理面接における課題や留意点											
	実際にカウンセリングするときに必要なことを押さえる											
	第7回 面接の実際 沈黙について											
	クライエントの沈黙の意味を考える											
	第8回 面接の実際 自己開示について											
	クライエントが話をすることに思いを馳せる											
	第9回 人間主義的理論におけるカウンセリング その1											
	ロジャーズの理論を学ぶ											
	第10回 人間主義的理論におけるカウンセリング その2											
	ロジャーズの理論を学ぶ											
	第11回 「グロリアと3人のセラピスト」について											
	ビデオ鑑賞の前に必要な解説をする											
	第12回 「グロリアと3人のセラピスト」I											
	実際のカウンセリングを鑑賞する											
	第13回 「グロリアと3人のセラピスト」Iの解説											
	ロジャーズのカウンセリングについて学ぶ											
	第14回 「グロリアと3人のセラピスト」II											
	ゲシュタルト療法のカウンセリングを学ぶ											
	第15回 「グロリアと3人のセラピスト」III											
	論理療法のカウンセリングを学ぶ											
成績評価方法	授業中のレポート(60%)と出席状況(20%)、授業態度(20%)により評価する。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義 40 名											

メジャー(専修)名				授業科目名	化学概論			担当者	牧野 壮一			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	本授業で習得した化学の知識によって、日常生活における化学の役割を理解できるようになる。 身のまわりに存在する化学物質について正しい知識を得ることで、健康や環境を害する危険性の少ない生活を送る「賢い消費者」になることができる。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので、課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・科目に関連した内容を参考図書などで自己学習すること。 ・受講は、各自で規則的に学習すること。 ・課題は納得できるまで取り組むこと。 ・不明な個所は辞典や専門書などで調べること。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 食の化学 フグはなぜ自分の毒で死なないのか？握り寿司は化学の宝庫だった！？ 食生活における化学の役割について学習する。								確認テスト			
	第2回 環境の化学 環境にやさしい農薬とは？空から「鬼」が降ってくる！？ 私たちの身近な環境における化学の役割について学習する。								確認テスト			
	第3回 化学の不思議 焦げ付きにくいフライパンとは？悪臭を消す魔法とは？ 私たちの身の回りに存在する便利な製品に使われている化学物質や技術について学習する。								確認テスト			
	第4回 魔法の化学 微生物が食べるプラスチックとは？味覚を変える魔法の物質！？ 私たちの生活の中に存在する不思議な物質や現象に隠された化学の秘密を探る。								確認テスト			
	第5回 健康と薬の科学 DHA を食べると頭がよくなる！？上手なお酒の飲み方とは？ 私たちの健康に関与する化学物質やメカニズムについて学習する。								確認テスト			
	第6回 生物の不思議なしくみ 植物の色や香りの仕組みとは？ゲノムってなんだろう？ 生命誕生と進化、子孫を残すための工夫など生物の不思議について学習する。								確認テスト			
成績評価方法	各回の課題(30%)と単位修得試験(70%)による総合評価											
教科書	著書 『マスコミに見る化学』 著者 津波古充朝、小山淳子、上地真一 出版社 廣川書店 出版年度 2003年9月20日 ISBN 9784567203005											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	学習心理学			担当者	枚田 香			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	外部からの刺激や内的活動により人間の行動の変容が起こるメカニズムについての知識を身につける。 主に条件づけ、記憶、技能学習、社会的学習、問題解決、推論などに関する理論を理解する。											
学習の進め方	本授業では、指定する教科書の章立てに沿って学習をすすめます。また、オンデマンド教材で学習を支援します。オンデマンド教材には、教科書の内容の補足説明やデータを使った実習も盛り込んであります。心理学概論の教科書または心理学の入門書などの書籍で一通りの心理学の基礎知識を確認しておくこと。学習は章ごとに区切られており、各章の最後に課題があります。課題を終わらせてから次の章へ進みましょう。 各回の内容をしっかりと理解できているか自己評価し、自信がない場合は教材を読み直して復習すること。											
授業時間外学習	・教科書に目を通しておくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	序章 行動と認知の学習 ガイダンスおよび教科書を使って学習するにあたっての予備知識の確認								レポート			
	第1章 古典的条件づけの基礎 無条件刺激、条件刺激、無条件反応、条件反応などの用語と条件反射が発生するメカニズムを学習								確認テスト			
	第2章 オペラント条件付けの基礎 オペラント条件付けのメカニズム、報酬、罰などをを使った強化について学習 オペラント条件付けによる行動の消去、強化スケジュールについて学習								確認テスト			
	第3章 技能学習 技能の上達、学習曲線、練習の条件、転移について学習								確認テスト			
	第4章 社会的学習 モデルの観察による模倣学習、観察学習、代理強化について学習								確認テスト			
	第5章 問題解決と推理 日常生活における問題解決のプロセスと各種理論を学習 演繹法、帰納法、類推などを駆使した推論や新しい概念を考える創造性について学習								レポート			
	第6章 概念過程と言語獲得 概念とその形成、表象、言語の獲得について学習								レポート			
	第7章 記憶と忘却 記憶の定義、記憶の種類、手順など、記憶に関する各種理論を学習する 記憶の忘却のメカニズムと原因について学習する								確認テスト			
	第8章 有意味材料の記憶と表象 意味を持つ文章などの記憶や心にイメージするメカニズムについて学習								確認テスト			
成績評価方法	各章の課題を含む授業への積極的な参加(50%)、単位修得試験(50%)により総合評価とする。											
教科書	著書 『グラフィック 学習心理学 行動と認知』 著者 山内光哉／春木豊編著 出版社 サイエンス社 出版年度 2010年1月25日 1版 ISBN 9784781909776											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	家庭の経営			担当者	二階堂 達郎			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	現代の家計は家族形態の多様化もあって急激に変化している。こうした中で、かつて家庭内で受け継がれてきた生活習慣や家計経営上の経験が実態にそぐわないことがしばしば生じている。この授業では、家計という特有な経済単位を経済的側面からとらえ直し、今日における家計の意義やあり方について考える。											
学習の進め方	本授業は、教科書と副読本を活用して学習を進めます。副読本には学習の目標、内容、資料および要点が記載しております。教科書を参照しながら、副読本を中心に授業を進めます。各单元の終わりに小テストを実施しますので、これをクリアしてから次の回に進んでください。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書と副読本に必ず目を通しておいてください。 ・受講してわからにくかったことがあれば、かならず教科書と副読本を納得いくまで見直しておいてください。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 家庭の経済 家庭の経済的なメカニズムの特徴や役割について学ぶ。								確認テスト			
	第2回 市場経済の中の家計 企業・政府など他の経済主体との相互関係や市場経済の中で家計が占める地位などについて学ぶ。								確認テスト			
	第3回 家事労働 家事労働の特徴、現状、問題点などについて学ぶ。								確認テスト			
	第4回 家計の収入 勤労者(サラリーマン)世帯の家計収入の構造、現状、動向などについて学ぶ。								確認テスト			
	第5回 家計の支出 勤労者(サラリーマン)世帯の家計支出の構造、現状、動向などについて学ぶ。								確認テスト			
	第6回 収支のバランスと生活水準 家計の収支の現状、動向や、生活水準にかかる諸概念や問題について学ぶ。								確認テスト			
	第7回 資産と負債 勤労者(サラリーマン)世帯の資産と負債の現状、動向などについて学ぶ。								確認テスト			
	第8回 世帯の類型と家計 近年増加している高齢者世帯や単身世帯、共働き世帯などの家計の現状、動向、および問題点などについて学ぶ。								確認テスト			
	第9回 ライフサイクルと家計 家計の状態がライフサイクルに応じてどのように変化しているかについて学ぶ。								確認テスト			
	第10回 家計とライフプラン ライフステージごとの家計の特徴とライフプラン(生活設計)について考える。								確認テスト			
	第11回 暮らしの安定と生活保障 暮らしを守るために知っておきたい、生活を保障するための社会保障などの制度や仕組みについて学ぶ。								確認テスト			
	第12回 暮らしの安全を守るために 暮らしの安全を守るために、食品・生活用品などの商品やサービスの安全性を確保するための制度や仕組みについて学ぶ。								確認テスト			
	第13回 消費者トラブルに遭わないために さまざまな悪徳商法について理解し、その被害から身を守る方法について学ぶ。								確認テスト			
	第14回 クレジットやローンをめぐるトラブルに遭わないために 消費者信用をめぐるトラブルや多重債務の実態などについて理解し、それから身を守る方法について学ぶ。								確認テスト			
	第15回 環境にやさしい暮らし コミ問題やリサイクルなど生活に身近な環境問題を学び、環境にやさしいこれからのライフスタイルについて考える。								確認テスト			
成績評価方法	各回の課題(50%)、単位修得試験(50%)により総合評価する。											
教科書	著書『お金と暮らしの生活術』 著者 大藪千穂 出版社 昭和堂 出版年度 2011年5月20日 新版 ISBN 9784812211359											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	本授業は、本学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。											

メジャー(専修)名				授業科目名	韓国語 I (基礎)			担当者	村上 純			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	韓国語の入門講座として、文字(ハングル)の読み方とその発音練習、簡単な単語や文法および会話の表現などを学習し、韓国語に対する基礎知識を身につけることを目標としている。											
学習の進め方	各回の授業ごとに文字・単語・文法・会話のコーナーがあり、それぞれ講義画面やスキット映像を視聴しながら学習を進める。											
授業時間外学習	韓国ドラマや映画、音楽、料理など、様々な方向から韓国語に触れる機会を増やしてみましょう。また、ハングルを見かけたら意識して読んでみましょう。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 まずは基本の母音から学びましょう／アンニヨンハセヨ											
	文字 基本母音 単語 家族を表すことば 文法 語順について 会話 「アンニヨンハセヨ(こんにちは)」								確認テスト			
	第2回 基本子音を学びましょう／カムサハムニダ								確認テスト			
	文字 基本子音 単語 自分や相手を表すことば 文法 文体について 会話 「カムサハムニダ(ありがとうございます)」								確認テスト			
	第3回 平音・激音・濃音を学びましょう／アンニヨンヒ ケセヨ								確認テスト			
	文字 平音・激音・濃音 単語 国を表すことば 文法 「名詞 + です／ですか」 会話 「アンニヨンヒ ケセヨ(さようなら)」								確認テスト			
	第4回 複合母音を学びましょう／マシッソヨ								確認テスト			
	文字 複合母音 単語 食べ物を表すことば 文法 「はい／いいえ」 会話 「マシッソヨ(おいしいです)」								確認テスト			
	第5回 パッチムを学びましょう／ケンチャナヨ								確認テスト			
	文字 パッチム 単語 数を表すことば 文法 「～は」「～が」「～も」「～と」 会話 「ケンチャナヨ(だいじょうぶです)」								確認テスト			
成績評価方法	確認テスト(50%)、単位修得試験(50%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	韓国語 II(応用)			担当者	村上 純			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	韓国語の基礎の段階から、応用の段階へステップアップをはかる。 韓国語を用いて様々な学習活動を行う。 受講生同士のコミュニケーションを図りながら、韓国語学習に楽しく取り組む。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材、オンデマンド教材を副教材として学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	韓国ドラマや映画、音楽、料理など、様々な方向から韓国語に触れる機会を増やしてみましょう。また、ハングルタイピングのアブリなどを用いて授業時間以外にも練習してみましょう。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 コンピューターでハングルを書いてみよう								レポート			
	パソコン上でハングルの文字を表す方法を学ぶ											
	第2回 名前や地名をハングルで表してみよう								レポート			
	自分の名前や地名など、日本語の有名な固有名詞をハングルで表す方法を学ぶ											
	第3回 韓国語でプロフィールを作成してみよう								プレゼンテーション			
	自分を紹介するプロフィールを韓国語で作成する											
	第4回 数の表現を学んでみよう								確認テスト			
	韓国語の数体系について学び、それを用いた様々な表現を学ぶ											
	第5回 いろいろな文章表現を学んでみよう								確認テスト			
	文章の作り方のパターンを学び、それを用いた応用練習を行う											
成績評価方法	第6回 韓国語の歌を聞いてみよう 歌を通して韓国語を学ぶ											
	第7回 韓国レストランに行ってみよう 食事に関する韓国語や料理の注文の仕方などを学ぶ											
	第8回 韓国語でビデオレポートを作成してみよう 授業で学んだ内容を生かし、韓国語でビデオレポートを作成する											
成績評価方法	課題(50%)、単位修得試験(50%)											
教科書	著書 『Let's enjoy ハングル』 著者 村上純 出版社 有限会社 国宗 出版年度 2011年4月20日											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Power Point(2003以上)、マイク											
備考												

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	企業経営論			担当者	小江 茂徳			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	経営学の基本的な知識を習得することを目的とします。											
学習の進め方	本授業では、教科書すべての内容を習得するのではなく、教科書の中で、いくつかピックアップした章を学習します。内容としては経営学の中でも極めて基本的かつ重要な内容を選択しており、今まで経営学を学んだことのない方、とりわけ高校を卒業したばかりの方にも理解しやすい講義内容になってます。受講中は、教科書をじっくり読んで、理論や専門用語とその意味について修得し、学んだ箇所のポイントを整理したノートを作成し、知識の定着に努めましょう。最後は確認テストを実施してください。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、新聞やニュースから、経営に関する情報を日常的に得るようにしてください。 ・受講後には、講義で学習した概念や理論を使って、現実の経営現象を説明できることを目標としましょう。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 企業と経営 教科書: 第1部第1章 企業の社会における位置づけと、企業内の内部構造について理解します。								確認テスト			
	第2回 企業・会社の概念と諸形態 教科書: 第1部第2章 一口に企業といっても、企業にはさまざまな形態があります。この章では、企業の種類にはどのようなものがあるか、またそれぞれのどのような特徴があるのか理解します。								確認テスト			
	第3回 所有・経営・支配と経営目的 教科書: 第1部第3章 株式と企業の所有の関係性について理解しましょう。とりわけ、所有者と経営者の役割が株式の所有構造により、どのように変化するのか学習しましょう。								確認テスト			
	第4回 株式会社の機関とコーポレート・ガバナンス 教科書: 第1部第4章 企業内の機関およびその役割について理解しましょう。								確認テスト			
	第5回 日本型企業システム 教科書: 第1部第5章 日本企業固有の経営の習慣、制度について理解しましょう。								確認テスト			
	第6回 経営戦略の体系と理論 教科書: 第2部第1章 経営戦略論の系譜について学習しましょう。								確認テスト			
	第7回 全社戦略 教科書: 第2部第2章 経営戦略は3つのレベルに分類されますが、全社戦略は企業全体のあり方の指針となります。事業分野の選択と資源展開のために、企業がどのように行動すべきなのか理解しましょう。								確認テスト			
	第8回 事業戦略 教科書: 第2部第3章 経営戦略の第2のレベルが事業戦略です。事業が競争優位性を保つ為にどのような戦略が有効であるのか理解しましょう。								確認テスト			
	第9回 機能別戦略 教科書: 第2部第4章 機能別戦略とは、企業の各機能レベルにおける戦略を意味します。各機能の具体的な戦略について理解しましょう。								確認テスト			
	第10回 組織に関する基礎理論 教科書: 第3部第1章 組織論における重要な古典的理論について学習します。組織論の重要な論者達が、組織をどのように捉えようとしてきたのか、理解しましょう。								確認テスト			
	第11回 経営組織の基本形態 教科書: 第3部第2章 分業と協働の体系としての経営組織の基本型と応用型にどのようなものが有るのか理解しましょう。また組織編成における基本原則もきちんと理解しましょう。								確認テスト			
	第12回 企業組織の諸形態 教科書: 第3部第3章 企業組織にはどのような組織形態が考えられるのか、またそれらにどのような長所や短所があるのか、学習しましょう。								確認テスト			
	第13回 経営管理の基礎理論 教科書: 第4部第1章 経営管理論の古典的理論である管理過程論(ファヨール)、人間関係論、モチベーション論、リーダーシップ論等、基礎的な理論について学びます。								確認テスト			
	第14回 マネジメントの階層とプロセス 教科書: 第4部第2章 組織を管理するということはどういうことか、理解しましょう。								確認テスト			
	第15回 企業経営と情報化								確認テスト			

	教科書: 第 5 部第 3 章 企業経営における情報の持つ意義、また情報を用いたビジネスについて理解しましょう。 第 16 回 企業の社会的責任と企業倫理 教科書: 第 5 部第 4 章 いまや企業経営において CSR は重要な経営課題となっています。どのような企業の CSR の取り組みが有るのかを理解し、またご自身の興味ある企業がどのような取り組みをしているのか調べてみましょう。	
成績評価方法	確認テスト(40%)、単位修得試験(60%)	
教科書	著書 『経営学の基本(第 5 版)』 著者 経営能力開発センター 出版社 中央経済社 出版年度 2015 年 7 月 25 日 5 版 ISBN 9784502124211	
参考書(任意購入)		
必須ソフト・ツール		
備考	指定教科書は経営学検定試験の公式教科書となっておりますが、本授業は、検定試験対策を目的とした講義ではありません。 なお、本授業は、本学から送付された教科書を使用して学習を進め、与えられた課題に取り組みます。	

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎ゼミナール			担当者	野波 侑里、本田 直也、畠 耕治郎																																				
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	☆☆☆																																						
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—																																				
	<p>この授業は、高校を卒業して間もない若年者に大学での学びに馴染んでもらうことを目指し、学ぶことを学ぶための科目です。高校までの学びと大学での学びの違いを比べながら、学習の方法やコツ、科目や専門の選び方について学んでいきます。</p> <p>【この授業の学びを通してできるようになること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校までの学びと、大学での学びの違いを把握し、説明できるようになる。 ・本学通信教育部にて、どのようなメジャー・資格課程が配置されているのか把握し、いくつかを自分の言葉で説明できるようになる。 ・興味のある科目や分野、学んでみたい科目や分野を選んで示すことができるようになる。 ・自分の興味や中長期の目標を踏まえた上で、少し先までの具体的な履修計画を立てることができるようになる。 ・学習途中(クールの途中や年度の途中)で、自身の学習が計画通り順調に進んでいるかどうか自身で状況を認識し、他者に話すことができるようになる。 																																												
学習目標																																													
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は複数クールにまたがって継続して学習する ・学習開始クールは原則として入学直後のクールとする ・単位修得試験は第4クール末に実施する ・動画視聴(ライブまたはオンデマンド)と、関連する課題の提出により学習を進めていく ・毎回ゲストを招いてトークライブを行う ・毎回のゲストに対する質問を作成する(どんなに些細な質問でも構わない) ・学習者本人と教員との間で、クールごとに面談(電話や Skype、可能ならば対面など、形式は応相談)を行う 																																												
授業時間外学習																																													
学習内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>概 要</th> <th>課 題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回「学びの基礎Ⅰ」</td><td></td></tr> <tr> <td>時 期…4月 学習内容…担当教員の紹介、本学通信教育部での学び方、履修の方法やコツ ※第1回はゲストトーク無し 事前課題…なし 事後課題…第1回学習内容の振り返り</td><td></td></tr> <tr> <td>第2回「学びの基礎Ⅱ」</td><td></td></tr> <tr> <td>時 期…5月 学習内容…単位修得試験対策、レポートの書き方、本学在籍中の先輩を招いてゲストトーク 事前課題…ゲスト(先輩)への質問作成 事後課題…第2回学習内容の振り返り</td><td></td></tr> <tr> <td>第3回「学習に困ったときの対処」</td><td></td></tr> <tr> <td>時 期…6月 学習内容…学習について困ったときの対処方法、学習アドバイザーを招いてゲストトーク 事前課題…学習アドバイザーへの質問作成 事後課題…第3回学習内容の振り返り</td><td></td></tr> <tr> <td>第4回「キャリアデザインⅠ」</td><td></td></tr> <tr> <td>時 期…7月 学習内容…卒業後の進路と将来設計、本学通信教育部卒業生を招いてゲストトーク 事前課題…本学通信教育部卒業生への質問作成 事後課題…第4回学習内容の振り返り</td><td></td></tr> <tr> <td>第5回「図書館の利用」</td><td></td></tr> <tr> <td>時 期…8月 学習内容…図書館の使い方、学外図書館の使い方、図書館職員を招いてゲストトーク 事前課題…図書館職員への質問作成 事後課題…第5回学習内容の振り返り</td><td></td></tr> <tr> <td>第6回「学びのモチベーション」</td><td></td></tr> <tr> <td>時 期…9月 学習内容…学びを継続させるコツ、自己学習力向上、本学在籍中の先輩を招いてゲストトーク 事前課題…ゲスト(先輩)への質問作成 事後課題…第6回学習内容の振り返り</td><td></td></tr> <tr> <td>第7回「メジャー・資格(1) 心理学／ライフデザイン」</td><td></td></tr> <tr> <td>時 期…10月 学習内容…心理学／ライフデザインメジャーの解説、担当の教員を招いてゲストトーク 事前課題…心理学／ライフデザインメジャー担当教員への質問作成 事後課題…第7回学習内容の振り返り</td><td></td></tr> <tr> <td>第8回「メジャー・資格(2) ビジネス・キャリア／社会調査士」</td><td></td></tr> <tr> <td>時 期…11月 学習内容…ビジネス・キャリアメジャー／社会調査士の解説、担当の教員を招いてゲストトーク 事前課題…ビジネス・キャリアメジャー／社会調査士担当教員への質問作成 事後課題…第8回学習内容の振り返り</td><td></td></tr> <tr> <td>第9回「メジャー・資格(3) 日本語教員／公務員試験対策プログラム」</td><td></td></tr> </tbody> </table>									概 要	課 題	第1回「学びの基礎Ⅰ」		時 期…4月 学習内容…担当教員の紹介、本学通信教育部での学び方、履修の方法やコツ ※第1回はゲストトーク無し 事前課題…なし 事後課題…第1回学習内容の振り返り		第2回「学びの基礎Ⅱ」		時 期…5月 学習内容…単位修得試験対策、レポートの書き方、本学在籍中の先輩を招いてゲストトーク 事前課題…ゲスト(先輩)への質問作成 事後課題…第2回学習内容の振り返り		第3回「学習に困ったときの対処」		時 期…6月 学習内容…学習について困ったときの対処方法、学習アドバイザーを招いてゲストトーク 事前課題…学習アドバイザーへの質問作成 事後課題…第3回学習内容の振り返り		第4回「キャリアデザインⅠ」		時 期…7月 学習内容…卒業後の進路と将来設計、本学通信教育部卒業生を招いてゲストトーク 事前課題…本学通信教育部卒業生への質問作成 事後課題…第4回学習内容の振り返り		第5回「図書館の利用」		時 期…8月 学習内容…図書館の使い方、学外図書館の使い方、図書館職員を招いてゲストトーク 事前課題…図書館職員への質問作成 事後課題…第5回学習内容の振り返り		第6回「学びのモチベーション」		時 期…9月 学習内容…学びを継続させるコツ、自己学習力向上、本学在籍中の先輩を招いてゲストトーク 事前課題…ゲスト(先輩)への質問作成 事後課題…第6回学習内容の振り返り		第7回「メジャー・資格(1) 心理学／ライフデザイン」		時 期…10月 学習内容…心理学／ライフデザインメジャーの解説、担当の教員を招いてゲストトーク 事前課題…心理学／ライフデザインメジャー担当教員への質問作成 事後課題…第7回学習内容の振り返り		第8回「メジャー・資格(2) ビジネス・キャリア／社会調査士」		時 期…11月 学習内容…ビジネス・キャリアメジャー／社会調査士の解説、担当の教員を招いてゲストトーク 事前課題…ビジネス・キャリアメジャー／社会調査士担当教員への質問作成 事後課題…第8回学習内容の振り返り		第9回「メジャー・資格(3) 日本語教員／公務員試験対策プログラム」	
概 要	課 題																																												
第1回「学びの基礎Ⅰ」																																													
時 期…4月 学習内容…担当教員の紹介、本学通信教育部での学び方、履修の方法やコツ ※第1回はゲストトーク無し 事前課題…なし 事後課題…第1回学習内容の振り返り																																													
第2回「学びの基礎Ⅱ」																																													
時 期…5月 学習内容…単位修得試験対策、レポートの書き方、本学在籍中の先輩を招いてゲストトーク 事前課題…ゲスト(先輩)への質問作成 事後課題…第2回学習内容の振り返り																																													
第3回「学習に困ったときの対処」																																													
時 期…6月 学習内容…学習について困ったときの対処方法、学習アドバイザーを招いてゲストトーク 事前課題…学習アドバイザーへの質問作成 事後課題…第3回学習内容の振り返り																																													
第4回「キャリアデザインⅠ」																																													
時 期…7月 学習内容…卒業後の進路と将来設計、本学通信教育部卒業生を招いてゲストトーク 事前課題…本学通信教育部卒業生への質問作成 事後課題…第4回学習内容の振り返り																																													
第5回「図書館の利用」																																													
時 期…8月 学習内容…図書館の使い方、学外図書館の使い方、図書館職員を招いてゲストトーク 事前課題…図書館職員への質問作成 事後課題…第5回学習内容の振り返り																																													
第6回「学びのモチベーション」																																													
時 期…9月 学習内容…学びを継続させるコツ、自己学習力向上、本学在籍中の先輩を招いてゲストトーク 事前課題…ゲスト(先輩)への質問作成 事後課題…第6回学習内容の振り返り																																													
第7回「メジャー・資格(1) 心理学／ライフデザイン」																																													
時 期…10月 学習内容…心理学／ライフデザインメジャーの解説、担当の教員を招いてゲストトーク 事前課題…心理学／ライフデザインメジャー担当教員への質問作成 事後課題…第7回学習内容の振り返り																																													
第8回「メジャー・資格(2) ビジネス・キャリア／社会調査士」																																													
時 期…11月 学習内容…ビジネス・キャリアメジャー／社会調査士の解説、担当の教員を招いてゲストトーク 事前課題…ビジネス・キャリアメジャー／社会調査士担当教員への質問作成 事後課題…第8回学習内容の振り返り																																													
第9回「メジャー・資格(3) 日本語教員／公務員試験対策プログラム」																																													

	<p>時 期…12月 学習内容…日本語教員／公務員試験対策プログラムの解説、担当の教員を招いてゲストトーク 事前課題…日本語教員／公務員試験対策プログラム担当教員への質問作成 事後課題…第9回学習内容の振り返り</p> <p>第10回「キャリアデザインⅣ」</p> <p>時 期…1月 学習内容…就職・転職について考える、本学通信教育部卒業生を招いてゲストトーク 事前課題…本学通信教育部卒業生への質問作成 事後課題…第10回学習内容の振り返り</p> <p>全10回の授業後「単位修得試験」</p> <p>時 期…2月 学習内容…1年の学習(基礎ゼミナールとその他全ての学習)の振り返り、次年度履修計画 課題(試験)…1年の学習振り返りを記述、次年度履修計画を列挙、履修計画の理由を記述</p>	
成績評価方法	以下の評価項目により総合的に評価する。きちんと各回の学習を完了させていることを重視する。 <ul style="list-style-type: none"> ・受講・参加状況(ログイン回数や学習回数) ・面談実施と完了状況 ・各回事前課題(ゲストへの質問作成)の提出状況 ・各回事後課題(各回学習の振り返り)の提出状況 ・単位修得試験(レポート試験) 	
教科書	なし	
参考書(任意購入)	なし	
必須ソフト・ツール	文章作成し提出してもらう以外には特別なソフト・ツールは必要なし。	
備考	<p>1年次(18~22歳)を対象とした授業です。 高校卒業からあまり時間が経っていない学生を対象とした、「高校と大学の学びの違い」をテーマとする大学への導入教育や社会での経験が必ずしも豊富ではない若年者向け・未就業者向けのキャリア教育を行うため、対象者を限定しています。 第1クールから第4クールまで継続して学んでいく科目となっています。18~22歳までの1年次生で受講を希望する学生は入学直後のクールにて履修登録の上、学習を開始してください。 なお、第4クールでの履修登録はできません。第4クールより学習を開始する10月入学生は、次年度(2019年度)の第1クールにて履修登録を行ってください。</p>	

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	キャリア概論			担当者	岩波 薫			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	キャリア形成に関連する最近のトピックや入門的な理論を取り上げ、キャリアについて学ぶための基礎作りを行う。また、自分自身の個性やキャリアに対する考え方などを理解し、将来キャリアをデザインするためのヒントを得ることができるようになる。											
学習の進め方	一方向的な講義は必要最小限にとどめ、ワークシートやアセスメントなどを用いた個人ワーク、少人数でのグループ・ワークを多用する。受講者どうしの様々な「対話」の方法も試しつつ、相互に理解をしながら、キャリア形成に対する自分自身の考え方を理解できるようにする。また、テーマに沿った話題提供のために、TV番組やビデオなどの視聴も行う。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義開始1週間前を目処に、スクーリングで使用するレジュメを el-Campus にアップするので、事前に簡単に目を通しておいて下さい。 ・スクーリング終了後、講義内でのグループワークの内容を更に個人で深めていく形で個人レポートが課されます(原則ワードで作成)。 											
学習内容	概要											
	第1回 仕事選びの基準とは①「やりたいこと」と「できること」 「やりたいこと」を仕事にするべきか、「できること」を仕事にするべきか、若者たちの事例を用いて議論する。											
	第2回 仕事選びの基準とは②「やりたいこと」と「できること」 前回内容に関する議論と講義。											
	第3回 仕事選びの基準とは③ 才能と努力 努力は才能を超えるか、ある若者の事例を用いて議論する。											
	第4回 仕事選びの基準とは④ 才能と努力 前回内容に関する議論と講義。											
	第5回 就職氷河期① キャリアの入口で若者をつまづかせている「就職氷河期」。その要因と対策について考える。											
	第6回 就職氷河期② 前回内容に関する議論と講義。											
	第7回 ライフサイクルとキャリア① ワークライフバランス 仕事と家庭の両立(統合)はどのようにすればよいのか。事例および自身の体験に基づいて議論する。											
	第8回 ライフサイクルとキャリア② ワークライフバランス 前回内容に関する議論と講義。											
	第9回 キャリア形成とメンタルヘルス① 働く人のメンタルヘルスの現状と課題を、マネジメントの視点も含めて議論する。											
	第10回 キャリア形成とメンタルヘルス② キャリア形成に関するストレス要因とその対策について。											
	第11回 キャリア形成と人間関係① キャリア形成に影響を与える他者との人間関係について議論する。											
	第12回 キャリア形成と人間関係② 前回内容に関する議論と講義。											
	第13回 グループワーク① ここまで学習したことをふまえ、与えられた課題にしたがって、グループ・ワークを行う。											
	第14回 グループワーク② ここまで学習したことをふまえ、与えられた課題にしたがって、グループ・ワークを行う。											
	第15回 グループワーク発表 グループワークの結果を発表する。											
成績評価方法	講義への参加(ディスカッションなどへの)とその貢献度合い(量と質):(40%)、レポート:(60%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	大久保幸夫著『キャリアデザイン入門 I(基礎力編)』日本経済新聞出版社											
必須ソフト・ツール	最終グループ発表をまとめる際には、各自 Microsoft Office PowerPoint が使えることが望ましい。スクーリング終了後に全員提出の個人レポートは原則 Microsoft Office Word を使用する。											
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義 40 名。 3日間のスクーリング形式での講義ですので、シラバス上の回数にはとらわれず適切な時間(60分程度)ごとに休憩を入れる形で講義を進行します。											

メジャー(専修)名				授業科目名	キャリア形成と社会			担当者	山縣 康浩			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>キャリア形成にかかわる、個人、組織、社会の3つの領域の中で、普段あまり意識していない社会の領域を中心に取り上げ、キャリア形成とのかかわりについて考えていきます。</p> <p>社会とのかかわりを踏まえることで、実践の場を通じたキャリア形成における意識の変化を促します。今までと大きく認識が変われば、キャリア形成も変わってくるからです。</p>											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 社会の大きな動きについて、日頃から関心を持って自分なりに認識しておいてください。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 学習前と自分の認識がどう変化したのか、振り返りを実施してください。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 社会を考えるⅠ								ディスカッション			
	この講義で考える「社会」という他人とのかかわりを捉える								ディスカッション			
	第2回 社会を考えるⅡ								ディスカッション			
	他人とのかかわりの中で、「みんな」という概念を認識する								ディスカッション			
	第3回 時間軸における社会とキャリア形成を考える								ディスカッション			
	過去の経験が、未来を縛る構図を理解する								ディスカッション			
	第4回 社会からの影響を考える								ディスカッション			
	自己における価値が、社会によって埋め込まれていることを理解する								ディスカッション			
	第5回 ここまでまとめ								レポート、ディスカッション			
	ここまで学習した内容をまとめる								ディスカッション			
	第6回 社会からの影響Ⅰ								ディスカッション			
	政治や経済の事例を用いて、キャリア形成と社会のかかわりを理解する								ディスカッション			
	第7回 社会からの影響Ⅱ								ディスカッション			
	工学の事例を用いて、キャリア形成と社会のかかわりを理解する								レポート、ディスカッション			
	第8回 社会からの影響のまとめ								ディスカッション			
	実際に我々を規定していることがらが、共通前提によるコミュニケーションによるものであることを考える								ディスカッション			
	第9回 事例:思ってもみなかった成功								ディスカッション			
	思ってもみなかった成功事例を読み、検討する								ディスカッション			
	第10回 事例:自分の思い込みを終わらせる								ディスカッション			
	自分の思い込みを終わらせる事例を読み、検討する								ディスカッション			
	第11回 事例:刷り込まれる価値に気づく								ディスカッション			
	刷り込まれる価値事例を読み、検討する								ディスカッション			
	第12回 まとめ								ディスカッション			
	ここまで学習した内容をまとめる								ディスカッション			
成績評価方法	評価材料:ディスカッション、第5回、第8回レポート、単位修得試験(記述式)											
	<p>【A評価】 ディスカッションにおいての気づきや発見したことを、自分の事例に落とし込んで情報発信している。 第5回・第8回レポートにおいて、講義内容を認識し、実践に踏み出している。 単位修得試験では、講義内容の深い認識と、実践での実現性が伝わってくる内容となっている。</p>											
	<p>【B評価】 ディスカッションにおいての気づきや発見したことを、情報発信している。 第5回・第8回レポートにおいて、講義内容を認識している。 単位修得試験では、講義内容の認識と、実践での意欲が伝わってくる内容となっている。</p>											
	<p>【C評価】 ディスカッションにおいての他者からの情報から気づきや発見したことを述べている。 第5回・第8回レポートにおいて、講義内容を踏まえ、実践に踏み出そうとしている。 単位修得試験では、講義内容を踏まえ、自分なりの実践計画が描けている。</p>											
	<p>【D評価】 ディスカッション参加している。 第5回・第8回レポートにおいて、講義内容を認識している。 単位修得試験では、講義内容と関連した、実践内容となっている。</p>											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												

備考	<p>【履修の前提とするもの】 キャリア形成につながる「実践の場」があること。 実践の場を通じて、自分を成長させたいと考えていること 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 キャリア理論についての知識を持ち、自分なりのキャリアの定義や考え方をもっていること オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>
----	--

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	キャリアの心理学			担当者	坂本 理郎			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	現地試験			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	世界が大きく変化しつつあるいま、私たちが職業に就き、職業人として充実した人生を歩んでいくことは、以前よりもますます困難になってきている。このような時代の中で、キャリア形成に関連する理論を学ぶことは、今後の自身のキャリアを考えるうえで重要な指針を得ることになる。加えて、企業の管理職、教育者、あるいはキャリア・カウンセラーとして、他者のキャリア形成を支援するうえでも、たいへん役に立つものである。そこで本講義では、主に心理学の分野からキャリアに関する重要な理論をいくつか取り上げ、自分自身や他者への実用を意識しながら、学んでいくことを目的とする。											
学習の進め方	本授業では、基本的には指定した教科書に掲載されている理論を中心に学ぶ。ただし、教科書にはない、重要な理論や技法についてもいくつか学ぶ。講義中心ではあるが、理論を自分自身に適用してみるためのワークやディスカッションも可能な限り取り入れる。											
授業時間外学習	・授業時間中に事前・事後課題の指示があります。それにしたがって、学習を行ってください。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 スーパーの理論 キャリアの自己概念、ライフ・スパン、ライフ・スペース											
	第2回 ハンセンの理論 統合的人生計画											
	第3回 シュロスバーグの理論 キャリアの転機を活かす											
	第4回 ホランドの理論 パーソナリティ・タイプと職業選択											
	第5回 クルンボルツの理論 学習経験と職業選択、ブランドハブンスタンス理論											
	第6回 SCCT理論 自己認知がキャリア形成に与える影響											
	第7回 第6回までのまとめ 第6回までのまとめ(中間試験による復習)											
	第8回 シャインの理論① 組織と個人のニーズの調和、キャリアサイクル											
	第9回 シャインの理論② キャリア・アンカーとキャリア・サバイバル											
	第10回 ホールの理論 変幻自在のキャリア(プロテアンキャリア)											
	第11回 メンタリング キャリア形成を支援する人間関係											
	第12回 ナラティブ・アプローチ 物語としてのキャリア											
	第13回 ケース・スタディ 仮想のクライエントの事例を用いて、理論的な分析を試みる。								「順子さんのケース」			
	第14回 キャリア・カウンセリングの技法 カウンセリングの基本的考え方、マイクロ・カウンセリング技法を中心とした基礎スキル、キャリア・カウンセラーに求められる資質と能力。											
	第15回 まとめ 単位修得試験の実施											
成績評価方法	中間試験(30%)、単位修得試験(70%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『キャリアカウンセリング入門—人と仕事の橋渡し』、渡辺三枝子、ナカニシヤ出版、2,310 円(税込)、2001 年											
必須ソフト・ツール												
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義 40 名											

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	キャリアマネジメント			担当者	山縣 康浩			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	個人の視点、経営の視点、社会の視点からキャリアを捉え、自律的キャリア形成についての考察を深める。											
学習の進め方	本授業では、みなさんご自身の経歴や職歴を中心に、キャリアの考察を深めていきます。まず、過去を振り返る中で、節目においてどのような選択をしてきたのか。そして、みなさんが働く職場ではどのような環境変化が起こり、そして求められる人材がどのようにシフトしてきているのか。そして最後に、将来の視点を入れてキャリアアジェンダを作成していきます。											
授業時間外学習	日頃、見過ごしているかもしれない身近な社会の変化を意識してください。何か、ご自身のキャリア形成につながる事柄が、ころがっているかもしれません。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 自分のキャリアの握り所を考える 節目における選択基準は何かを理解する								レポート			
	第2回 働く職場での環境変化Ⅰ マネジメントの概念が変わったことへの理解を促進する								レポート			
	第3回 働く職場での環境変化Ⅱ 働く職場で求められる人材がシフトしていることへの理解を促進する								レポート			
	第4回 将来の働く職場を考える 将来を見据えたキャリアを考える								レポート			
	第5回 今後必要とされるキャリアを考える 5年後を見据えた、環境変化分析、働く職場分析、自分の生かし方を検討する								レポート			
	第6回 キャリアアジェンダ作成 これまでの内容を踏まえ、将来へのキャリア計画を作成する											
成績評価方法	各回レポート(50%)、単位修得試験(50%) ライブケース作成用紙の提出、各回レポートの提出、職場分析用紙の提出、キャリアアジェンダ作成用紙の提出が必須。 評価ポイントは、やりたいこと、できること、すべきことのマッチングが出来ていること。											
教科書	著書『キャリア論 個人のキャリア自律のために会社は何をすべきなのか』 著者 高橋俊介 出版社 東洋経済新報社 出版年度 2003年8月1日 ISBN 9784492531648											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	教育・学校心理学			担当者	寺田 未来			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の発達過程、パーソナリティ、学習、人間関係や集団心理の理論や概念を説明できるようになる。 ・学校教育について解決すべきテーマを自ら設定し、習得した内容をもとに解決策を考察することができるようになる。 											
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 心理学概論の教科書や入門書にふれておくこと el-Campus トップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したサイトを閲覧しておくこと 専門用語を理解しておくこと 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 発達①								確認テスト			
	認知や思考、言語の発達についての理論を学ぶ。また幼少期における養育者とのかかわりについて愛着の形成を学ぶ。											
	第2回 発達②								確認テスト			
	児童・生徒の自己概念の形成や自己主張・自己抑制について学ぶ。											
	第3回 パーソナリティ								確認テスト			
	パーソナリティの測定方法と捉え方を学ぶ。さらに児童・生徒におけるパーソナリティの形成と、さまざまなパーソナリティの特徴や学校生活に及ぼす影響を学ぶ。											
	第4回 学習								確認テスト			
	学習の形成・成立とそのメカニズムを学ぶ。 また児童・生徒の効果的な学習として、自己調整学習とは何かを学ぶ。											
	第5回 学力と学習観								確認テスト			
	学力に関する問題の現状を学ぶ。また児童・生徒が知識を習得する際のポイントとして学習観について学ぶ。											
	第6回 動機づけ①								確認テスト			
	動機づけに関する理論を学び、動機づけの種類や、そのメカニズムを学ぶ。											
	第7回 動機づけ②								確認テスト			
	動機づけに関する理論を学び、児童・生徒がいかにして学習に動機づけられるかについて学ぶ。											
	第8回 学習方略①								確認テスト			
	学習の進め方(学習方略)にはどのようなものがあるのかを学ぶ。											
	第9回 学習方略②								確認テスト			
	わからないことがあったときの援助の要請方法について学ぶ。 個による学習だけでなく、仲間との教え合いなどの協同学習について学ぶ。											
	第10回 効果的な学習指導・学習支援①								確認テスト			
	自律的な学習者を育成するための効果的な学習指導・学習支援について介入方法や促進方法を学ぶ。											
	第11回 効果的な学習指導・学習支援②								確認テスト、レポート			
	学校教育や学習支援の場面で実践されている学習指導・学習支援を学ぶ。											
	第12回 対人関係								確認テスト			
	児童・生徒を取り巻くさまざまな人間関係について、相互作用のあり方や、それぞれのもつ対人トラブルについて学ぶ。											
	第13回 集団関係								確認テスト			
	学校生活におけるクラスや部活動などの集団について、リーダーシップやチークワーク、集団の一員としてのアイデンティティについて学ぶ。 また集団であるがゆえに起こりうるトラブルについて学ぶ。											
	第14回 学校生活で抱える問題								確認テスト、レポート			
	学校適応とは何かについてふれ、学校教育における問題の実態と背景要因について自己制御、統制の所在という観点からアプローチする。											
	第15回 心理教育的援助サービス								確認テスト			
	学校教育における心理教育的援助サービスの実態にふれ、カウンセリングマインドや学校教育の指針について学ぶ。											
成績評価方法	<p>評価材料:レポート、単位修得試験</p> <p>【A評価】レポート:テーマに沿って自らの意見が論理的に述べられている。</p> <p>単位修得試験:学校教育において解決すべきテーマを設定し、習得した内容をもとに自らの意見が論理的に主張されている。</p> <p>教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。</p> <p>学校教育の現場における解決すべき問題に対し、専門的な知識をふまえながら自らの意見を考察し、解決策にアプローチすることができる。</p>											

	<p>【B 評価】レポート: テーマに沿って自らの意見が論理的に述べられている。 単位修得試験: 学校教育において解決すべきテーマを設定し、習得した内容と、これまでの先行研究で得られた知見をもとに自らの意見がまとめられている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。 学校教育の現場における解決すべき問題に対し、専門的な知識をふまえながら問題にアプローチすることができる。</p> <p>【C 評価】レポート: テーマに沿って自らの意見が述べられている。 単位修得試験: 学校教育において解決すべきテーマを設定し、習得した内容をもとに一般的な解決策がまとめられている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。 学校教育の現場における解決すべき問題を、専門的な知識をもとに理解することができる。</p> <p>【D 評価】レポート: テーマに沿って一般的な意見が述べられている。 単位修得試験: 学校教育において解決すべき何らかのテーマが記載されている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>心理学概論の教科書や入門書などにより、一通りの心理学の基礎知識をもっておくことで理解がスムーズになる。</p> <p>学校教育に関連する現場での実務経験をふまえておくことで理解がより深まる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	行政法			担当者	野村 康春			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	公務員試験の行政職区分において、法律専門科目として出題される行政法について、基礎的な法学用語、条文知識、判例知識、並びに公務員試験問題へのアプローチできるようになります。本授業を通して基礎力を養い、過去問演習など本格的な試験対策への橋渡しができるよう、初学者にもわかりやすい解説を心掛けていきます。											
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。											
授業時間外学習	事前準備は原則として不要です。受講後の復習に重心を置いて学習して下さい。具体的には、以下の 3 点になります。 1.授業で解説された法学用語、条文知識、判例知識を確認する。 2.授業で指示された範囲の教科書を読み込み、授業で解説された事項と関連する事項についてまで理解を深める。 3.教科書掲載の確認問題に取り組み、問題演習の反復により、知識の基礎を固める。											
学習内容	概要								課題			
	第1回 行政と行政法 行政とは 行政法とは 行政法の基本原理 公法と私法								確認テスト			
	第2回 行政手続法① 申請に対する処分 不利益処分								確認テスト			
	第3回 行政手続法② 総説 届出 意見公募手続								確認テスト			
	第4回 行政不服申立て① 総説～審査請求の手続の終了								確認テスト			
	第5回 行政不服申立て② 執行停止～不服申立前置の見直し								確認テスト			
	第6回 行政事件訴訟① 行政事件訴訟の意義と特徴～抗告訴訟								確認テスト			
	第7回 行政事件訴訟② 取消訴訟(狭義の訴えの利益まで)								確認テスト			
	第8回 行政事件訴訟③ 取消訴訟(被告適格以降)～情報提供(教示)制度								確認テスト			
	第9回 国家賠償 国家賠償法の成立～国家賠償請求の手続								確認テスト			
	第10回 損失補償、行政組織、公物 損失補償の意義と根拠他 行政組織序論他 公物とは何か他								確認テスト			
	第11回 地方の行政組織 途方自治の保障～住民の権利								確認テスト			
	第12回 行政行為 総説 行政行為の効力～瑕疵ある行政行為								確認テスト			
	第13回 行政上の強制措置 行政上の強制執行 即時強制 行政罰								確認テスト			
	第14回 その他の行政作用形式① 行政立法 行政計画 行政契約								確認テスト			
	第15回 その他の行政作用形式② 行政指導 行政調査								確認テスト			
成績評価方法	評価材料: 単位修得試験 【A評価】 単位修得試験において 90 点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題に正しく解答できることに加え、発展的な応用問題にも対応できるレベルである。 以下の 4 種類の能力について総合的に非常に高いレベルに達しており、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための基盤的能力が十分に備わっている。 [法学用語]行政法学に関する講学上及び実務上の概念を正しく理解している。 [条文知識]行政手続法、行政事件訴訟法、行政不服審査法等の基礎的な条文内容を理解している。 [判例知識]行政事件訴訟法、国家賠償法等の基礎的な判例の事案及び判旨の重要な部分を理解している。 [運用能力]法学用語、条文知識、判例知識を用いて、公務員試験問題の読解及び分析並びに正答することができる。 【B評価】											

	<p>単位修得試験において 75 点以上 90 点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題にはほぼ正しく解答できることに加え、初步的な応用問題であれば対応できるレベルである。</p> <p>A 評価基準に示した 4 種類の能力について総合的に高いレベルに達しており、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための基盤的能力が備わっている。</p> <p>【C 評価】</p> <p>単位修得試験において 60 点以上 75 点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であればある程度正しく解答できるレベルである。</p> <p>A 評価基準に示した 4 種類の能力について総合的に妥当なレベルに達しており、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための基盤的能力の基礎が備わっている。</p> <p>【D 評価】</p> <p>単位修得試験を受験し、50 点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる水準にある。</p> <p>A 評価基準に示した 4 種類の能力について、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための最低限の水準にとどまる。</p>
教科書	著書『大卒程度 公務員試験準備テキスト 一行政法一』 編著 東京アカデミー
参考書(任意購入)	特になし
必須ソフト・ツール	
備考	<p>行政法では、憲法及び民法の知識を前提とした解説箇所が頻繁に生じますので、可能な限り憲法及び民法を履修の上で受講するように心がけて下さい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	暮らしから見る福祉			担当者	二階堂 達郎			
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャン パス)			
学習目標	医療・年金・介護・子育てなど暮らしに密接にかかわる生活保障としての社会保障制度について、基礎的な知識を身につけ、全体像に対する理解を深める。											
学習の進め方	教科書の内容をプリントとパワーポイントを用いて説明しながら、講義を進めていく。適宜、テストを実施し、理解度を確認する。											
授業時間外学習	事前に教科書とプリントに必ず目を通しておくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 社会保障の基本概念、および医療保険①											
	社会保障を学ぶ意義、社会保障制度の概要、および医療保険の仕組みについて学ぶ。											
	第2回 医療保険②								中間テスト			
	医療保険の被保険者・保険料・給付などについて学ぶ。											
	第3回 医療保険③											
	高齢者医療制度や国民医療費などについて学ぶ。											
	第4回 年金保険①											
	年金制度の仕組み、被保険者・保険料・給付などについて学ぶ。											
	第5回 年金保険②								中間テスト			
	年金の財政方式などについて学ぶ。											
	第6回 介護保険①											
	介護保険の仕組み、被保険者・保険料・給付などについて学ぶ。											
	第7回 介護保険②								中間テスト			
	介護サービスの提供体制について学ぶ。											
	第8回 その他の社会保険、社会福祉制度、および社会保障の現状と課題、およびまとめ											
	労働保険、子ども子育て支援、社会手当などの諸制度や、社会保障の現状や諸問題、および今後の課題について学ぶ。								まとめのテスト			
成績評価方法	各テストの成績(60%)と出席(40%)を踏まえた上で、総合的に評価する。											
教科書	『はじめての社会保障』(第15版) 著者:棕野美智子・田中耕太郎 出版社:有斐閣 出版年度 2018年3月(発行予定) ISBN 未定											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	受講者上限者数を80名とする。											

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	暮らしの安全と消費者問題			担当者	二階堂 達郎			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	近年、私たちの生活水準は大きく向上し、消費生活は豊かになってきた。しかし、一方で、欠陥商品や公害・薬害などによる消費者被害、あるいは商品やサービスの販売や表示をめぐるトラブルは一向に絶えない。また、多重債務など消費者信用をめぐる問題も大きな社会問題になっている。この授業では、わたしたちの暮らしの安全を守るという観点から、消費者問題の理解を深めるとともに、実際に被害を被った場合にとるべき対処法などについて学ぶ。											
学習の進め方	本授業は、教科書に基づいて学習を進めます。各単元の終わりに確認テストを実施しますので、これをクリアしてから次の回へ進んでください。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、教科書の指定された範囲に目を通して授業に臨んでください。 ・受講してわかりにくかったことがあれば、かならず教科書を納得いくまで見直しておいてください。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 消費者問題とは何か 消費者問題の定義、発生の背景、およびわが国における歴史について学ぶ。								確認テスト			
	第2回 消費者被害の現状 消費者被害の実態と特徴について学ぶ。								確認テスト			
	第3回 行政と企業の消費者問題対応 わが国の消費者行政の仕組みや企業の対応の現状と問題点について学ぶ。								確認テスト			
	第4回 消費生活と契約 契約が消費者取引においても意味や効力について学ぶ。								確認テスト			
	第5回 消費者取引の問題点と無店舗販売 無店舗販売を中心とした消費者取引の現状と問題点、および特定商取引法の概要について学ぶ。								確認テスト			
	第6回 特定商取引法の規制対象となる取引 特定商取引法の対象となっている取引と規制の内容について学ぶ。								確認テスト			
	第7回 クーリング・オフ制度と消費者契約法 クーリング・オフ制度とその行使の仕方や、消費者契約法の概要について学ぶ。								確認テスト			
	第8回 消費者被害の実態と被害事例① 特定商取引の規制となる商法について、消費者被害の事例を通じて被害への対処法を学ぶ。								確認テスト			
	第9回 消費者被害の実態と被害事例② 特定商取引の規制となる商法について、消費者被害の事例を通じて被害への対処法を学ぶ。								確認テスト			
	第10回 金融サービスと資産形成をめぐるトラブル 金融サービスと資産形成にかかわる消費者被害の事例を通じて、被害への対処法を学ぶ。								確認テスト			
	第11回 不動産取引とその他のサービスをめぐるトラブル 不動産取引や各種サービスにかかわる消費者被害の事例を通じて、被害への対処法を学ぶ。								確認テスト			
	第12回 消費者信用をめぐる問題 消費者信用についての理解を深め、消費者信用にかかわるトラブルへの対処法を学ぶ。								確認テスト			
	第13回 商品・サービスの安全性をめぐる問題① 商品やサービスの安全にかかわる法的規制や被害の実態について学ぶ。								確認テスト			
	第14回 商品・サービスの安全性をめぐる問題② 商品やサービスの安全にかかわる法的規制や被害の実態について学ぶ。								確認テスト			
成績評価方法	各回の課題(50%)、単位修得試験(50%)により総合評価する。											
教科書	著書『消費者問題入門』 編著者 吉田良子 出版社 建帛社 出版年度 2010年10月25日 3版 ISBN 9784767914428											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	経営学総論			担当者	藤本 秀俊			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>初めて経営学を学ぶ初学者の方を対象に、経営に関する基本的な知識や理論を知ると共に、実務に役立つ経営上の知識を獲得します。</p> <p>具体的な目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解し、実務や実践に活かすことができるようになる。 ・起業や創業を行う時の創業計画や事業計画の立て方について理解し、事業計画を説明できるようになる。 											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <p>企業経営の現状を客観的に掴むため普段から新聞を読んだり、ニュース番組を観たりして、話題になっている企業活動の事例に関心を持って知識を増やしておくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <p>大企業や有名企業のみならず、身近な中小企業も含めて、より多くの企業活動の実例を知ること。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 企業経営と経営資源について								レポート(ワークシート)、確認テスト			
	会社とは何か、経営とは何をすることか、を学ぶ。											
	第2回 日本の会社について								レポート(ワークシート)、確認テスト			
	日本国内の会社(法人)の実態を知る。											
	第3回 経営組織について								レポート(ワークシート)、確認テスト			
	経営に必要な組織化、組織形態など、経営組織の基本的知識を学ぶ。											
	第4回 経営戦略について								確認テスト			
	経営戦略についての基本的知識を学ぶ。											
	第5回 経営理念について								レポート(ワークシート)、レポート			
	経営理念の意味と役割について理解する。											
	第6回 基本的な経営戦略について								レポート(ワークシート)、確認テスト			
	企業に広く良く使われている経営戦略の詳細について学ぶ。											
	第7回 経営計画について								確認テスト			
	経営計画および経営計画書について学ぶ。											
	第8回 リーダーシップについて								確認テスト			
	リーダーシップとは何かについて学ぶ。											
	第9回 人事労務管理(人的資源管理)について								確認テスト			
	人的資源管理の基本的な研究や理論について学ぶ。											
	第10回 人事労務管理(給与制度、人事考課制度)について								確認テスト			
	企業で実際に行われている具体的な人事労務管理施策、具体的な制度の内容について学ぶ。											
	第11回 会計、経理財務管理について								確認テスト			
	企業で実際に行われている会計制度、経理財務管理について学ぶ。											
	第12回 営業・マーケティングについて								レポート(ワークシート)、確認テスト			
	マーケティングとは何か、マーケティング活動に求められる基本的な知識を理解する。											
	第13回 製品・商品と価格、ブランドについて								確認テスト			
	製品や商品の持つ価値や価格設定の行き方等について学ぶ。											
	第14回 戰略思考について								確認テスト、レポート			
	経営判断を支える様々な思考方法について学ぶ。											
	第15回 企業倫理について								レポート(ワークシート)、確認テスト			
	企業倫理の意味や意義について学ぶ。											
成績評価方法	評価材料:レポート(第5.14回)、単位修得試験(レポート)											
	【A評価】 学習された内容や用語を使って論旨が展開されると共に、自己体験や身近な事例を盛り込む等、具体的で分かり易く、自己意見を明確にした内容が論理的に展開されている。											
	企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解し、他者に対しても影響力を発揮するなど、今後の社会経験、実務活動、実践に活かすことができる。											
	【B評価】 学習された内容や用語を使って論旨が展開されると共に、自分の意見を十分に盛り込んだ内容が論理的に展開されている。 企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解し、他者に対しても意識や行動に変化を与えることができる。											
	【C評価】 最低限のレポートの基本条件を満たし、テーマに沿って論旨が展開されると共に、自分意見が十分に記されている。 企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解した適切な行動ができる。											
	【D評価】											

	最低限のレポートの基本条件を満たし、テーマに沿って論旨が展開されている。 企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を持った行動がとれる。
教科書	なし
参考書(任意購入)	『日本で一番大切にしたい会社 1』坂本光司、あさ出版、1400 円(税抜)、2008 年 『日本で一番大切にしたい会社 2』坂本光司、あさ出版、1400 円(税抜)、2010 年 『日本で一番大切にしたい会社 3』坂本光司、あさ出版、1400 円(税抜)、2011 年 『日本で一番大切にしたい会社 4』坂本光司、あさ出版、1400 円(税抜)、2013 年 『日本で一番大切にしたい会社 5』坂本光司、あさ出版、1400 円(税抜)、2016 年
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	経営組織論			担当者	小江 茂徳			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	経営組織論の学説を理解し、説明できるようになること、また自分が所属する身近な組織について、自分なりにどのようにうまく運営していくべきか考え、説明できるようになることです。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の該当する章をあらかじめ読了し、さらにオンデマンド教材を使って学習してください。 また、教科書で学んだ箇所のポイントを整理したノートを作成し、知識の定着に努めましょう。各回の学習の最後には、課題を設けていますので、課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に新聞やビジネス雑誌、ニュースに良く目を通しましょう。 学習した学説や理論の視点を日常生活に当てはめ、理解を深めるようにしてください。 受講後には、講義で学習した概念や理論を使って、現実の経営現象を説明できることを目標としましょう。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 いろいろな組織の捉え方 ー多様な組織観を探るー								確認テスト			
	経営組織論にて仮定されてきた 10 の組織観について学習します。											
	第2回 組織の中の個人① 組織の人間モデル								確認テスト			
	組織を理解する上で重要な人間モデルについて学習します。											
	第3回 組織の中の個人② モチベーション								レポート			
	モチベーション論を通して、組織の参加者のやる気をいかに高めていけば良いのか学習します。											
	第4回 個人と組織のかかわり合い								確認テスト			
	個人は、組織に対して、いかに関与していくべきかについて学習します。											
	第5回 集団の機能と組織								確認テスト			
	集団に関して、また集団が持つダークサイドについて学習します。											
	第6回 組織におけるリーダーシップ								レポート			
	リーダーシップ論を通じて組織の参加者をいかに導いていくべきかについて学習します。											
	第7回 組織文化								レポート			
	組織文化論を通じて、自分の所属する組織の文化を理解する手法について学習します。											
	第8回 経営組織の設計①								確認テスト			
	代表的な組織形態のメリット・デメリットを理解することを通じて、組織設計の考え方を学習します。											
	第9回 経営組織の設計②								確認テスト			
	組織設計における基本的な原理について学習します。											
	第10回 経営組織の動態化 ー組織変革ー								確認テスト			
	組織変革におけるさまざまな阻害要因について学習します。											
	第11回 組織全体の方向づけと働く個人								確認テスト			
	良い経営戦略や組織のあり方について学習します。											
成績評価方法	各回の課題(40%)、単位修得試験(60%)											
教科書	著書 『経営組織(経営学入門シリーズ)』 著者 金井 壽宏 出版社 日本経済新聞社 出版年度 2011 年 3 月 17 日 ISBN 9784532105372											
参考書(任意購入)	参考書は、各回の講義ごとにオンデマンド教材上で掲示しています。											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	経済学基礎			担当者	金森 啓介			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論を現実の経済現象・問題と結びつけて説明することができるようになる。 ・ミクロ経済学に関しては、経済学における需要・供給と市場均衡の概念、市場の価格調整機能、完全競争市場、消費者行動の理論、生産者行動の理論、市場の安定性、社会的余剰、市場の失敗、外部性、公共財、独占・寡占市場、ゲーム理論、そして国際貿易について理論的に説明できるようになる。 ・マクロ経済学に関しては、付加価値、国内総生産(GDP)、物価指数、ケインズ経済学、生産物市場と資産市場の概念、IS-LM モデル分析、財政政策、金融政策、労働市場、AD-AS 分析、マクロ経済学のミクロの基礎づけ、国際収支と為替レートの概念など、現代マクロ経済学の基礎理論について理論的に説明できるようになる。 ・以上の理論を、分析対象に応じて適切に組み合わせることで、経済全体を体系的かつ有機的に捉えることができるようになる。そして、それらを現実の経済問題と関連付け、理論的にとらえ直すことによって、その構造や原因を自分の力で追及し、解決策を提示することができるようになる。 ・学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の問題に正答できるようになる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。</p> <p>また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。</p> <p>これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。</p>											
授業時間外学習	<p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しオンデマンド教材を見直し、授業内容をよく理解した上で課題および次の学習に取り組むこと。 ・新聞やテレビ報道、経済関連の雑誌に目を通し、現実に、日本経済や国際経済でどのようなことが起きているかに关心を持つように心がけること。 											
学習内容	<p style="text-align: center;">概 要</p> <p>第1回 経済学への第一歩</p> <p>経済学とは何を考える学問なのかを学ぶ。そして、その基礎理論にあたるミクロ経済学、マクロ経済学が何を分析対象とする学問なのか、どのように分析するか学ぶ。また、経済学における需要と供給という概念、市場での価格の決まり方について学習する。</p> <p>第2回 消費者行動の理論</p> <p>消費者の満足度を表す「効用」という概念を学び、消費者の選好と効用の大小関係を表す無差別曲線について学ぶ。また、無差別曲線、限界代替率、予算制約を用いて、消費者の最適な消費行動をどのように理論的に説明できるか学ぶ。そして、それらの基礎理論をもとに、財の所得や価格が変化したときに、消費選択がどのように変化するかを分析する。最後に、消費者行動の理論から需要曲線を導くことができる学ぶ。</p> <p>第3回 生産者行動の理論</p> <p>経済学における生産者(企業)と生産物と費用の関係を学び、「利潤最大化」をキーワードに、生産者がどのように最適な生産水準を決定するか理論的にとらえる。また、短期と長期の生産者行動の違いを学ぶ。最後に、生産者行動の理論から供給曲線を導くことができる学ぶ。</p> <p>第4回 市場均衡と資源配分</p> <p>消費者理論と生産者理論を組み合わせて、改めて市場均衡とはどのような状態を意味するのか学ぶ。そして、市場均衡を分析する手法として部分均衡分析と一般均衡分析を紹介し、それぞれの手法が相互に補完的なものであることを学習する。また、部分均衡分析の応用である余剰分析を用いて、社会全体の経済厚生を分析する。さらに、エッジワースのボックス・ダイアグラムを用いて、純粋交換経済を分析し、パレート最適の概念を学ぶ。最後に、厚生経済学の基本定理を学習する。</p> <p>第5回 不完全競争市場における均衡</p> <p>不完全競争市場とはどのような市場かを学ぶ。</p> <p>1つの市場を1社が独占する場合、複数の生産主体が独占する場合では、生産者が市場の価格支配力をを持つことを学ぶ、そのとき、独占・寡占市場におかれた生産者が、どのように自社の利潤の最大化するかを学習する。また、生産者側が価格支配力を持つことで、社会全体での経済厚生が完全競争市場の場合と比べてどうなるか余剰分析を用いて分析する。</p> <p>第6回 市場の失敗による社会的損失</p> <p>市場の価格調整メカニズムがうまく働かない状態、すなわち「市場の失敗」について学習する。まず、生産費用が低減する産業における価格調整について学ぶ。次に、市場では取り引きの対象にはならないが、経済主体の効用や利潤に影響を及ぼす経済要因である「外部性」を学習する。次に、民間ではなく公共部門によって生産される公共財の性質について学び、どのように最適な供給水準を決定すればよいかを学ぶ。最後に情報の非対称性が経済主体に及ぼす影響について学ぶ。</p> <p>第7回 消費者・生産者行動の応用理論</p> <p>消費者・生産者行動の応用理論である労働供給市場、現在と将来の異時点間の消費選択の問題、期待効用仮説、プロスペクト理論、行動経済学、そしてゲーム理論について学習する。</p> <p>第8回 国際貿易の理論</p> <p>リカードの比較優位仮説を始め、それ以降に発見されたヘクシャー=オリーン貿易理論、要素価格均等化の定理、ストルパー=サミュエルソンの定理、リブチンスキイの定理、現代の国際貿易理論について学習する。次に、国際貿易による利益を余剰分析を用いて学ぶ。</p> <p>第9回 マクロ経済学への第一歩</p> <p>まず、マクロ経済の意味について学ぶ。次に、国内総生産(GDP)と付加価値の関係について学ぶ。その際、マクロ経済の基本的なデータ、統計、物価水準の見方について学ぶ。そして、GDP を生産、需要、</p>											

	分配(所得)の3つの側面から見たときの性質である三面等価の原則を学ぶ。最後に、マクロ経済学の基礎であるケインズ経済学の有効需要の原理、45度線分析、乗数理論について学習する。	
	第10回 生産物市場と貨幣市場の均衡 マクロ経済を、生産物市場と貨幣(債券)市場の2つの側面から学ぶ。そして、それぞれの市場の均衡状態を分析する。その際、財市場と貨幣市場は、ともにGDPと利子率の2変数の式によって定式化できることを学ぶ。	確認テスト
	第11回 財政政策の効果と実際 まず、前回学んだIS曲線とLM曲線を結び付けて、生産物市場と貨幣市場が同時に均衡する状態を見る方法であるIS-LMモデル分析を学ぶ。そして、それを用いて、財政政策の効果、現実の財政政策について学習する。	確認テスト
	第12回 金融政策の効果と実際 まず、日本銀行(中央銀行)による金融政策の目的と手段について学習する。次に、前回学んだIS-LMモデルを用いて、金融政策の効果を分析する。さらに、現実の金融政策を観察し、そこでの政策の意義や効果をどのように理論的に説明することが可能かを学習していく。	確認テスト
	第13回 雇用水準と物価水準の決まり方 古典派とケインズでは労働市場(名目賃金の硬直性)のとらえ方が異なることを学習する。そして、その違いによって、総需要(AD)と総供給(AS)で決まる均衡GDPの意味が違ってくること、そして、経済政策の効果が両者で全く異なってしまうことを学ぶ。また、両者の違いは、失業とインフレ率の見方においても見られることを学ぶ。	確認テスト
	第14回 マクロ経済学のミクロ的基礎 マクロ経済学のミクロ的基礎について学ぶ。ここまで学んだケインズの消費理論、投資理論に基づいてマクロ経済の消費と投資が構成されると考えてきたが、本節では、ケインズ以外のさまざまな消費理論、投資理論を学習していく。	確認テスト
	第15回 國際収支と為替レート理論 外国との経済活動の記録である国際収支について学習する。そして、国際間での経済取引で重要な「為替レート」について学ぶ。	確認テスト
成績評価方法	評価材料: 単位修得試験 【A評価】 単位修得試験において90点以上の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題に正しく解答できることに加え、発展的な応用問題にも十分対応できるレベルである。 (※ここで基礎的な問題は、解答に微分等の高等数学を必要としない問題を指す。) ■ 学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば8割程度取り組むことができる。 (※ここで基礎的な問題は、解答に微分等の高等数学を必要としない問題を指す。) 【B評価】 単位修得試験において75点以上90点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題に正しく解答できることに加え、初步的な応用問題であれば、対応できるレベルである。 ■ 学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば7割程度取り組むことができる。 【C評価】 単位修得試験において60点以上75点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題であれば解答できるレベルである。 ■ 学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば6割程度取り組むことができる。 【D評価】 単位修得試験を受験し、50点以上の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。 ■ 学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば5割程度取り組むことができる。	
	教科書	なし
	参考書(任意購入)	なし
	必須ソフト・ツール	なし
	備考	【履修の前提とするもの】 ・なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ・原則として、経済学の学習において必要な知識・技術は授業中、または補助教材で解説するが、できれば高校初級レベルの数学(具体的には1次関数と連立方程式)を復習しておくと、学習がよりスムーズになる。特に、経済学を使って問題を解くときのつまずきを減らすことができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	経済学入門			担当者	大沼 積				
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★						
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—				
学習目標		日常生活の様々な場面を題材としながら、身近に感じられる経済学を学ぶ。国内外の金融・経済についての新聞記事やニュースの意味がわかるようになることを目指す。 具体的な学習目標 ・日本経済の問題点や課題を指摘し、さまざまな施策を公平に評価できるようになる。 ・自國のみならず、他国の現状も考慮に入れ、経済問題に対するさまざまな解決策を比較検討できるようになる。 ・経済の仕組みや専門用語を一般の人に対して理解できるように、わかりやすく説明できるようになる。											
学習の進め方		本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 ただし、第1回は理論的な内容なので、ひととおり学習を進めた後にまわしてもよいでしょう。											
授業時間外学習		【学習前に準備しておくべきこと】 新聞の経済記事の切り抜きはとても役立ちます。 【学習後に復習として実施すべきこと】 経済雑誌（「エコノミスト」「東洋経済」）に毎週記載されている経済指標一覧は、現状を数字でつかむのに便利です。日本経済新聞月曜朝刊にも記載されます。成長率や失業率の推移について日々数字を見比べることをおすすめします。											
学習内容	概 要								課 題				
	第1回 経済とは 経済学の代表的な理論を学ぶ。 具体的には、まず初めに経済原論と呼ばれる分野を学習する。経済を一国全体でみるマクロ経済学と、企業行動の視点からみるミクロ経済学があり、数式を中心に組立てられており難しいと言われる。 経済科目のある各種試験・資格では必須なので、受験する方はこのレベルまでは押さえておくこと。								レポート				
	第2回 金融 金融のマクロ的な含意について学ぶ。 具体的には、財政・金融という経済各論の2大分野のうち金融を学ぶ。まず金融の仕組みで必須事項を学び、次に株式と債券について学ぶ。最後にアベノミクスについて説明し、財政、金融が全く別の動きをしているわけではなく現実には連動していることを知る。								レポート				
	第3回 財政 財政の本質や国の借金について学ぶ。 具体的には、税や社会保障を学ぶ機会は少ないが、給与明細表の内容や社会保障身近な所から財政を理解していく。財政は経済から見た国家そのものと言える。								レポート				
	第4回 國際經濟の原理 ヒト・モノ・カネの移動について理論的に学ぶ。 具体的には、まず為替レートの仕組みを学ぶ。円高・円安とは何か。経済にどのような影響を与えるのだろうか。 次にTPPという言葉をよく聞くが、貿易自由化はよいことなのだろうか悪いことなのだろうか。 更に世界的な貿易の枠組みについて学ぶ。								レポート				
	第5回 國際經濟の論点 現代の国際経済の論点をいくつか紹介する。 具体的には、国際経済では企業の海外展開を直接投資と呼び、貿易と並んでとても重要である。この直接投資について学ぶ。 次に地球上の経済格差である南北問題の解決への取り組みと現状を学ぶ。 次にリーマン・ショックについて各国は被害から立ち直ったように見えるが、その複雑な原因と経過を学ぶ。 最後に経済活動が引き起こした地球温暖化対策について学ぶ。								レポート				
	第6回 規制緩和と民営化 ミクロ経済学にもとづく規制緩和の理論や現状を学ぶ。 具体的には、世の中には経済活動を法で規制した産業がいくつかあるが、それについて何がどうなっているのか調べていく。鉄道や空港の民間資本の導入、郵政民営化や電力自由化など、具体例を学ぶ。								レポート				
	第7回 地域と経済 地方消滅が予言される中、各地で行われる努力を紹介する。 具体的には、日本の多くの商店街にはなぜシャッターが下りてしまったのだろうか。そしてどうすればよいのだろうか。 地域経済の歴史をたどり地域再生への動きを探ってみる。								レポート				
	第8回 社会と経済 多様な人間觀が多様な経済觀を生み出し、政策の選択の違いにつながることを学ぶ。 具体的には、経済学を効率の視点のほかに、もう1つの公正の視点を付け加えて考える。 更に2つの視点に対応する小さな政府と大きな政府の理論を紹介する。 最後にこの2つの視点から現実を見た場合、日本の政党はどのような分布になるのか考える。 そして国民性の相違との関連を比べる。								レポート				
成績評価方法	毎回の課題(小レポート)と単位修得試験(大レポート) 【A評価】経済現象の全体的な因果関係が理解できる。												

	<p>幅広く経済問題を理解しており、今後の経済変化を見通した選択肢を想定できること。</p> <p>【B 評価】個別の経済現象の因果関係が理解できる。</p> <p>対立する見解を調整し、適切な選択肢を想定できること。</p> <p>【C 評価】経済用語の意味の専門的な用法が理解できる。</p> <p>対立する見解のそれぞれの主張を述べことができること。</p> <p>【D 評価】経済用語の意味が一般的に理解できる。</p> <p>論点の意味を自分の言葉に置き換えて説明ができること。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	経済原論			担当者	金森 啓介			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎・応用理論を、現実の経済現象・問題と関連付けて説明することができる。 ・ミクロ経済学に関しては、微分を使った最適消費・生産の問題を理解し、一次関数、二次関数で表した需要・供給供給曲線から市場均衡を計算することができるようになる。 ・ミクロ経済学の数学的理解をもとに、市場均衡の安定条件や社会的余剰、不完全競争市場の均衡モデル分析、ゲーム理論、さまざまな市場の失敗(自然独占、外部性、公共財、情報の非対称性)、国際貿易の交易条件、そして異時点間のミクロ消費選択理論とマクロ消費理論のつながりを理論的に説明できるようになる。 ・マクロ経済学に関しては、生産物市場におけるGDP(国内総生産)の45度線分析、産業連関分析、マクロ投資理論、金融理論、IS-LM モデル分析による財政・金融政策の評価、国際マクロ経済学、AD-AS モデル分析、経済成長と経済循環の理論、経済政策論争がどのようなものか理論的に説明することができる。 ・以上の理論を、分析対象に応じて適切に組み合わせることで、経済全体を体系的かつ有機的に捉えることができるようになる。そして、それらを現実の経済問題と関連付け、理論的にとらえ直すことによって、その構造や原因を自分の力で追及し、解決策を提示することができるようになる。 ・学習の結果として、公務員試験(地方上級)で頻出される経済学分野の問題に正答できるようになる。 											
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。											
授業時間外学習	<p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しオンデマンド教材を見直し、授業内容をよく理解した上で課題および次の学習に取り組むこと。 ・新聞やテレビ報道、経済関連の雑誌に目を通し、現実に、日本経済や国際経済でどのようなことが起きているかに关心を持つように心がけること。 											
学習内容	概要								課題			
	第1回 消費者行動の理論と数学的分析								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・微分を用いて消費者の最適消費選択の問題を学ぶ。 								確認テスト			
	第2回 生産者行動の理論と数学的分析								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・微分を用いて生産者の利潤最大化行動を学ぶ。 								確認テスト			
	第3回 市場均衡の安定条件と分析方法								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・市場の均衡条件を数学的に学ぶ。 ・部分均衡分析と一般均衡分析の応用問題を数学的に学ぶ。 ・パレート最適と厚生経済学の基本定理の関係を数学的に学ぶ。 								確認テスト			
	第4回 不完全競争市場の理論と数学的分析								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・微分を用いて独占モデル、寡占モデルの市場戦略の理論を学ぶ。 								確認テスト			
	第5回 ゲーム理論と寡占市場モデル分析								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム理論と応用的な寡占市場問題を学ぶ。 								確認テスト			
	第6回 市場の失敗の余剰分析								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然独占、外部性、公共財による市場の失敗を余剰分析を通して学ぶ。 								確認テスト			
	第7回 国際貿易の理論と数学的分析								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際貿易の交易条件と貿易パターンの決定理論を学ぶ。 ・貿易政策の余剰分析を学ぶ。 								確認テスト			
	第8回 異時点間のミクロ消費理論とマクロ消費理論								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・異時点間のミクロ消費理論とマクロ消費理論のつながりを学ぶ。 								確認テスト			
	第9回 45度線分析、産業連関分析から見るGDP								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPを45度線分析、産業連関分析を用いて分析する方法を学ぶ。 								確認テスト			
	第10回 マクロ投資理論と金融理論								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学における投資の決定理論を数学的に学ぶ。 ・金融理論を用いて資産価格がどう決まるかを学ぶ。 								確認テスト			
	第11回 IS-LM モデルによる財政・金融政策の評価方法								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・IS-LM モデル分析を用いて、財政・金融政策の有効・無効になる条件を学ぶ。 								確認テスト			
	第12回 国際マクロ経済学—開放経済 IS-LM 分析—								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな為替レート決定理論を学ぶ。 ・開放経済における財政・金融政策の効果を学ぶ。 								確認テスト			
	第13回 物価と雇用水準の決定理論—AD-AS モデル分析—								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・物価と雇用水準の関係を AD-AS モデル分析を通して学ぶ。 ・インフレ需要・供給曲線分析を通じてインフレーションを分析する。 								確認テスト			
	第14回 経済成長と経済循環の理論								確認テスト			
	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな経済成長理論を学ぶ。 ・景気循環の理論を学ぶ。 								確認テスト			
	第15回 経済政策論争								確認テスト			

	・各学派の経済政策の見方の違いを学ぶ。	
成績評価方法	<p>単位修得試験</p> <p>【A 評価】単位修得試験において 90 点以上の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的、応用的な問題に正しく解答できることに加え、発展的な応用問題にも十分対応できるレベルである。</p> <p>【B 評価】単位修得試験において 75 点以上 90 点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的、応用的な問題に正しく解答できることに加え、基本的な応用問題であれば、対応できるレベルである。</p> <p>【C 評価】単位修得試験において 60 点以上 75 点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題であれば解答できるレベルである。</p> <p>【D 評価】単位修得試験を受験し、50 点以上の点数を取得している。これは各授業回で扱った問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。</p>	
教科書	著書『大卒程度 公務員試験準拠テキスト 一ミクロ経済学』『大卒程度 公務員試験準拠テキスト 一マクロ経済学』 編著 東京アカデミー	
参考書(任意購入)	なし	
必須ソフト・ツール	なし	
備考	<p>本科目は別科目「経済学基礎」の上級編に相当するため、「経済学基礎」を受講した後に本科目を受講することを強く推奨する。</p> <p>本科目においても、各経済理論の解説は隨時行うが、基本、「経済学基礎」で学ぶ内容を事前に知っていることを前提に授業を進める。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>	

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン			授業科目名	健康心理学			担当者	北島 順子			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	①健康心理学の基礎的事項に関する知識、及び、隣接領域に関する理解を深める。 ②健康心理学に関する知識を実生活において活用できる。											
学習の進め方	①オンデマンド教材で学習する。 ②教科書で学習する。 ③課題に取り組む。											
授業時間外学習	・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 健康とは何か 健康の定義・歴史								ディスカッション			
	第2回 健康心理学の意義 健康心理学とは、健康心理学台頭の背景								レポート			
	第3回 健康長寿の秘訣 平均寿命、健康寿命								レポート			
	第4回 健康とパーソナリティ 健康リスク要因とパーソナリティ								レポート			
	第5回 健康とストレス ストレスとは、ストレスの認知理論								レポート			
	第6回 生活習慣と健康心理 健康習慣、生活習慣病								レポート			
	第7回 食習慣と健康心理 食習慣、健康とダイエット、メタボリック・シンドローム								レポート			
	第8回 食行動と健康心理 肥満とダイエットの心理、摂食障害								ディスカッション			
	第9回 運動習慣と健康心理 運動習慣、運動の身体的・心理的效果								レポート			
	第10回 嗜好行動と健康心理① 喫煙と健康、禁煙の秘訣								ディスカッション			
	第11回 嗜好行動と健康心理② 飲酒と健康、アルコール依存症、薬物乱用防止のために								ディスカッション			
	第12回 睡眠習慣と健康心理 睡眠習慣、睡眠障害								レポート			
	第13回 家庭・学校における健康教育 家庭における健康教育で大切にしたいこと								ディスカッション			
	第14回 職場・地域における健康教育 職場・地域環境、職場におけるメンタルヘルスケア対策								レポート			
	第15回 まとめ 各回のまとめ								ディスカッション			
成績評価方法	各回のレポート・課題(60%)、単位修得試験(40%)											
教科書	著書 『健康のための心理学』 著者 小林芳郎編著 出版社 保育出版社 出版年度 2007年6月1日 ISBN 9784938795573											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	現代社会と家族			担当者	藤田 道代			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	家族に関する事柄は、ともすると情緒的に捉えられることが多い。しかし現代社会においては情緒的な思いだけでは家族を把握することは困難である。そこで家族をめぐる諸現象を客観的かつ複層的に考察できる基礎力を、データ等が豊富な教科書をもとに培うことを目標とする。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。単位修得試験直前に全ての課題をまとめて提出することなく、規則的に学習するスタイルを身に着けてください。課題には学籍番号、氏名を各回毎に、記してください。課題や単位修得試験のレポート作成で、引用・参考にした文献等は必ず一覧で示すこと。											
授業時間外学習	「学習内容」の各回に該当する教科書の章、節をすべて読んでください。参考書も活用してください。サブノートを作るのも有効でしょう。 それらを済ませてから、各回の課題を、上記の「学習の進め方」を参考にして、取り組んでください。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 家族とは 家族を考えるとき、家族実体からと家族イメージからの双方の視点がある。それらを簡単な統計データも参考にしながら認識し、実体とイメージの変化をも合わせて理解する。								レポート			
	第2回 近代の家族 イエと近代家族 イエ制度と一緒にして言われるが、時代や地域・階層により異なっていた。それらを具体的に理解し、併せて日本の近代家族との連関を理解する。								レポート			
	第3回 近代と家族 近代家族概念 第2回での「近代家族」概念を通して、戦前の都市中間層家族から戦後家族の流れを理解する。								レポート			
	第4回 社会構造と家族の連関① 家族の多様化、脱制度化、個人化、ネットワークという視点から理解する。								レポート			
	第5回 社会構造と家族の連関② 働くことと家族との関わり、その日本特性と、それらの変化を社会構造との連関で理解する。								レポート			
	第6回 妻と夫 カップルまたは夫婦関係に見られる諸相を具体的に理解する。								レポート			
	第7回 親になること、親であること 「少子化」云々という考え方とは少し距離を置いて、「親」になる、「親」であるとはどういう事か考えてみる。								レポート			
	第8回 家族であること、ひとりになること 現代は家族各々のライフステージを家族成員としてだけではなく、「ひとり」で生きる選択もできる。そしてそれはどういう事か考えてみる。								レポート			
	第9回 家族のこれから 特定の家族を排除したり個人を生き辛くしている家族の実相を認識する。								レポート			
	第10回 開かれた家族 「普通の家族」、「家族だから当たり前」という考え方を家族幻想であるという考え方がある。そして家族のこれからは、この幻想を社会も個人もどのように払拭していくかにかかっているともいえる。それらを具体的に考えてみる。								レポート			
成績評価方法	単位修得試験(50%)、各回のレポート(50%)											
教科書	著書『よくわかる現代家族 第2版』 著者 神原文子、杉井潤子他 出版社 ミネルヴァ書房 出版年度 2016年5月 第2版											
参考書(任意購入)	『家族を越える社会学』、牟田和恵 編、新曜社、2,310円(税込)、2009年											
必須ソフト・ツール												
備考	本授業は、本学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。											

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	憲法			担当者	山谷 真			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	憲法の基本原理などを理解した上で基礎的な知識を習得する。今後の学習を自主的にすすめるための基礎学力を身に付ける。											
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。											
授業時間外学習	事前の学習は不要。事後に問題演習を繰り返すこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 憲法入門・人権総論1(人権享有主体性) 憲法の特質を学ぶ。外国人の人権と法人の人権の主要な判例を学ぶ。								確認テスト			
	第2回 人権総論2(基本的人権の制約) 公務員の人権や憲法の私人間効力に関する主要な判例を学ぶ。								確認テスト			
	第3回 幸福追求権 憲法 13 条や新しい人権の意義を理解した上で、憲法 13 条に関する主要な判例を学ぶ。								確認テスト			
	第4回 法の下の平等 憲法 14 条の意義を理解した上で、憲法 14 条に関する主要な判例を学ぶ。								確認テスト			
	第5回 参政権・精神的自由権1 参政権の意義を学ぶ。憲法 19 条・憲法 20 条・憲法 23 条の意義を理解した上で、これらに関する主要な判例を学ぶ。								確認テスト			
	第6回 精神的自由権2 憲法 21 条の意義を理解した上で、これに関する主要な判例を学ぶ。								確認テスト			
	第7回 経済的自由権 憲法 22 条・憲法 29 条の意義を理解した上で、これに関する主要な判例を学ぶ。								確認テスト			
	第8回 人身の自由 憲法 31 条の意義やこれに関する判例を理解した上で、第 33 条～第 40 条の内容を学ぶ。								確認テスト			
	第9回 社会権 憲法 25 条の意義やこれに関する判例を理解した上で、第 26 条～第 28 条の内容を学ぶ。								確認テスト			
	第10回 国会1 国会の地位・構成や国会議員の地位等について学ぶ。								確認テスト			
	第11回 国会2 国会やその議院の権能等につき学ぶ。								確認テスト			
	第12回 内閣 行政権と内閣の地位(議院内閣制)、内閣の権能と責任につき学ぶ。								確認テスト			
	第13回 裁判所1 司法権の意義とその限界、裁判所の組織と権能等につき学ぶ。								確認テスト			
	第14回 裁判所2・財政 違憲審査制、租税法律主義、予算につき学ぶ。								確認テスト			
	第15回 地方自治・憲法改正 地方自治の本旨、地方公共団体のしくみ、憲法改正の手続き等につき学ぶ。								確認テスト			
成績評価方法	評価材料: 単位修得試験 【A 評価】単位修得試験において 90 点以上の点数を獲得している。これは、基礎的な知識(公務員試験に出題される条文や判例に関する知識)の習得だけでなく、思考力・判断力を駆使して発展的な応用問題にも対応できるレベルである。 【B 評価】単位修得試験において 75 点以上 90 点未満の点数を獲得している。これは、基礎的な知識を習得しているレベルである。 【C 評価】単位修得試験において 60 点以上 75 点未満の点数を獲得している。これは、ある程度基礎的な知識を習得しているレベルである。 【D 評価】単位修得試験を受験し、50 点以上の点数を獲得している。これは、基礎的な知識を習得しているといえないが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。											
教科書	著書『大卒程度 公務員試験準拠テキスト－憲法－』 編著 東京アカデミー											
参考書(任意購入)	『憲法 第六版』、芦部信喜(高橋和之補訂)、岩波書店、¥3,348(税込)、2015 年											
必須ソフト・ツール	日本国憲法の全条文が記載されているもの(『公務員試験六法 2019』三省堂、『ポケット六法』有斐閣など)											
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。											

メジャー(専修)名				授業科目名	考古学の世界			担当者	川口 宏海			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	考古学の発達史を理解できる。 考古学の研究方法が理解できる。 考古学の研究成果が理解できる。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をよく読むこと。 ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。 ・ニュースなどで考古学に関係する記事を読むこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 考古学の定義と誕生 考古学とはどんな学問なのかをつかむ。 考古学とはどのように歩んできたのかを理解する。								確認テスト			
	第2回 日本考古学の成立と発展・発見 考古学とはどのように歩んできたのかを理解する。 日本考古学の成立と発展について理解する。 日本考古学の歩みを画期的な発見の歴史とともに説明する。								確認テスト、ディスカッション			
	第3回 遺物・遺構・遺跡 日本の考古学は何を研究するのか、という観点から、まずは基本的な遺物・遺構・遺跡の概念を理解する。								確認テスト			
	第4回 生産・祭祀などの遺物・遺構・遺跡 生産や祭祀に関する遺物・遺構・遺跡について理解する。								確認テスト			
	第5回 発掘調査の準備と探査方法 考古学の基礎知識にはどのようなものが必要かを理解する。 まず発掘調査の準備について、次いで遺跡・遺構の探査方法について理解する。								確認テスト			
	第6回 発掘調査の実施と記録 発掘調査を実施するに当たっての準備と、発掘調査を記録する方法について理解する。								確認テスト、プレゼンテーション			
	第7回 発掘資料 発掘資料の整理・結果発表・保存処理はどのように行うかを理解する。								確認テスト			
	第8回 石器と土器の実測図 出土した遺物の実測図を描くには、どのような知識・技術が必要かを理解する。 まずは石器、次いで土器について理解する。								確認テスト			
	第9回 型式学的研究・層位学的研究 考古学の基本的研究方法である型式学的研究と層位学的研究とはどのようなものであるかを理解する。								確認テスト			
	第10回 考古学と理化学的研究方法 考古学の年代測定法と遺物の産地同定などに理化学的研究方法が用いられていることを理解する。								確認テスト、レポート			
	第11回 旧石器時代の文化 考古学の研究成果として、まず人類の出現以降の歴史と日本の旧石器時代の始まり、特徴などについて理解する。								確認テスト、ディスカッション			
	第12回 繩文時代の文化 縄文時代の始まりや時期区分、生業・集落のあり方などについて理解する。								確認テスト			
	第13回 弥生時代の文化 弥生時代の始まりと時期区分、水稻耕作の伝来、卑弥呼の時代などについて理解する。								確認テスト			
	第14回 古墳時代の文化 古墳時代の始まりや古墳時代の特徴・大陸との交流などについて理解する。								確認テスト			
	第15回 歴史時代の文化 飛鳥・奈良時代以降、江戸時代に至る歴史時代の考古学的成果について理解する。								確認テスト			
成績評価方法	各回の確認テスト(30%)、レポート《第10回》・プレゼンテーション《第6回》(20%)、授業参加[ディスカッション《第2回、第11回》など](10%)、単位修得試験(40%)											
教科書	著書『考古学キーワード』 著者 安藤 雅雄 出版社 有斐閣 出版年度 2008年2月15日 改訂版 ISBN 9784641058774											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	行動の科学			担当者	櫻本 和也			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート(第9回の授業内で課題の提示を行う)			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	心理学の興りから、現代心理学に至るまでの多彩な領域への理解を深め、人間と心理学との関係性を説明できるようになる。											
学習の進め方	1.本授業では、オンデマンド教材を主教材とする。 2.オンデマンド教材と教科書を用いることで、学習効果が促進される。 3.各回の学習の最後にある課題に取り組む。											
授業時間外学習	・教科書に目を通しておく。(興味や関心を引く領域だけでも)心理学概論をはじめ心理学関連科目を受講している際は、他の授業で取り扱う教科書等にも目を通しておくと尚良い。 ・本科目は心理学及び隣接領域を広範囲にわたり網羅している。本学習を通して、自身の興味や関心を引いた領域は何であったのか、その気づきを基に学習を進め、「心理学」という学問に対する理解の深化を促して欲しい。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 行動の科学とは 「行動の科学」とは、「心理学」とは何か、という疑問に対して心理学の歩みを通して理解を深める。								確認テスト			
	第2回 行動の生物学的基礎 エソロジー(比較行動学)の領域から、ヒューマン・エソロジーの知見を中心に、行動の生物学的理解を深める。								確認テスト			
	第3回 感覚と知覚 心理学における知覚領域の諸理論をとりあげ、感覚と知覚についての理解を深める。								確認テスト			
	第4回 学習と認知 「レスポンデント条件付け」と「オペラント条件付け」を中心に、刺激と反応との関連で、学習についての理解を深める。								確認テスト			
	第5回 記憶と情報処理 記録、貯蔵、検索などの過程を含む「記憶」について、情報処理モデルに基いて理解を深める。								確認テスト			
	第6回 欲求と動機づけ 人間や動物に表れる行動について、私達の心の中に存在している欲求や、動機づけの観点から理解を深める。								確認テスト			
	第7回 胎児期から児童期の発達 生まれて間もない赤ん坊が、新しい環境に対して自立した機能を営むに至る適応の過程について理解を深める。								確認テスト			
	第8回 青年期から以降の発達 “疾風怒濤”的時代とされる青年期を中心に、青年期以降の人生を射程に入れて発達の理解を深める。								確認テスト、ディスカッション			
	第9回 パーソナリティとは パーソナリティ理論を体系的に理解することで、ありのままの人間についての理解を深める。								確認テスト			
	第10回 パーソナリティの形成と測定 パーソナリティ形成における論争を踏まえ、質問紙法や投影法などの測定方法についての理解を深める。								確認テスト			
	第11回 臨床心理と適応への援助 価値観が多様化・流動化する現代社会において、きわめて現代的意義を持つ臨床心理学への理解を深める。								確認テスト、ディスカッション			
	第12回 社会行動－対人行動－ 多くの人と出会う私達は、どういった要因でその人を判断しているのか、対人認知の観点から理解を深める。								確認テスト			
	第13回 社会行動－集団過程－ 集団の中で営まれる事の多い人の生活において、他者が個人の行動に与える影響についての理解を深める。								確認テスト			
	第14回 社会行動－社会的現象－ 態度、群衆行動、流言などの社会的な現象について、それぞれの特性やメカニズムから理解を深める。								確認テスト			
	第15回 まとめ 本授業のまとめを通して、これまでの学びを振り返る。											
成績評価方法	第1回から第14回にわたっての確認テスト、ならびにディスカッションへ臨む姿勢を踏まえた平常点(40%)、単位修得試験(60%)、それぞれの結果で総合的に評価をする。											
教科書	著書『人間理解の科学－心理学への招待－』 著者 鈴木清 編 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月10日 2版 ISBN 9784888487153											
参考書(任意購入)												

必須ソフト・ツール	
備考	

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	心と身体のセラピー演習			担当者	野波 侑里					
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★							
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験		単位修得試験 試験会場	-						
学習目標	1. 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴について現代の医療における位置づけ、医療人類学などの観点から説明できるようになる。 2. 心と身体のセラピーの実習(ヨガ・瞑想とマインドフルネス)を通して、自分の心と身体に向き合い、日常生活の中でセラピーをセルフケアに役立てることができるようになる。 3. 心と身体のセラピーを含む様々な補完代替医療を有効に利用する上で必要な考え方を学び、自らの考えを持ってセラピーを選択することができるようになる。													
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。													
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 本授業では、ヨガ、瞑想、マインドフルネスなどの実習を行います。実践した内容をディスカッションやレポートで報告してもらいますので、一冊のノートを準備しておくと便利です。 【学習後に復習として実施すべきこと】 本授業では、ヨガ、瞑想、マインドフルネスなどの実習を行います。授業後には、各自が継続して行う実践方法を決め、一週間程度、実践してもらいます。その結果は、単位修得試験の内容と関連させて考察の対象となります。													
学習内容	概 要								課 題					
	第1回 心と身体のセラピー(補完代替医療)								確認テスト、ディスカッション					
	補完代替医療の特徴と現状と現代西洋医学との違いについて学ぶ。 補完代替医療における心と身体のセラピーの位置づけについて学ぶ。													
	第2回 医療人類学的考察								確認テスト					
	補完代替医療、統合医療、ホリスティック医学を医療人類学の観点から学ぶ。													
	第3回 「ヨガ」を学ぶ								レポート					
	ヨガの基本的概念を学び、理解した上で、ヨガ実習を行う。													
	第4回 「瞑想」を学ぶ								ディスカッション					
	瞑想の基本的な概念と多様な瞑想法について学び、理解した上で、瞑想実習を行う。													
成績評価方法	第5回 「マインドフルネス」を学ぶ								レポート					
	「マインドフルネス」の概要を学ぶ。 医療、企業、大学におけるマインドフルネスの利用について学ぶ。 マインドフルネス実習を行い、マインドフルネスの感覚を体感する。													
	第6回 生活の中でのマインドフルネス								ディスカッション					
	生活の中でのマインドフルネスを体験し、今この瞬間の身体の感覚、心(マインド)の動き、感情に意識を向ける。													
成績評価方法	第7回 様々な補完代替医療とセルフケア								確認テスト					
	セルフケアについて学ぶ。 様々な補完代替医療の特徴と利用法を学ぶ。 補完代替医療をセルフケアに役立てる方法を学ぶ。													
	第8回 補完代替医療の利用(心と身体の健康に向けて)								確認テスト					
	補完代替医療の利用の現状と選択について具体例をもとに学ぶ。 心と身体の健康に向けて、補完代替医療の利用方法について学ぶ。													
評価材料: レポート課題、ディスカッションの内容(質問やコメント含む)、単位修得試験 【A評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができる。 レポート課題において、論理的な説明と共に、実習に積極的に取り組んだ内容について、自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴について多角的に理解し、実習内容を論理的に分析できる。 健康管理、セルフケアについて論理的に分析し、自らの考えを持って総合的にセラピーを選択することができる。 また、他者のセラピーの選択についても、相手の意見を尊重した上で意見を述べることができる。 【B評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 レポート課題において、論理的な説明と共に、自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴について理解し、実習内容を分析できる。 健康管理、セルフケアについて論理的に分析し、自らの考えを持って総合的にセラピーを選択することができる。 【C評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができること。 レポート課題において、所定の条件を充足している。 単位修得試験では、所定の条件を充足し、自らの意見を述べることができる。 心と身体のセラピーを含む様々な補完代替医療を有効に利用する上で必要な考え方を理解し、自らの考えを持ってセラピーを選択することができる。 【D評価】 ディスカッションにおいて、所定の条件を充足している。 レポート課題において、所定の条件を充足している。														

	単位修得試験では、所定の条件を充足している。 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴を理解し、日常生活の中でセラピーを役立てることができる。
教科書	なし
参考書(任意購入)	『補完・代替医療 統合医療 改訂2版』、今西二郎、金芳堂、¥2,160(税込)、2015年 『統合医療の考え方活かし方』、小池弘人、中央アート出版社、¥1,512(税込)、2011年
必須ソフト・ツール	
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	子育てと仕事			担当者	細見 正樹			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てと仕事、女性労働に関する諸問題について、具体的な場面を想定しながら説明することができる。 ・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について推論することができる。 ・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題の解決策を提案することができる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・ノートを取りながら受講することを推奨。 ・受講後には学んだ内容と、講義中に自身でメモした内容を読み返して理解してください。また、興味を持った項目については、参考書などでさらに勉強を深めてください。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 女性とキャリア								ディスカッション			
	まず今回の講義の全体像を説明する。その後、人生のステージごとのキャリア論(就職、出産、子育てと女性のキャリアなど)について学ぶ。そのうえで、キャリアデザインに関する理論を学ぶ。											
	第2回 女性雇用と法制度								確認テスト			
	まず、女性雇用のこれまでの流れを説明する。次に、男女雇用機会均等法について説明する。そのうえで、ポジティブ・アクション、セクシャルハラスメントと相談機関についても学ぶ。											
	第3回 子育てと雇用環境								確認テスト			
	まず、男女間格差の実態やM字カーブについて説明する。次に、統計的差別や雇用のミスマッチについて説明する。そのうえで、子育てに対する意識について学ぶ。 第1～3回の講義を振り返る。											
	第4回 ワーク・ライフ・バランス								ディスカッション			
成績評価方法	まず、育児・介護などファミリー・フレンドリーも含めて、ワーク・ライフ・バランスを学ぶ。このワーク・ライフ・バランスについての企業の取り組みについても説明する。最後に、ワーク・ライフ・バランスを促進するための職場の条件について学ぶ。											
	第5回 柔軟な働き方								確認テスト			
	まず、短時間勤務制度と職場での課題について学ぶ。次に、在宅労働の分類と、メリット・デメリットについて学ぶ。さらに、正規雇用と非正規雇用について学ぶとともに、非正規雇用の基幹労働化、限定正社員など最近の流れについて学ぶ。											
	第6回 能力開発								確認テスト			
	まず、日本の賃金構造(能力給など)について説明する。次に、企業内の職業訓練や政府の公共職業訓練についても説明する。さらに、学歴・資格と仕事の関係も説明する。 第4～6回の講義を振り返る。											
	第7回 起業とNPO								確認テスト			
	まず、起業家の男女別の特徴や支援策について起業にあたっての課題について説明する。次に、ソーシャル・ビジネスについて述べる。さらに、NPOの制度概要と課題についても述べる。											
	第8回 行政の関連施策								確認テスト			
成績評価方法	まず、雇用や子育て支援に関する、国、地方自治体の政策について説明する。そのうえで、子育て支援、ワーク・ライフ・バランス施策、女性活用支援策について説明を行う。 本講義の全体を振り返る。											
	確認テスト、ディスカッション、単位修得試験(レポート試験)											
	【A 評価】・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について、①論理性、②説得力、③明快さの3つのいずれも有する推論をすることができます。											
	・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について、①論理性、②実効性、③明快さの3つのいずれも有する解決策を提案することができます。											
	・子育てと仕事に関するかなり多くの知識を有している。											
	【B 評価】・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について、①論理性、②説得力、③明快さの3つのうち2つ有する推論をすることができます。											
	・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について、①論理性、②実効性、③明快さの3つのうち2つを有する解決策を提案することができます。											
	・子育てと仕事に関する多くの知識を有している。											
教科書	【C 評価】・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について、①論理性、②説得力、③明快さの3つのうちいずれか1つを有する推論をすることができます。											
	・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について、①論理性、②実効性、③明快さの3つのうちいずれか1つを有する解決策を提案することができます。											
教科書	・子育てと仕事に関するある程度の知識を有している。											
	【D 評価】・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について推論をしているが、①論理性、②説得力、③明快さのいずれも有していない。											
教科書	・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について解決策を提示しているが、①論理性、②実効性、③明快さのいずれも有していない。											
	・子育てと仕事に関する知識をあまり有していない。											

参考書(任意購入)	『新版 女性のキャリアデザイン：働き方・生き方の選択』、青島祐子、学文社、1,944 円(税込)、2007 年 『キャリアのみかた—図でみる 110 のポイント 改訂版』、阿部正浩・松繁寿和 編、有斐閣、2,052 円(税込)、2014 年 『日本のジェンダーを考える』、川口章、有斐閣、2,052 円(税込)、2013 年 『ワーク・ライフ・バランスを実現する職場—見過ごされてきた上司・同僚の視点』、細見正樹、大阪大学出版会、5,184 円(税込)、2017 年
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word
備考	【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 各自分が実例をテーマとした事例研究を行うため、会社などの組織で働いた経験や子育て経験を持っているか、身近な親戚や友人から実体験を聞くことができれば、イメージが湧きやすい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	子育てと食育			担当者	山下 陽子			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等における食育の考え方の拠り所とされる食育基本法の概要を理解し、そこで定義されている6つの食育目標を言えるようになる。 ・6つの食育目標の背景や、目標として掲げられている意味を自分の言葉で説明することができるようになる。 ・食育基本法の考え方を応用して、実生活で自分自身の健康管理はもとより、家族や身の回りの人に対しての、適切な食生活を実践(献立、食材調達、調理)できるようになる。 ・子供の心身の健全な育成のための食について理解し、生活の中で食育が実践できるようになり、実際に子供が6つの食育目標のいくつかを達成できるようになる。 ・食育に関するイベントや教室などに参加する際に、スタッフやボランティアとして運営側の立場で参画できるようになる。 <p>■【参考】6つの食育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性を育む 2. 生活能力を養う 3. 食文化を学び継承する 4. 健康に生きる知恵を学ぶ 5. 環境の大切さを学ぶ 6. 食料自給力を高める 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・受講は、各自で規則的に学習するスタイルを身につけること。 ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。 ・日頃から調理に携わること。 ・食育に関連するシンポジウムや講演会等にも積極的に参加すること。 ・巷に流れる食や健康に関する情報について、広くアンテナをはるとともに、正しく理解できているかどうか、良く考えながら情報収集すること。 											
学習内容	<p style="text-align: center;">概 要</p> <p>第1回 生命の健康維持・増進と食との関わりについて 人の生命の誕生、成長、健康維持増進に欠かす事の出来ない食についての総論を解説する。</p> <p>第2回 なぜ今食育なのか 高度多様化した現代の食生活で、改めて食育の重要性が見直されている理由について解説する。現代の食事情が招いたさまざまな疾病や弊害の事例や社会問題について、特に子供の成長に重点を置いて解説する。</p> <p>第3回 風土に根ざした伝統的食文化について 日本の伝統的風土に根ざした食べ方や習わし、食生活、食文化について解説する。文化・歴史的背景からも、日本の食(伝統的和食、地域食、行事食)について解説する。伝統的な食事や習わしが、子供の健康な心と身体の成長にもたらす影響について解説する。</p> <p>第4回 風土に根ざした現代における健全な食生活について 現代社会に対応させた、風土に根ざした日本の食(和食)と健康について解説する。</p> <p>第5回 現代の高度情報社会の正しい食情報理解と食生活について 経済・情報化社会の急速な進歩で、あらゆる食情報が氾濫する中で、正しく食情報を選択するための情報と、メディアやコマーシャルの利点と欠点について解説する。食の安心・安全についても解説する。</p> <p>第6回 子育て家庭のヘルシー食生活実践Ⅰ(献立・食材選び・お買い物物編) 第1回から第5回までを踏まえて、実生活で健康的な子育てと食生活を実践するための、献立方法・食材調達方法について解説する。</p> <p>第7回 子育て家庭のヘルシー食生活実践Ⅱ(調理編) 第1回から第5回までを踏まえて、実生活で健康的な子育てと食生活を実践するための、調理方法とそのコツについて解説する。</p> <p>第8回 次世代・未来へ繋ぐ食育実践について 全体のまとめと、次世代や未来に健全な食を継承するために、今私たちがすべき食生活について解説する。子供の食育方法についての具体例を解説する。</p>											
	<p>課題、単位修得試験(レポート試験) Web 試験での回答率や、レポート課題の中での記述内容から、食についての基本的な知識についての習得度合いを測る。また、4つのレポート課題と、ディスカッション、プレゼンテーション、そして単位修得試験の記述の中で、健康な食の実践、応用の度合いを測る。</p> <p>【A評価】B評価の基準と以下の項目を満たすこと。 各課題や試験において活発に発言とともに、食育現場でも応用出来るようなリーダーシップを発揮していること。あらゆる生活パターンに対応できる子育てと食事管理の具体例を考案する高い能力と技力が備わっていること。プレゼンにおいて、他者の食生活改善を促すことのできるプレゼンができていること。</p> <p>【B評価】C評価の基準と下記の項目を満たすこと。 各課題や試験において、前向きで積極的な発言を行うこと。自分自身の生活パターンで実践できる望ましい食生活を考え、実践できる能力と技量が備わっていること。現在での生活パターンで、食生活の問題点を把握しており、今後の改善策について具体的な解決方法を見出せていること。</p> <p>【C評価】D評価の基準と以下の項目を満たすこと。 各課題や試験において、間違っても良いので何らかの回答を行うこと。6つの食育目標を理解し、実施したこともしくはこれから実践しようと思う具体例を考える能力が備わっていること。</p>											

	【D 評価】各課題や試験において、積極性は見られないが、何らかの反応があること。レポート課題を提出していること。単位取得試験を実施していること。
教科書	なし
参考書(任意購入)	『新版 女性のキャリアデザイン:働き方・生き方の選択』、青島祐子、学文社、1,944 円(税込)、2007 年 『キャリアのみかた—図でみる 110 のポイント 改訂版』、阿部正浩・松繁寿和 編、有斐閣、2,052 円(税込)、2014 年 『日本のジェンダーを考える』、川口章、有斐閣、2,052 円(税込)、2013 年 『ワーク・ライフ・バランスを実現する職場—見過ごされてきた上司・同僚の視点』、細見正樹、大阪大学出版会、5,184 円(税込)、2017 年
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint
備考	【履修の前提とするもの】 Word、Excel、PowerPoint のソフトを利用可能な状態にあること、かつ、基本的な操作を修得していること。 自身で調理した献立を撮影し、提出する課題がある。自宅、または、どこか利用可能な場所で最低限の調理設備を有していること。 ※想定する調理器具は、コンロ(ガス、電気、カセット可)、鍋、包丁、まな板など オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	コミュニケーション概論			担当者	森川 知史			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	確かな人間関係を築き、育てるためのコミュニケーションのあり方を考えたい。他者とコミュニケーションすることで、私たち自身に起こる様々な変化についても考えたい。私たちが日常的に行っているコミュニケーションについて、改めて見つめ直し、考え方すきにしたい。											
学習の進め方	オンデマンド教材を主に活用して学習する。各回は教科書通りの順序・内容で展開するので、教科書もよく読んで学習を進めてほしい。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をよく読んで学習することと、ノートを取りながら受講することを推奨。 ・受講は規則的に行い、まとめて一気に学習することのないように注意すること。 ・毎回の確認テストや最終レポートに取り組み、正解に至らないときには改めてその回の講義を見直すこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 はじめに 科目的目的と概要・確認テスト 問題提起（「ことば」「記号」とは？）								確認テスト			
	第2回 ことばとはなにか コミュニケーションにも様々な種類があることを知り、人間のコミュニケーションとはどういうものかを考える								確認テスト			
	第3回 ことばと身体 「ことば」が人間を人間にしている、ということを考える								確認テスト			
	第4回 ことばと身体のコミュニケーション ことばを用いるコミュニケーションとことばを用いないコミュニケーションを理解する								確認テスト			
	第5回 交流としてのコミュニケーション コミュニケーションを「人間的な交流」という観点から考える								確認テスト			
	第6回 モノとイメージのコミュニケーション モノがイメージとしてコミュニケーションに関わっていることに気づく								確認テスト			
	第7回 コミュニケーションのダイナミズム 関係し影響し合って、相手も自分も成長するものとしてのコミュニケーションの働きに目を向ける								確認テスト			
	第8回 意味とコミュニケーション 私たちの日常を支えている「意味」というものについて考え、コミュニケーションの展開の中で立ち現れる「意味」にも言及する								確認テスト			
	第9回 コミュニケーションのいま 私たちのコミュニケーションの「いま」について考える								確認テスト			
	第10回 メディアとコミュニケーション 私たちのコミュニケーションに介在するさまざまなメディアを理解する								確認テスト			
	第11回 「わたし」とコミュニケーション 対人関係が多種・多様化する現代、「わたし」も多様化・分散化していることを理解する								確認テスト			
	第12回 よりよいコミュニケーション コミュニケーションは生きしていく上で極めて重要なものだが、そのるべき姿はどうかを考える								確認テスト			
	第13回 同質な群れからの脱出 確かな人間関係を育てるものとしてのコミュニケーションのあり方を考える								確認テスト			
	第14回 人間関係をどう育てるか 人間とはどのような存在か？ 人間が人間として成長して「自我」を形成していく過程を「欲望」キーワードとして考える								確認テスト			
	第15回 まとめ コミュニケーションについて基本的な考え方・とらえ方を知ったので、自分なりの答をさがすために、常に問い合わせ続ける姿勢を忘れないように								レポート			
成績評価方法	平常点(全14回の確認テスト)(40%)と単位修得試験(60%)											
教科書	著書『確かな人間関係のためのコミュニケーション論』 著者 森川知史 出版社 京都書房 出版年度 2011年3月1日 初版 ISBN9784763726049											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	コンピュータと通信			担当者	中崎 修一			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	情報通信ネットワークの長所、短所を説明できる 自分のコンピュータのネットワーク設定ができるようになる 情報通信技術を活用したシステムの検討ができる											
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。学習をはじめるとには必ず、各回の学習概要を閲覧してから学習を進めてください。参考書については、デジタル教材では取り扱わない情報も掲載されていますので、学習を深めるためにも是非ご覧ください。回ごとに確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。											
授業時間外学習	・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 情報社会とネットワーク概説 情報社会とネットワーク								確認テスト、意識調査			
	第2回 情報通信ネットワーク 情報、情報通信、情報通信ネットワーク、通信階層モデル、クライアント/サーバシステム								ディスカッション、確認テスト			
	第3回 通信の基礎 2進数・16進数、情報通信、通信のしくみ								確認テスト			
	第4回 伝送媒体 伝送媒体、プロトコル								確認テスト			
	第5回 通信制御 データリンク、パケット、MACフレーム、イーサネット、データリンク層								確認テスト			
	第6回 IP(Internet Protocol) ARP、IP、ネットワーク層								確認テスト			
	第7回 TCP、UDP TCP、UDP、トランスポート層								確認テスト、レポート			
	第8回 通信用アプリケーション(1) Webページ、HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)、アプリケーション層								確認テスト			
	第9回 通信用アプリケーション(2) 電子メール、SMTP、POP、IMAP								確認テスト			
	第10回 インターネット TCP/IP、インターネット								確認テスト			
	第11回 ブロードバンド ADSL、FTTH、無線通信								確認テスト			
	第12回 LAN構築 LAN、Windows、Macintosh、Linux								確認テスト			
	第13回 セキュリティ セキュリティ、Firewall、NAT、通信ポート、アドレス変換								確認テスト			
	第14回 様々な問題点 問題、ネットワーク運用管理								ディスカッション、確認テスト			
	第15回 応用技術とまとめ 身近なネットワーク応用技術の紹介								確認テスト、アンケート			
成績評価方法	授業期間内完了(30%)、レポート課題(2回)(30%)、単位修得試験(40%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『情報がひらく新しい世界④ 情報ネットワークとLAN』、長坂康史、共立出版、2,835円(税込)、2001年											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	財務分析			担当者	上野 精一			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	財務分析の基本的枠組みを解説した上で、ケーススタディとして財務分析の実践を行うことにより、大企業のみならず身近な中小企業の財務分析ができるようなることを学習目的とする。											
学習の進め方	教科書の内容をデジタル教材で補完することをベースに、疑問点等は科目掲示板等での質疑応答で理解を深める。受講生の間のコミュニティとして科目掲示板を利用する。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・受講前には、教科書を通読しておき、不明な用語等は調べておくこと。 ・受講後は、ネットで興味のある上場企業のホームページの IR 情報から財務諸表を見つけ、財務分析にチャレンジしてください。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1講 財務諸表の見方、読み方、基礎知識 企業分析に不可欠な財務諸表とはなにか、なにから構成されているのか、など財務諸表の概要を説明する。								確認テスト			
	第2講 貸借対照表の見方、読み方 基礎 貸借対照表の作成方法や、どのように企業を分析するのかをサンプルや指標を用いて説明する。								確認テスト			
	第3講 貸借対照表の見方、読み方 実践 経営者・銀行員・会計士など、様々な視点から貸借対照表を読み取る。また、実際に上場企業の貸借対照表を用いて分析を行う。								確認テスト			
	第4講 損益計算書の見方、読み方 基礎 損益計算書で使われる用語や企業の利益の計算方法を説明する。								確認テスト			
	第5講 損益計算書の見方、読み方 実践 複数の上場企業の損益計算書を比較し、その企業の業績、戦略、今後の業績予測を実際に分析する。								確認テスト			
	第6講 キャッシュフロー計算書の見方、読み方 基礎・実践 キャッシュフロー計算書の作成方法や読み方を説明し、財務・営業・投資キャッシュフローから企業がどのような操業をしているのかを分析する。								確認テスト			
成績評価方法	各講の確認テスト(30%)と単位修得試験の結果(70%)により評価する。											
教科書	著書 『「1秒！」で財務諸表を読む方法【実践編】』 著者 小宮一慶 出版社 東洋経済新報社 出版年度 2010年12月16日 ISBN 9784492601907											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア			授業科目名	産業・組織心理学			担当者	服部 泰宏			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	組織の中で働くということについて「考える力」を養うことを目指す。各回の講義で、組織の中で働くということについて考えるための理論・視点を提供する。みなさんに目指してほしいのは、そうした理論・視点を丸暗記することではなく、それらを使って組織の中で起こっていることについて「考える力」を身につけることである。											
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主教材として学習を進める。各回の学習の最後に提示される課題をクリアし、次の回に進む。 1. デジタル教材での学習 2. 指示に従い、教科書を講読 3. 課題に取り組む											
授業時間外学習	・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと。 ・当該講義後には、講義内容に関連する実例(新聞、TV、Webなど)に目を通すこと。 ・参考図書で自己学習することと、ノートを取りながら受講すること。 ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 イントロダクション 「産業・組織心理学」とはどのような学問か、どのような歴史的背景の中で研究が蓄積され、今日この学問を学ぶ意義はどこにあるのか、ということについて理解することを目指す。								レポート			
	第2回 人のやる気について考える①:モティベーションの3系統 第2回から第4回までは、モティベーション理論を紹介し、人のやる気について考える。第2回では、モティベーション理論の体系について理解し、その全体像を把握することを目指す。								レポート			
	第3回 人のやる気について考える②:緊張系のモティベーション 何かが欠乏していたり、まだ達成していない課題を自覚したりするとき、私たちはそうした緊張状態を解消しようとして心理的エネルギーを生じさせる。第3回は、このようなマイナスのエネルギーに基づくやる気について考察し、こうした側面のやる気が実は私たちにとって必要不可欠であることを理解することを目指す。								レポート			
	第4回 人のやる気について考える③:希望系のモティベーション 人はマイナスのエネルギーによってだけでなく、積極的な夢、希望、目標、憧れ、自己実現、楽しみなどによっても心理的エネルギーを発生させる。第3回の講義内容と合わせて、私たちのやる気が単一の理論では必ずしも説明できないことを理解することを目指す。								レポート			
	第5回 仕事人生について考える①:キャリアとは何か 私たちは「今日は頑張った」「最近やる気がない」といった短期的な視点だけでなく、長い仕事人生をどう過ごすか」「10年後に私は何をしているだろうか」といった長期的な視点を持つ必要がある。第5回から第8回では、長期的な仕事人生について考える。第5回では、キャリアとモティベーションの違いを説明したうえで、キャリアに関する理論が大きく分けて3つの系統に分類できることを説明する。自分自身の仕事人生について考える際、キャリアという視点がいかなる意味で有効なのかということを理解することを目指す。								レポート			
	第6回 仕事人生について考える②:ジグソーパズルとしてのキャリア 第6回はキャリアに関する3系統の理論のうち、ジグソーパズルとしてのキャリアと呼ばれるものについて説明する。個人の特性や能力と様々な仕事に必要な特性や能力をいかにマッチングさせるか、ということについて理解することを目指す。								レポート			
	第7回 仕事人生について考える③:階段としてのキャリア 私たち人間の成長は、成人とともに終わるのではなく、生涯にわたって続く。年齢を重ねるごとに私たち乗り越えるべき課題が現われ、それを克服することによって少しづつ成長していくことができる。第7回は、仕事人生の発達的な側面について理解することを目指す。								レポート			
	第8回 仕事人生について考える④:旅としてのキャリア 私たちの仕事人生は、あらかじめ決められたルートを進んでいくとは限らない。仕事人生は、時として山や谷を越えたり河を渡ったりする旅のように予測のできないものだ。第8回では、仕事人生の偶発的で予測不可能な側面、それらに対処する方法について理解する。								レポート			
	第9回 集団について考える①:集団の功罪 私たちは、個人の限界を克服するために、物事に集団で取り組む。ただし、集団で物事に取り組むことによって、それを個人で行っているときには起こらないような問題点も発生する。第9回から第11回までは、こうした集団の功罪について考えていく。第9回では、集団の功罪について概観する。								レポート			
	第10回 集団について考える②:集団による課題達成 集団の物事に取り組むことが必ずしも優れた結果を生むとは限らないということを、欧米の実証研究を紹介しつつ説明する。どのような場面で、集団は非効率になるのか。それはなぜか。こうした点について理解することを目指す。								レポート			
	第11回 集団について考える③:集団とリーダーシップ 集団は時として非効率になるが、それは効果的なリーダーシップによってある程度解消できる。第11回は、集団とリーダーシップのかかわりについて理解することを目指す。								レポート			
	第12回 リーダーシップについて考える①:リーダーシップとは何か リーダーシップとは何か。リーダーシップとは一体どこにあるのか。こうした素朴な問題について考えた上で、リーダーシップの定義を行う。さらに、リーダーシップ理論には大きく分けて2つの系統があること								レポート			

	を説明する。私たちが普段何気なく使っているリーダーシップとは、一体どのような現象なのかということについて理解することを目指す。	
	第 13 回 リーダーシップについて考える②: 特性理論と行動理論 第 13 回では、リーダーシップ理論の古典的な2つの系統について説明する。リーダーシップとは人が生まれつき備わった資質・能力であると主張する特性理論と、リーダーシップとは誰もが経験や学習を通じて獲得する行動パターンだと考える行動理論とを紹介する。おなじリーダーシップという言葉をめぐって様々な視点が存在すること、それらはそれぞれに正しいが、どちらも完全ではないということを理解することを目指す。	レポート
	第 14 回 リーダーシップについて考える③: 新しいリーダーシップ理論 今日のような変化の激しい時代においては、古典的なリーダーシップ理論のようなリーダー像とは異なる種類のリーダーが求められる。第 14 回では、今日の産業組織にとって必要な、新たなるリーダーシップのあり方について考える。リーダーシップという現象には、唯一最善のものなどなく、その時代や状況によって優れたリーダーシップが異なるということを理解することを目指す。	レポート
	第 15 回 人ととのつながりについて 第 15 回では、人ととのつながりについて科学的に考える。「人脈が大事だ」とよく言われるが、とにかく知人を多く作ればそれでよいのか。人から人への「口コミ」による情報は、なぜあれほど早くしかも広範囲に広がっていくのか。こうした人ととのつながりに関する素朴な問題を、科学的に理解することを目指す。	レポート
成績評価方法	成績は、次の項目を総合的に評価します。 (1) 第 1 回から第 15 回までの「課題」の実施状況(30%) (2) 単位修得試験(70%)	
教科書	著書『産業・組織心理学エッセンシャルズ』 著者 田中堅一郎(編) 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2013 年 10 月 10 日 改訂 3 版 ISBN 9784779505638	
参考書(任意購入)	講義内で適宜指定します。	
必須ソフト・ツール		
備考		

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	ジェンダーと社会			担当者	藤田 道代			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	2/3 以上の出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャン パス)			
学習目標	<p>ジェンダーとは「それぞれの社会において社会的・文化的に形成された性別や性差についての知識」と、ここでは簡単に説明しておこう。その具体的な内容は時代や地域によって異なっている。その結果、現代社会で様々な矛盾を起こしている。しかし、「ジェンダー」という言葉自体の認識も日本ではなく、ともすると情緒的な反応も未だ見られる。</p> <p>一方、近年、ダイバーシティという視点からの取り組みも行われだしている。</p> <p>そこで、統計資料やビデオなども用いて、客観的にジェンダーについて考察できる力を養いたい。</p>											
学習の進め方	<p>ジェンダーに関わる事柄は履修生個々の事柄でもある事を自覚し、基礎的な講義を基に履修生相互のディスカスを積極的に行い、ジェンダーに関わる諸問題を掘り下げていく。そのためにも教科書を講義までに読んでおくこと。</p> <p>レポート試験にしっかりと取り組んでください。書き方は、el-Campus にある、「レポートの書き方」などを参考にして取組むことを推奨する。</p>											
授業時間外学習	<p>スクーリングまでに、教科書の第5章までは少なくとも読んでおくこと。その後は、参考文献、授業内容にかかわる事例などを新聞や雑誌等で調べる。履修生自身が関心を持っているテーマ等があれば、それについて調べてレジュメを作成し問題提議をし、ディスカッションができるまでの準備をすれば、第2回目のスクーリング時に機会を供する。</p>											
学習内容	概 要											
	第1回 授業オリエンテーション ジェンダーとは?① 「ジェンダー」に関する代表的な理論の概要を紹介											
	第2回 ジェンダーとは?② ジェンダーに関する具体的な考察を通じ、履修生個々の問題でもあることの確認。											
	第3回 ジェンダーとは?③ 性の多様性について											
	第4回 身近な日常生活をチェックする 履修生自身の日常からジェンダー事例を考察しあう。											
	第5回 身近な日常生活チェックと、小まとめ。 履修生の考察をもとにグループでディスカスし発表。											
	第6回 国際比較から日本の現状把握とその考察① HDI、GII、GGI の指標から日本の状況を概観する。											
	第7回 国際比較から日本の現状把握とその考察② GII、GGI のインデックスをデータで具体的に確認する。											
	第8回 国際比較から日本の現状把握とその考察③ 日本の状況を履修生で検討する。(具体的な問題提議の機会提供)											
	第9回 家族とジェンダー① 家族とジェンダーについて「ケア」という視点も取り込んで具体的に考察する。											
	第10回 教育、家族、就業とジェンダー②と、小まとめ 6回目以降の授業内容をもとにグループでディスカスし発表する。											
	第11回 日本のジェンダー支援とダイバーシティの取り組み これまでの政策と支援の内容を具体的に検討する。											
	第12回 諸外国との比較検討 代表的な事例を中心に考察する。											
	第13回 今後の課題 グループでディスカスしまとめる。(具体的な問題提議の機会提供)											
	第14回 1回目からの授業をふまえてのまとめ グループディスカスの発表。											
	第15回 今後の課題 グループ発表をベースに現時点での課題を考える。											
成績評価方法	単位修得試験の結果(70%)、授業への主体的参加度(授業での質問や意見、提出ペーパー内容、自発的レポート提出等)(30%)。											
教科書	著書『ジェンダーの社会学入門』 著者 江原由美子・山田昌弘 出版社 岩波書店 出版年度 2010年6月 ISBN 9784000280488											
参考書(任意購入)	牟田和恵編『家族を超える社会学』新曜社、落合恵美子『21世紀家族へ第3判』有斐閣選書。その他、授業中に適宜指示する。											
必須ソフト・ツール												
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義 40名											

メジャー(専修)名				授業科目名	色彩論 I			担当者	山下 真知子			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての課題が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・光と色の関係について説明できる ・色に関する基本的な知識項目について、それぞれの意味をせつめいできる ・カラー・コミュニケーションの主な方法を理解し、その手法を用いて「色」を適切に表現できる ・色彩の実用価値や効果を知ることで、人間の生活を豊かに「色彩」を有効に用いることができる 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>関連する参考図書をよく読んで取り組むこと 参考図書で自己学習することと、ノートを取りながら受講することを推奨します。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと、参考図書で自己学習することと、ノートを取りながら受講することを推奨します。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 光と色								確認テスト			
	光が「可視光線」と呼ばれる電磁波の一種であること、太陽光は何色なのか、太陽光のプリズムについて、学習する。											
	第2回 色が見えるしくみ								確認テスト			
	物体の色と光の関係性、光源色と物体色の違い、物体によって色の見え方が異なることを学習する。											
	第3回 光と物体と眼								確認テスト			
	眼の構造を知り、眼が色を認識する過程、視細胞の働きと種類について、加齢による見えの変化や色覚異常について学習する。											
	第4回 カラー・コミュニケーションの方法-[1]											
	色を伝達する時のさまざまなルール、方法、色の三属性について学習する。											
	第5回 カラー・コミュニケーションの方法-[2]								確認テスト			
	色見本について知り、それを用いて色を伝える方法を学ぶ。また、色名の種類やそれぞれの特徴などを学習する。											
	第6回 カラー・コミュニケーションの方法-[3]								確認テスト			
	代表的な表色系について学習する。											
	第7回 カラー・コミュニケーションの方法-[4]								確認テスト			
	CCIC 表色系とPCCS 表色系について学習する。											
	第8回 配分の分類と手法-[1]								確認テスト			
	配色を理解する手掛かりとして、マウスを使った演習で、変化と統一とはどのようなことを体験する。また、配色の意味や色相環を用いて色と色の関係を学習する。											
	第9回 配分の分類と手法-[2]								レポート			
	色の三属性による配色分類の種類を学習する。また演習では、実際に学習したことを配色し、理解を深める。											
	第10回 配分の分類と手法-[3]								レポート、確認テスト			
	明度差、彩度差、トーン差による配色のルールを学び、演習を通して美しい配色の手法を学習する。											
	第11回 色彩調和論-[1]								確認テスト			
	著名な色彩の研究者が著した調和論及び、それぞれの特徴を学習する。											
	第12回 色彩調和論-[2]								確認テスト			
	色彩調和論の4つの原理を学習する。											
	第13回 測色								確認テスト			
	測色の目的、種類とそれぞれの特徴を学び、分光反射率曲線から色相をみてとることを学習する。											
	第14回 混色								確認テスト			
	色光、色料の三原色を学び、混色の意味や混色の種類を学習する。											
	第15回 色の2つの動き								確認テスト			
	色彩の非視覚的な動きを画面で体験しながら、本授業のまとめを学習する。											
成績評価方法	各回の確認テスト 20%、単位修得試験 80%											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	社会科学			担当者	岩波 薫			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	まず社会科学(行政 5 科目)を概観するが、基本的事項として公務員試験で問われるような知見については一定以上の理解をしていることが求められる。具体的には地方公務員大卒区分での社会科学の試験問題で合格点を取れるレベルの理解を目標とする。このような知見、高度の常識が受講者のキャリア選択に好影響を及ぼすことになる。											
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習範囲自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。											
授業時間外学習	①事前に各授業で扱う範囲の教科書に目を通しておくこと。 ②授業終了後には、できれば参考書も利用しながら、確認テストの復習を行うこと。 ※①の予習は当然のこととして、合わせて②の復習も行わなければ学習目標の達成は難しい。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 政治学①								確認テスト			
	政治制度											
	第2回 政治学②								確認テスト			
	選挙制度と投票行動											
	第3回 政治学③								確認テスト			
	政党と政党政治											
	第4回 政治学④								確認テスト			
	民主主義の構成要素と権力論											
	第5回 政治学⑤								確認テスト			
	政治思想と政治理論史、総括											
	第6回 行政学①								確認テスト			
	地方自治と行政組織											
	第7回 行政学②								確認テスト			
	行政統制と人事行政											
	第8回 行政学③								確認テスト			
	官僚制論と行政理論											
	第9回 國際関係①								確認テスト			
	国際連合と各国の外交(外交史)											
	第10回 國際関係②								確認テスト			
	民族と地域機構											
	第11回 國際関係③								確認テスト			
	国際関係と国際政治理論											
成績評価方法	評価材料: 単位修得試験											
	【A 評価】 9割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見に基づいて社会現象の理解ができ、現時点の実力を維持できれば地方公務員大卒区分試験にも合格可能なレベル。											
	【B 評価】 8割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見に基づいて社会現象が一定以上理解でき、参考書などの問題演習の復習を重ねれば地方公務員大卒区分試験にも合格可能なレベル。											
	【C 評価】 7割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見について一定以上理解でき、全体を再度復習し、更に参考書などの問題演習を繰り返すことで、地方公務員大卒区分試験の合格可能性が見えてくるレベル。											
	【D 評価】 6割以上の得点を得る。											

	社会科学の理論や知見についてある程度理解でき、本講座を受講したと言える最低限度のレベル。
教科書	著書 『公務員試験 行政 5 科目 まるごとパスワード neo』 著者 高瀬 淳一 出版社 実務教育出版 出版年度 2012 年 11 月 28 日 ISBN 9784788945609
参考書(任意購入)	『公務員試験 行政 5 科目 まるごとインストール neo』、高瀬 淳一、実務教育出版、¥1,404 円(税込)、2012 年「教科書とセット」で活用する定評ある参考書であり、各自購入することを強く勧める。授業で参考書の内容にも度々触れるし、単位修得試験は言うに及ばず、学習目標の達成のためにも不可欠の教材と言える。
必須ソフト・ツール	
備考	履修条件は特にないが、学習のモチベーションを高く維持するためにも、自らのキャリア形成に関して、公務員を視野に入れていることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	社会心理学			担当者	森下 朝日			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	人と人との相互作用や、社会の一員としての自分のあり方について考えることができる。											
学習の進め方	オンデマンド教材を主教材として学習を進める											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・普段からさまざまな社会事象に关心を持ち、問題意識を持って取り組むこと。 ・教科書に目を通し、受講内容に該当する項目を読み込んでおくこと。 ・用語や定義を丸暗記するのではなく、自らの日常に照らし合わせてイメージしながら振り返ること。 ・ディスカッションにおいては、できるだけ多くの意見に目を通すこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 社会的認知(1) 私たちの「ものの見かた」 私たちが何かを理解し、判断するとき、頭の中では、どのような情報処理がなされているのだろうか。この回では、私たちが、あるものを見て、あるアクションを起こすまでの認知過程について学ぶ。さらに、知覚と記憶スキーマのしくみと特徴について学ぶ。								確認テスト			
	第2回 社会的認知(2) ヒューリスティックと判断の偏り 私たちの社会的判断には、さまざまな形で偏りが生じやすい。この回では、判断の偏りを生じさせている人間の思考経路であるヒューリスティックについて学び、ヒューリスティックによって生じるさまざまな認知バイアスについて学ぶ。								確認テスト			
	第3回 社会的態度(1) 態度とステレオタイプ この回では、社会心理学を学ぶ上で重要な概念である「態度」について学習する。私たちが日常生活を営む上で、態度がどのように使われ、どのような役割を果たしているかを知り、態度と深いかかわりを持つステレオタイプについて、その概念や機能、性質を学ぶ。								確認テスト			
	第4回 社会的態度(2) 説得と態度変容 前回に引き続き、態度について学ぶ。 認知のバランスが態度にどのような影響を与えるかを学んだ上で、説得的コミュニケーションがどのように態度を変容させるのか、その過程や機能について学習する。								確認テスト			
	第5回 原因の帰属(1) 帰属理論と帰属スタイル 社会的認知や動機づけに大きな影響を及ぼす「帰属」について学ぶ。 まず、帰属の定義と原理について学び、帰属についての基礎知識を身につけたうえで、自分自身の帰属スタイルを確かめる。								確認テスト			
	第6回 原因の帰属(2) 帰属がやる気に与える影響 何かに成功したときや失敗したとき、帰属の仕方によって私たちのやる気がどのように変わるかを学ぶ。さらに、帰属の結果、無力感に陥ってしまったとき、どのようにすれば克服できるか、さまざまなアプローチから考える。								ディスカッション			
	第7回 対人関係における心理(1) 対人魅力とその発展 対人関係における対人魅力について学ぶ。 私たちが誰かに好意を抱くとき、どのような要因が関係しているか、また、そこから対人関係はどのように発展していくかについて学習する。								確認テスト			
	第8回 対人関係における心理(2) 対人葛藤とその解決 前回とは逆に、この回では、対人関係がこじれてしまったときに生じる対人葛藤について学ぶ。 まず、対人葛藤のタイプと解決方法、そこで生じる認知バイアスについて学習し、その上で、葛藤の様相が帰属の仕方によってどのように変わるかを学習する。								確認テスト			
	第9回 集団における心理(1) 集団とは何か 私たちは、社会生活を営むうえで、常に何らかの集団に属している。この回では、集団とはどのようなものか、人はなぜ集団に所属するのか、集団はどのようにして形成され、どのような機能を持つかなど、集団についての基本的概念を学ぶ。								確認テスト			
	第10回 集団における心理(2) 集団から受ける影響 個々人が集団から受ける影響について、集団凝集性、すなわち「集団としてのまとまり」を軸に学習する。 まとまりが強ければ、その集団は優れた成果を上げることができるのか。また、優れた成果をあげるための集団意思決定は、どのようになされるべきか。これらの点について考える。								確認テスト			
	第11回 集団における心理(3) 同調と少數派の影響 集団から受ける圧力と、そこから引き起こされる同調行動について学習する。 まず、同調とは何か、その定義や発生過程を学び、なぜ同調が起るのか、何によって行動が左右されるのか、その要因を学習する。さらに、少數の人間が一貫した主張を行ったとき、集団内にどのような影響が生じるのかを学習する。								確認テスト			
	第12回 集団における心理(4) リーダーシップとそのあり方 リーダーが集団に与える影響、ならびにリーダーのあり方について考える。 全体を通して、望ましいリーダーシップとは何かを模索するリーダーシップ論について、その内容と変遷を学習する。								確認テスト			
	第13回 社会における心理(1) 群集心理と流言の伝播 群集という巨大な存在が私たち個々人に与える影響を、平常時と非常時の2側面から学習する。								確認テスト			

	さらに、流言がどのような要因で伝播し、どのように変容するかを学び、情報を正確に伝えるために、メッセージの送り手と受け手がどのような点に気をつけるべきかを考える。	
	第14回 社会における心理(2) 道徳的判断 さまざまな社会的行動について、そのあり方を判断することを道徳的判断とよぶ。この回では、道徳的判断を左右する判断基準や発達段階について学ぶ。さらに、現代社会で大きな問題となっているインターネットを介した暴力について、道徳的判断の観点から考え、ディスカッションを行う。	ディスカッション
	第15回 まとめ—授業のふりかえり この回では、まとめとして、第1回から第14回までの授業内容を振り返る。その上で、社会心理学とはどのような学問か、包括的に考える。	確認テスト
成績評価方法	ディスカッションでの積極的発言(10%)および単位修得試験(90%)で評価する。	
教科書	著書『図解雑学 社会心理学』 著者 井上隆二・山下富美代 出版社 ナツメ社 出版年度 2011年2月20日 ISBN 9784816329098	
参考書(任意購入)		
必須ソフト・ツール		
備考		

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	社会福祉援助技術			担当者	須川 重光						
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆								
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)						
学習目標 対人援助とは何かを考え理解する。 障害を有する人への援助過程の基礎を理解する。															
学習の進め方 基本的にはPPTを使用した講義形式となります。簡単な体験等を交えながら授業を進めていきます。 受講生同士のディスカッションを多く取り入れ他者の意見を広く取り入れられるよう考慮します。															
授業時間外学習 ・関連したサイトの閲覧を奨めます。 ・配布したプリントにもう一度目を通しておくこと。															
学習内容	概 要								課 題						
	第1回 対人援助とは何か 人が人を援助することの意味や意義、理由等を考える。														
	第2回 医療保健福祉における対人援助職 対人援助過程における専門職の役割を学ぶ。														
	第3回 運動機能障害に応じた援助 運動機能障害とそれに対応した基本的な援助過程を学ぶ。														
	第4回 高次脳機能障害に応じた援助 高次脳機能障害とは何かを理解し、それに対応した基本的な援助過程を学ぶ。								小レポート						
	第5回 精神障害に応じた援助 精神障害とは何かを理解し、それに対応した基本的な援助過程を学ぶ。								小レポート						
	第6回 知的障害・発達障害に応じた援助 精神障害とは何かを理解し、それに対応した基本的な援助過程を学ぶ。														
	第7回 認知症に応じた援助 認知症についての理解を深め、それに対応した基本的な援助過程を学ぶ。														
	第8回 講義のまとめと最終レポート								単位修得試験レポート						
成績評価方法 小レポート(40%) 単位修得試験レポート(40%) 出席、ディスカッションの姿勢等の平常点(20%)で総合的に評価する。															
教科書	なし														
参考書(任意購入)	適宜紹介します。														
必須ソフト・ツール															
備考	活発なディスカッションを望みます。														

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	社会福祉概論			担当者	須川 重光						
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆								
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)						
学習目標 社会福祉の基本的理念、視座、社会での役割を理解する。 社会福祉に関連する諸問題を学び、自らの生活との関わりを考える。 社会福祉の基本的な体系を説明しながら、社会福祉歴史、現在、将来を考えていきます。特に社会保障における福祉財源は枯渇状態であるため、今後も福祉性を守っていくためにはどのような方策が必要なのかも考察していきます。 社会福祉関連の事例を紹介し、受講生同士のディスカッションを通して理解を深めていきます。															
学習の進め方 基本的にはPPTを使用した講義形式となります。簡単な体験等を交えながら授業を進めていきます。 受講生同士のディスカッションを多く取り入れ他者の意見を広く取り入れられるよう考慮します。															
授業時間外学習 ・関連したサイトの閲覧を奨めます。 ・配布したプリントにもう一度目を通しておくこと。															
学習内容	概要								課題						
	第1回 社会福祉とは何か(イメージ・社会福祉の概念) 社会福祉とはどうのようなものかを受講者同士のイメージより考察する。														
	第2回 社会福祉原理 障害者福祉の基本理念、基本的人権の尊重、ノーマライゼーション、インクルージョンについて学ぶ														
	第3回 社会保障制度の概要 我が国における社会保障制度についてを概要を理解する。														
	第4回 諸外国の社会保障(福祉) スウェーデン・イギリスの社会保障(福祉)について学ぶ								小レポート						
	第5回 社会福祉の歴史(日本) 我が国の社会福祉の歴史を学ぶ。								小レポート						
	第6回 社会福祉の動向と課題 核家族・ひとり親・保育問題等の現状と課題														
	第7回 社会福祉の動向と課題 格差社会・貧困、高齢社会の現状と課題														
	第8回 講義のまとめと最終レポート								単位修得試験レポート						
成績評価方法	小レポート(40%) 単位修得試験レポート(40%) 出席、ディスカッションの姿勢等の平常点(20%)で総合的に評価する。														
教科書	なし														
参考書(任意購入)	適宜紹介します。														
必須ソフト・ツール															
備考	活発なディスカッションを望みます。														

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	宗教学			担当者	長谷川 琢哉			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	日本人は「宗教オンチ」であるとか、「宗教嫌い」であるとよく言われます。特に特定の宗教を深く信仰していない人は宗教に対して良くないイメージを持つことが多いのではないかでしょうか。しかしその反面、お正月、お盆、クリスマスなど、私たちの日常生活には本来宗教的な意味をもつ行事、習慣などが数多く存在します。また現代の世界情勢を知るためにには、宗教の理解は欠かせません。そもそも宗教は人間の生や死と密接に関わるものであり、私たちの生活から完全に排除することは不可能なものです。なんとなく否定的なイメージを持つだけの宗教理解は貧困で不十分なものではないでしょうか。そこで本講義では、宗教について様々な角度からあらためて考えることを目標とします。本講義では現代社会において宗教が問題になる色々な場面が扱われます。それについて受講者の一人一人が問題の所在を把握し、自分で考えるようになることが本授業の最終的な目標です。											
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は教科書を中心とした学習と、確認テスト、小レポート、単位修得試験レポートによって構成されています。 ・学習の際にはひとつひとつの課題を順番に進めてください。 											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活の中から宗教的事象について考えること。 ・関連の参考文献に目を通すこと。 ・興味をもった問題については、新聞・テレビ・映画・マンガ・インターネット等メディアを通して幅広く情報を集めること。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回(序章) 宗教学への入り口											
	宗教を学問的に考えるということ											
	・「自分と宗教との関わり」、「日本人は無宗教か」など											
	第2回(第1章) 生と死の意味を問う											
	生や死という事柄について、宗教はどのようにとらえているのか											
	・「いのちの尊さ」、「妊娠中絶問題」、「脳死判定」、「ホスピス」など											
	第3回(第2章) 生命の循環と継承											
	いのちや世代の循環。環境、家族、共同体における宗教について											
	・「環境問題」、「人間形成と宗教」、「心の教育」など											
	第4回(第3章) 救いと癒しの現場											
	人間の悩みや苦しみに宗教はどのように答えているのか								確認テスト			
	・「癒しと宗教」、「宗教性と靈性」、「宗教とボランティア」など											
	第5回(第4章) 差別・暴力・権力と宗教											
	宗教と差別、暴力、権力などの関係を色々な角度から考えてみる											
	・「男性性と女性性」、「宗教と紛争」、「テロリズム」、「宗教 NGO」など											
	第6回(第5章) 政治と宗教の相克											
	宗教と政治はどのように関係しているのか								確認テスト			
	・「靖国問題」、「慰霊」、「アメリカの公共宗教」、「パレスチナ問題」など											
	第7回(第6章) 現代社会における宗教								確認テスト			
	現代社会・消費社会における宗教の諸相								第1回小レポート			
	・「カルト」、「原理主義」、「メディアと宗教」、「スピリチュアル」など											
	第8回(第7章) 宗教における実践											
	身をもって生きられた宗教を考える											
	・「祈りと瞑想」、「祭祀と儀礼」、「修行」、「伝道」、「シャーマン」など											
	第9回(第8章) 宗教における言葉								確認テスト			
	言葉という角度から宗教をとらえる											
	・「言霊」、「神話と物語」、「教義と神学」、「声と文字」など											
	第10回(第10章) 宗教における本質と規範								確認テスト			
	「あるべき」宗教の規定とその問題点について								第2回小レポート			
	・「神秘主義」、「戒律と禁欲」、「宗教の普遍性」、「宗教の本質」など											
	第11回(第12章) 「宗教」概念と宗教学											
	「宗教」という概念と「宗教学」という学問の成立について											
	・「『宗教』概念の近代性」、「宗教と科学」、「宗教比較の方法」など											
	第12回(第13章) 宗教を心理において問う											
	「心理」という角度から宗教を考える								確認テスト			
	・「宗教体験」、「宗教心理学」、「強さと弱さ」、「臨死体験」など											
	第13回(第15章) 宗教を思想において問う											
	宗教を思想的に考える											
	・「宗教多元論」、「ポストモダンと仏教」、「無神論」、「神義論」など											
	第14回(第16章) 新しい問いと宗教学											
	20世紀後半以降の「知」と宗教学の動向								確認テスト			
	・「ポストコロニアリズム」、「フェミニズム」、「オリエンタリズム」など											
	第15回(終章) 宗教学の実践											
	宗教を学ぶということの難しさや危険性											
	・「他者の宗教とどう関わるのか」など											
成績評価方法	単位修得試験レポート(70%) 小レポート3回(30%)											

教科書	<p>著書『宗教学 キーワード』 著者 島薗進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子[編] 出版社 有斐閣 出版年度 2011年4月30日 初版 ISBN 9784641058835</p>
参考書(任意購入)	参考図書は教科書の各章の最後に多く挙げられていますので、興味がある方は自分で読んでみましょう。
必須ソフト・ツール	
備考	

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	障害児・障害者心理学			担当者	楠 敬太																													
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★																															
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—																													
学習目標	<p>障害分類や障害の捉え方についての変遷を体系的に把握することで、障害について医療モデルと社会モデルの考え方を類別できるようになる。</p> <p>発達の最近接領域を理解しつつ、障害児(者)教育の変遷を知ることで、現代における障害児(者)教育にどのような課題があるかを踏まえ、学校教育の場における基礎的環境整備と合理的配慮について具体的な内容を考案し、説明することができるようになる。</p> <p>障害の概要と障害受容のプロセスについて理解し、本人や家族の心理に留意することの重要性を考慮することで、支援の方法について具体的な計画を立案することができるようになる。</p> <p>学校心理学における第1次、第2次、第3次援助サービスの内容とヘルパーの役割を理解することで、個々の障害特性に応じどのようなリソース(資源)を用いれば、どのような効果が期待できるかについて整理し、個に応じた内容から集団・環境に及ぶ内容まで、多角的な支援の手立てを立案することができるようになる。</p> <p>様々な障害の定義と障害児(者)の心理・行動特性・支援の実際について理解することで、それぞれの個に応じる必要性を踏まえ、様々な支援方法から適切なものを選択して、提案することができるようになる。</p> <p>障害児(者)の社会参加を促進することについて、これまでの講義で得られた知識を体系的に整理し、障害者の権利に関する条約を引用しながら自らの考えを述べることができるようになる。</p>																																					
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。配布資料に目を通し、学習の流れについて見通しを持っておくこと。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。事後学習として知識や用語の理解だけではなく、実際的な支援の方法等について考察しておくこと。</p>																																					
授業時間外学習																																						
学習内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>概 要</th> <th>課 題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 障害の概念 障害分類や障害の捉え方について習得することを目標とし、世界保健機構(WHO)による国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への転換を踏まえ、近年の障害児・障害者を取り巻く国内外の動向について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第2回 障害児・障害者の発達と教育 障害児(者)の発達について理解を深めることを目標とし、ヴィゴツキーによる発達の最近接領域の考え方を踏まえつつ、障害児(者)の教育の変遷について学習する。</td><td>レポート</td></tr> <tr> <td>第3回 障害理解・障害受容と家族支援 障害をどのように理解し、どのように受け止めいくのかについて理解することを目標とし、障害の理解及び受容の心理的なプロセスと障害児・障害者本人や家族への支援について学習する。</td><td>ディスカッション</td></tr> <tr> <td>第4回 障害児・障害者への心理的援助 障害児・障害者の心理的援助について習得することを目標とし、学校心理学における援助サービスの構造的な理解と様々なヘルパー(援助者)の役割を学習する。</td><td>レポート</td></tr> <tr> <td>第5回 聴覚障害について 聴覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、聴覚障害の定義を踏まえ、聴覚障害児(者)の心理・行動特性及び聴覚障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第6回 視覚障害について 視覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、視覚障害の定義を踏まえ、視覚障害児(者)の心理・行動特性及び視覚障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第7回 肢体不自由について 肢体不自由児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、肢体不自由の定義を踏まえ、肢体不自由児(者)の心理・行動特性及び肢体不自由児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第8回 病弱について 病弱児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、病弱の定義を踏まえ、病弱児(者)の心理・行動特性及び病弱児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第9回 知的障害・発達障害の理解と定義方法 知的及び発達障害の概要を把握することを目標とし、精神疾患に関する診断と統計マニュアル(DSM)や国際疾病分類(ICD)に基づき、知的障害及び発達障害の定義について学習する。</td><td>レポート</td></tr> <tr> <td>第10回 知的障害について 知的障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、知的障害の定義を踏まえ、知的障害児(者)の心理・行動特性及び知的障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第11回 学習障害(LD)について 学習障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、学習障害の定義を踏まえ、学習障害児(者)の心理・行動特性及び学習障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第12回 注意欠如多動性障害(ADHD)について 注意欠如多動性障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、注意欠如多動性障害の定義を踏まえ、注意欠如多動性障害児(者)の心理・行動特性及び注意欠如多動性障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第13回 自閉症スペクトラム障害について 自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、自閉症スペクトラム障害</td><td>確認テスト</td></tr> </tbody> </table>									概 要	課 題	第1回 障害の概念 障害分類や障害の捉え方について習得することを目標とし、世界保健機構(WHO)による国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への転換を踏まえ、近年の障害児・障害者を取り巻く国内外の動向について学習する。	確認テスト	第2回 障害児・障害者の発達と教育 障害児(者)の発達について理解を深めることを目標とし、ヴィゴツキーによる発達の最近接領域の考え方を踏まえつつ、障害児(者)の教育の変遷について学習する。	レポート	第3回 障害理解・障害受容と家族支援 障害をどのように理解し、どのように受け止めいくのかについて理解することを目標とし、障害の理解及び受容の心理的なプロセスと障害児・障害者本人や家族への支援について学習する。	ディスカッション	第4回 障害児・障害者への心理的援助 障害児・障害者の心理的援助について習得することを目標とし、学校心理学における援助サービスの構造的な理解と様々なヘルパー(援助者)の役割を学習する。	レポート	第5回 聴覚障害について 聴覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、聴覚障害の定義を踏まえ、聴覚障害児(者)の心理・行動特性及び聴覚障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第6回 視覚障害について 視覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、視覚障害の定義を踏まえ、視覚障害児(者)の心理・行動特性及び視覚障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第7回 肢体不自由について 肢体不自由児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、肢体不自由の定義を踏まえ、肢体不自由児(者)の心理・行動特性及び肢体不自由児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第8回 病弱について 病弱児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、病弱の定義を踏まえ、病弱児(者)の心理・行動特性及び病弱児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第9回 知的障害・発達障害の理解と定義方法 知的及び発達障害の概要を把握することを目標とし、精神疾患に関する診断と統計マニュアル(DSM)や国際疾病分類(ICD)に基づき、知的障害及び発達障害の定義について学習する。	レポート	第10回 知的障害について 知的障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、知的障害の定義を踏まえ、知的障害児(者)の心理・行動特性及び知的障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第11回 学習障害(LD)について 学習障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、学習障害の定義を踏まえ、学習障害児(者)の心理・行動特性及び学習障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第12回 注意欠如多動性障害(ADHD)について 注意欠如多動性障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、注意欠如多動性障害の定義を踏まえ、注意欠如多動性障害児(者)の心理・行動特性及び注意欠如多動性障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第13回 自閉症スペクトラム障害について 自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、自閉症スペクトラム障害	確認テスト	
概 要	課 題																																					
第1回 障害の概念 障害分類や障害の捉え方について習得することを目標とし、世界保健機構(WHO)による国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への転換を踏まえ、近年の障害児・障害者を取り巻く国内外の動向について学習する。	確認テスト																																					
第2回 障害児・障害者の発達と教育 障害児(者)の発達について理解を深めることを目標とし、ヴィゴツキーによる発達の最近接領域の考え方を踏まえつつ、障害児(者)の教育の変遷について学習する。	レポート																																					
第3回 障害理解・障害受容と家族支援 障害をどのように理解し、どのように受け止めいくのかについて理解することを目標とし、障害の理解及び受容の心理的なプロセスと障害児・障害者本人や家族への支援について学習する。	ディスカッション																																					
第4回 障害児・障害者への心理的援助 障害児・障害者の心理的援助について習得することを目標とし、学校心理学における援助サービスの構造的な理解と様々なヘルパー(援助者)の役割を学習する。	レポート																																					
第5回 聴覚障害について 聴覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、聴覚障害の定義を踏まえ、聴覚障害児(者)の心理・行動特性及び聴覚障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第6回 視覚障害について 視覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、視覚障害の定義を踏まえ、視覚障害児(者)の心理・行動特性及び視覚障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第7回 肢体不自由について 肢体不自由児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、肢体不自由の定義を踏まえ、肢体不自由児(者)の心理・行動特性及び肢体不自由児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第8回 病弱について 病弱児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、病弱の定義を踏まえ、病弱児(者)の心理・行動特性及び病弱児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第9回 知的障害・発達障害の理解と定義方法 知的及び発達障害の概要を把握することを目標とし、精神疾患に関する診断と統計マニュアル(DSM)や国際疾病分類(ICD)に基づき、知的障害及び発達障害の定義について学習する。	レポート																																					
第10回 知的障害について 知的障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、知的障害の定義を踏まえ、知的障害児(者)の心理・行動特性及び知的障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第11回 学習障害(LD)について 学習障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、学習障害の定義を踏まえ、学習障害児(者)の心理・行動特性及び学習障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第12回 注意欠如多動性障害(ADHD)について 注意欠如多動性障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、注意欠如多動性障害の定義を踏まえ、注意欠如多動性障害児(者)の心理・行動特性及び注意欠如多動性障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第13回 自閉症スペクトラム障害について 自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、自閉症スペクトラム障害	確認テスト																																					
学習内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>概 要</th> <th>課 題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 障害の概念 障害分類や障害の捉え方について習得することを目標とし、世界保健機構(WHO)による国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への転換を踏まえ、近年の障害児・障害者を取り巻く国内外の動向について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第2回 障害児・障害者の発達と教育 障害児(者)の発達について理解を深めることを目標とし、ヴィゴツキーによる発達の最近接領域の考え方を踏まえつつ、障害児(者)の教育の変遷について学習する。</td><td>レポート</td></tr> <tr> <td>第3回 障害理解・障害受容と家族支援 障害をどのように理解し、どのように受け止めいくのかについて理解することを目標とし、障害の理解及び受容の心理的なプロセスと障害児・障害者本人や家族への支援について学習する。</td><td>ディスカッション</td></tr> <tr> <td>第4回 障害児・障害者への心理的援助 障害児・障害者の心理的援助について習得することを目標とし、学校心理学における援助サービスの構造的な理解と様々なヘルパー(援助者)の役割を学習する。</td><td>レポート</td></tr> <tr> <td>第5回 聴覚障害について 聴覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、聴覚障害の定義を踏まえ、聴覚障害児(者)の心理・行動特性及び聴覚障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第6回 視覚障害について 視覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、視覚障害の定義を踏まえ、視覚障害児(者)の心理・行動特性及び視覚障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第7回 肢体不自由について 肢体不自由児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、肢体不自由の定義を踏まえ、肢体不自由児(者)の心理・行動特性及び肢体不自由児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第8回 病弱について 病弱児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、病弱の定義を踏まえ、病弱児(者)の心理・行動特性及び病弱児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第9回 知的障害・発達障害の理解と定義方法 知的及び発達障害の概要を把握することを目標とし、精神疾患に関する診断と統計マニュアル(DSM)や国際疾病分類(ICD)に基づき、知的障害及び発達障害の定義について学習する。</td><td>レポート</td></tr> <tr> <td>第10回 知的障害について 知的障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、知的障害の定義を踏まえ、知的障害児(者)の心理・行動特性及び知的障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第11回 学習障害(LD)について 学習障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、学習障害の定義を踏まえ、学習障害児(者)の心理・行動特性及び学習障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第12回 注意欠如多動性障害(ADHD)について 注意欠如多動性障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、注意欠如多動性障害の定義を踏まえ、注意欠如多動性障害児(者)の心理・行動特性及び注意欠如多動性障害児(者)への支援について学習する。</td><td>確認テスト</td></tr> <tr> <td>第13回 自閉症スペクトラム障害について 自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、自閉症スペクトラム障害</td><td>確認テスト</td></tr> </tbody> </table>										概 要	課 題	第1回 障害の概念 障害分類や障害の捉え方について習得することを目標とし、世界保健機構(WHO)による国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への転換を踏まえ、近年の障害児・障害者を取り巻く国内外の動向について学習する。	確認テスト	第2回 障害児・障害者の発達と教育 障害児(者)の発達について理解を深めることを目標とし、ヴィゴツキーによる発達の最近接領域の考え方を踏まえつつ、障害児(者)の教育の変遷について学習する。	レポート	第3回 障害理解・障害受容と家族支援 障害をどのように理解し、どのように受け止めいくのかについて理解することを目標とし、障害の理解及び受容の心理的なプロセスと障害児・障害者本人や家族への支援について学習する。	ディスカッション	第4回 障害児・障害者への心理的援助 障害児・障害者の心理的援助について習得することを目標とし、学校心理学における援助サービスの構造的な理解と様々なヘルパー(援助者)の役割を学習する。	レポート	第5回 聴覚障害について 聴覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、聴覚障害の定義を踏まえ、聴覚障害児(者)の心理・行動特性及び聴覚障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第6回 視覚障害について 視覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、視覚障害の定義を踏まえ、視覚障害児(者)の心理・行動特性及び視覚障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第7回 肢体不自由について 肢体不自由児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、肢体不自由の定義を踏まえ、肢体不自由児(者)の心理・行動特性及び肢体不自由児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第8回 病弱について 病弱児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、病弱の定義を踏まえ、病弱児(者)の心理・行動特性及び病弱児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第9回 知的障害・発達障害の理解と定義方法 知的及び発達障害の概要を把握することを目標とし、精神疾患に関する診断と統計マニュアル(DSM)や国際疾病分類(ICD)に基づき、知的障害及び発達障害の定義について学習する。	レポート	第10回 知的障害について 知的障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、知的障害の定義を踏まえ、知的障害児(者)の心理・行動特性及び知的障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第11回 学習障害(LD)について 学習障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、学習障害の定義を踏まえ、学習障害児(者)の心理・行動特性及び学習障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第12回 注意欠如多動性障害(ADHD)について 注意欠如多動性障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、注意欠如多動性障害の定義を踏まえ、注意欠如多動性障害児(者)の心理・行動特性及び注意欠如多動性障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト	第13回 自閉症スペクトラム障害について 自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、自閉症スペクトラム障害	確認テスト
概 要	課 題																																					
第1回 障害の概念 障害分類や障害の捉え方について習得することを目標とし、世界保健機構(WHO)による国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への転換を踏まえ、近年の障害児・障害者を取り巻く国内外の動向について学習する。	確認テスト																																					
第2回 障害児・障害者の発達と教育 障害児(者)の発達について理解を深めることを目標とし、ヴィゴツキーによる発達の最近接領域の考え方を踏まえつつ、障害児(者)の教育の変遷について学習する。	レポート																																					
第3回 障害理解・障害受容と家族支援 障害をどのように理解し、どのように受け止めいくのかについて理解することを目標とし、障害の理解及び受容の心理的なプロセスと障害児・障害者本人や家族への支援について学習する。	ディスカッション																																					
第4回 障害児・障害者への心理的援助 障害児・障害者の心理的援助について習得することを目標とし、学校心理学における援助サービスの構造的な理解と様々なヘルパー(援助者)の役割を学習する。	レポート																																					
第5回 聴覚障害について 聴覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、聴覚障害の定義を踏まえ、聴覚障害児(者)の心理・行動特性及び聴覚障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第6回 視覚障害について 視覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、視覚障害の定義を踏まえ、視覚障害児(者)の心理・行動特性及び視覚障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第7回 肢体不自由について 肢体不自由児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、肢体不自由の定義を踏まえ、肢体不自由児(者)の心理・行動特性及び肢体不自由児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第8回 病弱について 病弱児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、病弱の定義を踏まえ、病弱児(者)の心理・行動特性及び病弱児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第9回 知的障害・発達障害の理解と定義方法 知的及び発達障害の概要を把握することを目標とし、精神疾患に関する診断と統計マニュアル(DSM)や国際疾病分類(ICD)に基づき、知的障害及び発達障害の定義について学習する。	レポート																																					
第10回 知的障害について 知的障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、知的障害の定義を踏まえ、知的障害児(者)の心理・行動特性及び知的障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第11回 学習障害(LD)について 学習障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、学習障害の定義を踏まえ、学習障害児(者)の心理・行動特性及び学習障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第12回 注意欠如多動性障害(ADHD)について 注意欠如多動性障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、注意欠如多動性障害の定義を踏まえ、注意欠如多動性障害児(者)の心理・行動特性及び注意欠如多動性障害児(者)への支援について学習する。	確認テスト																																					
第13回 自閉症スペクトラム障害について 自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、自閉症スペクトラム障害	確認テスト																																					

	<p>の定義を踏まえ、自閉症スペクトラム障害児(者)の心理・行動特性及び自閉症スペクトラム障害児(者)への支援について学習する。</p> <p>第14回 心の理論と自閉症スペクトラム障害</p> <p>自閉症スペクトラム障害の特性をさらに詳細に把握することを目標とし、バロン・コーベンによる「心の理論」課題の概要を踏まえた自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について学習する。</p> <p>第15回 障害児・障害者の理解とインクルージョン</p> <p>障害児・障害者の社会参画について理解を深めることを目標とし、サラマンカ宣言や障害者の権利に関する条約を踏まえ、インクルーシブ社会の実現に向けた動向について学習する。</p>	
	<p>確認テスト、レポート課題、ディスカッションにおけるコメントの内容、単位修得試験レポートの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストによって知識の定着を測る。 ・レポート課題によって講義で習得したことから考察につなげることができているかを測る。 ・ディスカッションのコメントによって課題に対する応用的な思考力を測る。 ・単位修得試験レポートによって、障害の定義に関する理解度と学校心理学における援助サービスの考え方に関する習熟度を測る。 <p>【A評価】講義の内容を踏まえ、概要について正確に説明できていること。また、具体例を示す等、独自性の高い支援プランが論述できていること。</p> <p>講義内容の引用等を用いながら、課題に応じ、論理的なコメントが書き込まれていること。他者の意見を踏まえ、他者の理解が深まるようなコメントが書き込まれていること。</p> <p>障害の定義・心理・行動特性について正確に説明し、心理的援助を進めるにあたって、具体的かつ社会的に有益と思われる支援プランをそれぞれに立案できていること。</p> <p>【B評価】講義の内容を踏まえ、概要について正確に説明できていること。また、具体性のある支援プランが論述できていること。</p> <p>講義内容を踏まえつつ、課題に応じたコメントが書き込まれていること。他者の意見を踏まえ、さらにコメントが書き込まれていること。</p> <p>障害の定義・心理・行動特性について説明し、心理的援助を進めるにあたって、具体的な支援プランをそれぞれに立案できていること。</p> <p>【C評価】講義の内容を踏まえ、具体性のある支援プランが論述できていること。</p> <p>講義内容を踏まえつつ、課題に応じたコメントが書き込まれていること。</p> <p>障害の定義・心理・行動特性について説明し、それに応じた支援プランを立案できていること。</p> <p>【D評価】規定字数の支援プランが作成できていること。</p> <p>課題に応じたコメントが書き込まれていること。</p> <p>障害の定義・心理・行動特性について説明し、それに応じた支援プランを立案できていること。</p>	レポート
成績評価方法		
教科書	なし	
参考書(任意購入)		
必須ソフト・ツール		
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>『心理学概論』を修得済み、または、その科目のシラバスで示されている内容を学習した経験があり、その内容を十分に理解していること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>	

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	障害者福祉			担当者	須川 重光						
レベルナンバー	400	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆								
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)						
学習目標 障害を有することとはどのようなものかを理解する。 障害者福祉の理念と歴史を理解する。 障害者総合支援法に基づく現行の障害者福祉について理解する。															
学習の進め方 基本的にはPPTを使用した講義形式となります。簡単な体験等を交えながら授業を進めていきます。 受講生同士のディスカッションを多く取り入れ他者の意見を広く取り入れられるよう考慮します。															
授業時間外学習 関連した情報を個々に関心を持ち、様々な媒体から閲覧しておくこと。 講義後は配布したプリントを再度確認すること。															
学習内容	概 要								課 題						
	第1回 障害とは(病気・疾病・障害) 障害とはなにかを病気、疾病、障害の視点から考える														
	第2回 障害者福祉の基本理念と定義 障害者福祉の基本理念、基本的人権の尊重、ノーマライゼーション、インクルージョンについて学ぶ。														
	第3回 障害者福祉と法(歴史的変遷) 我が国における障害者福祉の歴史を学ぶ。														
	第4回 障害者総合支援法 現在の障害者に対する中心的な法である障害者総合支援法の概略について学ぶ。								小レポート						
	第5回 身体障害者と福祉 身体障害の状態、生活のし辛さ、支援方法について学ぶ								小レポート						
	第6回 精神障害者と福祉 精神障害の状態、生活のし辛さ、支援方法について学ぶ														
	第7回 発達障害・知的障害者の福祉 発達障害の状態、生活のし辛さ、支援方法について学ぶ														
	第8回 講義のまとめと最終レポート								単位修得試験レポート						
	成績評価方法 小レポート(40%) 単位修得試験レポート(40%) 出席、ディスカッションの姿勢等の平常点(20%)で総合的に評価する。														
教科書	なし														
参考書(任意購入)	適宜紹介します。														
必須ソフト・ツール															
備考	活発なディスカッションを望みます。														

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン			授業科目名	生涯発達心理学			担当者	松並 知子			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標												
<ul style="list-style-type: none"> ・人間をライフサイクルの観点から広く捉える視野を養う ・人間発達の本質を深く考えようとする姿勢を身につける ・自らの心の成長とアイデンティティの確立を模索・確認する 												
学習の進め方												
<p>本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。ただし、教科書をよく読んで取りくむこと。デジタル教材の中で教科書のページや図表を参照する指示がある場合は、必ず確認をして下さい。また、デジタル教材では取り扱わない情報も掲載されていますのでよく読んで学習に臨んで下さい。各回ごとに課題として確認テストがありますので、確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。</p>												
授業時間外学習												
<ul style="list-style-type: none"> ・学習をはじめるときには必ず、各回の教科書の該当箇所を熟読してから学習を進めてください。 ・心理学に関連する専門書を活用すること。 ・参考図書で自己学習することと、ノートを取りながら受講することを推奨します。 ・受講後のレポートでは、「レポートの書き方」をよく読むことと、納得できるまで取り組むこと。 												
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 はじめに オリエンテーションと生涯発達心理学の概要を理解する								確認テスト			
	第2回 人はどこまで発達するのか 一生涯発達の考え方ー 人生は誕生から死までの継続した流れの中で発達していくものであることを理解する								確認テスト			
	第3回 赤ちゃんの誕生 赤ちゃんの持つかかわり能力とその発達を理解する								確認テスト			
	第4回 愛着関係の発達 一かかわりのなかで育つ心ー かかわりの中で育つ愛着が対人関係に与える影響を考える								確認テスト			
	第5回 自己と情動の発達 自己意識の発達と情動の芽生え、さらには情動調整の発達について学ぶ								確認テスト			
	第6回 知的発達 一その意味と保育者のかかわりー 幼児期にめざましい発達を遂げる知的能力について、いくつかの理論を紹介しながら、その発達のメカニズムを理解する								確認テスト			
	第7回 遊びと仲間作りを支える心の発達 就学後の仲間関係や仲間遊びの展開をも視野に入れて、子どもたちの保育にあたる者としての心構えを育てる								確認テスト			
	第8回 社会性の発達 一思いやる心ー 幼児期において社会性の問題がどのようにとらえられているのか把握し、共感性、他者理解、道徳心の芽生えなど、幼児期を中心とした理論や研究を理解できるようになる								確認テスト			
	第9回 異文化と子どもの発達 多文化化する現代社会において子どもの育ちについて文化間の違いを学び、国際結婚家庭の子育て観について理解すること								確認テスト			
	第10回 大人への芽生え 一思春期の心の発達と問題ー 身体的変化と共に心理的変化が出現する思春期の特徴を概観し、この時期に見られる心理的危機とその発生のメカニズムを理解する								確認テスト			
	第11回 大人になること 一自我同一性の獲得ー エリクソンの理論に基づいて、高校生後半から成人期30歳くらいまでの範囲で、自我同一性に関する理論を学ぶ								確認テスト			
	第12回 キャリア発達とその支援 人生におけるキャリア発達を、職業選択だけにとどまらず、生涯発達的な視点から自らの能力や対人関係なども含め、考えていけるようになること								確認テスト			
	第13回 親となること 初めて子どもをもつ親の心の動きをいつかの視点から見て、本当の意味で親になることについて学ぶ								確認テスト			
	第14回 老いを迎えること 高齢期の肯定的な側面にも着目し、生きがいを持って人生を生きていく事、人生の意味をその人なりに見出すことの大切さを理解できるようになる								確認テスト			
	第15回 まとめ これまでの内容をふまえて、科目のまとめを行う								確認テスト			
成績評価方法	平常点(60%)は、第1回～第14回に実施する各回の確認テストの結果によって決まる。 単位修得試験は(40%)の配分とする。											
教科書	著書『新時代の保育双書 発達心理学 子どもの発達と子育て支援』 著者 青木紀久代編 出版社 みらい 出版年度 2011年4月20日 ISBN 9784860151058											

参考書(任意購入)	
必須ソフト・ツール	
備考	

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	情報活用 I (基礎)			担当者	本田 直也、野波 侑里、奥村 紀之			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	第1回から第14回まですべて受講していることを単位修得試験受験資格とする。			単位修得試験 実施方法	現地試験(課題)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	大学生活のあらゆる場面に対して身につけておくべきコンピュータの基礎的な活用能力を養う。本学での授業参加に不可欠なコンピュータの適切な利用方法を学ぶ。ワープロソフトでのレポート作成、表計算ソフトを用いた数値の集計やグラフ等の図解表現、スライド作成ソフトでのプレゼンテーション資料の作成などの基礎能力を習得する。											
学習の進め方	本授業は、本学さくら夙川キャンパスにてパソコンを用いて実践形式で学習を行います。スクーリング日程表を確認して、受講の申込みを行ってください。また、スクーリングへの参加前に事前学習として基礎的なタイピング能力を身につけておいてください(備考欄を参照)。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な授業で課されるレポート課題(アカデミックライティング)に必要なWordの機能を実践的に用いてみる。 ・実際のデータを用いたデータ入力および集計と、グラフを描き適切な加工を行い表現してみる。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 文字入力、基本操作 学内ネットワークの利用方法、テキストエディタでの文字入力、印刷、ファイルの保存、ネットワークドライブの利用等の演習を行い、大学生活において最低限必要なコンピュータ操作を習得する。											
	第2回 Word その1 文書作成に有用なWordについて学習する。基礎的なスキルとして、画面構成の把握、文字の入力・装飾、罫線の挿入などを習得に向けた演習を行う。											
	第3回 Word その2 Wordにて論理的で伝わりやすい文書作成を行う際に必要となる、「表」の作成・編集の基礎、および「クリップアート」や「図」などの挿入・編集の基礎を学習する。											
	第4回 Word その3 タブやインデント等のレイアウトに関するテクニックを学習する。											
	第5回 Word その4 これまでの学習のまとめとして、指示に基づいた資料作成の演習を行う。								Wordによるパンフレット作成			
	第6回 Excel その1 データの整理・計算に有用なExcelについて学習する。Excelの基礎的スキルとして、画面構成の把握、値の入力・訂正、式数の入力による計算を学習する。											
	第7回 Excel その2 絶対参照と相対参照について学習する。											
	第8回 Excel その3 基本的な組み込み関数などを習得するための演習を行い、Excelを用いたあらゆるデータの効果的・論理的な整理や計算についての演習を行う。											
	第9回 Excel その4 および視覚的な表現を行うために必要となる、表の作成・編集(書式、移動と複写など)とグラフの作成・編集についての演習を行う。											
	第10回 Excel その5 Excelを使用した総合的な演習を行う。								Excelについての課題			
	第11回 PowerPoint その1 プレゼンテーションに有用なツールであるPowerPointについて学習する。PowerPointの基礎的スキルとして、画面構成の把握、文字入力・装飾、スライド構成の編集、デザイン変更、オブジェクトの挿入などを習得するための演習を行う。											
	第12回 PowerPoint その2 Word, Excelと連動させたPowerPointの操作について学習する。											
	第13回 複合課題 その1 これまでに習得した内容を総合的に活用するような複合課題に取り組む。											
	第14回 複合課題 その2 第13回と同じく複合課題に取り組む。											
	第15回 まとめ 第13回と同じく複合課題に取り組む。								単位修得試験実施			
成績評価方法	授業態度(20%)、提出課題(30%)、課題単位修得試験の結果(50%)により総合評価する。											
教科書	著書『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラル』 著者 noa出版 出版社 noa出版 出版年度 2014年											
参考書(任意購入)												

必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint
備考	<p>受講者上限人数 演習 40 名 本授業は全員で足並みを揃えながら課題を解き学習を進めていきます。パソコンの操作や入力に手間取って遅れないように、最低限の文字入力スキルを身につけておいてください。特別な事情を抱えており修得が困難な場合は個別に連絡ください。</p> <p>【文字入力】 日本語文章 300 文字を 10~15 分程度で入力できることが望ましいです。参考までに 300 文字の日本語文章入力サンプルを紹介します。</p> <p>全国商業高等学校協会主催の「ビジネス文書実務検定試験」では、入力速度を測定する試験問題の過去問題を公開しています。下記のサイトより 3 級検定問題の速度問題を開き、お試しください。(2018 年 1 月 15 日アクセス)</p> <p>http://www.zensho.or.jp/puf/examination/pastexams/bido.html</p> <p>入力練習は、市販のタイピングソフト、タイピング練習 Web サイト等、何を利用いただいても構いません。おすすめの練習サイトは下記マイタイピングです。 (2018 年 1 月 15 日アクセス)</p> <p>ひよこでも出来るタイピング練習講座(マイタイピング) https://typing.twi1.me/training</p> <p>ゲーム性の高いタイピング練習ソフトは楽しいのですが、あまり向上や修得には繋がりません。それらはあくまでタイピング能力を用いた娯楽として利用し、練習は基礎的なトレーニングを行った方が上達しますよ。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	情報活用Ⅱ(応用)			担当者	本田 直也			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	第1回から第14回まですべて受講していることを単位修得試験受験資格とする。			単位修得試験 実施方法	現地試験(課題)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	実社会においてICT(情報通信技術)を実践的に利活用するために必要な力として、情報の収集力、情報を効率的に扱うための整理力、情報を分析するための論理的思考力、その結果を他者に伝わるように表現するためのプレゼンテーション、等について習得する。											
学習の進め方	本授業は、本学さくら夙川キャンパスにてパソコンを用いて実践形式で学習を行います。スクーリング日程表を確認して、受講の申込みを行ってください。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な情報セキュリティ状態を保つことができるようになるために、自身のコンピュータの情報セキュリティ対策をしっかりと行う。 ・表計算ソフト上で扱うデータベース形式により、何らかの実際のデータを入力し、データ管理を行ってみる。 ・単位修得試験のプレゼンテーションに向けて、テーマに関する情報収集や全体構成の考案など、発表本番に向けて必要な準備を行う。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 情報検索 発展し続ける情報化社会を生きる上で特に重要なインターネットにおける情報の性質とそれを利用した情報収集の方法について、演習を通し実践的に習得する。											
	第2回 情報運用 情報を正しく安全に運用するために必要な知識とスキルの習得を目標とし、インターネットを利活用する上で身につけておかねばならないモラルやマナー、またセキュリティについて学習する。											
	第3回 数値分析 その1 多種多様なデータを論理的に扱うために必要な数値化の方法を学び、それを基にした計算・分析の手法として、情報活用Ⅰ(基礎)で習得したExcelによる計算方法(関数など)と分析手法とを演習を通して習得する。											
	第4回 数値分析 その2 第3回に引き続き数値分析について学習する。											
	第5回 数値分析 その3 第3回、第4回に引き続き数値分析について学習する。								学習内容に基づく課題 を出題			
	第6回 データベース データの整理や蓄積、抽出を効果的に行うためのデータベースの利用について学習する。データベースの基礎となるリスト構造の理解と、Excelにおけるその表現方法、および並べ替え・抽出・データの挿入・削除などの基礎的スキルを習得する。											
	第7回 ファイル・データ管理 ファイルの取り扱い方について学習する。ファイルについての知識、効率的な作業を行うためのファイルの整理方法(ファイルの命名法、フォルダによる構造化など)、ファイルの共有方法などについて演習を通して習得する。											
	第8回 インターネットコミュニケーション その1 インターネットを通したコミュニケーションツールとして代表的なメールや掲示板の利用に関するルールとマナーを実践的に習得する。											
	第9回 インターネットコミュニケーション その2 Webサイトの仕組みとhtmlの簡単な作成方法等について学ぶ。											
	第10回 文書表現 他者に誤解なく伝わるような、論理的な文章を作成するためのスキルを習得する。良い文章表現の特徴(語彙の選択、語順、レイアウト等)を学び、実際に文書の修正・作成を行うことでスキルを体得する。								学習内容に基づく課題 を出題			
	第11回 ビジュアル表現 文書表現と対をなす表現方法として、視覚に訴えるビジュアル表現について学習する。論文等に不可欠な図解表現、よいプレゼンテーションに必要な配色・図形の特徴などについて演習する。											
	第12回 プrezentation その1 これまでに学習した「情報の収集、分析、整理、表現」の力をもとに、あるテーマについて「他者に効果的に伝える」ためのプレゼンテーションの基礎を学ぶ。その後、第13回の発表に向けてプレゼンテーションの資料作成(PowerPoint)を行う。											
	第13回 プrezentation その2 第12回に引き続きプレゼンテーションの資料作成を行う。											
	第14回 プrezentation その3 第11回・第12回で準備したPowerPointの資料をもとに発表を行う。											
	第15回 まとめ								単位修得試験実施			
成績評価方法	授業態度(20%)、提出課題(30%)、課題単位修得試験の結果(50%)により総合評価する。											
教科書	著書『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』 著者 noa 出版編											

	出版社 noa 出版 出版年度 2011 年
参考書(任意購入)	
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint
備考	<p>受講者上限人数 演習 40 名 情報活用 I(基礎)で学習する内容の修得を前提条件とします。受講済みの方はよく復習しておくこと。未受講の方は独自で修得すること。</p> <p>本授業を受講した成果測定のひとつとして、情報活用力を診断するテスト「Rasti」の受験(費用は学生負担)を推奨する。「Rasti」の詳細は授業中に紹介予定。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	情報機器プレゼンテーション			担当者	佐々木 英洋
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	本授業では、情報機器を活用したプレゼンテーション技法とその能力の習得を目的とする。プレゼンテーションソフトの基本的操怍に加え、文章をチャートで表現したりして、ビジュアルなスライドを作成する。自己の考え方や企画を情報機器の特性を活かし、効果的に表現する演習を行う。また、他のプレゼンテーション関連の講義科目とも連携を図り、その知識を十分活用し、より効果的なプレゼンテーションを可能にする知識を身につける内容とする。								
学習の進め方	オンデマンド教材を通してプレゼンテーションの概要・PowerPointを使ったスライド作成の技法・より効果的なプレゼンテーション技法について学び、スライド作成の課題を通してスライド作成・プレゼンテーション技法の包括的な理解を行う。各回の確認テストはすべて受験すること。自分だったらどのようにプレゼンテーションを行うかを意識しながら学習をすることを勧める。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、コンピュータ、PowerPoint の基本操作について文献等で調べておくこと。また、プレゼンテーションについて書籍等で調べておくこと。 ・新聞・雑誌・ニュース等でプレゼンテーション技法がどのように生かされているかを調べ、理解すること。 								
学習内容	概 要								課 題
	第1回 ガイダンス プレゼンテーションの概要の基本について理解を深める。								確認テスト
	第2回 スライドの作成1 PowerPoint のファイル構成・画面構成、スライドの作成、スライドのデザインについて学ぶ。								確認テスト スライド作成
	第3回 スライドの作成2 表組み・グラフの概要について学び、スライドに表組み・グラフを挿入する方法について学ぶ。								確認テスト スライド作成
	第4回 スライドの作成3 図形・オブジェクトの概要について学び、スライドに図形・オブジェクトを挿入する方法について学ぶ。								確認テスト
	第5回 効果的に伝えるコンテンツ作成の手法1 スライド作成のテクニック(図解化)、スマートアートの利用について学ぶ。								確認テスト
	第6回 効果的に伝えるコンテンツ作成の手法2 スライド作成のテクニック(箇条書き・表・グラフ)について学ぶ。								確認テスト スライド作成
	第7回 中間まとめ 第1回～第6回の内容に関する内容でまとめのテストを行う。								確認テスト
	第8回 文字や图形のアニメーションの活用、スライドショー スライドにアニメーション効果の追加を行う方法を学ぶ。								確認テスト
	第9回 スライド画面の切り替え 画面切り替え効果の追加、スライドの印刷、スライドショーの実行について学ぶ。								確認テスト スライド作成
	第10回 効果的な情報プレゼンテーション作成のコツ プレゼンテーションの評価の視点・ポイント、スライド作成のポイント・注意点について学ぶ。								確認テスト
	第11回 効果的なプレゼンテーション手法のコツ プレゼンテーションの実際について学ぶ。								確認テスト スライド作成
	第12回 スライド作成実践編1 学校紹介のプレゼンテーションの際のポイント、実際のスライド作成、発表の実践について学ぶ。								確認テスト
	第13回 スライド作成実践編2 企画の立て方・まとめ方・プレゼンテーションの実践について学ぶ。								確認テスト スライド作成
	第14回 プrezentテーションを実施するにあたっての法規・モラル 個人情報の保護・著作権の保護・プライバシーの保護について学ぶ。								確認テスト
成績評価方法	確認テスト[第7回以外:2%×13回](26%) 確認テスト[第7回](20%) 課題提出[4%×6回](24%) 単位修得試験[提出必須](30%)								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	PowerPoint の操作方法に関する書籍(特に指定しない)								
必須ソフト・ツール	Microsoft Office PowerPoint								
備考	このコンテンツは Microsoft Office PowerPoint 2007 をベースに設計されています。								

メジャー(専修)名				授業科目名	情報セキュリティー事例研究			担当者	鳥巣 泰生
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	情報漏えいなどの事例を研究することにより、情報資産に対するいろいろな脅威を分析することが出来るようになり、それらの脅威に対して適切なセキュリティ対策を施すことにより、安全かつ快適に情報資産を利用運用することが出来るようになる。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主に活用して学習を進めます。学習をはじめるときには必ず、各回の学習概要を閲覧してから学習を進めてください。オンデマンド教材の中で参考図書や WEB ページを参照する指示がある場合はもちろん、指示がない場合でも関連する事柄を参考図書やインターネットなどで調べ学習してください。				各回の学習の最後には、課題がありますので、課題を終わらせてから次の回へ進みましょう。				
授業時間外学習	・毎回の授業終わりの確認テストには、授業では解説できなかった資格試験の問題なども出題していますので、授業での知識だけでなく情報セキュリティに興味を持って関連する参考図書やネットサイトを閲覧するなど、独学し研究すること。								
学習内容	概 要								課 題
	第 1 回 情報セキュリティとは何か？ 様々なリスクの存在を知り、それらの対策を踏まえた情報セキュリティの必要性を学習する。								確認テスト、ディスカッション
	第 2 回 ネットワークのしくみ ネットワークの構造を知り、通信プロトコルについて学習する。								確認テスト
	第 3 回 侵入者から身を守ろう 通信プロトコルを利用した不正アクセスの事例を知り、その対策方法を学習する。								確認テスト
	第 4 回 盗聴を防ごう 盗聴の事例を知り、その対策方法を学習する。								確認テスト
	第 5 回 単純なパスワードはすぐに見破られる パスワードの必要性、単純なパスワードの脆弱性を知り、パスワード運用のポイントを学習する。								確認テスト
	第 6 回 Web サイトを守ろう Web サイトを攻撃する手口を知り、その対策を学習する。								確認テスト
	第 7 回 Web サイトを安全に利用しよう Web サイトで個人情報が盗まれる危険性を理解し、安全にやり取りする方法を学習する。								確認テスト
	第 8 回 メールは不正なデータを送りつけるのに最適 メールを使った嫌がらせの手口を知り、対策のポイントを学習する。								確認テスト
	第 9 回 その URL は本当に安全？ Web サイトやメールを使った個人情報の盗み方を知り、情報の取捨選択を学習する。								確認テスト
	第 10 回 ウイルスは怖いもの ウイルスの危険性を知り、予防の方法を学習する。								確認テスト
	第 11 回 コンピュータの外も意識しよう コンピュータの外で個人情報が漏れる可能性を把握し、それらの対策を学習する。								確認テスト
	第 12 回 セキュリティポリシーを持とう 情報セキュリティのポリシーを理解し、PDCA サイクルの重要性を学習する。								確認テスト
	第 13 回 セキュリティの標準規格とルールについて知ろう 情報セキュリティの規格と仕組みを理解し、システム監査の重要性を学習する。								確認テスト
	第 14 回 次世代のセキュリティ技術 情報セキュリティでは、新たな技術が出てくる事を知り、常に情報を集める姿勢が重要である理由を学習する。								確認テスト
	第 15 回 まとめ 14 回の総復習とまとめを行う。								ディスカッション
成績評価方法	ディスカッション(20%)、授業期間内完了(20%)、平常点(各回の確認テスト)(20%)、単位修得試験(40%)								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『情報セキュリティ教本—組織の情報セキュリティ対策実践の手引き』、土居範久監修、独立行政法人情報処理推進機構著、実教出版、2010 年 10 月 15 日 改訂版 『情報セキュリティ読本 四訂版—IT 時代の危機管理入門』、情報処理推進機構(IPA)編著、実教出版、2013 年 1 月								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	資料分析学			担当者	近藤 伸彦			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験の教養(基礎能力)科目のうち、一般知能科目である「判断推理」「空間把握」「数的推理」「資料解釈」における、とくに地方上級をターゲットとしたときの頻出分野において、実際に出題されやすい形式の問題に正しく解答することができる。 ・上の学習目標に示した各科目の学習を通して、資料分析のための次のような基盤的能力を身につける。 <p>【判断推理】与えられたひとまとまりの記述をもとに、論理的な推論を行うことができる。</p> <p>【空間把握】与えられた図形をもとに、幾何学的に正しい推論を行うことができる。</p> <p>【数的推理】数学的に解決できる基本的な課題に対して、適当な数学的方法をもって正しく推論することができる。</p> <p>【資料解釈】与えられた表やグラフを正しく解釈することができる。</p>											
学習の進め方	<p>本授業では、みなさん自身が具体的な問題を解くを中心で学習を進めます。各回のオンデマンド教材では、例題を提示してみなさん自身がまずこれに取り組み、その後解説を視聴して解き方を確認する、という流れの繰り返しを基本とします。ここで学習した内容をもとに各回の最後には4~5問の確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。このように、動画の視聴だけでなく実際にみなさん自身が問題を解きながら学習を進めるため、総合的に多くの学習時間を必要とします。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体もやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、論理的思考により「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。</p>											
授業時間外学習	<p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間違えたり解答につまずいたりした問題を中心に、再度各回の例題や確認テストに取り組み、速く正確に解答できる状態になるまで繰り返しオンデマンド教材を視聴すること。 ・ 公務員試験対策においては、本科目で取り扱う頻出分野について、参考書や問題集等に取り組み、多くの問題に触れることで理解を深めること。また頻出分野以外についても、学習コミュニティ等も活用し、各自対策を行うこと(これは本科目の成績評価には関係しませんが、公務員試験対策として自主的な学習を行うことを推奨します)。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 【判断推理①】順序関係								確認テスト			
	「判断推理」の頻出分野である「順序関係」について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第2回 【判断推理②】対応関係								確認テスト			
	「判断推理」の頻出分野である「対応関係」について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第3回 【判断推理③】論理(命題)								確認テスト			
	「判断推理」の頻出分野である「論理(命題)」について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第4回 【判断推理④】位置関係								確認テスト			
	「判断推理」の頻出分野である「位置関係」について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第5回 【判断推理⑤】数量、手順、その他の判断推理								確認テスト			
	「判断推理」の頻出分野である「数量」および「手順」について、基本的な解法パターンを学ぶ。また、ここまでに学んだもの以外の「判断推理」の各分野の概略を理解する。											
	第6回 【空間把握①】平面图形								確認テスト			
	「空間把握」の頻出分野である「平面图形」について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第7回 【空間把握②】軌跡、立体構成								確認テスト			
	「空間把握」の頻出分野である「軌跡」および「立体構成」について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第8回 【空間把握③】展開図、投影								確認テスト			
	「空間把握」の頻出分野である「展開図」および「投影」について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第9回 【空間把握④】切断・回転・移動、その他の空間把握								確認テスト			
	「空間把握」の頻出分野である「切断」および「回転・移動」について、基本的な解法パターンを学ぶ。また、ここまでに学んだもの以外の「空間把握」の各分野の概略を理解する。											
	第10回 【数的推理①】数と式の計算								確認テスト			
	「数的推理」における、「数と式の計算」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第11回 【数的推理②】方程式・不等式								確認テスト			
	「数的推理」における、「方程式・不等式」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第12回 【数的推理③】割合・比								確認テスト			
	「数的推理」における、「割合・比」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第13回 【数的推理④】速さ・距離・時間								確認テスト			
	「数的推理」における、「速さ・距離・時間」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
	第14回 【数的推理⑤】場合の数・確率、その他の数的推理								確認テスト			
	「数的推理」における、「場合の数・確率」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。また、ここまでに学んだもの以外の「数的推理」の各分野の概略を理解する。											
	第15回 【資料解釈】数表・グラフ								確認テスト			
	「資料解釈」における頻出分野である「数表」および「グラフ」について、基本的な解法パターンを学ぶ。											
成績評価方法	<p>評価材料: 単位修得試験</p> <p>【A評価】</p> <p>85点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題に対して効率よくかつ正しく解答できることに</p>											

	<p>加え、初步的な応用問題にも対応できるレベルである。</p> <p>以下の4種類の能力について総合的に高いレベルに達しており、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を効率よく行うための基盤的能力が十分に備わっている。</p> <p>判断推理: 与えられたひとまとまりの記述をもとに、論理的な推論を行うことができる。</p> <p>空間把握: 与えられた図形をもとに、幾何学的に正しい推論を行うことができる。</p> <p>数的推理: 数学的に解決できる基本的な課題に対して、適当な数学的方法をもって正しく推論することができる。</p> <p>資料解釈: 与えられた表やグラフを正しく解釈することができる。</p> <p>【B評価】</p> <p>60点以上85点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であれば、一定程度の速さでほぼ正しく解答できるレベルである。</p> <p>A評価基準に示した4種類の能力について総合的にある程度高いレベルに達しており、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を行なうための基盤的能力が備わっている。</p> <p>【C評価】</p> <p>50点以上60点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であれば、時間をかけなければある程度正しく解答できるレベルである。</p> <p>A評価基準に示した4種類の能力について総合的に妥当なレベルに達しており、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を行なうための最低限の基盤的能力が備わっている。</p> <p>【D評価】</p> <p>35点以上50点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。</p> <p>A評価基準に示した4種類の能力について総合的に妥当なレベルに達しておらず、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を行なうための最低限の基盤的能力が備わっているとはいえない。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	人格心理学			担当者	五十嵐 英樹			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	人格(パーソナリティ)はどのように形成されるのでしょうか？人格に関わるさまざまな事柄を、さまざまな角度から心理学的に理解していくことを目指します。しかし、人の心は科学的に解明できていない未知の部分が多い領域です。既存の概念にとらわれすぎることなく、みなさんなりの率直な考えを大切にしながら、理解を深めることを目標としています。											
学習の進め方	本授業では、教科書に沿って学習を進めていきます。学習を始める時には必ず、各講のオンデマンド教材を閲覧してから進めてください。また、各講の学習の最後には小テストを実施し、理解度を確認していきます。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・人の心はわからないことだらけです。教科書や専門書の内容をうのみにせず、疑問や問題意識を持ちながら学習を進めてください。 ・人の心について理解したことを、今後の対人関係に活かせないか、考える習慣を身につけてください。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1講 人格心理学におけるパーソナリティとは？								確認テスト			
	パーソナリティの意味											
	第2講 パーソナリティの理論化								確認テスト			
	性格、人格、気質、個性											
	第3講 さまざまな性格理論①								確認テスト			
	類型論と特性論											
	第4講 さまざまな性格理論②								確認テスト			
	構造論											
	第5講 パーソナリティ理解①								確認テスト			
	観察と面接											
	第6講 パーソナリティ理解②								確認テスト			
	心理アセスメント、投影法											
	第7講 パーソナリティの発達的変化								確認テスト			
	発達とは何か？											
	第8講 パーソナリティの発達①								確認テスト			
	乳幼児から子ども時代の発達											
	第9講 パーソナリティの発達②								確認テスト			
	思春期以降の発達											
成績評価方法	各回の確認テスト(30%)と単位修得試験の結果(70%)により評価する。											
教科書	著書『パーソナリティと心理学 一コミュニケーションを深めるためにー』 著者 近藤 卓 出版社 大修館書店 出版年度 2009年9月1日 ISBN 9784469265446											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	人事・労務管理			担当者	中嶋 哲夫			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	①人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者と、その企業の人事制度について、建設的な議論ができるようになる。同時に、専門用語のうち、とりわけ人事制度と人事評価に関する用語については専門家では無い人に対してもわかりやすく平易な言葉で説明できるようになる。 ②具体的なある会社の人事制度(例えば成果主義型の人事制度)が示されたときに、その制度の善し悪しを評価し、旧来の一般的な人事制度(例えば年功序列・終身雇用型の人事制度)と比べたときの長所、短所を述べることができるようになる。 ③経営者と従業員、上司と部下との間の円滑な関係を築くことができる人事制度の要素を挙げることができ、それを職場で説明したり実践したりすることができるようになる。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをとりながら受講すること。 ・雇用する立場から授業を理解をすること(従業員としての感想や意見ではなく)。 ・第6回のレポートを書く前に、添付の副教材を読むこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 人事・労務管理入門								確認テスト、ディスカッション			
	人事・労務管理を学ぶうえで、どのような観点を持てばよいのかを理解するために、人事・労務管理の学習内容の概要を説明する。											
	第2回 経営環境・労働市場と労働行政								確認テスト			
	企業内の人事・労務管理の仕組みが、経済環境や労働法の影響を大きく受けていることを説明する。											
	第3回 労働力の調達								確認テスト			
	高齢化、高学歴化(労働供給側)、高度知識化、サービス化(労働需要側)の動向を説明した上で、雇用契約の開始と終了とともにう人事・労務管理の内容を説明する。											
	第4回 キャリアの形成とその管理(1)								確認テスト、レポート			
	長期的な雇用契約の中で、個人がキャリアを形成するとき、人事・労務管理をどのようにとらえればよいかを説明する(この回だけは個人の側から見た人事・労務管理を説明)。											
	第5回 キャリアの形成とその管理(2)								確認テスト			
	明文化された人事制度と職場慣行、格付制度、社員区分制度、人事異動、昇格管理などについて説明する。											
	第6回 人事評価制度								確認テスト、レポート			
	人事評価制度を組み立てるときの考え方について説明を行う。評価対象、評価基準、評価方法、評価者の4つの要素を説明する。											
	第7回 評価制度の運用								確認テスト、レポート			
	現在、多くの先進企業で取り組まれている目標管理とコンピテンシー評価の運用を、職場のレベルで説明する。											
	第8回 賃金制度の管理								確認テスト			
	内的報酬と外的報酬、変動給と固定給、付加給付などの決め方について説明する。そのなかで、職能給や職務給の考え方の違いも説明する。											
	第9回 能力開発の管理								確認テスト、ディスカッション			
	生涯を通じた能力開発と仕事を通じた学習の理論を説明し、企業内の人材育成のあり方を説明する。											
	第10回 働く環境の管理								確認テスト			
	労働時間の弾力化と長時間労働、メンタル・ヘルス、ワーク・ライフ・バランス施策などについての企業の責任について述べる。											
	第11回 従業員関係の管理								確認テスト			
	集団的労使関係、個別の労使関係、労使のコミュニケーションなど、労使の信頼関係を深める手立てについて説明する。											
	第12回 モチベーション理論と人事・労務管理								確認テスト、レポート			
	角度を変えて、職場での部下の動機づけについて、モチベーション理論とリーダーシップ理論を説明する。											
	第13回 戰略的人的資源管理								確認テスト			
	1990年代以降に発達している事業戦略と人的資源管理戦略の補完関係に関する理論を説明する。											
	第14回 グローバル人的資源管理								確認テスト			
	企業がグローバルな活動を行う時代になり、人事・労務管理もグローバルな視野が必要になってきている。その具体的なイメージを描くため、日本企業の活動と、日本国内での外国人雇用の侧面について説明する。											
	第15回 労働過程の変化と人的資源管理								確認テスト、ディスカッション			
	経済活動の内容の変化とそれに伴う近年のトピックスについて話をする。労働内容の分化、サービス労働化、感情労働化、ダイバーシティー、労働市場流動化、ブラック企業などについて説明をする。											
成績評価方法	単位修得試験、第12回レポート課題(各回の課題含む) [A評価] 各回の確認テストに準じた単位修得試験において満点に近い成績を修めた上で、レポート課題において、問題を具体的に指摘し、その改善策を的確に述べることができる。 人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者の話のポイントを理解することができる(基礎的な能力)うえで、働く											

	<p>いている組織の人事制度を正確に理解し、その長所と短所を指摘することができる。</p> <p>また、現状の人事制度の課題について的確な提案ができる。リーダーの立場にある人については、働いている組織の人事制度を活かして、職場運営を効果的にすることができます。</p> <p>【B 評価】各回の確認テストに準じた単位修得試験において満点にやや近い成績を修め、レポート課題においては問題点を具体的に指摘しているが、その改善策についてはやや不十分なものとなっている。</p> <p>人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者の話を理解することができる（基礎的な能力）うえで働いている組織の人事制度を正確に理解し、その長所と短所を指摘することができるが、その改善策を意見具申するところまでは届いていない。</p> <p>【C 評価】各回の確認テストに準じた単位修得試験において最低限として求められる成績を修める。レポート課題においては問題点の指摘に（偏りや曖昧さ）が見られ、改善策が述べられていない。</p> <p>人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者の話を丁寧に説明してもらえば理解することができる（基礎的な能力）うえで、働いている組織の人事制度を正確に理解する。ただし、その理解が長所と短所の両面を理解するところまでは及ばず、やや、一方的な理解に留まっている。</p> <p>【D 評価】各回の確認テストに準じた単位修得試験において最低限として求められる成績を修めことができず、レポート課題の内容も感想文のレベルに留まる。ただし、各回の課題において学習内容を理解していることを示している。</p> <p>人事・労務管理に関する専門用語の理解が曖昧であり、人事担当者の話を間違えて聞く可能性がある。働いている組織の制度の理解に偏りが見られ、制度の長所と短所を理解できていない。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	『新しい人事労務管理 第5版』、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、有斐閣アルマ、2160円(税込)、2015年 『正しい目標管理の進め方』、中嶋哲夫著、東洋経済新報社、1944円(税込)、2015年
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>組織での勤務体験があるほうが授業内容を理解しやすい（友人などに組織での人事のあり方を質問したりすることで補うことが可能である）。</p> <p>組織での勤務体験に加えて、仕事のなかでリーダーの体験をしていると、より授業がわかりやすい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	身体科学			担当者	渡辺 勉			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	自分の体のことは意外と知らないものだ。人間の体の基本的な構造や機能を理解し、怪我や病気をした際に、適切な対処行動を取れるように自分の身体との付き合い方を学ぶ。また、マスメディアやインターネットにあふれる健康情報に振り回されない知識を身につける。											
学習の進め方	オンデマンド教材を主教材として授業を進める。教科書で事前に予習をしているとより理解しやすい。適宜、参考資料を提示している。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを見て、事前に図書館などでその授業の参考になる本や資料を調べていると、理解が進むことでしょう。 ・レポートに取組む際にはデジタル教材だけではなく、参考になる本を調べること。授業でわかりにくいところは自ら参考になる本などを探す努力をすること。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 身体科学とは何か？ 身体科学を歴史的に概観し、ヒトの体の構造や機能の概略を知る。身体科学のこれからについても考える								確認テスト			
	第2回 歩く、走る、立つ、座る ヒトの骨格や筋肉について学び、二足歩行の巧妙さを知る								レポート			
	第3回 食べるということ 食べ物の栄養素や消化、吸収について学ぶ								確認テスト			
	第4回 メタボリック症候群とは？ メタボリック症候群について知り、肥満が万病の元であることを理解する。また、予防法を考える								レポート			
	第5回 病氣から体を守る 病氣とは何かを知り、人体に備わった免疫システムなど外敵からの防御システムを知る								確認テスト			
	第6回 眠るということ 睡眠とサーカディアンリズムについて学び、睡眠障害の現状を知る								レポート			
	第7回 体調を整える 自律神経やホルモンについて理解する。環境ホルモンについても学ぶ								確認テスト			
	第8回 酸素は体をめぐる 心臓、肺、血管の構造と機能を知る。臓器移植についても考える								レポート			
	第9回 見る、聞く、味わう… 五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)について学び、痛みとはどういうものかを知る								確認テスト			
	第10回 体内をきれいにする 人体に備わっている排泄機能とそれを担っている臓器について知る								レポート			
	第11回 記憶や情動は脳の働き 脳の基本的な構造や機能を知る								確認テスト			
	第12回 子どもを産むということ 受精、妊娠、出産について理解する。不妊治療の現状や性感染症についても学ぶ								レポート			
	第13回 疲れるとは？ 疲労研究の最前線を見る								確認テスト			
	第14回 喫煙・飲酒と健康 たばこの害、お酒やコーヒーの効用と害、薬物依存症の怖さを知る								レポート			
成績評価方法	課題や平常の学習態度が(40%)、単位修得試験が(60%)で評価する。											
教科書	著書『図解入門 よくわかる生理学の基本としくみ(図解入門 メディカルサイエンスシリーズ)』 著者 當瀬 規嗣 出版社 秀和システム 出版年度 2011年3月20日 1版 ISBN 9784798012223											
参考書(任意購入)	『人体の構造と機能(1)解剖生理学(系統看護学講座 専門基礎分野)』、坂井建雄、医学書院、3,990円(税込)、2009年 学習内容に沿って適宜提示する											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学概論			担当者	松並 知子			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>本講義では、心理学に初めて接する学生を対象に、心理学における基礎的な知識と考え方を紹介する。</p> <p>心理学の主な領域について、つまり、感覚や記憶・思考について解明する認知心理学、刺激と反応から心的過程を類推する行動心理学、人間の発達過程とそのメカニズムを研究する発達心理学、精神病理やパーソナリティについて研究する臨床心理学、脳の仕組みと働きについて研究する生理心理学、そして、個人や集団の心理と行動について研究する社会心理学などについて、学習を進めていく。</p> <p>また、これらの各分野の内容と主だった発見や理論を紹介しながら、心理学とは一体どのような学問であるのかを包括的に考え、解明していくことができるようになる。</p>											
学習の進め方	<p>学習意欲の高い受講生の参加を求める。</p> <p>本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。学習をはじめるときには必ず、各回の学習内容と学習目標を確認してから学習を進めてください。各回ごとに、確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。また、確認テストには納得できるまで取り組むこと。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学に関連する専門書を活用することと、参考書をよく読んで取り組むこと。 ・参考図書で自己学習することと、ノートを取りながら受講することを推奨します。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 はじめに 心理学概論のオリエンテーションで始まり、心理学の歴史と、さまざまな領域について学ぶ								確認テスト			
	第2回 認知心理学（1）—感覚・知覚・運動— 感覚と知覚、視覚、聴覚、運動の知覚について学ぶ								確認テスト			
	第3回 認知心理学（2）—知能・記憶・言語— 知能、記憶、言語について学ぶ								確認テスト			
	第4回 認知心理学（3）—思考— 概念と推理、問題解決について学ぶ								確認テスト			
	第5回 行動心理学（1）—学習— 学習について学ぶ								確認テスト			
	第6回 行動心理学（2） 要求、行動について学ぶ								確認テスト			
	第7回 まとめテスト 要求、行動について学ぶ								まとめテスト			
	第8回 発達心理学 発達の原理、生物学的発達、社会的発達について学ぶ								確認テスト			
	第9回 臨床心理学（1）—パーソナリティ— パーソナリティ、適応と不適応について学ぶ								確認テスト			
	第10回 臨床心理学（2）—精神病理— 精神障害、心理療法、その他の問題について学ぶ								確認テスト			
	第11回 生理心理学 脳と神経系、覚醒と睡眠、動機と情動の神経機構について学ぶ								確認テスト			
	第12回 社会心理学（1）—個人— 自己、社会的相互作用、コミュニケーション、対人関係について学ぶ								確認テスト			
	第13回 社会心理学（2）—集団— 集団の構造化、集団意思決定、集合現象について学ぶ								確認テスト			
	第14回 実験—身近に感じる心理学— 実験を実際に体験し、さまざまな心理学的現象を理解する								ディスカッション			
	第15回 まとめ 最近の心理学の分野、科目的全体的まとめについて学ぶ								まとめのテスト			
成績評価方法	平常点(50%)は、第1回～第13回に実施する各回の確認テストとまとめのテストの結果によって決まる。 単位修得試験は、(50%)の配分とする。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『心理学』、詫摩武俊(編)、新曜社、2010年6月20日 改訂版、9784788503618 『心理学の基礎』、今田 寛、賀集 寛、宮田 洋、培風館、2003年4月 3訂版 『心理学って何だろう』 心理学ジュニアライブラリ、市川 伸一、北大路書房、2002年11月											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学研究法			担当者	西本 実苗			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	目に見えない「心」に対し、実証的にアプローチするために使われる、各種の心理学研究法について説明できることを目標とします。さらに、「心」について何らかの仮説を立て、その仮説を検証するための方法について説明できることも目標とします。											
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して授業を進めます。また、デジタル教材中で教科書のページを参照する指示がある場合は、必ず教科書も参照してください。回ごとに課題として確認テストがあります。確認テストを終わらせてから次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書には、一通り目をとおしておくこと。 ・確認テストの受験後、不正解の箇所および、理解が不十分であったところは、デジタル教材や教科書等を確認しておくこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 「心」に対する実証的なアプローチ								確認テスト			
	心という「目には見えないもの」に対し、心理学ではどのようなアプローチを行ってきたか概観する。											
	第2回 科学と実証								確認テスト			
	実証的科学としての心理学研究について概観する。											
	第3回 観察法								確認テスト			
	観察法の特色と方法について学習する。											
	第4回 面接法								確認テスト			
	面接法の特色と方法について学習する。											
	第5回 実験法								確認テスト			
	実験法の特色と方法について学習する。											
	第6回 質問紙法								確認テスト			
	質問紙法の特色と方法について学習する。											
	第7回 セマンティック・ディファレンシャル法(SD 法)								確認テスト			
	セマンティック・ディファレンシャル法(SD 法)の特色と方法について学習する。											
	第8回 心理検査法 1								確認テスト			
	心理検査法の特色と代表的な心理検査について学習する。											
	第9回 心理検査法 2								確認テスト			
	心理検査の質を判断するための統計的な手がかりおよび、心理検査を行う際の留意点について学習する。											
	第10回 精神物理学的測定法								確認テスト			
	精神物理学的測定法の特色と方法について学習する。											
	第11回 横断的研究法と縦断的研究法								確認テスト			
	横断的研究法と縦断的研究法の特色と方法について学習する。											
	第12回 統計的仮説検定								確認テスト			
	統計的仮説検定の考え方および、心理学研究においてよく使われる各種検定について学習する。											
	第13回 実験計画法								確認テスト			
	心理学研究における実験計画法について学習する。											
	第14回 心理学研究と多変量解析								確認テスト			
	心理学の研究においてよく使われる、因子分析等の多変量解析について学習する。											
成績評価方法	各回の確認テストの結果の合計(50%)、単位修得試験結果(50%)とした総合評価とする。											
教科書	著書『心理学研究法--データ収集・分析から論文作成まで』 著者 大山正、宮埜壽夫、岩脇三良 出版社 サイエンス社 出版年度 2009年5月25日 1版 ISBN 9784781911083											
参考書(任意購入)	『心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし』、高野陽太郎、岡隆、有斐閣、2,205円(税込)、2004年											
必須ソフト・ツール												
備考	「心理学統計法」の学習内容について理解していることが望ましい。											

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学実験演習A			担当者	【夙川/名古屋/岡山/仙台】布井 雅人、【夙川】八木 彩乃、高橋 裕美、【東京/札幌/福岡】櫻本 和也			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス) 東京会場 札幌会場 仙台会場 名古屋会場 岡山会場 福岡会場			
学習目標	心理学を学ぶ上で“実験”は欠くことのできないものである。本授業では、ある時は実験者として、またある時は被験者として、実際に心理学の実験に参加して実習を行う。様々な実験を通して得られたデータを各自が分析し、心理学における実験を通して研究の基礎を習得したい。											
学習の進め方	講義形式にて実験の目的・内容や方法、結果の考察など順を追って理解を深めていく。実験の内容から個人ではなく集団で取り組むことが多くなるため、主体的な姿勢が求められることになる。また、ひとつの実験を終える度に課題としてレポートの提出を求める。ひとつ区切りをつけて着実に進めていきましょう。レポートは完成度の高いものに仕上げるように取り組むこと。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実験内容や理論に関わる事前学習は必要ないが、Word や Excel の基本操作(図表の作成や関数を用いた表計算等)を確認しておくことで、効率的にレポートを作成できる。特に、Excel の操作について事前学習用ホームページを確認すること。 ・レポート・論文を作成する際の書式や、図表を掲載する際の約束事や、心理学統計法の基礎知識を深めること。 											
学習内容	概要								課題			
	第1回 オリエンテーション 心理学実験演習の概要説明をはじめ、授業履修にあたっての注意事項についてふれる。											
	第2回 実験レポートの作成について 論文やレポートを構成する項目(目的、方法、結果、考察)について学ぶ。											
	第3回 ミューラー・リヤー錯視 ミューラー・リヤーの錯視图形を例にとり、刺激条件と知覚判断との間における法則性について学ぶ。											
	第4回 ミューラー・リヤー錯視 第3回で実施した実験データを整理し、錯視量に与える角度の影響について考察することを目的とする。											
	第5回 ミューラー・リヤー錯視 第3回で実施した実験データを整理し、錯視量に与える角度の影響についてレポートを作成する。								レポート			
	第6回 投影法の基礎 あいまいな刺激材料を基にして、個人間の反応がどのように変化するのかについて学ぶ。											
	第7回 投影法の基礎 第6回で実施した実験データを整理し、反応の個人差や投影法について考察することを目的とする。											
	第8回 投影法の基礎 第6回で実施した実験データを整理し、反応の個人差や投影法について考察してレポートを作成する。								レポート			
	第9回 エゴグラム-TEG- 心理学において代表的な心理検査の一つであるエゴグラムを用いて、自分自身を客観的に把握する。											
	第10回 エゴグラム-TEG- 第9回で収集したデータを整理し、客観的指標を基に、自分自身について考察し理解を深める。								レポート			
	第11回 レポートについての講評 成果と課題を中心に、これまでの取り組みを中心に振り返る。											
	第12回 語の記録 無意味語の記録を課題とした記憶実験を通して、記録・保持・再生などの過程を含む記憶について学ぶ。											
	第13回 語の記録 第12回で実施した実験データを整理し、記憶過程について考察することを目的とする。											
	第14回 語の記録 第12回で実施した実験データを整理し、記憶過程について考察してレポートを作成する。								レポート			
	第15回 まとめ ここまで繰り返し実施してきた実験を振り返り、今一度その成果と課題について振り返る。								レポート			
成績評価方法	レポート課題の提出状況と内容(80%)を主にして、出席時の態度(授業への意欲的な参加・姿勢)(20%)を踏まえたうえで、総合的に評価する。											
教科書	著書『教材心理学(第4版) -心の世界を実験する-』 著者 木下富雄 他編 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月20日 4版 ISBN 9784888480123											
参考書(任意購入)	適宜、参考資料を配布する。											

必須ソフト・ツール	
備考	<p>本授業はAとBの二つに分けて構成している。実験および授業内容から、演習Aを受講した後に演習Bを受講するのが望ましい。単位修得には全回出席が条件となり、各実験の課題としてレポート提出が求められるため、作成時間の確保や、根気よく取り組む姿勢が強く求められる。また、自ら授業へ積極的に取り組む姿勢も重要となる。受講者の上限人数は実習40名とする。受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。レポートを作成するにあたり、Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel等の基本的な操作ができること。特に図表を作成する際、Excelの基本的な操作をおさえておくことが求められる。</p> <p>※先修条件「心理学統計法」「心理学研究法」の学習内容を理解していることを要する。</p>

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学実験演習B			担当者	【夙川/名古屋/岡山/仙台】布井 雅人、【夙川】八木 彩乃、高橋 裕美、【東京/札幌/福岡】櫻本 和也			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス) 東京会場 札幌会場 仙台会場 名古屋会場 岡山会場 福岡会場			
学習目標	心理学を学ぶ上で“実験”は欠くことのできないものである。本授業では、ある時は実験者として、またある時は被験者として、実際に心理学の実験に参加して実習を行う。様々な実験を通して得られたデータを各自が分析し、心理学における実験を通して研究の基礎を習得したい。											
学習の進め方	講義形式にて実験の目的・内容や方法、結果の考察など順を追って理解を深めていく。実験の内容から個人ではなく集団で取り組むことが多くなるため、主体的な姿勢が求められることになる。また、一つの実験を終える度に課題としてレポートの提出を求める。ひとつひとつ区切りをつけて着実に進めていきましょう。レポートは完成度の高いものに仕上げるように取り組むこと。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実験内容や理論に関わる事前学習は必要ないが、Word や Excel の基本操作(図表の作成や関数を用いた表計算等)を確認しておくことで、効率的にレポートを作成できる。また、A で扱ったレポートの書き方・Excel 等について確認すること。 ・レポート・論文を作成する際の書式や、図表を掲載する際の約束事や、心理学統計法の基礎知識を深めること。 											
学習内容	概 要											
	第1回 オリエンテーション											
	心理学実験演習の概要説明をはじめ、授業履修にあたっての注意事項について確認する。											
	第2回 Y-G性格検査											
	心理学において代表的な心理検査の一つであるY-G性格検査を用い、自分自身を客観的に把握する。											
	第3回 Y-G性格検査											
	第2回で収集したデータを整理し、客観的指標を基に自分自身について考察して理解を深める。											
	第4回 メンタル・ローテーション(心的回転)											
	2種類(平面・奥行き)の回転图形を用いて、心的回転と心的イメージの関係性について学ぶ。											
	第5回 メンタル・ローテーション(心的回転)											
	第4回で実施した実験データを整理し、心的イメージについて考察してレポートを作成する。											
	第6回 鏡像描写											
	古くから試みられている「学習の成立過程」の分析について、鏡像描写的実験を通して学ぶ。											
	第7回 鏡像描写											
	第6回で実施した実験データを整理し、知覚一運動学習および学習の転移について考察する。											
	第8回 鏡像描写											
	第6回で実施した実験データを整理し、知覚一運動学習および学習の転移についてレポートを作成する。											
	第9回 情報伝達											
	流言が口から口へと伝えられていく過程について、連鎖的再生法を用いて情報変容の法則性を学ぶ。											
	第10回 情報伝達											
	第9回で実施した実験データを整理し、情報伝達の心理過程について考察してレポートを作成する。											
	第11回 レポートについての講評											
	成果と課題を中心に、ここまで取り組みを振り返る。											
	第12回 ストループ効果											
	ストループの実験を通して、ストループ干渉がどのように生じているかについて学ぶ。											
	第13回 ストループ効果											
	第12回で実施した実験データを整理し、ストループ効果について考察し理解を深める。											
	第14回 ストループ効果											
	ストループ効果についてのレポートを作成し、あわせて統計法についての理解も深める。											
	第15回 まとめ											
	ここまで繰り返し実施してきた実験を振り返り、今一度その成果と課題について振り返る。											
成績評価方法	レポート課題の提出状況と内容(80%)を主にして、出席時の態度(授業への意欲的な参加・姿勢)(20%)を踏まえたうえで、総合的に評価する。											
教科書	著書『教材心理学(第4版) -心の世界を実験する-』 著者 木下富雄 他編 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月20日 4版 ISBN 9784888480123											
参考書(任意購入)	適宜、参考資料を配布する。											

必須ソフト・ツール	
備考	<p>本授業はAとBの二つに分けて構成している。実験および授業内容から、演習Aを受講した後に演習Bを受講するのが望ましい。単位修得には全回出席が条件となり、各実験の課題としてレポート提出が求められるため、作成時間の確保や、根気よく取り組む姿勢が強く求められる。また、自ら授業へ積極的に取り組む姿勢も重要となる。受講者の上限人数は実習40名とする。受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。レポートを作成するにあたり、Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel等の基本的な操作ができること。特に図表を作成する際、Excelの基本的な操作をおさえておくことが求められる。</p> <p>※先修条件「心理学統計法」「心理学研究法」の学習内容を理解していることを要する。</p>

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学総合演習			担当者	【夙川】枚田 香、【東京】具 英姫			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	15回の授業のうち2/3以上の出席をしていること			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)東京会場			
学習目標	心理学のジャンルは多岐にわたっており、かといってそれぞれが浅いものではなく、深く広く学習することが理想ではあるが、現実には得意な分野についてより専門的な研究をすすめる方がいい。この先専門分野に特化するにしても、主な心理学の理論は知つておくにこしたことがないので、一通りの基本を再確認することを目標とする。											
学習の進め方	スクーリング当日までに教科書に目を通しておくこと。スクーリング終了後に理解できなかった箇所や気になった箇所は教科書を読んで復習すること。受け身の講義ではなく、他の受講生とディスカッションしたり、教員に質問したりするような進行となるため、積極的に参加するためにも一通り予習をしておくことが望ましい。											
授業時間外学習	・教科書に目を通しておくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 ガイダンスおよび心理学の歴史								レポート			
	学派と中心的な研究法											
	第2回 心の進化と発達								レポート			
	ヒトが優れている理由											
	第3回 ライフサイクルと発達課題								レポート			
	生まれてから死ぬまでの心の発達											
	第4回 動機づけと情動								レポート			
	やる気と感情											
	第5回 性格と知能								レポート			
	性格類型、性格検査(心理テスト)、知能検査											
	第6回 ストレスとメンタルヘルス								レポート			
	ストレスの理論とメンタルヘルスケアへの応用											
	第7回 カウンセリングと心理療法								レポート			
	カウンセリング技法と代表的な心理療法											
	第8回 感覚								レポート			
	人間の五感、刺激を処理する仕組み											
	第9回 知覚								レポート			
	感覚情報を脳で処理する仕組み											
	第10回 記憶								レポート			
	記憶のステップ、記憶の種類、忘却											
	第11回 学習								レポート			
	行動の変容、動機づけ											
	第12回 思考								レポート			
	問題解決、推論、創造力											
	第13回 脳と心								レポート			
	脳の仕組み、脳地図、脳損傷の影響											
	第14回 社会のなかの人と心理学								レポート			
	集団心理、群集心理											
	第15回 まとめ								レポート			
	全体の振り返り											
成績評価方法	平常点(60%)、レポート(40%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	随時プリントを配布 受講者上限人数 グループワークを含む講義 40名											

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学統計法			担当者	西本 実苗			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	心理学では実験やアンケート調査などによりデータを収集し、理論や仮説にもとづいてそれらのデータを分析するという実証的なアプローチをとることが特徴的です。心理学の学習と研究を進める上で必要な心理統計についての知識を習得し、データ分析の手法を身につけます。											
学習の進め方	(第1回～第15回) 本授業では、デジタル教材を主に活用して授業を進めます。デジタル教材中で教科書のページを参照する指示がある場合は、必ず教科書も参照してください。デジタル教材中では表計算ソフト(Excel)などを用いたパソコンでの実習を指示することもあります。デジタル教材を参照しながらそれらの実習を進めてください。回ごとに課題(確認テスト等)があります。課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	・教科書には、一通り目をとおしておくこと。 ・確認テストの受験後、不正解の箇所および、理解が不十分であったところは、デジタル教材や教科書等を確認しておくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 心理学と統計法 心理学に統計法が必要とされる背景と、心理学では統計法がどのように使われているかについて理解する。								確認テスト			
	第2回 記述統計1 平均、度数分布表、分散と標準偏差について学習する。								確認テスト			
	第3回 記述統計2 様々な代表値と散布度、各種グラフを用いたデータ表現について学習する。								確認テスト			
	第4回 測定の水準 4つの尺度(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度)とそれぞれに適用できる記述統計について学習する。								確認テスト			
	第5回 統計的推測 正規分布および、標本から母集団を推測する区間推定と信頼区間について学習する。								確認テスト、プレゼンテーション			
	第6回 2変数間の相関1 散布図と相関係数について学習する。								確認テスト			
	第7回 2変数間の相関2 クロス表について学習する。								確認テスト			
	第8回 統計的検定1 仮説検定の考え方について学習する。								確認テスト			
	第9回 統計的検定2 カイニ乗検定について学習する。								確認テスト、プレゼンテーション			
	第10回 統計的検定3 t検定(対応なし)について学習する。								確認テスト			
	第11回 統計的検定4 t検定(対応あり)について学習する。								確認テスト			
	第12回 統計的検定5 分散分析(1要因)について学習する。								確認テスト			
	第13回 変数とは 独立変数(説明変数)と従属変数(目的変数)の考え方について学習する。								確認テスト			
	第14回 統計的検定6 分散分析(2要因)について学習する。								確認テスト			
	第15回 まとめ 本授業のまとめを行う。								確認テスト			
成績評価方法	全15回の確認テストの結果の合計を40%、プレゼンテーション課題(2つ)の評価結果の合計を10%、単位修得試験結果を50%とした総合評価とする。											
教科書	著書『統計学がわかる』 著者 向後千春、富永敦子 出版社 技術評論社 出版年度 2011年2月15日 1版 ISBN 9784774131900											
参考書(任意購入)	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初步の統計の本』、吉田寿夫、北大路書房、2,625円(税込)、1998年											
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Excel											
備考	Officeソフト(特にExcelなどの表計算ソフト)の基本操作に習熟していることが望ましい。 このコンテンツは Microsoft Office Excel 2007 をベースに設計されています。											

メジャー(専修)名				授業科目名	スイーツ学で神戸スイーツ探訪			担当者	松井 博司			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	・全授業への出席 ・課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	1. スイーツを学術的に捉えるとはどういうことを説明できる。 2. 専門的技能を論理的に表現できるようになる。 3. スイーツの経済的発展の経緯について説明できる。 4. 洋菓子の発祥地神戸について、歴史・文化の概要を解説できる。											
学習の進め方	スイーツ学を理解し神戸スイーツの歴史と文化を学ぶ。さくら夙川キャンパスにて、「スイーツ学」の講義、レポート作成、実習室でのスイーツ演習(試食付き)、グループディスカッションを行う。2日目は、見学・講習会を行ったうえ、レポート課題を期日までに提出する。											
授業時間外学習	・神戸のスイーツに関する参考資料などを調べておく。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1日目 「スイーツ学」の講義をさくら夙川キャンパスの学内教室で実施する。 午前は、スイーツ学の概念を理解しスイーツの歴史と文化(世界史、日本史)を学ぶ。さらに、神戸の洋菓子文化について解説する、講義のあと、課題をレポート作成する。(A4用紙1枚) 午後からは、実習室でスイーツ演習としてデモンストレーション授業(試食付き)を行う。デモンストレーション授業後には、課題についてのグループディスカッションを行う。								レポート、プレゼンテーション、ディスカッション			
成績評価方法	第2日目 9:10 集合 阪神西宮駅前に集合し実地見学を行う。 当日の予定の確認および課題についての説明 9:45～11:00《見学・講習》 株式会社シュゼット ハーバースタジオ 43 見学・講習 11:30～12:00 阪神西宮駅から阪神元町駅に移動 12:00～14:00 昼食および元町周辺を自由見学 14:00 午後の解散場所で集合 14:00～15:30《見学・講習》 神戸夙月堂ゴーフルミュージアム見学・講習会 16:20 まとめ、解散 ※課題レポートを期日までに提出								レポート、ディスカッション			
	講義内容についての課題レポート、プレゼンテーション、実地見学講習時の課題レポートにより総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	特になし(一部授業中に紹介)											
必須ソフト・ツール	なし											
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習 20名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。 ※見学先企業について、変更の可能性があります。											

メジャー(専修)名				授業科目名	数学			担当者	浦畠 育生			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	現代社会のビジネスにおける「数学」の活用の場を知る。また、実務や実生活で「数学」を使いこなせるようになることを目標にする。											
学習の進め方	教科書に沿ったデジタル教材を主として学習を進めます。なお、数学に自信がない人、長い間遠ざかっている人、数学アレルギーの方も無理なく楽しく学習できるカリキュラムになっています。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書の該当範囲の教科書を一読しておくと、より理解が深まります。その後でデジタル教材を閲覧して下さい。 ・受講後は確認テストを復習し、教科書の該当範囲の例題や練習問題に取り組んでください。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1章 微分積分											
	1-1 関数とは? 関数とは何か?グラフの読み方は?など、数学を学習する上での基本事項をおさらいする。 1-2 微分 「微分」の意味を理解し、株価変動の分析などの実生活での実用例を考察する。 1-3 積分 「積分」の意味を理解し、v-t グラフなど実生活での実用例を考察する。								確認テスト			
	第2章 確率											
	2-1 確率とは? 確率の基本的な考え方を学ぶ。 2-2 条件付き確率 誤解しやすい条件付き確率を、トランプゲームを用いて考察する。 2-3 期待値 期待値の基本的な考え方を理解し、実生活での活用を目指す。主に丁半・ルーレット・競馬などのギャンブルを例にとり研究する。								確認テスト			
	第3章 PERT/CPM											
	3-1 PERT 代表的なスケジュール管理法である PERT の基本をマスターする。 3-2 CPM PERT をさらに発展させた、積極的な納期・コスト管理のフレームワークを習得します。								確認テスト			
	第4章 ゲーム理論											
	4- ゲーム理論とは? 近年、ビジネス界で脚光を浴びているゲーム理論とは何か?を考察する。 4-1 同時ゲーム 出店競争の事例を用いて、同時ゲームの解き方をマスターする。 4-2 事例研究 「囚人のジレンマ」「コミットメント」などをテーマに発展的な同時ゲームの事例研究をします。 4-3 交互ゲーム 出店競争のビジネス事例を用いて、交互ゲームの解き方をマスターする。								確認テスト			
	第5章 線形代数											
	5- 線形代数の基礎 線形代数の基本的な考え方をマスターする。 5-1 行列式 行列式の仕組みについて学習する。 5-2 行列式 行列式の計算方法を習得する。								確認テスト			
成績評価方法	確認テスト(40%)、単位修得試験(60%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	政治学			担当者	石黒 太																																																												
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★																																																														
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—																																																												
学習目標																																																																					
<ul style="list-style-type: none"> ・政治および政治学において用いられる基礎的な概念について正確に説明できるようになる。 ・日本・アメリカを中心とし、諸外国の政治制度(選挙制度を含む)の概要について正確に説明できるようになる。 ・日本・アメリカを中心とし、諸外国における政治の実態について、政治学上の諸概念を用いて正確に説明できるようになる。 ・現代の政治においてあらわれる様々な政治現象やそれを説明する理論について、正確に説明できるようになる。 ・自由主義や民主主義といった現代の政治の基盤となっている重要な政治原理について、その歴史的な意味や現代における意義、具体的な制度上の現れなどを含め、正確に説明することができるようになる。 ・歴史上の重要な政治思想家の思想、政治の発展に寄与した政治原理について、正確に説明できるようになる。 <p>上記の知見をもとに、現状の政治現象の捉え方や対策、政治的問題に対する意見、あるいはるべき政治の姿について、自分なりの考えをまとめ、説明することができるようになる。</p>																																																																					
学習の進め方																																																																					
<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>【学習前に準備しておくべきこと】 興味関心をもって新聞を読む習慣をつけておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内容を理解して、課題や次回の学習に取り組むこと。</p>																																																																					
授業時間外学習																																																																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 2px;">概 要</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">課 題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;">第1回 政治とは何か。政治学とはいかなる学問か</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">確認テスト</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">学習のキックオフとなる。「政治」とはどのような営みであるかを学び、同時に、政治を対象とする「政治学」という学問がどのような科目であるのかを学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第2回 政治思想①(古代～近代の政治思想)</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">確認テスト</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">古代から近代にかけての著名な政治思想家(ソクラテス・プラトン・アリストテレス・マキャベリ・ボ丹・ホップズ・ロック・ルソー等)の政治に関する思想・哲学を学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第3回 政治思想②(自由主義と民主主義)</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">レポート</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">現代の政治を支える最も重要な政治原理である自由主義と民主主義についての基本的な理解を深める。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第4回 現代の自由主義(政府の役割の変化)</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">レポート</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">自由主義の思想がどのように発展し、そして変化したのかをについて学び、現代の国家・政府の役割を理解する。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第5回 君主制と共和制、議院内閣制と大統領制</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">レポート</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">現代の国家の分類・整理方法を学ぶ。特に、議院内閣制と大統領制の区別を学び、それぞれの特徴について理解する。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第6回 政治制度①(アメリカ合衆国)</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">レポート</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">アメリカ合衆国の政治制度の基本について、大統領制と連邦制を中心に学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第7回 政治制度②(日本)</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">確認テスト</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">日本の政治原理及び日本の議院内閣制について学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第8回 議会と立法過程</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">レポート</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">議会の性質に関する2類型である変換型議会とアーナ型議会の違いについて学ぶ。日本の国会の特徴について学ぶ。日本の国会の立法過程の実態、流れについて学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第9回 選挙制度①</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">レポート</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">選挙制度の分類法について学ぶ。日本の選挙制度について学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第10回 選挙制度②</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">確認テスト</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">日本が採用する選挙制度について学ぶ。拘束名簿式と非拘束名簿式の違いを理解し、衆議院と参議院の選挙方法の違いについて学ぶ。実際にドント式の計算方法を用いて、衆議院と参議院の比例選挙区の獲得議席数を計算する。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第11回 投票行動</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">ディスカッション</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">投票行動に関する理論の展開の流れについて学ぶ。投票行動研究の起点である二つのグループの研究の、調査方法・結果の違いを学ぶ。日本の有権者の投票行動の傾向について学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第12回 マス・メディアと政治</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">レポート</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">マス・メディアの意味と社会的な役割について学ぶ。マス・メディアの発展の歴史を学ぶ。マス・メディアの政治的な機能について学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第13回 政党と利益集団①</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">確認テスト</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">政党の政治的機能について学ぶ。政党制とは何かについて学ぶ。政党制の分類法と各国の政党制について学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第14回 政党と利益集団②</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">確認テスト</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">利益集団の機能について学ぶ。利益集団の活動に関する二つのモデルについて学ぶ。日本の利益集団の活動について、その特徴を学ぶ。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第15回 現代政治の諸問題と講義のまとめ</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">レポート</td> </tr> </tbody> </table>										概 要	課 題	第1回 政治とは何か。政治学とはいかなる学問か	確認テスト	学習のキックオフとなる。「政治」とはどのような営みであるかを学び、同時に、政治を対象とする「政治学」という学問がどのような科目であるのかを学ぶ。		第2回 政治思想①(古代～近代の政治思想)	確認テスト	古代から近代にかけての著名な政治思想家(ソクラテス・プラトン・アリストテレス・マキャベリ・ボ丹・ホップズ・ロック・ルソー等)の政治に関する思想・哲学を学ぶ。		第3回 政治思想②(自由主義と民主主義)	レポート	現代の政治を支える最も重要な政治原理である自由主義と民主主義についての基本的な理解を深める。		第4回 現代の自由主義(政府の役割の変化)	レポート	自由主義の思想がどのように発展し、そして変化したのかをについて学び、現代の国家・政府の役割を理解する。		第5回 君主制と共和制、議院内閣制と大統領制	レポート	現代の国家の分類・整理方法を学ぶ。特に、議院内閣制と大統領制の区別を学び、それぞれの特徴について理解する。		第6回 政治制度①(アメリカ合衆国)	レポート	アメリカ合衆国の政治制度の基本について、大統領制と連邦制を中心に学ぶ。		第7回 政治制度②(日本)	確認テスト	日本の政治原理及び日本の議院内閣制について学ぶ。		第8回 議会と立法過程	レポート	議会の性質に関する2類型である変換型議会とアーナ型議会の違いについて学ぶ。日本の国会の特徴について学ぶ。日本の国会の立法過程の実態、流れについて学ぶ。		第9回 選挙制度①	レポート	選挙制度の分類法について学ぶ。日本の選挙制度について学ぶ。		第10回 選挙制度②	確認テスト	日本が採用する選挙制度について学ぶ。拘束名簿式と非拘束名簿式の違いを理解し、衆議院と参議院の選挙方法の違いについて学ぶ。実際にドント式の計算方法を用いて、衆議院と参議院の比例選挙区の獲得議席数を計算する。		第11回 投票行動	ディスカッション	投票行動に関する理論の展開の流れについて学ぶ。投票行動研究の起点である二つのグループの研究の、調査方法・結果の違いを学ぶ。日本の有権者の投票行動の傾向について学ぶ。		第12回 マス・メディアと政治	レポート	マス・メディアの意味と社会的な役割について学ぶ。マス・メディアの発展の歴史を学ぶ。マス・メディアの政治的な機能について学ぶ。		第13回 政党と利益集団①	確認テスト	政党の政治的機能について学ぶ。政党制とは何かについて学ぶ。政党制の分類法と各国の政党制について学ぶ。		第14回 政党と利益集団②	確認テスト	利益集団の機能について学ぶ。利益集団の活動に関する二つのモデルについて学ぶ。日本の利益集団の活動について、その特徴を学ぶ。		第15回 現代政治の諸問題と講義のまとめ	レポート
概 要	課 題																																																																				
第1回 政治とは何か。政治学とはいかなる学問か	確認テスト																																																																				
学習のキックオフとなる。「政治」とはどのような営みであるかを学び、同時に、政治を対象とする「政治学」という学問がどのような科目であるのかを学ぶ。																																																																					
第2回 政治思想①(古代～近代の政治思想)	確認テスト																																																																				
古代から近代にかけての著名な政治思想家(ソクラテス・プラトン・アリストテレス・マキャベリ・ボ丹・ホップズ・ロック・ルソー等)の政治に関する思想・哲学を学ぶ。																																																																					
第3回 政治思想②(自由主義と民主主義)	レポート																																																																				
現代の政治を支える最も重要な政治原理である自由主義と民主主義についての基本的な理解を深める。																																																																					
第4回 現代の自由主義(政府の役割の変化)	レポート																																																																				
自由主義の思想がどのように発展し、そして変化したのかをについて学び、現代の国家・政府の役割を理解する。																																																																					
第5回 君主制と共和制、議院内閣制と大統領制	レポート																																																																				
現代の国家の分類・整理方法を学ぶ。特に、議院内閣制と大統領制の区別を学び、それぞれの特徴について理解する。																																																																					
第6回 政治制度①(アメリカ合衆国)	レポート																																																																				
アメリカ合衆国の政治制度の基本について、大統領制と連邦制を中心に学ぶ。																																																																					
第7回 政治制度②(日本)	確認テスト																																																																				
日本の政治原理及び日本の議院内閣制について学ぶ。																																																																					
第8回 議会と立法過程	レポート																																																																				
議会の性質に関する2類型である変換型議会とアーナ型議会の違いについて学ぶ。日本の国会の特徴について学ぶ。日本の国会の立法過程の実態、流れについて学ぶ。																																																																					
第9回 選挙制度①	レポート																																																																				
選挙制度の分類法について学ぶ。日本の選挙制度について学ぶ。																																																																					
第10回 選挙制度②	確認テスト																																																																				
日本が採用する選挙制度について学ぶ。拘束名簿式と非拘束名簿式の違いを理解し、衆議院と参議院の選挙方法の違いについて学ぶ。実際にドント式の計算方法を用いて、衆議院と参議院の比例選挙区の獲得議席数を計算する。																																																																					
第11回 投票行動	ディスカッション																																																																				
投票行動に関する理論の展開の流れについて学ぶ。投票行動研究の起点である二つのグループの研究の、調査方法・結果の違いを学ぶ。日本の有権者の投票行動の傾向について学ぶ。																																																																					
第12回 マス・メディアと政治	レポート																																																																				
マス・メディアの意味と社会的な役割について学ぶ。マス・メディアの発展の歴史を学ぶ。マス・メディアの政治的な機能について学ぶ。																																																																					
第13回 政党と利益集団①	確認テスト																																																																				
政党の政治的機能について学ぶ。政党制とは何かについて学ぶ。政党制の分類法と各国の政党制について学ぶ。																																																																					
第14回 政党と利益集団②	確認テスト																																																																				
利益集団の機能について学ぶ。利益集団の活動に関する二つのモデルについて学ぶ。日本の利益集団の活動について、その特徴を学ぶ。																																																																					
第15回 現代政治の諸問題と講義のまとめ	レポート																																																																				

	現代政治における主要な対立軸を学ぶ。グローバル・イシューと世界の現状について学ぶ。一連の講義を振り返る。
成績評価方法	<p>毎回の課題の出来と、単位修得試験の到達度の両者をあわせて評価する。政治学の基礎的な知識が身についているかを確認するとともに、講義中に扱った政治学上の問題や考え方を基に自分の考えを説明できるかどうかを問う。</p> <p>【A 評価】以下の項目を確認すべく出題した課題及び単位修得試験において、全ての項目において概ね正しく解答することができており、また政治学上の問題や考え方を理解したうえで、自分の意見を述べることができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治および政治学において用いられる基礎的な概念について正確に説明できる。 ・日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国の制度（選挙制度を含む）の概要について正確に説明できる。 ・日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国における政治の実態について、政治学上の諸概念を用いて正確に説明できる。 ・現代の政治においてあらわれる様々な政治現象やそれを説明する理論について、正確に説明できる。 ・自由主義や民主主義といった現代の政治の基盤となっている重要な政治原理について、その歴史的な意味や現代における意義、具体的な制度上の現れなどを含め、正確に説明することができる。 ・歴史上の重要な政治思想家の思想、政治の発展に寄与した政治原理について、正確に説明できる。 ・上記の知見をもとに、現状の政治現象の捉え方や対策、政治的問題に対する意見、あるいはるべき政治の姿について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる。 <p>※詳細は授業内の「成績評価方法について」を参照のこと</p> <p>【B 評価】上記の項目のうち、1～2項目について正しく解答することができていないが、それ以外の項目については概ね正しく解答することができている。また、政治学上の問題や考え方を理解したうえで、自分の意見を述べることができている。</p> <p>【C 評価】上記の項目のうち、2～3項目について正しく解答することができていないが、それ以外の項目については概ね正しく解答することができている。また、時に政治学上の問題や考え方を踏まえていないことがあるが、自分の意見を述べることはできている。</p> <p>【D 評価】上記の項目のうち、3～4項目について正しく解答することができていないが、それ以外の項目については概ね正しく解答することができている。また、時に政治学上の問題や考え方を踏まえていないことがあるが、自分の意見を述べることはできている。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	特になし
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>毎朝、新聞に必ず目を通し、政治情勢や社会の出来事に目を配っていること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	精神分析学			担当者	赤坂 和哉			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フロイトから始まる精神分析について、主要な研究者の名前を挙げて、それぞれの研究対象や分析技法、功績や業績について説明することができる。 ・精神分析における様々な学派の理論や主張の相違点について、その原因や経緯も含めて比較しながら、説明することができる。 ・精神分析が日常生活においていかに身近なものであるのかを、自分自身の経験をもとにして、具体例を挙げて説明することができる。 ・芸術・文学作品を取り上げて、精神分析の観点から作家や作品の分析ができる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。レポート課題があるので、事前にel-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと(特に文字数に関して)。</p> <p>精神分析学の専門用語には似ている言葉が多いので、その違いに注意を払いながら、一つ一つの専門用語を把握しておくこと。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業を聞いて重要と思う点をノートに取り、それを補足する形で自己学習をすることが望ましい。 											
学習内容	概要								課題			
	第1回 フロイトの精神分析①								確認テスト、ディスカッション			
	<p>精神分析の創始者フロイトを取り上げ、その人物像からはじめ、精神分析の誕生過程を最初に確認します。そして、無意識などの精神分析の中心概念を概観し、精神分析でよく批判の対象となる性愛に関しで解説します。</p>											
	第2回 フロイトの精神分析②								レポート			
	<p>フロイトの代表的な著作『夢判断』をもとに夢の意味を読み解く方法を概観し、臨床的に精神分析を学ぶ基礎と言われる5つの症例に触れ、最後にフロイト以降の精神分析の展開を大まかに確認します。</p>											
	第3回 ユングの分析心理学								確認テスト			
	<p>フロイトと決別し、分析心理学を打ち立てたユングを取り上げ、その生涯を最初に概観し、「内向的」等の言葉で知られるタイプ論を解説し、集合的無意識を形作る元型とその表現として箱庭やマンダラを取り上げます。</p>											
	第4回 アドラーの個人心理学								確認テスト			
	<p>フロイトと決別し、個人心理学を作ったアドラーを取り上げ、その人物像や考え方などをまず確認し、初期の劣等性に関する研究、中期のライフスタイルに関する研究、後期の共同体感覚に関する研究を順に見ていきます。</p>											
	第5回 アンナ・フロイトらの自我心理学								レポート			
	<p>フロイトの娘であり、自我心理学の礎を築いたアンナ・フロイトの生涯と防衛機制に関する研究を最初に概観し、自我の自律性を強調したハルトマンと自我の心理・社会的発達を研究したエリクソンを取り上げます。</p>											
	第6回 クラインの対象関係論								確認テスト			
	<p>アンナ・フロイトと理論・実践面で対立したクラインを取り上げ、その対立の中心となった空想概念をまず確認します。そして、クラインが基礎を作り上げた対象関係論の鍵概念である投影同一化などを取り上げます。</p>											
	第7回 ボウルビィらの母子研究								確認テスト			
	<p>自我心理学的な発想に端を発した、乳幼児の直接観察に基づく母子関係の実証的研究を取り上げます。具体的には、ボウルビィの愛着理論、マーラーの分離一個体化理論、スターの自己感の研究を解説します。</p>											
	第8回 コフートの自己心理学								確認テスト			
	<p>自己心理学を考案したコフートを取り上げ、その人物像や生涯をまず概観し、自己心理学の中心概念である双極性自己と自己対象を解説し、最後に、そうした概念と現象面の結びつきを有名な症例「X 氏」で確認します。</p>											
	第9回 ウィニコットの対象関係論								ディスカッション			
	<p>現代の精神分析で重要な理論的な柱である対象関係論から、間にあるものに重きを置いたウィニコットを取り上げ、その生涯と中心概念を概観します。具体的には、ほど良い母親、移行対象、遊ぶことなどを取り上げます。</p>											
	第10回 ビオンの対象関係論								ディスカッション			
	<p>精神分析の対象「O」を追求したビオンを取り上げ、まずその人物像と集団に関する考え方を確認します。そして、容器・内容モデル、アルファ機能、対象「O」といったビオンの中心的な概念について解説します。</p>											
	第11回 ラカンの精神分析								レポート			
	<p>フロイトへの回帰を主張し、精神分析を現代的に甦らせたラカンを取り上げ、まずその生涯を概観します。そして、言語的な無意識について解説し、その動きを症例で確認し、最後に、ラカンの理論的展開を説明します。</p>											
	第12回 ドルトの児童分析								確認テスト			
	<p>子供の精神分析において特に評価が高く、「魔法を使う」とまで言われた類い希な臨床力を持つドルトを取り上げ、その人物像の説明からはじめ、ドルトが注目した去勢概念を理論および実践面から解説します。</p>											

	<p>第13回 精神分析と診断学 精神疾患の診断には、DSM-IV 等に見られる、症状を記述して分類した操作的診断基準が使用されている。このような診断基準には社会的な圧力が影響する問題点があり、それを精神分析的な懷疑を用いて考察する。</p> <p>第14回 精神分析と現代社会 父権主義・家父長主義などの様々な権威が失墜した現代社会では、精神分析の観点からは、普通精神病と普通倒錯という二つの現代に特徴的な人間のあり方が想定されている。この回では、この二つについて解説する。</p> <p>第15回 精神分析と病跡学 フロイトはダ・ヴィンチ等の有名な人物を精神分析の手法を用いて間接的に分析した。こうした病跡学の観点から、フロイトによるダ・ヴィンチ論、ラカンによるジョイス論、他には宮崎駿を取り上げる。</p>	ディスカッション
	<p>第13回 精神分析と診断学 精神疾患の診断には、DSM-IV 等に見られる、症状を記述して分類した操作的診断基準が使用されている。このような診断基準には社会的な圧力が影響する問題点があり、それを精神分析的な懷疑を用いて考察する。</p> <p>第14回 精神分析と現代社会 父権主義・家父長主義などの様々な権威が失墜した現代社会では、精神分析の観点からは、普通精神病と普通倒錯という二つの現代に特徴的な人間のあり方が想定されている。この回では、この二つについて解説する。</p> <p>第15回 精神分析と病跡学 フロイトはダ・ヴィンチ等の有名な人物を精神分析の手法を用いて間接的に分析した。こうした病跡学の観点から、フロイトによるダ・ヴィンチ論、ラカンによるジョイス論、他には宮崎駿を取り上げる。</p>	ディスカッション
	<p>第13回 精神分析と診断学 精神疾患の診断には、DSM-IV 等に見られる、症状を記述して分類した操作的診断基準が使用されている。このような診断基準には社会的な圧力が影響する問題点があり、それを精神分析的な懷疑を用いて考察する。</p> <p>第14回 精神分析と現代社会 父権主義・家父長主義などの様々な権威が失墜した現代社会では、精神分析の観点からは、普通精神病と普通倒錯という二つの現代に特徴的な人間のあり方が想定されている。この回では、この二つについて解説する。</p> <p>第15回 精神分析と病跡学 フロイトはダ・ヴィンチ等の有名な人物を精神分析の手法を用いて間接的に分析した。こうした病跡学の観点から、フロイトによるダ・ヴィンチ論、ラカンによるジョイス論、他には宮崎駿を取り上げる。</p>	レポート
成績評価方法		<p>確認テスト、レポート課題、ディスカッション課題、単位修得試験</p> <p>【A 評価】B 評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業で修得した精神分析の諸概念を適切に用いて、自らの体験を熟考し、自分自身等について精神分析的に考えることができていること。 ディスカッション課題で、受講者全体にさらなる理解や修得を促すような発言を行うこと。 単位修得試験を受け、正解が非常に多く、精神分析の基礎的な概念をよく理解していること。</p> <p>【B 評価】C 評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業で修得した精神分析の諸概念と自らの体験を基にして、自分自身等について部分的にでも精神分析的に考えることができていること。 ディスカッション課題で、前向きで積極的な発言を行うこと。 単位修得試験を受け、正解が多く、精神分析の基礎的な概念を十分に理解していること。</p> <p>【C 評価】D 評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業内容に適切に言及し、自分自身等について精神分析的に考えようとしていること。 ディスカッション課題で、間違ってもよいので自分の意見を述べること。 単位修得試験を受け、正解が半分はあり、精神分析の基礎的な概念を半分以上理解していること。</p> <p>【D 評価】以下の項目を満たし、総合的に見て単位を取るに足る習熟度を示していること。 レポート課題を提出していること。 ディスカッション課題に参加していること。 単位修得試験を受けていること。</p>
教科書	なし	
参考書(任意購入)	<p>『ラカン派精神分析の治療論』、赤坂和哉、誠信書房、3,564 円(税込)、2011 年 『はじめてのラカン精神分析』、赤坂和哉、誠信書房、2,160 円(税込)、2013 年 『集中講義・精神分析＜上＞』、藤山直樹、岩崎学術出版社、2,916 円(税込)、2008 年 『集中講義・精神分析＜下＞』、藤山直樹、岩崎学術出版社、2,916 円(税込)、2010 年 『露出せよ、と現代文明は言う』、立木康介、河出書房新社、2,592 円(税込)、2013 年</p>	
必須ソフト・ツール		
備考	<p>【履修の前提とするもの】 本授業を履修するまでに、参考書にあげた 5 冊の書籍、またはそれ以外の書籍でもよいので、精神分析の専門書(書店の精神分析の棚にある本)を一冊以上は読んでおくこと。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>	

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	精神保健学			担当者	堀川 諭			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	近年、英国では、ガン、心疾患と並び、精神疾患を三大疾患に位置づけ、精神保健関連施策の充実が図られるようになりました。このように、現代社会において、精神保健はきわめて重要な問題となっています。この授業では、さまざまな角度から精神保健を学び、精神障害についての理解を深めたいと思います。											
学習の進め方	教科書を主教材として学習を進めます。各章のレポートを提出し、単位修得試験のレポートに取り組んでください。											
授業時間外学習	・関連したサイトの閲覧を奨めます。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1章 精神保健の基礎								レポート			
	精神保健とは、精神保健の歴史、精神障害の原因、発達、知能と人格の心理検査											
	第2章 精神症状の知識								レポート			
	意識の障害、知能の障害、記憶の障害、知覚の障害、思考の障害、感情の障害、意欲と行動の障害、自我の障害											
	第3章 精神障害の知識											
	症状性を含む器質性精神障害 精神作用物質使用による精神および行動の障害 統合失調症 気分障害 神経性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 成人の人格および行動の障害 精神遅滞 心理的発達の障害 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 てんかん								レポート			
	第4章 精神障害の治療								レポート			
	身体療法 精神療法 社会療法(精神科リハビリテーション)											
	第5章 社会と精神保健								レポート			
成績評価方法	各章のレポート(50%)、単位修得試験のレポート(50%)											
教科書	著書『新版 精神保健 第2版』 著者 石井厚 監修 出版社 医学出版社 出版年度 2010年 9月 24日 ISBN 9784870551190											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	el-Campus にて専用のレポート様式をダウンロードして使用してください。 この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。											

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	青年心理学			担当者	芳田 茂樹			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	本授業では、青年期の諸理論を通して、身体的・生理的発達や自己意識の形成を中心に青年期の心身の発達が人間形成において重要な時期であることを認識し理解することを目的に行う。											
学習の進め方	本授業では、指定した教科書を活用して学習を進めます。学習をスタートするときは、必ず各章の学習のポイントやねらいを十分把握して学習を進めて下さい。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する教科書等は必ず目を通しておくこと。 ・辞典、専門書及び関連サイトを活用すること。 ・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと。 ・各自で規則的に学習するスタイルを身につけること。 ・興味・関心を持って取り組むこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1章 青年期と青年心理学 青年期は発達段階では、どのような時期に位置づけられ、どのような課題に直面しているのかを考えてみよう。								確認テスト			
	第2章 青年期の思考と感情 青年期特有の感情や思考的方向性を通して、価値観や生きがいについて考えてみよう。								確認テスト			
	第3章 身体とジェンダー 思春期以降の身体・生理的発達特徴や性役割観について考えてみよう。								確認テスト			
	第4章 自己とアイデンティティ 自己意識やアイデンティティとは青年にとってどのような概念で位置づけられているのか。またそれはどのようにして形成されていくのかを考えてみよう。								確認レポート			
	第5章 家族と友人 青年期の親子関係や友人関係は、どのように発達し、どのように構築されていくのかを考えてみよう。								確認テスト			
	第6章 学校と学習 青年期の多くの時間を過ごす「学校」での生活や就学することの意味を通して、青年期の生活意識について考えてみよう。								確認テスト			
	第7章 進路と職業 青年期のキャリア形成と職業観について考えてみよう。								確認テスト			
	第8章 社会と政治 青年期における社会的期待と役割、また社会参加について考えてみよう。								確認テスト			
	第9章 障害と臨床 思春期・青年期の問題解決にはどのようにしてサポートしていくべきかについて考えてみよう。								確認テスト			
成績評価方法	第10章 大人になること 大人になることはどのようなことか？さまざまな社会的イニシエーションを通して考えてみよう。											
	レポート(25%)、確認テスト(25%)及び単位修得試験(50%)により総合評価する。											
教科書	著書『よくわかる「青年心理学」』 著者 白井利明 出版社 ミネルヴァ書房 出版年度 2010年10月5日 1版 ISBN 9784623044733											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	本授業は、本学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。											

メジャー(専修)名				授業科目名	生物学概論			担当者	杉本 敏美			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	ヒトを含めた多細胞生物の生命活動の営みについて、①生物の階層構造・DNA の転写と翻訳・タンパク質の機能、②代謝・体内環境・刺激と運動・生体防御、③生殖・発生・分化・遺伝、④遺伝子疾患と遺伝子治療・バイオテクノロジーなどの観点から説明できるようになる。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <p>繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で、課題および次回の学習に取り組むこと。</p> <p>授業内容の理解をより深めるために、積極的に参考書を活用することが望ましい。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 生物の基本単位である細胞								確認テスト			
	多種多様な細胞であっても、その基本構造は共通していることを学び、また、動物細胞と植物細胞、真核細胞と原核細胞では、それぞれ異なる構造体が含まれていることも知る。											
	第2回 生物の階層性-細胞から個体へ-								確認テスト			
	細胞数や細胞同士のつながりの強弱によって、多種多様な生物が個体として存在することを知る。また、細胞内共生説についても学ぶ。											
	第3回 生命活動に必要な物質								確認テスト			
	生体を構成する主な物質を質量比の高い順に取り上げ、各物質がどのように生命活動に利用されているのかを学ぶ。											
	第4回 代謝								確認テスト			
	動物は、植物によって合成された栄養(有機物)を摂取し、それを分解(消化)することでエネルギーを得ている。この一連の過程を、物質とエネルギー、それぞれの観点から包括的に学習する。											
	第5回 体内環境と恒常性の維持								確認テスト			
	ヒトを含む動物では、体内環境を一定に保つ働き(恒常性)が備わっている。ここでは、体内環境を形成する体液について、主に、血液とリンパ液を中心に、体内での働きを学ぶ。											
	第6回 刺激と反応								確認テスト			
	生物は、常にさまざまな刺激を受取り、それに対する活動を起こしている。ここでは、私たちヒトの持つ受容器と効果器、さらに、それらをつなぐ神経について詳しく学ぶ。											
	第7回 生物の生体防御の仕組み								確認テスト			
	ヒトや動物などが持つ、異物(非自己)を排除する免疫の仕組みを学ぶ。また、ヒトの免疫異常による疾患について知ると共に、さまざまな免疫療法についても学習する。											
	第8回 生殖と発生・分化								確認テスト			
	さまざまな生物の生殖法を理解し、さらに、生殖細胞の形成・受精・発生・分化などの一連の過程を詳しく学習する。											
	第9回 遺伝のしくみ								確認テスト			
	メンデルの唱えた遺伝の基本概念を知ると共に、メンデルの法則に従わない遺伝について学ぶ。また、モーガンが作製した染色体地図の原理についても学ぶ。											
	第10回 DNAの構造と複製のしくみ								確認テスト			
	遺伝子の本体であるDNAの発見、DNAの化学構造の同定、DNAの複製の仕組みの解明などについて学ぶ。											
	第11回 細胞分裂と細胞周期								確認テスト			
	生物は細胞分裂を行うことによって、娘細胞にゲノムの分配を行うが、その分配の仕方は、体細胞と生殖細胞とで大きく異なることを学ぶ。											
	第12回 遺伝情報の発現とその応用技術								確認テスト			
	DNAの遺伝情報に基づいて、タンパク質が合成される仕組みを理解し、また、近年の遺伝子解析技術の進展によって、遺伝子の人工合成や改変が可能になったことなどを学ぶ。											
成績評価方法	評価材料: 単位修得試験(レポート試験)											
	<p>【A評価】 レポート試験において、授業で得た知識を活かしながら、独自の視点で、生物の階層構造を説明でき、また、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象を理解し、特に興味を持った現象については、正確に説明できると判断する場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、①生物の階層構造・DNA 情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、②生殖・発生・分化・遺伝、③生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、正確に説明できる。</p>											
	<p>【B評価】 レポート試験において、授業で得た知識を活かしながら、独自の視点で、生物の階層構造をおおまかに説明でき、また、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象を理解し、特に興味を持った現象については、おおまかに説明できると判断する場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、①生物の階層構造・DNA 情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、②生殖・発生・分化・遺伝、③生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、おおまかに説明できる。</p>											
	<p>【C評価】 レポート試験において、授業で得た知識を活かしながら、独自の視点で、生物の階層構造をおおまかに説明でき、あるいは、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象を理解し、ある現象については、おおまかに説明できると判断する場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、①生物の階層構造・DNA 情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、②生 </p>											

	<p>殖・発生・分化・遺伝、③生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、部分的に説明できる。</p> <p>【D 評価】 レポート試験において、説明不足な部分も見受けられるが、授業で得た知識を活かして、生物の階層構造を説明しようとしている、あるいは、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象について、不十分ながらも説明しようとしていると判断できる場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、①生物の階層構造・DNA 情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、②生殖・発生・分化・遺伝、③生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、説明できていない部分もあるが、生物学の一定レベルの知識は身についている。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	『好きになる 生物学 第2版』、吉田邦久、講談社、¥1,216(税込)、2012年 『大森徹の最強講義 117講 生物』、大森徹、文英堂、¥2,700(税込)、2015年
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 高校で「生物基礎」または「生物」の履修経験があれば、よりいっそう理解を深めることができる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	生命科学			担当者	渡辺 勉			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	生命科学は難しいと思われがちだが、実際の日常生活に深く関わっている。生命科学の基礎と現状を知り、どのような形で生活の中に入っているのかを具体的にみる。そして、生命科学の及ぼす影響がメリットばかりでなくデメリットもあることを理解し、生命科学の成果について批判的に考える力を身につける。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主に活用して学習を進めます。各回ごとに課題があるので、クリアしてから次の回へ進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をはじめるときには必ず、各回のシラバス(学習概要)を見て、事前に授業に関連することに関して、調べておくことで、よりよく理解できる。 ・各回の受講後は、授業の内容に関して、関連のある報道などに常に関心をもち、わからないことは調べるという習慣を身につけることで理解が深まる。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 生命科学とは何か？								確認テスト			
	生命科学とはどのような科学かを歴史や具体例を通して理解する											
	第2回 ヒトの進化								確認テスト			
	ヒトがサルから進化した歴史を知り、ヒトとは何かを知る											
	第3回 生命の誕生								確認テスト			
	海から生命が誕生し、突然変異と環境適応により多様な生物が誕生してきたことを知る											
	第4回 細胞								確認テスト、ディスカッション			
	生物の体を構成する細胞の構造や機能を理解する											
	第5回 DNAとRNA								確認テスト			
	DNAとRNA、ゲノムや遺伝子の基礎を学ぶ											
	第6回 遺伝子について								確認テスト			
	遺伝子の基本的な働きを学び、遺伝子がわかることで何が出来るようになったかを理解する											
	第7回 がんと遺伝子								確認テスト、ディスカッション			
	がんと遺伝子の関係を学び、がんのメカニズムと予防について理解する											
	第8回 ウィルスと細菌								確認テスト			
	細菌とウィルスの違いを知り、感染症について理解を深める											
	第9回 免疫のシステム								確認テスト			
	ヒトの生体防衛機構である免疫の基本を知り、その重要性を理解する											
	第10回 老化								確認テスト			
	老化のメカニズムについて、最新の知見を織り込みながら学ぶ。アンチエイジング医学についても理解を深める											
	第11回 生命を操る								確認テスト、ディスカッション			
	遺伝子組み換えやクローリーなど具体例を挙げながらその基礎知識や問題点を探る											
	第12回 生殖と発生、分化								確認テスト			
	生殖や発生の基礎的なメカニズムを知り、不妊治療についても考える											
	第13回 生物の多様性								確認テスト			
	生物多様性の重要性を知り、危機に瀕する多様性の問題点を理解する											
	第14回 生命倫理								確認テスト、ディスカッション			
	生命倫理の生まれてきた歴史を知り、その重要性を理解する											
	第15回 まとめ								確認テスト			
	これまでに学んできたことを振り返り、生命科学のこれからを考える											
成績評価方法	各回の確認テスト(15%)、平常の学習態度(期間内学習)(15%)、ディスカッションへの参加(30%)、単位修得試験(40%)により総合評価する。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	学習内容に沿って適宜提示する。											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン			授業科目名	対人関係論			担当者	森下 朝日					
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★							
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—					
学習目標														
<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について、適切に説明できる。 ・対人関係で予想されるトラブルを理解し、解決法を考えることができる。 ・対人関係における自己のあり方について分析し、自らの行動改善に繋げることができる。 ・自己と他者の双方を尊重した対人コミュニケーションとはどうあるべきかを指摘できる。 														
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。													
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 参考書に目を通しておくことが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>													
学習内容	概 要								課 題					
	第1回 自己のなりたち(1)自己意識とその発達								確認テスト					
	対人関係における自己のあり方を考えるために、自己意識の概念ならびにその発達過程について学ぶ。													
	第2回 自己のなりたち(2)自己概念と社会的比較								確認テスト					
	前回に引き続き、対人関係における自己のあり方を考えるために、自己の中核をなす自己概念、社会的比較と自尊心、および自尊心を保つための様々な方略について学ぶ。													
	第3回 対人認知(1)対人認知とそのプロセス								確認テスト					
	他者と出会い、関係を築く際に生じる対人認知のメカニズムと、対人認知が態度の決定に至るまでのプロセスについて学ぶ。													
	第4回 対人認知(2)印象のゆがみ								確認テスト					
	対人認知のフィールドワークについて紹介し、印象形成の歳に生じやすい様々な認知バイアスについて学ぶ。													
	第5回 自己呈示と自己開示(1)自己呈示								確認テスト					
	他者に対して自己の印象を操作する際に用いる様々な自己呈示について、それぞれの型の中でどのような意図や行動が見られるかを学ぶ。													
	第6回 自己呈示と自己開示(2)自己開示とフィードバック								ディスカッション					
	より深い対人理解において必要不可欠である自己開示とフィードバックについて、その意味と効果を学び、ジョハリの窓の概念を通じて両者の関係を学ぶ。また、実際に作成したジョハリの窓をもとにディスカッションを行う。													
	第7回 対人好悪(1)相手要因と自己要因								確認テスト					
	他者に好意や嫌悪感情を抱く要因について考え、その一端である相手要因と自己要因について学ぶ。													
	第8回 対人好悪(2)相互要因と相互作用要因								確認テスト					
	前回に引き続き、対人好悪の主な要因の一端である相互要因と相互作用要因について学ぶ。													
	第9回 援助と攻撃(1)援助行動における心理								確認テスト					
	対人援助の傍観者効果、援助する心理、援助行動の促進・阻害要因やソーシャルサポートについて学ぶ。													
	第10回 援助と攻撃(2)攻撃と対立における心理								確認テスト					
	攻撃の定義と攻撃行動起因の諸理論、および対立的状況で生じるジレンマの心理について学ぶ。													
	第11回 対人コミュニケーション(1)ポジティブな会話の流れ								確認テスト					
	対人コミュニケーションの意味とあり方について学び、ポジティブコミュニケーションとネガティブコミュニケーションの流れを学ぶ。													
	第12回 対人コミュニケーション(2)コミュニケーション・チャネルとその諸相								確認テスト					
	対人コミュニケーションの媒体となる様々なチャネルについて学んだ上で、その大半を占めるノンバーバルコミュニケーションのうち、アイコンタクト、身体動作、表情、パーソナルスペースの特徴について学ぶ。													
	第13回 コミュニケーションと対人関係(1)自己表現とアサーション								ディスカッション					
	対人コミュニケーションにおける自己表現の3つのタイプとアサーションの概念について学び、葛藤状態を改善するための自己表現のあり方についてディスカッションを行う。													
	第14回 コミュニケーションと対人関係(2)傾聴と共感的理解								確認テスト					
	対人コミュニケーションにおける傾聴の概念と方法について学んだ上で、対人理解のレベルと共感的理解の重要性について学ぶ。													
	第15回 まとめ—授業のふりかえり								確認テスト					
	これまでのまとめとして、第1回から第14回までの授業内容をふりかえる。													
成績評価方法	<p>評価材料: ディスカッション、単位修得試験(選択式問題) 【A評価】 単位修得試験において満点に近い成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、テーマに沿いつつオリジナリティのある意見を十分に述べ、かつ、他者の意見にコメントや質問を行い積極的に参加していること。</p>													

	<p>対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について十分に理解し、自分の言葉で適切な説明ができる。また、対人関係で予想されるトラブルに対し、解決法を多角度から考え、実践することができる。さらに、対人関係における自己のあり方について正確に分析し、自らの行動改善、ならびに自己と他者の双方を尊重した対人関係へと繋げることができる。</p> <p>【B 評価】 単位修得試験において優秀な成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、自己の意見を十分に述べると共に、他者の意見にコメントや質問を行い積極的に参加していること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について理解し、適切な説明ができる。また、対人関係で予想されるトラブルに対し、解決法を自分で考えことができると共に、対人関係における自己のあり方について考察することができる。</p> <p>【C 評価】 単位修得試験において標準以上の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について一応の説明ができる。また、対人関係で生じるトラブルについて予想できると共に、対人関係における自己のあり方について考えることができる。</p> <p>【D 評価】 単位修得試験において最低限の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について最低限の説明ができる。また、対人関係における自己のあり方について考えることができます。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	『図解雑学 人間関係の心理学』、齊藤勇、ナツメ社、1,404 円(税込)、2003 年
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修の前提とするもの】 特になし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日常でみられるさまざまな社会的・時事的問題に注意を向つつつ、自らの対人関係について考察しておくこと。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	対人コミュニケーションのトレーニング			担当者	後藤 亮子
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	試験はレポート課題③とします。レポート③を提出するには、全授業へ出席する必要があります。参画型授業ですので一部欠席された場合は単位をつけることはできません。			単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス) 東京会場
学習目標	コーチングの手法を用い、対立や葛藤が起きている状況で建設的なコミュニケーションをとりながら合意形成を得ていく話し合いの進め方を身につけることができるようになる。								
学習の進め方	ペアワーク、グループワークなど演習はすべて参画型で構成されています。各自、対人コミュニケーションにおける悩みや課題を考察しておいてください。個別の悩みをテーマに相互にコーチングを行います。またケースを用いたグループでの演習で、話す力、聞く力を鍛え、総合的に話し合う力を磨いていきます。実践を通して学ぶ参画型の授業ですので心得て受講してください。授業で得た学びを日常で活用してください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、対人コミュニケーションにおける悩みや課題を考察しておいてください。対話やグループディスカッション中心の授業ですので、心得て受講してください。 ・授業で得た学びを日常で活用してください。 								
学習内容	概 要								課 題
	第1回 対人コミュニケーションの基本								
	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業のオリエンテーションを実施します。 ・対人コミュニケーションとは何かについて考察します。 								
	第2回 人を動かす「論理と感情」								
	大事な場面でのコミュニケーションは論理で行われているようで、実は感情が重要な鍵を握っていることを考察します。								
	第3回 コーチングの基本								
	相手の答えを引き出す対人コミュニケーション方法であるコーチングを学びます。								
	第4回 コーチングの実践								
	演習を通してコーチング・スキルを磨きます。演習後は振り返りを実施し、個人のコミュニケーション課題を探索します。								
	第5回 学びの整理								
	<p>1~4の学びを整理します。 授業時間内にレポート作成し、提出していただきます。(レポート課題①)</p>								レポート課題①
	第6回 コーチングの実践								
	1日目の学びを振り返ります。								
	第7回 コーチングの実践								
	ケースを読み、役割をもってコーチングを実践します。								
	第8回 アサーションの理論								
	アサーティブなコミュニケーションを学び、日頃の自分を振り返ります。								
	第9回 アサーションのトレーニング								
	演習を通してアサーション・スキルを磨きます。演習後は振り返りを実施し、個人のアサーション課題を探索します。								
	第10回 学びの整理								
	<p>6~9の学びを整理します。 授業時間内にレポート作成し、提出していただきます。(レポート課題②)</p>								レポート課題②
	第11回 協調的問題解決の理論								
	win-winを目指す協調的問題解決の理論を学びます。								
	第12回 協調的問題解決の演習Ⅰ								
	win-winを目指す協調的問題解決の演習を体験します。								
	第13回 協調的問題解決の演習Ⅱ								
	win-winを目指す協調的問題解決の演習を体験します。								
	第14回 協調的問題解決の演習Ⅱ 続き								
	演習を振り返り、学びを整理します。								
	第15回 全過程の学びの統合								
	<p>全過程を振り返り学びを統合します。 授業時間内にレポート作成し、提出していただきます。(レポート課題③)</p>								レポート課題③
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業への出席が必要です。 ・成績評価は、出席時間(50%)と平常点(50% レポート①、②、③の提出と受講態度)で行います。 								
教科書	なし								

参考書(任意購入)	
必須ソフト・ツール	
備考	スクーリングに筆記具を持参すること。 受講者上限人数 グループワークを含む講義 40 名 受講者数上限を超過した場合は、正科生の高学年を優先し、受講調整を行う。

メジャー(専修)名				授業科目名	第二言語習得研究 I			担当者	高見澤 孟			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	第二言語習得研究とはどのような学問か、まずその歴史から現在の考え方までを説明します。第二言語習得研究はまだまだ若い領域ですが、すでに多くの研究結果が言語教育の現場に生かされています。日本語教育の授業にそれらの知識をどのように応用していくことができるのかについて、特に第二言語習得を促進させる外的要因に焦点を置きながらお話をします。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。											
授業時間外学習	・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第 5 課 第二言語習得研究とは 第 5 課では第二言語習得研究の考え方の変化について、母語転移、誤用分析、中間言語などの重要な用語の説明を加えながら説明します。また、特に語用論的転移について実際の会話例をしながら考えていってもらいます。								レポート			
	第 6 課 第二言語習得の外的要因 第 6 課では第二言語習得を促進する外的要因についてフォリナー・トーク、コミュニケーション・ストラテジー、意味交渉、リキャストなどの用語の説明をしながら、実際の会話例で自らそれらの特徴を見つけてもらったりインプットが習得にまで結びつくプロセスや有効な方法について考えてもらいます。								レポート			
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700 円(税込)、2004 年 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年											
必須ソフト・ツール												
備考	【履修の前提とするもの】 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 上記の書籍の内容を理解していること 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現 I」「日本語の文法と表現 II」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます											

メジャー(専修)名				授業科目名	第二言語習得研究 II			担当者	高見澤 孟			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	第二言語習得研究 II では第二言語習得を促進する教室内におけるティーチャー・トークなどの外的要因と、学習ストラテジー、動機づけ、年齢要因などの学習者の内的要因について説明をします。これまでにも様々な教授法が考案されてきましたが、すべての学習者に効果があったわけではありません。それは学習者一人一人の差異、つまり内的要因の違いから来ているわけですが、この科ではより内的要因に焦点を置いてお話をします。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第 7 課 教室環境と学習ストラテジー 第 7 課ではまず教室環境における外的要因に焦点を絞り、明示的学习/暗示的學習、肯定証拠/否定証拠、宣言的知識/手続き的知識、ティーチャー・トークについて説明します。次に、内的要因の学習ストラテジーについて説明し、読解ストラテジーの例を実際に試してもらいます。								レポート			
	第 8 課 第二言語習得の内的要因 第 8 課は動機づけ、認知、スタイル適性、臨界期仮説、バイリンガルなどの内的要因に焦点を絞り説明をします。この課の中では日本に 17 年間住している二人の中国人移民の説明を聞いてもらい、彼らの動機づけなどについて考えてもらいます。								レポート			
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700 円(税込)、2004 年 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年											
必須ソフト・ツール												
備考	<p>【履修の前提とするもの】 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 上記の書籍の内容を理解していること</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現 I」「日本語の文法と表現 II」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます</p>											

メジャー(専修)名				授業科目名	地球環境問題と対策			担当者	内山 雄介			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地球環境問題の原因と影響について理解し、説明ができる ・様々な地球環境問題の今後の進行を遅らせる方策について理解し、行動できる 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として学習を進めます。</p> <p>各回の最後には、確認テストがありますので、それをクリアしてから次の回に進みましょう。</p> <p>なお、この授業の教科書は、オンデマンド教材をプリントアウトしたものです。確認テストや単位修得試験の際には、それを手元に置いておくことを勧めます。</p>											
授業時間外学習	事前に講義資料に目を通しておくこと。受講後は、科目に関連したサイトの閲覧を推奨します。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 序論								確認テスト			
	環境やエコという言葉について、また環境の構成要素について学習します。 また、環境問題を考える前に重要である、地球の歴史と大気組成の変化について詳しく学習します。											
	第2回 地球環境問題の原因と取り組みの経緯								確認テスト			
	環境問題が地球的規模の問題になった原因と、地球環境問題への基本的な取り組みの経緯について学習します。											
	第3回 地球温暖化と気候変動①								確認テスト			
	気候変動枠組条約が国連にて作成され、毎年開催される締約国会議、通称 COP について解説し、また IPCC と呼ばれる気候変動に関する科学者の会議の目的や組織について学習していきます。											
	第4回 地球温暖化と気候変動②								確認テスト			
	気候変化とその影響に関する観測結果について、具体的に IPCC の評価報告書を参考にしつつ学習していきます。 また、気候変化の原因である温室効果ガスの排出量が増加してきた経緯を示し、温暖化のメカニズムについて学習します。											
	第5回 予測される気候変動の影響①								確認テスト			
	社会の変化として予測される 6 つのシナリオについて述べ、次に気温上昇について学習します。 また、異常気象による各分野への影響について解説し、気候変動により特に影響を受ける分野、地域について学習します。											
	第6回 予測される気候変動の影響②								確認テスト			
	温暖化が海面水位の上昇に及ぼす影響について、農業や漁業などの食糧生産に及ぼす影響について、また生態系への影響について具体例を示して学習します。											
	第7回 健康への影響及びIPCC の長期予測と対策								確認テスト			
	気候変動の健康への影響について、さらにエルニーニョ現象と感染症の関係についても簡単に学習します。また、温室効果ガスの安定化の様々なシナリオに対する気温上昇や海面上昇などの予測値を示し、温暖化と気候変動に対する適応策と温室効果ガスの削減策について学習します。											
	第8回 温室効果ガス排出の現状と対策								確認テスト			
	世界と日本の二酸化炭素排出量の現状と予測について学習します。また、政府の排出量削減計画についてその目標と具体的な方策について学習します。											
	第9回 低炭素社会実現への具体的な方策①								確認テスト			
	政府や産業界における省エネの取り組みについて学習します。 また、家庭における省エネについても身近なことを例に上げて学習します。											
	第10回 低炭素社会実現への具体的な方策②								確認テスト			
	コージェネレーションやクリーン自動車などの炭素排出量がより少ないエネルギー利用法について、また原子力発電や、太陽光発電、風力発電などの自然エネルギーによる発電について学習します。											
	第11回 地球温暖化以外の地球環境問題①								確認テスト			
	酸性雨とオゾン層の破壊について学習します。											
	第12回 地球温暖化以外の地球環境問題②								確認テスト			
	生物種の分類法について学び、次に絶滅が心配されている種について学習します。また、観光客が増えている南極地域の環境保護について学習します。											
	第13回 地球温暖化以外の地球環境問題③								確認テスト			
	船の燃料油の流出や赤潮などの海洋汚染について学習します。 医療廃棄物や電気電子機器廃棄物などの有害物質の国を超えての移動についてや、人間の活動の活性化によってもたらされた森林の減少について、特にアフリカで進んでいる砂漠化の現状についても学習します。											
	第14回 地球温暖化以外の地球環境問題④								確認テスト			
	日本における 4 大公害と呼ばれる公害について解説し、最後に開発途上国における環境問題について学習します。											
成績評価方法	確認テスト(40%)、単位修得試験(60%)											
教科書	オンデマンド教材をプリントアウトして綴じて配布します。											

参考書(任意購入)	
必須ソフト・ツール	
備考	環境に関連する事柄は日々変化します。この授業の内容は、2010年10月から12月にかけて製作しました。手に入る限り新しい内容を盛り込む努力をしましたが、古くなっている内容もありますので、新聞やテレビの報道などにも注意して学習を進めて下さい。

メジャー(専修)名				授業科目名	地球環境論			担当者	貝柄 徹			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	高等学校などで地理や地学を履修していない学生であっても、地球科学の観点から地球環境の変遷を理解することを目標とする。詳細な専門用語の暗記よりはその事象を総合的に理解し、考察できるような力を身につけることができるようになる。											
学習の進め方	記載してある専門用語よりも図や写真をよく観察し、テーマの話の流れを概観していくことが肝要である。											
授業時間外学習	・教科書を一読する際に、知らない用語が出てきてもそのまま読み続けてゆくという意識を明確にしてください。 ・どうしても理解できない用語等がある場合、あるいは興味をもったテーマには、各自インターネット等でより詳細に調べていけば学習度が深くなります。また地名を画像や写真で検索すると理解度が増します。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1章 プレートとブルームのテクトニクス								確認テスト			
	大陸移動説からプレートテクトニクスへの変化								確認テスト			
	第2章 地球の歴史								確認テスト			
	地球の誕生と環境の変化								確認テスト			
	第3章 マグマと火山								確認テスト			
	火山の種類と地形								確認テスト			
	第4章 断層と地震								確認テスト			
	地震の特徴と災害								確認テスト			
	第5章 岩石と地球の調べ方								確認テスト			
成績評価方法	確認テスト(50%)、単位修得試験(50%)により総合評価する。											
教科書	著書 『地球のしくみ—地球の誕生から 46 億年の歴史と内部構造まで』 著者 平賀章三・宮嶋 敏・芝川明義・高木淳子・大木勇人 出版社 新星出版社 出版年度 2006 年 7 月 ISBN 9784405106543											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	本授業は、本学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。											

メジャー(専修)名				授業科目名	中国語入門			担当者	公文 三佐子			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての課題が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	初心者を対象とし、基礎から中国語を学習します。平易な中国語に慣れるとともに、実践的な運用力を身につけることができます。すべての授業を終了した段階で中国語検定試験(日本中国語検定協会)準4級レベルに達することが目標です。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始後に補助教科書をダウンロードの上、印刷をし、目を通しておきましょう。 学習した内容を、各回第3節の「チャレンジ」を中心に復習しましょう。 発音教材にて繰り返し練習をし、中国語の発音をマスターしましょう。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 「こんにちは。」你好！								確認テスト			
	単語の発音やあいさつ語の練習を通して中国語の声調と子音の一部について学びます。											
	第2回 「買い物をしますか。」你买东西吗？								確認テスト			
	単語の発音やあいさつ語の練習を通して中国語の母音・子音(無気音・有気音)、人称代名詞、動詞述語文、疑問文“吗”“呢”について学びます。											
	第3回 「私は学生です。」我是学生。								確認テスト			
	単語の発音や会話文の練習を通して、中国語の子音(そり舌音)・母音(はねる音)、肯定・否定の言い方、勧誘・推量・命令の表現や否定を表す副詞“不”、その他の副詞“也”“都”について学習します。											
	第4回 「それは何ですか。」那是什幺？								確認テスト			
	単語の発音や会話文の練習を通して、中国語の“儿化”、指示代詞、疑問詞疑問文、所有を表す構造助詞“的”、動詞の重ね型について学びます。											
成績評価方法	第5回 「我が家に来てください。」欢迎大家来我家。											
	単語の発音や自己紹介文、常用用語を通して、いくつかの形容詞、形容詞述語文、「ある;いる」の表現などについて学びます。											
	第6回 「中国語は難しいですか。」汉语难不难？											
	単語の発音や会話文を通して、数の数え方、モノの数え方、「いくつ・どのぐらい」など不定の数を使った表現、反復疑問文について学びます。											
	第7回 「いま何時ですか。」现在几点钟？											
	単語の発音や会話文を通して、日付・曜日・時刻の表現、前置詞“在”“跟”、助動詞“要”“想”について学びます。											
	第8回 「泳げますか。」你会游泳吗？											
	単語の発音や会話文を通して、可能や許可を表す助動詞“能”“会”“可以”、経験を表す“过”について学びます。											
	各回の確認テストおよび単位修得試験(選択式問題)の成績にて評価する。 【A 評価】単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、リスニング・筆記いずれの試験でも満点に近いくらいに正解していること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法(文法)のルールがしっかりと理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級に十分合格できるレベルである。 【B 評価】単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、多少の欠けや弱みがあるものの、リスニング・筆記いずれの試験でも高得点を獲得していること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法(文法)のルールがほぼ理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級に合格できるレベルである。 【C 評価】単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、一定以上の水準で点数を獲得し、同試験を目指せる状態にあること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法(文法)のルールに対して一定の理解ができていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級合格を十分に目指せるレベルである。 【D 評価】単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、点数は高くないものの、学習の成果がみられること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法(文法)のルールをある程度理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級合格を目指せるレベルである。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『中検準4級試験問題 第86・87・88回 解答と解説』、日本中国語検定協会編、白帝社、1,900円(税別)、2016年											
必須ソフト・ツール												
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます											

メジャー(専修)名				授業科目名	調査研究方法 I			担当者	谷村 要、坂本 理郎、酒井 健、中嶋 哲夫			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	一			
学習目標	<p>本授業は、社会調査全般の入門科目として、社会調査の意義や類型別の基本的知識、社会調査に臨むにあたっての姿勢を身につけることを目的とする。社会調査の種類、意義、歴史、倫理などについて概観したうえで、社会調査の実践例についても学び、調査におけるデータの収集から分析に至る過程について理解する。社会調査士資格を取得する場合には、最初にこの科目を履修することを強く勧める。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の意義や調査倫理を踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を説明できるようになる。 ・社会調査にどのような種類があるかを理解し、調査目的に応じた選択ができるようになる。 ・社会調査のプロセスを踏まえて、調査企画を立案できるようになる。 ・調査テーマを設定したうえで、関連する文献・資料を収集できる。 ・調査の結果を、レポートや論文にまとめることができるようになる。 											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜メモを取れるよう筆記用具を準備しておくこと。 ・資料がエルキャンパスを通じて配布されている場合は、必ず学習前にダウンロードしておくこと。 <p>【学習後に復習して実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業において出された課題に取り組むこと。 ・授業のテーマ上、新聞や WEB 上のニュースサイトを通じて時事問題について日常的に知識を得ていることが望ましい。 ・授業で紹介した文献やウェブサイトを確認すること。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 社会調査とは何か								確認テスト			
	ここでは社会調査を「データを収集し社会について考えること」と捉え、事例を紹介しつつ、さまざまな種類の社会調査を紹介する。											
	第2回 社会調査の目的と意義								確認テスト			
	社会調査は何を目的として行われているのか？そして、調査を行う意義はどのようなものか？事例を踏まえながら、解説する。											
	第3回 社会調査の歴史								確認テスト			
	これまで社会調査が歩んできた歴史とその社会的背景について、具体的な事例を取り上げながら説明する。											
	第4回 社会調査がはらむ危うさ								確認テスト			
	社会調査はときに人を傷つけ、社会を見誤らせる危険性を持っている。社会調査の持つ危うさについて、具体的な事例を示しながら説明しつつ、社会調査に取り組む際の姿勢を涵養する。											
	第5回 社会調査のファースト・ステップ①(調査設計)								確認テスト			
	社会調査のプロセスを踏まえたうえで、社会調査を企画・設計をするために、どのような点に注意する必要があるかを解説する。											
	第6回 社会調査のファースト・ステップ②(プレ調査)								レポート			
	よい調査を企画するためには、そのために事前にテーマに関連した知識を修得する必要がある(プレ調査)。この回では、その基本的な方法について解説する。											
	第7回 質的調査の基本①(質的調査の概要)								確認テスト			
	社会調査としての質的調査とは何かを理解し、その大まかな進め方を学ぶ。											
	第8回 質的調査の基本②(質的調査の実践)								確認テスト			
	質的調査の実際を、インタビュー調査、参与観察、ドキュメント分析という 3 つの代表的な方法から学ぶ。											
	第9回 調査事例の紹介①(質的調査の事例)								ディスカッション			
	過疎地で 15 年間維持されてきた企業組合「生業の里」の調査過程を写真も使いながら、説明する。											
	第10回 量的調査の基本 調査の手順								確認テスト			
	社会調査としての量的調査とは何かを理解し、その大まかな進め方を学ぶ。											
	第11回 量的調査の基本 サンプリング①								確認テスト			
	社会調査の方法論の中でも重要な部分であるサンプリング(標本抽出)について説明する。											
	第12回 量的調査の基本 サンプリング②								確認テスト			
	量的調査の具体的な方法である調査票調査における調査票作成に必要な事を学ぶ。											
	第13回 量的調査の基本 調査票の作成								確認テスト			
	量的調査で得られたデータは、分析する前にどのようなチェックが必要かについて説明する。											
	第14回 調査事例の紹介②(量的調査の事例)								ディスカッション			
	ある企業で実施した従業員意見調査の内容を説明し、集計から調査結果のフィードバックまでの一連のステップを思い描く。											
	第15回 社会調査を取り巻く環境								確認テスト			
	社会調査を取り巻く環境を改めて捉えなおし、社会調査の企画・実施にあたり必要となることを確認する。また、調査倫理への理解を深めるため、「社会調査協会倫理規程」について解説する。											

	<p>評価材料:各回の課題、単位修得試験</p> <p>【A 評価】</p> <p>単位修得試験で 85%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して 90%以上の得点を得ることができている。 第 6 回課題において自らが設定したテーマに沿った適切な文献を 5 点以上示すことができている。また、書誌情報もすべて示されている。 第 9 回課題において、適切な目的・方法・計画を示した質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対して適切なコメントを投稿できている。 第 14 回課題において、適切な目的・方法・計画を示した量的調査の計画を立てことができている。他の学生の調査計画に対して適切なコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理をじゅうぶんに踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を具体的に説明できる。 社会調査にどのような種類があるかをじゅうぶんに説明でき、かつ、目的に応じた調査方法を適切に選択できる。 目的と方法を具体的かつ適切に設定し、自ら実践可能な調査計画を立てることができる。</p> <p>【B 評価】</p> <p>単位修得試験で 80%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して 80%以上の得点を得ることができている。 第 6 回課題において、自らが設定したテーマに沿った文献を 5 点以上示すことができている。また、書誌情報もすべて示されている。 第 9 回課題において、適切な目的・方法・留意点を示した質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 第 14 回課題において、適切な目的・方法・留意点を示した量的調査の計画を立てことができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理を踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を具体的に説明できる。 社会調査にどのような種類があるかをじゅうぶんに理解し、目的に応じた調査方法の選択ができる。 目的と方法を明確かつ適切に設定した調査計画を立てることができる。</p> <p>【C 評価】</p> <p>単位修得試験で 70%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して 70%以上の得点を得ることができている。 第 6 回課題において、自らが設定したテーマに沿った文献・資料を 5 点以上示すことができている。書籍の書誌情報がきちんと書かれている。 第 9 回課題において、目的・方法・留意点を示した質的調査の計画を立てことができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 第 14 回課題において、目的・方法・留意点を示した量的調査の計画を立てことができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理を踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を複数説明できる。 社会調査にどのような種類があるかを理解し、目的に応じた調査方法の選択ができる。 目的と方法を明確に設定した調査計画を立てることができる。</p> <p>【D 評価】</p> <p>単位修得試験で 60%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して 70%以上の得点を得ることができている。 第 6 回課題において、自らが設定したテーマに沿った文献を 5 点以上示すことができている。 第 9 回課題において、簡易的な質的調査の計画を立てことができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 第 14 回課題において、簡易的な量的調査の計画を立てができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理を最低限踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を 1 つ以上説明できる。 社会調査にどのような種類があるかを説明できるが、目的に応じた選択が不十分である。 簡易的な調査計画を立てることができる。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』、大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二編著、ミネルヴァ書房、¥2,700 円(税込)、2013 年
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修の前提とするもの】 特になし。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 •WORD でレポートの作成ができる。 •EXCEL の基本的な操作(データ入力、計算式入力、オートフィル機能の活用、基本関数の理解、書式設定)ができる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	調査研究方法Ⅱ			担当者	内田 啓太郎				
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★						
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—				
学習目標	<p>本授業では、社会調査の基本から始め、質的社会調査および量的社会調査、中でも量的社会調査を中心に学ぶ。この授業の受講を通じ、自らが社会調査を計画できる能力を取得することが目標である。具体的には以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会調査の必要性を問題解決の観点から説明できる。 ② 与えられた、もしくは自らが設定したテーマから調査を通じて分析、検証すべき仮説が構築できる。 ③ 構築した仮説の検証に適切な調査対象者なし集団を想定できる。 ④ 仮説検証に必要な調査方法を決定し、それに応じた具体的な調査プロセスを決定できる。 ⑤ 調査を通じて収集したデータを分析するため、調査方法に応じたデータの集計、整理ができる。 												
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。												
授業時間外学習	<p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <p>授業で説明される専門用語を理解しておくこと。必要があれば授業内で紹介する文献を読んでおくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>												
学習内容	<p>概 要</p> <p>第1回 社会調査とは何か: イントロダクション 社会調査を学ぶ意味をつかむため、社会調査の全体的なイメージについて解説する。</p> <p>第2回 社会科学研究と社会調査の重要性 社会科学分野の研究活動において、社会調査はどう位置づけられているか、その重要性について解説する。</p> <p>第3回 社会調査の目的・対象と方法 社会調査の目的に応じて調査対象を決定し、また量的ないし質的社会調査のいずれの方法を取るべきか、その判断の基準および決定プロセスについて解説する。</p> <p>第4回 社会調査における調査資料・データの収集と活用 社会調査の設計にて仮説構築の段階で必要となる、既存の社会調査データをどのように収集し、活用すべきか、その手順と方法について解説する。</p> <p>第5回 調査設計と仮説構築 社会調査の設計における仮説構築の手順と具体的な方法について、「ロジカル・シンキング」の手法を活用しつつ解説する。</p> <p>第6回 質的社会調査の方法(1)質的社会調査とは何か 質的社会調査を実施するにあたりどのような準備が必要か、複数の手法を紹介し、質的社会調査の手順と方法について具体的なプロセスを解説する。</p> <p>第7回 質的社会調査の方法(2)インタビュー調査の方法と手順 質的社会調査におけるインタビュー調査について、インフォーマントの選定や、ラポールの構築や構造化／非構造化インタビューの手法などについて解説する。</p> <p>第8回 質的社会調査の方法(3)フィールドワークの方法と手順 フィールドワークの主要な手法であるインタビュー調査や参与観察について具体的な事例を挙げて解説する。</p> <p>第9回 質的社会調査の方法(4)フィールドノート作成の方法と手順 インタビュー調査やフィールドワークの記録であるフィールドノートをどのようにまとめ、作成するのか、またそれらを調査データとして活用可能な形にどう整理していくのかについて解説する。</p> <p>第10回 量的社会調査の方法(1)質問紙調査の概要と手順 量的社会調査における質問紙調査の概要および準備に必要な手順について解説する。</p> <p>第11回 量的社会調査の方法(2)質問紙調査における母集団と標本 質問紙調査の調査票の作成にあたり、適切な母集団の選定および標本となる集団のサンプリング(特に無作為抽出の手順と、それにおける標本数の誤差)について解説する。</p> <p>第12回 量的社会調査の方法(3)質問紙調査における調査票の作成と注意点 質問紙調査の調査票の作成の手順と注意点、特に質問項目の個数や内容・表現(ワーディング)などといった注意すべき点について解説する。</p> <p>第13回 量的社会調査の方法(4)調査票の点検と調査票の配布・回収 質問紙調査において調査票の事前確認から配布、回収に至るまでの手順と注意点について解説する。</p> <p>第14回 量的社会調査の方法(5)調査データの集計・整理 質問紙調査を実施し、得られたデータを入力・集計するうえで、必要な作業(エディティング、コーディング、クリーニング)について解説する。あわせて、データ分析が円滑に行えるよう集計したデータの管理方法についても解説する。</p> <p>第15回 全体のまとめ: 現代社会における社会調査 これまでの授業をふりかえり、現代社会における社会調査の意義や必要性について解説する。</p>									課 題			
	<p>評価材料: レポート(第2回・第5回・第15回)および単位修得試験(レポート試験)</p> <p>【A評価】 レポートにおいて、出題の意図を完全に理解した上で、独創的な内容となっている。</p> <p>単位修得試験において、与えられたテーマから自力で独創的な仮説の構築ができ、仮説の検証に必要な調査設計を行い、かつ</p>												

	<p>それが現実的に実施可能な状態にまとめられている。</p> <p>社会調査の実施にあたって必要な準備作業(仮説の構築、そして仮説検証に必要な母集団の選定とサンプリング)が自力で行える状態である。さらに量的ないし質的社会調査を適切な形で(たとえば量的社会調査を実施する場合、質問紙の作成、質問紙の配布および回収が出来ており、そこから得られた調査結果を統計的に解析できること)実施できる能力が備わっている状態である。</p> <p>【B 評価】</p> <p>レポートにおいて、出題の意図を完全に理解した内容となっている。</p> <p>単位修得試験において、与えられたテーマから自力で仮説の構築ができ、仮説の検証に必要な調査設計を行える。</p> <p>社会調査の実施にあたって必要な準備を行えるが、場合により教師からの助力を必要とする状態である。また実際に調査を実施する場合、調査設計から調査の実施、データの収集と解析も基本的に独力で行えるが、適宜教師からの指導が必要だと想定される状態である。</p> <p>【C 評価】</p> <p>レポートにおいて、出題の意図を理解した内容となっている。</p> <p>単位修得試験において、与えられたテーマから自力で仮説の構築できているが、仮説の検証に必要な調査設計において一部不十分な箇所がみられる。</p> <p>仮説の構築も含め社会調査の設計および実施に関する基本的な知識を習得している状態である。したがって、教材をふまえて教師からの指導を断続的に受けることで、任意のテーマで社会調査を設計し、必要な準備を行える状態である。</p> <p>【D 評価】</p> <p>レポートにおいて、出題の意図を最低限理解した内容となっている。</p> <p>単位修得試験において、与えられたテーマから自力で仮説の構築できているが、仮説の検証に必要な調査設計において不十分な箇所がみられる。</p> <p>社会科学研究における社会調査の必要性という観点から、社会調査の設計および実施に関する必要最低限の知識を習得している状態である。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	特定の参考書は指定しない。授業の進行状況や学習者からの反応を確認のうえ、参考となる資料を配布することがある。
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>高校卒業程度の数学の知識を知っていると、本科目の内容をより深く学び、理解することができます。また「調査研究方法Ⅰ」を履修済みか、現在履修中であれば、本科目の内容を理解しやすくなります。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	データベース論			担当者	森本 雅博			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web 試験			単位修得試験試験会場	—			
学習目標	データベースの意義や基本的な考え方を理解し、データベースを作成および操作できる。											
学習の進め方	デジタル教材を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には課題を用意してあるので、課題を終えて次の回に進むようになります。第9回目以降はソフトウェアを使用して実習も交えて進めていきます。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 全体を通して、学習単元の部分を事前に読んでおいてください。できればノートにまとめてもらうといいです。 後半の学習では SQL の問題があります。配布されている SQLBasic を利用するか、自身で SQL の学習をしっかりしてください。パソコンが詳しい人は「MySQL」をインストールして利用するのもいいでしょう。 データベースの書籍はたくさんありますので、関連図書で理解を深めてください。 											
学習内容	概要								課題			
	第1回 データベースとは何か データベースの意義を理解し、「データベースとは何か」を学習する								確認テスト、ディスカッション			
	第2回 データベースとデータモデル データの効率的な管理の形について理解する								確認テスト			
	第3回 データベースの設計 データベースの設計について理解する								確認テスト			
	第4回 最近のデータベースの流れ 最近のデータベースの流れについて理解する								確認テスト			
	第5回 データベースの主なソフト データベースの主なソフトについて理解する								確認テスト、ディスカッション			
	第6回 表と集合演算 表と集合演算について理解する								確認テスト			
	第7回 E-R図 E-R図とは何かを理解する								確認テスト			
	第8回 テーブルの正規化 テーブルの正規化の意義と方法について理解する								確認テスト			
	第9回 SQLの基本的な使い方 SQLの基本的な使い方について理解する								確認テスト			
	第10回 複数条件の組み合わせ 複数条件の組み合わせや並べ替え、重複行の除外について理解する								確認テスト			
	第11回 テーブル内での計算や集計 テーブル内での計算や集計の方法について理解する								確認テスト			
	第12回 テーブルの作成と行の挿入等の操作 テーブルの作成と行の挿入等の操作について理解する								確認テスト			
	第13回 テーブルの結合 テーブルの結合について理解する								確認テスト			
	第14回 より高度なデータベース処理 より高度なデータベース処理について理解する								確認テスト			
	第15回 まとめ データベースの基礎理論やSQLについて理解する											
成績評価方法	単位修得試験(70%)、課題(20%)、授業参加態度(10%)											
教科書	著書『データベースの常識』 書写 藤本壱 出版社 技術評論社 出版年度 2009年8月1日 1版 ISBN 9784774139050											
参考書(任意購入)	『データベースの知識と実務』、金宏和實、翔泳社、2,310円(税込)、2007年											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	デジタルデザイン入門			担当者	栗谷 幸助			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	Illustrator と Photoshop の基礎を習得し、継続して自発的に楽しく学ぶベースを作る。											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 また、中間課題の標準所要時間は2時間(デザインコンセプト含む)、単位修得試験(制作試験)の標準所要時間は4時間(デザインコンセプト含む)です。 適切な学習スピードの自己管理をお願いします。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した Adobe のアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと</p>											
授業時間外学習									概 要			
学習内容	第 1 回 Illustrator の基本操作と描画ツールでの描画								課 題			
	Illustrator の基本操作と描画ツールでの描画								確認テスト			
	第 2 回 描画ツールでの描画(続き)								確認テスト			
	描画ツールでの描画								確認テスト			
	第 3 回 ペンツールでの描画								確認テスト			
	ペンツールでの描画								確認テスト			
	第 4 回 様々なアイコン作成(Web アイコンや標識)、レイヤー、文字の入力								確認テスト			
	様々なアイコン作成(Web アイコンや標識)、レイヤー、文字の入力								確認テスト			
	第 5 回 文字の入力(続き)								確認テスト			
	文字の入力								確認テスト			
	第 6 回 名刺の作成とオブジェクトの変形								確認テスト			
	名刺の作成とオブジェクトの変形								確認テスト			
	第 7 回 オブジェクトの変形(続き)と線の設定とアピアランス								確認テスト			
	オブジェクトの変形(続き)と線の設定とアピアランス								確認テスト			
	第 8 回 線の設定とアピアランス(続き)とフライヤーの作成								確認テスト/中間課題			
	線の設定とアピアランス(続き)とフライヤーの作成								確認テスト			
	第 9 回 Photoshop の基本操作と画像補正								確認テスト			
	Photoshop の基本操作と画像補正								確認テスト			
	第 10 回 画像補正(続き)								確認テスト			
	画像補正								確認テスト			
	第 11 回 画像補正(続き)と画像加工								確認テスト			
	画像補正(続き)と画像加工								確認テスト			
	第 12 回 画像加工(続き)								確認テスト			
	画像加工								確認テスト			
	第 13 回 画像加工(続き)と文字入力								確認テスト			
	画像加工(続き)と文字入力								確認テスト			
	第 14 回 シンプルな Web サイトのデザイン(1)								確認テスト			
	シンプルな Web サイトのデザイン								確認テスト			
	第 15 回 シンプルな Web サイトのデザイン(2)								確認テスト			
	シンプルな Web サイトのデザイン								確認テスト			
成績評価方法	評価項目: 中間課題、単位修得試験											
	<p>【A 評価】中間課題と単位修得試験の合計(100 点満点換算)が 90 点以上の場合。 自らデザインコンセプトを企画したことが認められ、学習した Illustrator/Photoshop の内容を十分に駆使している。また、応用の努力が認められ、さらに一定以上のクオリティのデジタルデザインを完成させている。</p>											
	<p>【B 評価】中間課題と単位修得試験の合計(100 点満点換算)が 80 点以上 89 点以下の場合。 自らデザインコンセプトを企画したことが認められ、学習した Illustrator/Photoshop の内容を十分に駆使している。基本的内容は十分に理解できているデジタルデザインを完成させている。</p>											
	<p>【C 評価】中間課題と単位修得試験の合計(100 点満点換算)が 70 点以上 79 点以下の場合。 オリジナルのデザインコンセプトまでは到達できていないと認められるが、既存デザインを参考しながらも、Illustrator/Photoshop の基本的内容は十分に理解できているデジタルデザインを完成させている。</p>											
	<p>【D 評価】中間課題と単位修得試験の合計(100 点満点換算)が 60 点以上 69 点以下の場合。 オリジナルのデザインコンセプトまでは到達できていないと認められるが、中間課題、単位修得試験に必要な最低限の</p>											

	Illustrator/Photoshop の機能は使っている状態である。
教科書	なし
参考書(任意購入)	『グラフィックデザイン Illustrator & Photoshop』、デジタルハリウッド、技術評論社、3,110 円(税込)、2015 年
必須ソフト・ツール	<p>「Adobe Creative Cloud」または、「Illustrator CC」と「Photoshop CC」を各々単体でご用意下さい。 CS6 以前のバージョンは不可です。</p> <p>※PC 側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認下さい。</p> <p>※ソフトウェアの動作の確認には、Adobe 社の提供する 7 日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloud デスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html</p>
備考	<p>【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 デジタルデザインを通じて、自分で発信したいコンテンツを持っていると、具体的に理解を深めることができる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	哲学			担当者	石毛 弓			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート(第9回の授業内で課題の提示を行う)			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 各回で紹介された哲学思想について、簡単にまとめることができる 各回の学習の最後に設けられた課題において、自分なりの考えを書くことができる 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を読み問い合わせることで学習を進めます。</p> <p>必要に応じて教科書を参照する場合もあります。</p> <p>各回の学習の最後には課題がありますので、提出してから次の回に進んでください。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 本授業に関連する書籍等を読んで自分なりの理解を深めること。 ディスカッションでその回のまとめ・復習を充分に行うこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 哲学をするとはどういうことか								確認テスト、ディスカッション			
	'哲学'という考え方についての概説および主な授業の進め方について											
	第2回 古代ギリシャ哲学 I								確認テスト、ディスカッション			
	ソクラテス以前の古代ギリシャ哲学について											
	第3回 古代ギリシャ哲学 II								確認テスト、ディスカッション			
	ソクラテス、プラトン、アリストテレスについて											
	第4回 中世哲学								確認テスト、ディスカッション			
	アウグスティヌス、トマス・アクィナスについて											
	第5回 近代哲学								確認テスト、ディスカッション			
	デカルト、スピノザ、ライプニッツについて											
	第6回 イギリス経験論								確認テスト、ディスカッション			
	ベーコン、ホップズ、ロック、バークリー、ヒュームについて											
	第7回 18世紀ドイツ哲学								確認テスト、ディスカッション			
	カントについて											
	第8回 ドイツ観念論								確認テスト、ディスカッション			
	フィヒテ、シェリング、ヘーゲルについて											
	第9回 現代哲学のはじまり I								確認テスト、ディスカッション			
	ショーベンハウアー、キルケゴー、ニーチェについて											
	第10回 現代哲学のはじまり II								確認テスト、ディスカッション			
	マルクス、フロイトについて											
	第11回 現象学								確認テスト、ディスカッション			
	フッサー、ハイデガーについて											
	第12回 言語哲学								確認テスト、ディスカッション			
	ソシュール、フレーゲ、ラッセル、ウィトゲンシュタインについて											
	第13回 構造主義								確認テスト、ディスカッション			
	レヴィ=ストロース、ラカン、バルトについて											
	第14回 ポスト構造主義								確認テスト、ディスカッション			
	フーコー、デリダ、ドゥルーズ=ガタリについて											
	第15回 第1~14回の確認								確認テスト			
	第1~14回のまとめ											
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回の受講状況(確認問題や掲示板への書き込み含む): 20% 単位取得試験(レポート): 80% <p>※レポートは「単位取得試験」の回にある「レポート用紙」をダウンロードしその形式を使用すること。</p>											
教科書	<p>著書『はじめての哲学史』</p> <p>著者 竹田青嗣・西研</p> <p>出版社 有斐閣アルマ</p> <p>出版年度 2011年2月15日 1版</p> <p>ISBN 9784641120464</p>											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	統計入門			担当者	浦畠 育生			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格				単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャン パス)			
学習目標	1. 公的統計資料を収集・理解・活用できる。 2. 調査、研究の目的に合わせて、データを収集・整理・分析・表現できる。											
学習の進め方	1. 節ごとに、授業、演習、ドリル(確認テスト)で知識の定着を行う。 2. 回ごとに、課題(レポート)で知識活用できることを実証する。											
授業時間外学習	1. 各自分が興味を持つ新聞、雑誌、学術研究論文誌、政府白書、公的ウェブサイト等に掲載されている図・表・グラフ・統計資料を読んでおく。 2. 授業で行った演習を自宅等で完成させる。 3. 課題を自宅等で完成させる。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 統計学とは何か 統計学とは何か、データについて、標本の抽出について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第2回 グラフの種類と使い方 グラフの種類と使い方について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第3回 標本の分布と特性値、確率と分布 標本の分布と特性値、確率と分布について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第4回 正規分布 正規分布について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第5回 t分布、χ ² 分布 t分布、χ ² 分布について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第6回 統計的有意性、標本平均 統計的有意性、標本平均について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第7回 母平均の推定 母平均の推定について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第8回 母標準偏差の推定、仮説検定 母標準偏差の推定、仮説検定について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第9回 因果関係と相関関係 因果関係と相関関係について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第10回 相関分析 相関分析について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第11回 回帰分析 回帰分析について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第12回 相関比 相関比について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第13回 クロス集計 クロス集計について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第14回 多重クロス集計 多重クロス集計について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第15回 統計の活用 統計の活用について学ぶ								確認テスト、レポート			
成績評価方法	確認テスト、課題レポート、単位修得試験(レポート)の結果に応じて、以下の基準で評価する 【A評価】 確認テスト 90 点以上、課題レポート 90 点以上、単位修得試験 90 点以上を同時に満たすこと。 【B評価】 確認テスト 80 点以上、課題レポート 80 点以上、単位修得試験 80 点以上を同時に満たすこと。 【C評価】 確認テスト 70 点以上、課題レポート 70 点以上、単位修得試験 70 点以上を同時に満たすこと。 【D評価】 確認テスト 60 点以上、課題レポート 60 点以上、単位修得試験 60 点以上を同時に満たすこと。											
	教科書											
	参考書(任意購入)											
	必須ソフト・ツール											
	備考											

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	統計入門			担当者	浦畠 育生			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	1. 公的統計資料を収集・理解・活用できる。 2. 調査、研究の目的に合わせて、データを収集・整理・分析・表現できる。											
学習の進め方	1. 節ごとに、授業、演習、ドリル(確認テスト)で知識の定着を行う。 2. 回ごとに、課題(レポート)で知識活用できることを実証する。											
授業時間外学習	1. 各自分が興味を持つ新聞、雑誌、学術研究論文誌、政府白書、公的ウェブサイト等に掲載されている図・表・グラフ・統計資料を読んでおく。 2. 授業で行った演習を完成させる。 3. 課題を完成させる。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 統計学とは何か 統計学とは何か、データについて、標本の抽出について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第2回 グラフの種類と使い方 グラフの種類と使い方について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第3回 標本の分布と特性値、確率と分布 標本の分布と特性値、確率と分布について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第4回 正規分布 正規分布について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第5回 t分布、χ2分布 t分布、χ2分布について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第6回 統計的有意性、標本平均 統計的有意性、標本平均について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第7回 母平均の推定 母平均の推定について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第8回 母標準偏差の推定、仮説検定 母標準偏差の推定、仮説検定について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第9回 因果関係と相関関係 因果関係と相関関係について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第10回 相関分析 相関分析について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第11回 回帰分析 回帰分析について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第12回 相関比 相関比について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第13回 クロス集計 クロス集計について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第14回 多重クロス集計 多重クロス集計について学ぶ								確認テスト、レポート			
	第15回 統計の活用 統計の活用について学ぶ								確認テスト、レポート			
成績評価方法	確認テスト、課題レポート、単位修得試験(レポート)の結果に応じて、以下の基準で評価する 【A評価】 確認テスト 90 点以上、課題レポート 90 点以上、単位修得試験 90 点以上を同時に満たすこと。 【B評価】 確認テスト 80 点以上、課題レポート 80 点以上、単位修得試験 80 点以上を同時に満たすこと。 【C評価】 確認テスト 70 点以上、課題レポート 70 点以上、単位修得試験 70 点以上を同時に満たすこと。 【D評価】 確認テスト 60 点以上、課題レポート 60 点以上、単位修得試験 60 点以上を同時に満たすこと。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『はじめての統計学』、鳥居泰彦、日本経済新聞社、2,412 円(税込)、1994 年 『統計学入門』、東京大学教養学部統計学教室編、3,024 円(税込)、東京大学出版会、1991 年											
必須ソフト・ツール	電卓(スマホアプリ可)、表計算ソフト(Excel)											
備考	表計算ソフト(Excel)、ワープロソフト(Word)の基本操作ができること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。											

メジャー(専修)名				授業科目名	特別演習 I			担当者	川島 正章
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法		デジタル教材 活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格				単位修得試験 実施方法				単位修得試験 試験会場	

現在内容は未定です。詳細が決まり次第、
el-Campusにて、お知らせいたします。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育			担当者	高見澤 孟			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	一			
学習目標	少子高齢化の進む日本は、近い将来外国人の労働力が必要な時代に入ります。来日する外国人との「共生」のためには、外国人が日本語を学習して一定水準の日本語能力に達することが求められています。迎え入れる日本人の側も異文化の外国人と協働する社会を築く準備が必要です。このための日本語教育が現在どのような状況にあるのか、外国人はどのように日本語を学んでいるのかを知ることも外国人理解、異文化理解の上で重要な情報になります。このような情報に基づいて日本語教育への理解を深めてください。											
学習の進め方	オンデマンド教材を主教材として学習を進めます。教科書『新・はじめての日本語教育 1: 日本語教育の基礎知識』と「配布資料」には、補足情報が記載されていますから、必ずそれらも参照してください。各回の授業内容と教科書の関連箇所は、「配布資料」に記載しています。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 日本語教育の現状								レポート			
	日本語教育の現状と将来の展望及び日本社会が近く迎える「外国人との共生の時代」について学習する。								レポート			
	第2回 古代・中世における日本語学習者								レポート			
	古代から隣接する諸国の人々が日本語をいかに学んだか、また室町末期に来日したポルトガルの宣教師たちがどのように日本語を理解し、習得する努力をしてきたかについて学ぶ。								レポート			
	第3回 キリストianの日本語学習								レポート			
	キリスト教布教のために来日した宣教師のなかで最も優れた功績を残したロドリゲスの研究を中心に西洋人から見た日本語の姿を学ぶ。								レポート			
	第4回 オランダ商館の日本語研究								レポート			
	江戸時代に唯一来日が許可されていたオランダ商館の人々の日本語研究、さらに日本研究について学ぶ。								レポート			
	第5回 日本語と外国語								レポート			
	日本語と外国語(=英語)の対照研究を通して、日本語の特性を学ぶ。								レポート			
	第6回 日本語の特質								レポート			
	日本語の特質として「文脈依存性」や「感情表現」、「願望表現」などの他言語との相違を学ぶ。								レポート			
	第7回 日本語の仕組み(1)								レポート			
	日本文法の中でも外国人にとって学習困難な「助詞」の扱いや「自動詞他動詞」に係る問題、「～ている形」の用法などを学ぶ。								レポート			
	第8回 日本語の仕組み(2)								レポート			
	各種「て形の用法」や「授受表現」、「受身形」など他言語と異なる日本語の用法を学ぶ。								レポート			
	第9回 日本語の音声(1)								レポート			
	外国人にとって難しく感じられる「日本語の音声の特徴」や「特殊拍」などについて学ぶ。								レポート			
	第10回 日本語の音声(2)								レポート			
	日本語の「アクセント」、「リズム」、「イントネーション」について学ぶ。								レポート			
	第11回 日本語の文字								レポート			
	「日本語の文字に係る問題」、「かな文字の用法」、「各種符号の用法」などを学ぶ。								レポート			
	第12回 異文化間コミュニケーション(1)								レポート			
	日本人と外国人の間で発生する「コミュニケーショントラブル」の原因を「配慮表現」や「婉曲表現」など日本文化に係る側面から検討する。								レポート			
	第13回 異文化間コミュニケーション(2)								レポート			
	コミュニケーションにおける「文化差」や「言語接触」における諸問題について学ぶ。								レポート			
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)											
教科書	著書 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版] 日本語教育の基礎知識』 監著者 高見澤 孟 出版社 アスク出版 出版年度 2016年8月8日 第1刷 ISBN 9784872179934											
参考書(任意購入)	『新・はじめての日本語教育 2 [増補改訂版] 日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年											
必須ソフト・ツール												
備考	日本語教育関係の用語がわからない場合には、『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』(監著者 高見澤 孟 アスク出版 2,500円 2004年)を参照してください。											

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育演習Ⅰ			担当者	梅野 由香里			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初級の日本語学習者向けの授業を行うために、学習者のレディネス、ニーズ調査を行い、授業シラバスを設計することができるようになる。 ・「初級文型」について、「教師が知っておくべき知識」と「学習者に提示すべき点」とを明確に分類し、「学習者に提示すべき点」については、非常に簡単で分かりやすい日本語に言い換えて、説明することができるようになる。 ・文献や他者の教案を参考にしながら、入門～初級学習者向けの授業教案を記述することができるようになる。 ・自分で書いた教案をもとに、入門～初級学習者向けの日本語の模擬授業を実施することができるようになる。 ・他者の模擬授業を見て、相手のことを考えながら、直すべき点を批評したり、いい点を評価したりすることができるようになる。 ・模擬授業を通して、同じ志を持つ者同士がマナー良く話し合うことができるようになる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>【模擬授業について】 第4回の模擬授業は、スクーリング形式(大手前大学さくら夙川キャンパス)、もしくはインターネット経由でのオンライン授業システムのいずれかで実施する。詳細については、後日周知する。</p>											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 ・受講中に分からぬ言葉などが出てきたとき、すぐに調べられるように辞典や日本語教育能力検定用の用語集を準備しておくこと</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 コースデザイン								レポート、ディスカッション			
	日本語教育の現状を理解し、その上で初級学習者向けの日本語の授業を行う前の準備段階として、コースデザイン(①学習者のレディネス調査、②ニーズ調査、③シラバス作成)の方法を学ぶ。											
	第2回 初級文型の指導								レポート、プレゼンテーション			
	構造シラバスで使われる「初級文型」の中から、初級前半で指導すべき文型をいくつか取り出し、授業の前に教師が知っておくべき文型の知識(形、意味・機能、場面・使い方)を調べる方法を学ぶ。											
成績評価方法	第3回 教案作成								プレゼンテーション			
	「初級文型」の中から、特に、入門期に導入すべき文型に基づいた教案を作成する方法を学ぶ。											
	第4回 模擬授業								レポート			
	「初級文型」の中から、初級前半で指導すべき文型の模擬授業を行う。											
	レディネス・ニーズ調査(第1回の課題)、教科書分析、文型分析のレポート(第2回の課題)、教案(第3回の課題)、模擬授業実施報告(第4回の課題)、および受講者に対するコメント(第2回、第3回の課題)、単位修得試験											
教科書	<p>【A評価】 課題及び単位修得試験において、以下の項目が概ね達成できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過不足なく学習者のレディネスとニーズが正確に調査できるような質問紙を作成することができている。 ・複数の文献を用いて、様々な角度から教科書及び文型分析をすることができている。 ・教案において当該文型を、「導入」⇒「基本練習」の流れに沿って、効果的で、かつ飽きさせないような工夫がある授業を展開することができている。 ・教案において教師のアクションや授業で使用する教材・教具が全て記載されており、授業の様子が想定しやすい。 ・実施報告書がすべて記載されており、改善点を含め、十分に内省してあることが確認できる。 ・他者の課題を読み、相手の気持ちに配慮しながら有益で、かつ広い視野にたったコメントを付けることができている。 <p>上記の項目に加え、単位修得試験において、模擬授業で得られた他者からのフィードバックや自身の内省を生かし、非常に優れた最終教案の作成ができている。</p> <p>【B評価】 上記の項目のうち、1～2項目については不十分であるが、それ以外の項目については概ね達成できている。</p> <p>また、単位修得試験においては、模擬授業で得られた他者からのフィードバックや自身の内省を生かし、優れた最終教案の作成ができている。</p> <p>【C評価】 上記の項目のうち、2～3項目については不十分であるが、それ以外の項目については概ね達成できている。</p> <p>また、単位修得試験においては、模擬授業で得られた他者からのフィードバックや自身の内省を生かし、最終教案の作成ができている。</p> <p>【D評価】 上記の項目のうち、3～4項目については不十分であるが、それ以外の項目については概ね達成できている。</p> <p>また、単位修得試験においては、修正された教案が作成されているが、他者からの意見のフィードバックが生かし切れているとはいえず、また、内省も不十分である。</p>											
	なし											
	<p>『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』スリーエーネットワーク編著、スリーエーネットワーク、2700円(税込)、2012年</p> <p>※用語集は、</p> <p>『日本語教育能力検定試験に合格するための用語集』アルク編著、2012年</p> <p>『新合格水準 日本語教育能力検定試験 用語集 改訂版』アーカアカデミー編、2012年</p> <p>などから一冊選ぶことをお勧めする。</p>											

必須ソフト・ツール	第4回の模擬授業でオンライン授業システムを用いる場合は、各自で専用アプリをインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロード可能。詳細については、後日周知する。
備考	<p>以下を履修条件とする。履修登録までに配布するチェックリストに基づき、自身で確認すること。</p> <p>【履修の前提とするもの】</p> <p>日本語教員養成課程の「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現Ⅰ」「日本語の文法と表現Ⅱ」「日本語教授法A」「日本語教授法B」「日本語教育文法研究Ⅰ」「日本語教育文法研究Ⅱ」「第二言語習得研究Ⅰ」「第二言語習得研究Ⅱ」「日本語教育読解研究」「日本語教育聴解研究」をすべて修得していること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>初級日本語学習者向けの指定の参考書に目を通しておくこと。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育会話演習			担当者	新 聖子			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	①「話す」とはどのような活動なのか、また「話す力」とはどのような能力か客観的に捉えることができる。②代表的な教室活動の特徴を把握し、話す能力を伸ばす適切な方法が自分で選択できるようになる。③学習者に合わせた会話授業の流れを具体的に計画することができる。											
学習の進め方	オンラインライブ授業システムを使用して授業を受け、授業後に el-Campus で課題を実施し、理解度を確認する。授業内では時折発言を求め、双方コミュニケーションをはかる。											
授業時間外学習	課題を実施し、授業内容を復習すること。また、翌回の授業内容に関する事前課題を行っておくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 話すとは 話す力を判定する方法やコミュニケーションに必要な4つの能力について学びます。								授業後に提示される課題の実施			
	第2回 話す力とは 話す力を判定する方法やコミュニケーションに必要な4つの能力について学びます。								授業後に提示される課題の実施			
	第3回 「話す力を育てるには」①教室活動のデザイン 教室活動を計画する際のポイントを学びます。								授業後に提示される課題の実施			
	第4回 「話す力を育てるには」②インタビュー インタビュー活動の目的と活動方法について学びます。								授業後に提示される課題の実施			
	第5回 「話す力を育てるには」③スピーチ スピーチ活動の目的と活動方法について学びます。								授業後に提示される課題の実施			
	第6回 「話す力を育てるには」④ディスカッション ディスカッションの目的と活動方法について学びます。								授業後に提示される課題の実施			
	第7回 「話す力を育てるには」⑤ロールプレイ ロールプレイの目的と活動方法について学びます。								授業後に提示される課題の実施			
	第8回 まとめ 第1回から7回までの学習をまとめ、自分で教室活動を組み立ててみます。								授業後に提示される課題の実施			
成績評価方法	単位修得試験(レポート試験)により評価する ■ABCD 評価基準 【A評価】 ・各回の受講内容が十分に理解でき、与えられた課題に取り組むだけでなく「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について自分なりの考えを持ち産出することができる。 【B評価】 ・各回の受講内容がほぼ理解でき、与えられた課題に取り組むだけでなく「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について多少自分の考えを持ち産出することができる。 【C評価】 ・各回の受講内容の重要な点がある程度理解でき、与えられた課題に取り組むだけでなく「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について自分の考えは少ないが産出することができる。 【D評価】 ・各回の受講内容の基本的事項が理解でき、与えられた課題に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について自分なりの考えはほとんど含まれないが産出することができる。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『国際交流基金 日本語教授法シリーズ第6巻「話すことを教える」』国際交流基金、ひつじ書房、2009年3月31日 初版2刷											
必須ソフト・ツール	オンラインライブ授業システムの専用アプリを各自でインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロードすることが可能。Web カメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。											
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育作文演習			担当者	清水 泰行
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート	単位修得試験 試験会場	—		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」がコミュニケーションの1つであることを説明することができる ・「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインを検討することができる ・「書く力」を高めるための評価を設計することができる 								
学習の進め方	オンラインライブ授業システムを使用して授業を受け、授業後にel-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。授業内では時折発言を求め、双方向コミュニケーションをはかる。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストで理解が不十分であったところは、関連する参考書で確認すること ・授業に関連するテーマに常に関心を持ち、「書くこと」全般に注意を向けること ・適宜紹介する参考文献なども積極的に読んでみること 								
学習内容	概 要								
	第1回 「書くこと」とは? 「書くこと」の教え方を考える前に、日常生活の「書くこと」、授業での「書くこと」を振り返り、後に続く各回への導入とする。								
	第2回 「書く力」を高めるための指導① 作文の指導における、文型、書きことばのスタイル、文と文のつながりについて考察する。								
	第3回 「書く力」を高めるための指導② 作文の指導における、文章構成、読み手の想定、書くプロセスについて考察する。								
	第4回 「書く力」を高めるための活動や授業のデザイン① 授業における、「書くこと」に慣れるための活動について考察する。								
	第5回 「書く力」を高めるための活動や授業のデザイン② 授業における、コミュニケーションを大切にした「書く」活動について考察する。								
	第6回 「書くこと」の評価① 作文の添削とコメントの方法について考察する。								
	第7回 「書くこと」の評価② 「パフォーマンス評価」と評価基準について考察する。								
	第8回 まとめと補足 これまでの内容を振り返り、授業での意見交換を通して、自己の課題を知る。								
成績評価方法	課題(レポート)、単位修得試験(レポート) ■ABCD 評価基準 【A 評価】 ・各回の内容を十分に理解し、「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインを十分に検討でき、「書く力」を高めるための評価を十分に設計することができた。 【B 評価】 ・各回の内容をほぼ十分に理解し、「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインをほぼ十分に検討でき、「書く力」を高めるための評価をほぼ十分に設計することができた。 【C 評価】 ・各回の内容をある程度理解し、「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインをある程度検討でき、「書く力」を高めるための評価をある程度設計することができた。 【D 評価】 ・各回の内容を部分的に理解し、「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインを部分的に検討でき、「書く力」を高めるための評価を部分的に設計することができた。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第8巻「書くことを教える』』、国際交流基金、ひつじ書房、2010年9月30日 初版1刷								
必須ソフト・ツール	オンラインライブ授業システムの専用アプリを各自でインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロードすることができる。Web カメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。								
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育実習			担当者	鈴木 基伸、加藤 恵梨				
レベルナンバー	400	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆						
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—				
学習目標	教案・教材作成、授業見学、模擬授業等の実施を通して、実際の授業を運営するうえで日本語教師に求められるスキルを身に付ける。												
学習の進め方	<p>①【本学さくら夙川キャンパス】 実際に行われている日本語の授業見学を行った後、教案作成をする。その後、他の学習者の模擬授業を見学し、自らも模擬授業を行う。</p> <p>②【ヒューマンアカデミー日本語学校】 実際に行われている授業見学を行いながら、教案作成、模擬授業の実施を行う。また実際の授業にアシスタントとして加わり、最終的に教壇実習を行う。実習終了後に振り返り(実習の成果)のプレゼンテーションを行う。</p> <p>③【ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座】 教案作成を行った後、他の学習者の模擬授業を見学する。自らも模擬授業を行う。</p>												
授業時間外学習	<p>①【本学さくら夙川キャンパス】②【ヒューマン日本語学校】③【ヒューマン日本語教師養成講座】 事前学習動画を見て、教育実習開始1週間前までに、模擬授業で用いる教案のベースとなるものを作成し、提出する。</p>												
学習内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>概 要</th> <th>課 題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>①【本学さくら夙川キャンパス】</p> <p>1日目～5日目 ガイダンス 実習の進め方、課題、単位修得方法、注意点等について説明する。 授業見学 実際の日本語の授業を見学し、授業の運営方法について学ぶ。 教案・教材物等の作成 模擬授業で使用する教案、教材、絵カード等を作成する。 模擬授業 自らの模擬授業の実施及び他の学生の模擬授業見学を行う。 まとめと振り返り 教育実習を振り返り、フィードバックを行う。</p> <p>②【ヒューマンアカデミー日本語学校】</p> <p>授業実践に向けて 実習に関する諸注意とスケジュールの確認。</p> <p>1日目 授業見学(初級) 初級初期クラスの授業見学を行い、授業の流れを知る。</p> <p>2日目 授業見学(中級)、1回目模擬授業 中級クラスの授業見学を行い、授業の流れを知る。模擬授業を行う。</p> <p>3日目 2回目模擬授業、授業参加 模擬授業を行う。実際のクラスにアシスタントとして参加する。</p> <p>4日目 3回目模擬授業、授業実践 模擬授業を行う。登壇実習を行う。</p> <p>5日目 上級クラスに授業参加 上級クラスにアシスタントとして参加する。</p> <p>実習終了後研修 1～2週間後に実習の成果をプレゼンテーションする(20～30分)</p> <p>③【ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座】</p> <p>第1回 オリエンテーション・教案作成 オリエンテーションを行い、教案作成にとりかかる。</p> <p>第2回～3回 教案作成 教案作成を行う。</p> <p>第4～11回 実習の実施 実習の実施及び見学を行う。受講生、外国人参加者からコメントを貰い、ディスカッションを行う。</p> </td><td></td></tr> </tbody> </table>									概 要	課 題	<p>①【本学さくら夙川キャンパス】</p> <p>1日目～5日目 ガイダンス 実習の進め方、課題、単位修得方法、注意点等について説明する。 授業見学 実際の日本語の授業を見学し、授業の運営方法について学ぶ。 教案・教材物等の作成 模擬授業で使用する教案、教材、絵カード等を作成する。 模擬授業 自らの模擬授業の実施及び他の学生の模擬授業見学を行う。 まとめと振り返り 教育実習を振り返り、フィードバックを行う。</p> <p>②【ヒューマンアカデミー日本語学校】</p> <p>授業実践に向けて 実習に関する諸注意とスケジュールの確認。</p> <p>1日目 授業見学(初級) 初級初期クラスの授業見学を行い、授業の流れを知る。</p> <p>2日目 授業見学(中級)、1回目模擬授業 中級クラスの授業見学を行い、授業の流れを知る。模擬授業を行う。</p> <p>3日目 2回目模擬授業、授業参加 模擬授業を行う。実際のクラスにアシスタントとして参加する。</p> <p>4日目 3回目模擬授業、授業実践 模擬授業を行う。登壇実習を行う。</p> <p>5日目 上級クラスに授業参加 上級クラスにアシスタントとして参加する。</p> <p>実習終了後研修 1～2週間後に実習の成果をプレゼンテーションする(20～30分)</p> <p>③【ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座】</p> <p>第1回 オリエンテーション・教案作成 オリエンテーションを行い、教案作成にとりかかる。</p> <p>第2回～3回 教案作成 教案作成を行う。</p> <p>第4～11回 実習の実施 実習の実施及び見学を行う。受講生、外国人参加者からコメントを貰い、ディスカッションを行う。</p>	
概 要	課 題												
<p>①【本学さくら夙川キャンパス】</p> <p>1日目～5日目 ガイダンス 実習の進め方、課題、単位修得方法、注意点等について説明する。 授業見学 実際の日本語の授業を見学し、授業の運営方法について学ぶ。 教案・教材物等の作成 模擬授業で使用する教案、教材、絵カード等を作成する。 模擬授業 自らの模擬授業の実施及び他の学生の模擬授業見学を行う。 まとめと振り返り 教育実習を振り返り、フィードバックを行う。</p> <p>②【ヒューマンアカデミー日本語学校】</p> <p>授業実践に向けて 実習に関する諸注意とスケジュールの確認。</p> <p>1日目 授業見学(初級) 初級初期クラスの授業見学を行い、授業の流れを知る。</p> <p>2日目 授業見学(中級)、1回目模擬授業 中級クラスの授業見学を行い、授業の流れを知る。模擬授業を行う。</p> <p>3日目 2回目模擬授業、授業参加 模擬授業を行う。実際のクラスにアシスタントとして参加する。</p> <p>4日目 3回目模擬授業、授業実践 模擬授業を行う。登壇実習を行う。</p> <p>5日目 上級クラスに授業参加 上級クラスにアシスタントとして参加する。</p> <p>実習終了後研修 1～2週間後に実習の成果をプレゼンテーションする(20～30分)</p> <p>③【ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座】</p> <p>第1回 オリエンテーション・教案作成 オリエンテーションを行い、教案作成にとりかかる。</p> <p>第2回～3回 教案作成 教案作成を行う。</p> <p>第4～11回 実習の実施 実習の実施及び見学を行う。受講生、外国人参加者からコメントを貰い、ディスカッションを行う。</p>													
成績評価方法	評価項目:教案・教材の作成20%、模擬授業30%、事前学習課題20%、実習終了後のレポート30% A 評価: 90%以上 B 評価: 80%以上 C 評価: 70%以上 D 評価: 60%以上												
教科書	①【本学さくら夙川キャンパス】 スリーエーネットワーク編『みんなの日本語初級Ⅰ 本冊』スリーエーネットワーク												

	<p>②【ヒューマン日本語学校】 アスク出版『つなぐ日本語初級 1』</p> <p>③【ヒューマン日本語教師養成講座】 なし</p>
参考書(任意購入)	<p>①～③共通 市川保子『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク 国際交流基金 日本語教授法シリーズ4『文法を教える』ひつじ書房</p>
必須ソフト・ツール	
備考	<p>「日本語教育実習」の授業内に、「事前・事後学習動画」があるので、実習前、実習後に必ず視聴すること。 受講者上限人数(定員) ①【本学さくら夙川キャンパス】(各開講 60 名) ②【ヒューマン日本語学校】(各校 5 名) ③【ヒューマン日本語教師養成講座】(各コース 20 名)</p> <p>以下を履修条件とする。</p> <p>【履修の前提とするもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学2年目以降(10月入学者は翌年の10月以降)で、履修登録時において以下の必修12科目13単位を修得済みであること。 「日本語教育」「第二言語習得研究Ⅰ」「第二言語習得研究Ⅱ」「日本語教授法 A」「日本語教授法 B」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現Ⅰ」「日本語の文法と表現Ⅱ」「日本語教育文法研究Ⅰ」「日本語教育文法研究Ⅱ」「日本語教育読解研究」「日本語教育聽解研究」 ・初級学習者向けの教案が作成でき、またその教案を用いて模擬授業を行えるだけの基礎理論と技能を習得していること。 <p>※学修ガイドの『「日本語教育実習」履修前チェックシート』をダウンロードし、履修登録時までに基準を満たすよう各自で学習を進めておいてください。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育聴解演習			担当者	加藤 恵梨			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の聞く力を育成するために何が必要かを考えることができるようになる ・学習者のレベルにあわせて聴解授業が組み立てられ、聞く力を適切に評価することができるようになる 											
学習の進め方	オンラインライブ授業システムを使用して授業を受け、授業後にe-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。授業内では時折発言を求め、双方コミュニケーションをはかる。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料には必ず目を通しておくこと ・確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、関連する参考図書等で確認すること ・日本語教育に関連する参考図書で自己学習すること 											
学習内容	概要								課題			
	第1回 学習者の聞く力を育成するために 聴解学習の目的について理解し、指導する上で注意すべき点について学ぶ。											
	第2回 聽解のストラテジー 未習の単語や表現を含んだテキストを理解するために必要なストラテジーを学ぶ。								確認テスト			
	第3回 聽解授業の組み立て方① 聴解授業を「聞く前」「聞く」「聞いた後」という3つの段階に分け、「聞く前」にはどのような活動を行うかについて学ぶ。											
	第4回 聽解授業の組み立て方② 聴解授業を「聞く前」「聞く」「聞いた後」という3つの段階に分け、「聞く」「聞いた後」にはどのような活動を行うかについて学ぶ。								レポート			
	第5回 コース全体の聴解指導計画 コース全体の聴解指導をどのように計画するかについて考える。											
	第6回 初級の教え方 初級レベルでどのような聴解活動や練習をしたら良いかについて考える。								確認テスト			
	第7回 中上級の教え方 中上級レベルでどのような聴解活動や練習をしたら良いかについて考える。											
	第8回 評価方法 聞く力の評価について、試験による評価と試験以外の評価にわけて考える。								ディスカッション			
	<p>評価対象活動 単位修得試験(レポート) 【A評価】 各受講回の内容を十分に理解し、初級および中上級レベルに適した聴解の授業計画が立てられ、適切に聞く力を評価することができた。 【B評価】 各受講回の内容を十分に理解し、初級および中上級レベルに適した聴解の授業計画が立てられ、聞く力を評価することができた。 【C評価】 各受講回の内容を理解し、レベルにあっていない部分はあるものの初級および中上級レベルの聴解の授業計画が立てられ、聞く力を評価することができた。 【D評価】 各受講回の内容を理解し、初級と中上級レベルのうち、一方の聴解の授業計画が立てられ、聞く力を評価することができた。</p>											
成績評価方法												
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『国際交流基金 日本語授業法シリーズ 第5巻「聞くことを教える」』、国際交流基金、ひつじ書房、2011年5月13日 初版2刷 『日本語教師の7つ道具シリーズ6 聽解授業の作り方編』、大森雅美、アルク、2013年12月18日 初版 『日本語教育叢書「つくる」聴解教材を作る』、宮城幸枝、スリーエーネットワーク、2014年9月3日 初版第1刷											
必須ソフト・ツール	オンラインライブ授業システムの専用アプリを各自でインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロードすることができる。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。											
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育聴解研究			担当者	阿曾村 陽子			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聴解クラスを運営していくうえで必要な用語や概念が理解できるようになる ・聴解クラスを行ううえで考慮すべきことを知る ・さまざまな聴解ストラテジーを理解し、自分の言葉で説明できるようになる ・外国語教育における「聴解」を成功させるために学習者が獲得すべき聞き方とはどのようなものかを理解し、教員としてのアプローチ方法を自分なりに持つ ・聴解の教案作成の方法を理解し、実際に作成できるようになる ・日本語教育におけるさまざまな評価法を知る 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第 11 課 聽解指導の理論 第 11 課では、聴解授業を行う際に必要な、さまざまな用語や概念、日本語学習者が身につけるべき聴解ストラテジーを中心に学びます。そして、聴解指導における、教員に求められるスキルとは何か、考えます。また、授業がより効果的に進められるような、授業前課題の出し方についても確認します。								レポート			
	第 12 課 聽解指導の方法 第 12 課では、聴解ストラテジーと聴解および日本語教育で使用されている用語や概念を確認した後、実際の日本語教育の現場ではどのような聴解教材を用い、どのように聴解を進めていくのか、授業前課題の扱い方と合わせて、具体的にみていきます。また、教科書別・レベル別での指導法をみることで、それぞれのポイントについても考えます。最後に、日本語教育におけるさまざまな評価法にも触れます。								レポート			
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700 円(税込)、2004 年 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年											
必須ソフト・ツール												
備考	<p>【履修の前提とするもの】 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 上記の書籍の内容を理解していること</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現 I」「日本語の文法と表現 II」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい</p> <p>オンライン教材がモバイル端末で視聴できます</p>											

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育読解演習			担当者	加藤 恵梨
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート	単位修得試験 試験会場	—		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の読む力を伸ばすために何が必要かを考えることができるようになる ・学習者のレベルにあわせて読解授業を組み立てられ、練習問題やタスクシートなどの教材を作成することができるようになる 								
学習の進め方	オンラインライブ授業システムを使用して授業を受け、授業後に el-Campus で課題を実施し、理解度を確認する。授業内では時折発言を求め、双方向コミュニケーションをはかる。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料には必ず目を通しておくこと ・確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、関連する参考図書で確認すること ・日本語教育に関連する参考図書で自己学習すること 								
学習内容	概 要								課 題
	第1回 学習者の読む力を育成するために 読解学習の目的について理解し、指導する上で注意すべき点について学ぶ。								
	第2回 読解のストラテジー 文章を読むときに使うストラテジーについて理解する。								確認テスト
	第3回 読解授業の組み立て方① 読解授業を「読む前」「読む」「読んだ後」という3つの段階に分け、「読む前」にはどのような活動を行うかについて学ぶ。								
	第4回 読解授業の組み立て方② 読解授業を「読む前」「読む」「読んだ後」という3つの段階に分け、「読む」「読んだ後」にはどのような活動を行うかについて学ぶ。								レポート
	第5回 コース全体の読解指導計画 コース全体の読解指導をどのように計画するかについて学ぶ。								
	第6回 初級の教え方 初級レベルでどのような読解活動や練習をしたら良いかについて考える。								確認テスト
	第7回 中上級の教え方 中上級レベルでどのような読解活動や練習をしたら良いかについて考える。								
	第8回 さまざまな読解活動 読解活動にどのような技能を取り入れるとより効果的であるかについて考える。								ディスカッション
	<p>評価対象活動 単位修得試験(レポート) 【A 評価】 各受講回の内容を十分に理解し、初級および中上級レベルに適した読解の授業計画が立てられ、適切な練習問題やタスクシートなどの教材を作成することができた。 【B 評価】 各受講回の内容を十分に理解し、初級および中上級レベルに適した読解の授業計画が立てられ、練習問題やタスクシートなどの教材を作成することができた。 【C 評価】 各受講回の内容を理解し、レベルにあっていない部分はあるものの初級および中上級レベルの読解の授業計画が立てられ、練習問題やタスクシートなどの教材を作成することができた。 【D 評価】 各受講回の内容を理解し、初級と中上級レベルのうち、一方の読解の授業計画が立てられ、練習問題やタスクシートなどの教材を作成することができた。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『日本語教育叢書「つくる」読解教材を作る』、館岡洋子、スリーエーネットワーク、2012年5月22日 初版第1刷 『日本語教師の7つ道具シリーズ5 読解授業の作り方編』、大森雅美・鴻野豊子、アルク、2013年12月18日 初版 『国際交流基金 日本語授業法シリーズ 第7巻「読むことを教える』、国際交流基金、ひつじ書房、2015年2月5日 初版4刷								
必須ソフト・ツール	オンラインライブ授業システムの専用アプリを各自でインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロードすることが可能。Web カメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。								
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育読解研究			担当者	阿曾村 陽子					
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆							
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—					
学習目標														
<ul style="list-style-type: none"> ・読解クラスを運営していくうえで必要な用語や概念が理解できるようになる ・読解クラスを行ううえで考慮すべきことを知る ・さまざまな読解ストラテジーを理解し、自分の言葉で説明できるようになる ・外国語教育における「読解」を成功させるために学習者が獲得すべき読み方とはどのようなものかを理解し、教員としてのアプローチ方法を自分なりに持つ ・読解の教案作成の方法を理解し、実際に作成できるようになる 														
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。</p>													
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 													
学習内容	概 要								課 題					
	第 9 課 読解指導の理論 第 9 課では、読解授業を行う際に必要な、さまざまな概念や、学習者が身につけるべきストラテジーを中心学びます。そして 9 課の後半では、初級クラスの読解の例を見ていきます。								レポート					
成績評価方法	第 10 課 読解指導の方法 第 10 課では、実際の日本語教育の現場では、どのような文章を扱い、どのように読解を進めていくのかについて、具体的に見ていきます。文学、意見文、新聞等、さまざまなパターンの文章の読み方の例をみながら、みなさんが実際に読解クラスを担当する際の注意点もお話ししていきます。													
教科書	なし													
参考書(任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700 円(税込)、2004 年 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年													
必須ソフト・ツール														
備考	<p>【履修の前提とするもの】 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 上記の書籍の内容を理解していること</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現 I」「日本語の文法と表現 II」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます</p>													

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育特講			担当者	鈴木 基伸、大和 祐子、小森 万里			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	現地試験(筆記)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する、「日本語教育能力検定試験」の過去問題に取り組み、その出題範囲、出題傾向、問題の解き方等について学ぶ。											
学習の進め方	本授業では、平成 23 年度から平成 28 年度の実施問題を使用しながら項目の説明と問題の解説を行う。当然だが、過去問のすべての問題を扱うわけではなく、一部抜粋して使用する。											
授業時間外学習	クーリング当日までに、平成 23~28 年のいずれかの年度の問題を解いておくことが望ましい。											
学習内容	概 要								課 題			
	第 1 回 教授法 『教授法』について過去問を使用しながら説明・解説する											
	第 2 回 コースデザイン/教材 コースデザイン/教材について過去問を使用しながら説明・解説する								確認テスト			
	第 3 回 評価法 『評価法』について過去問を使用しながら説明・解説する											
	第 4 回 第二言語習得/バイリンガリズム 『第二言語習得/バイリンガリズム』について過去問を使用しながら説明・解説する								確認テスト			
	第 5 回 文法 『文法』について過去問を使用しながら説明・解説する											
	第 6 回 言語学/社会言語学 『言語学/社会言語学』について過去問を使用しながら説明・解説する								確認テスト			
	第 7 回 音声 『音声』について過去問を使用しながら説明・解説する								確認テスト			
	第 8 回 単位修得試験											
成績評価方法	単位修得試験の得点割合によって評価する A 評価: 90%以上 B 評価: 80%以上 C 評価: 70%以上 D 評価: 60%以上											
教科書	配布プリントを使用する											
参考書(任意購入)	平成 23~28 年度 日本語能力検定試験 試験問題/新・初めての日本語教育基本用語辞典 アスク出版 ISBN-13:978-4872175165											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育特講			担当者	鈴木 基伸、大和 祐子、小森 万里			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する、「日本語教育能力検定試験」の過去問題に取り組み、その出題範囲、出題傾向、問題の解き方等について学ぶ。											
学習の進め方	本授業では、平成 23 年度から平成 28 年度の実施問題を使用しながら項目の説明と問題の解説を行う。当然だが、過去問のすべての問題を扱うわけではなく、一部抜粋して使用する。											
授業時間外学習	『平成 28 年度日本語教育能力検定試験試験問題』の全ての問題を解いておくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第 1 回 教授法 『教授法』について過去問を使用しながら説明・解説する											
	第 2 回 コースデザイン/教材 コースデザイン/教材について過去問を使用しながら説明・解説する								確認テスト			
	第 3 回 評価法 『評価法』について過去問を使用しながら説明・解説する											
	第 4 回 第二言語習得/バイリンガリズム 『第二言語習得/バイリンガリズム』について過去問を使用しながら説明・解説する								確認テスト			
	第 5 回 文法 『文法』について過去問を使用しながら説明・解説する											
	第 6 回 言語学/社会言語学 『言語学/社会言語学』について過去問を使用しながら説明・解説する								確認テスト			
	第 7 回 音声 『音声』について過去問を使用しながら説明・解説する								確認テスト			
	第 8 回 まとめと振り返り これまで学んできた内容をまとめ、特に重要な点を振り返る。											
成績評価方法	単位修得試験の得点割合によって評価する A 評価: 90%以上 B 評価: 80%以上 C 評価: 70%以上 D 評価: 60%以上											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	平成 23~28 年度 日本語能力検定試験 試験問題/新・初めての日本語教育基本用語辞典 アスク出版 ISBN-13:978-4872175165											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文法研究 I			担当者	高見澤 孟			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>第一課の第一部では日本語の言語的特性や文化的特性を復習し、外国人日本語学習者にとって日本語の「難しさ」の原因を再確認する。第二部では、日本語の用法上の問題点を取り上げて、文脈依存性の問題や配慮表現、婉曲表現、敬意表現などを復習し、それらを適正に指導する方法を考察する。第三部では、日本語学習で多くの学習者にとって習得が難しい「日本語の拍」の指導法を再検討し、特に、長音、促音、撥音などの特殊拍の習得を促進する指導技術の実践方法を紹介する。</p> <p>第二課の第一部は、助詞「ハ」と「ガ」の用法に関する各種理論を紹介し、「ハ」と「ガ」の相違や「ハ」と「ガ」の混在文の特徴を明らかにしている。さらに実例を通して教育現場でこの問題がどのように扱われているかを解説している。第二部は、多様な用法がある助詞、「ヲ」(目的語の「ヲ」や場所を示す「ヲ」)、「ニ」(目的地や相手を示す「ニ」、存在場所を示す「ニ」、時間や日にちを示す「ニ」)、「デ」(活動が行われる場所を示す「デ」、手段を示す「デ」、行為者を示す「デ」、自然現象の原因を表す「デ」、時間の限界や範囲を示す「デ」)などの様々な用法を解説し、それぞれの使い分けの指導法を紹介している。第三部は、動詞の種類と使い分けの確認のための解説を行い、自動詞と他動詞の相違やそれに関連した日本語の特徴、「～ている形」の用法の違いを復習し、実例を通して説明している。</p>											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 											
学習内容	<p style="text-align: center;">概 要</p> <p>第1課 日本語の言語的特徴の研究</p> <p>本課では、第一部では日本語の言語的特性や文化的特性を復習し、外国人日本語学習者にとって日本語の「難しさ」の原因を再確認する。第二部では、日本語の用法上の問題点を取り上げて、文脈依存性の問題や配慮表現、婉曲表現、敬意表現などを復習し、それらを適正に指導する方法を考察する。第三部では、日本語学習で多くの学習者にとって習得が難しい「日本語の拍」の指導法を再検討し、特に、長音、促音、撥音などの特殊拍の習得を促進する指導技術の実践方法を紹介する。</p> <p><注意></p> <p>なお、「応用編」では、各部の最終部分などに、「さらなる研究のために」と称する「学習を深化させるための課題」が提示されているが、これは各部で取り上げた学習内容の中で重要な点を学習者に考察させることができるので、ここでの考察は自主学習を目的としているので、採点や評価は行わない。各課の成績や単位取得にかかる「課題」は別に提示され、学習者は「レポート」を el-Campus 上で提出することが義務になっている。</p> <p>第2課 文法研究(1)</p> <p>本課の第一部は、助詞「ハ」と「ガ」の用法に関する各種理論を紹介し、「ハ」と「ガ」の相違や「ハ」と「ガ」の混在文の特徴を明らかにしている。さらに実例を通して教育現場でこの問題がどのように扱われているかを解説している。第二部は、多様な用法がある助詞、「ヲ」(目的語の「ヲ」や場所を示す「ヲ」)、「ニ」(目的地や相手を示す「ニ」、存在場所を示す「ニ」、時間や日にちを示す「ニ」)、「デ」(活動が行われる場所を示す「デ」、手段を示す「デ」、行為者を示す「デ」、自然現象の原因を表す「デ」、時間の限界や範囲を示す「デ」)などの様々な用法を解説し、それぞれの使い分けの指導法を紹介している。第三部は、動詞の種類と使い分けの確認のための解説を行い、自動詞と他動詞の相違やそれに関連した日本語の特徴、「～ている形」の用法の違いを復習し、実例を通して説明している。</p>											
									レポート			
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	<p>『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700 円(税込)、2004 年</p> <p>『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p> <p>『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p>											
必須ソフト・ツール												
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p> <p>『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p> <p>上記の書籍の内容を理解していること</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現 I」「日本語の文法と表現 II」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい</p> <p>オンライン教材がモバイル端末で視聴できます</p>											

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文法研究Ⅱ			担当者	高見澤 孟			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>第三課の第一部は、副詞節の研究で、仮定や条件、時を示す表現、「タラ」、「レバ」、「ナラ」、「ト」などの相違を解説し、それぞれの特徴や適切な用法の指導を紹介する。第二部では、二種類の接続表現「～シ」と「～(シ)テ」の相違や用法の特性を解説する。さらに接続文の前文と後文の主語が同一の場合と主語が別である場合の用法の問題も説明する。第三部は、名詞節の研究で、「～コト」と「～ノ」の違いや用法の相違を解説し、どのような場合に、「～コト」が使われ、他の場合に「～ノ」が使われるかを実例によって明らかにしている。</p> <p>さらに関連した文法的な用法として、引用の「～ト」の用法や関連表現(「～と考える」、「～と判断する」、「～と信じる」)などを検討し、次いで、「～と言うこと」の用法を説明し、それぞれの違いを学習者に説明する方法を解説している。</p> <p>第四課の第一部は、日本語の受身文の特徴を確認する。まず、「直接受身文」と「間接受身文」の相違や「中立受身文」と「被害受身文」の違いを解説して、次に、日本語の自動詞受身文のあり方を紹介し、他の言語にない特別な用法であり、独特的ニュアンスを持つことを指導するための例文を提示している。第二部では、「受身」、「可能」、「自発」、「尊敬」などを表す「～られる文」の用法の違いとそれぞれの特徴を見分ける方法を解説している。さらに、日本語ではどのような場合に、「受身文」の使用を選択するかを検討している。さらに、「使役文」の受身形「使役受身形」の特徴と用法を解説している。第三部では、関係節の時制について、日本語と他の言語(英語)との相違を明らかにし、日本語の特徴と外国人学習者の陥る可能性のある誤用の原因を検討している。さらに、時制に関連して、日本語の動詞や繋辞の過去形の特殊な用法を紹介し、何故そのような用法が使われてるかを解説している。</p>											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	<p>第3課 文法研究(2)</p> <p>本課の第一部は、副詞節の研究で、仮定や条件、時を示す表現、「タラ」、「レバ」、「ナラ」、「ト」などの相違を解説し、それぞれの特徴や適切な用法の指導を紹介する。第二部では、二種類の接続表現「～シ」と「～(シ)テ」の相違や用法の特性を解説する。さらに接続文の前文と後文の主語が同一の場合と主語が別である場合の用法の問題も説明する。第三部は、名詞節の研究で、「～コト」と「～ノ」の違いや用法の相違を解説し、どのような場合に、「～コト」が使われ、他の場合に「～ノ」が使われるかを実例によって明らかにしている。</p> <p>さらに関連した文法的な用法として、引用の「～ト」の用法や関連表現(「～と考える」、「～と判断する」、「～と信じる」)などを検討し、次いで、「～と言うこと」の用法を説明し、それぞれの違いを学習者に説明する方法を解説している。</p> <p>第4課 文法研究(3)</p> <p>本課の第一部は、日本語の受身文の特徴を確認する。まず、「直接受身文」と「間接受身文」の相違や「中立受身文」と「被害受身文」の違いを解説して、次に、日本語の自動詞受身文のあり方を紹介し、他の言語にない特別な用法であり、独特的ニュアンスを持つことを指導するための例文を提示している。第二部では、「受身」、「可能」、「自発」、「尊敬」などを表す「～られる文」の用法の違いとそれぞれの特徴を見分ける方法を解説している。さらに、日本語ではどのような場合に、「受身文」の使用を選択するかを検討している。さらに、「使役文」の受身形「使役受身形」の特徴と用法を解説している。第三部では、関係節の時制について、日本語と他の言語(英語)との相違を明らかにし、日本語の特徴と外国人学習者の陥る可能性のある誤用の原因を検討している。さらに、時制に関連して、日本語の動詞や繋辞の過去形の特殊な用法を紹介し、何故そのような用法が使われてるかを解説している。</p>								レポート			
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p> <p>『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版] 日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p> <p>上記の書籍の内容を理解していること</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現 I」「日本語の文法と表現 II」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい</p> <p>オンライン教材がモバイル端末で視聴できます</p>											

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文字・語彙演習			担当者	加藤 恵梨			
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	一			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の文字・語彙の力を伸ばすために何が必要かを考えることができる ・学習者のレベルにあわせて文字・語彙の力を伸ばす授業が組み立てられ、練習問題やタスクシートなどの教材を作成することができる 											
学習の進め方	オンラインライブ授業システムを使用して授業を受け、授業後に el-Campus で課題を実施し、理解度を確認する。授業内では時折発言を求め、双方向コミュニケーションをはかる。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前配布資料には必ず目を通しておくこと ・確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、関連する参考図書で確認すること ・日本語教育に関連する参考図書で自己学習すること 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 日本語の文字・表記の特徴 教える際に必要な日本語の文字・表記に関する基礎的知識を整理する。											
	第2回 ひらがな・カタカナの教え方 ひらがな・カタカナを教える際の注意点やそれらの練習方法について考える。								確認テスト			
	第3回 漢字の基礎的知識 教える際に必要な漢字に関する基礎的知識を整理する。											
	第4回 漢字の教え方 漢字指導の方法について学ぶ。								ディスカッション			
	第5回 日本語の語彙 教える際に必要な日本語の語彙に関する基礎的知識を整理する。											
	第6回 語の意味の教え方1 新出語の意味をどのように教えたらいいかについて学ぶ。								確認テスト			
	第7回 語の意味の教え方2 語の意味のさまざまな教え方について学ぶ。											
	第8回 語彙の練習 効果的な語彙の練習方法について学ぶ。								レポート			
成績評価方法	<p>評価対象活動 単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 各受講回の内容を十分に理解し、レベルにあった文字・語彙の力を伸ばす授業計画が立てられ、適切な練習問題やタスクシートなどの教材を複数作成することができた。</p> <p>【B評価】 各受講回の内容を十分に理解し、レベルにあった文字・語彙の力を伸ばす授業計画が立てられ、練習問題やタスクシートなどの教材を作成することができた。</p> <p>【C評価】 各受講回の内容を理解し、ややレベルにあっていない部分はあるが文字・語彙の力を伸ばす授業計画が立てられ、練習問題やタスクシートなどの教材を作成することができた。</p> <p>【D評価】 各受講回の内容を理解し、ややレベルにあっていない部分はあるが文字・語彙の力を伸ばす授業計画が立てられた。</p>											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『国際交流基金 日本語授業法シリーズ 第3巻「文字・語彙を教える」』、国際交流基金、ひつじ書房、2016年5月30日 初版2刷											
必須ソフト・ツール	オンラインライブ授業システムの専用アプリを各自でインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロードすることが可能。Web カメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。											
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教授法A			担当者	高見澤 孟																										
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆																												
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	一																										
学習目標																																			
<p>【ビジネス日本語の考え方】</p> <p>1)ビジネス日本語とアカデミック日本語の相違を理解し、ビジネス志望の学生を正しく指導することができる。</p> <p>2)学習者のニーズを理解して、その応える教育を行う能力が育成される。</p> <p>3)実践的なコミュニケーションの指導法を学習し、学習者のコミュニケーション能力向上の訓練ができる。</p> <p>4)ビジネス日本語教育に必要な日本企業文化の概要を理解し、それを学習者に伝達する能力が育成される。</p> <p>5)コミュニケーションタイプ・アプローチの基本理論が理解できる。</p> <p>【コミュニケーションとは】</p> <p>1)コミュニケーションに関連した各種理論を予備知識として学習できる。</p> <p>2)コミュニケーションの各種手段を学習し、学習者の指導に役立てる。</p> <p>3)日本語における言語コミュニケーションの特徴を理解し、学習者の指導に役立てる。</p> <p>4)日本語の非言語メッセージの特徴を学習し、学習者の指導に役立てる。</p> <p>5)異文化コミュニケーションの指導法を学び、学習者の指導に応用できる。</p>																																			
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。																																		
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 																																		
学習内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; width: 10%;">概 要</th> <th style="text-align: center; width: 90%;">課 題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 6 課 第 1 部 ビジネス日本語の目標</td><td></td></tr> <tr> <td>アカデミック日本語とビジネス日本語の学習目標の違い、ビジネス日本語の教師として必要とされる能力や教育内容について解説する。</td><td></td></tr> <tr> <td>第 6 課 第 2 部 ビジネス日本語の学習者</td><td></td></tr> <tr> <td>ビジネス日本語学習者の特性と、ビジネス日本語に必要な能力をどのように訓練すれば良いかを解説する。</td><td></td></tr> <tr> <td>第 6 課 第 3 部 言語教授理論</td><td style="text-align: center;">レポート</td></tr> <tr> <td>言語教授理論について解説します。ビジネス日本語教育というものが、どのような言語理論、どのような教授法理論に支えられているのかを解説する。</td><td></td></tr> <tr> <td>第 8 課 第 1 部 コミュニケーションとは</td><td></td></tr> <tr> <td>「コミュニケーションとは何か」ということを、その目的、定義、理論、性質、要素など、さまざまな観点から解説する。</td><td></td></tr> <tr> <td>第 8 課 第 2 部 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</td><td></td></tr> <tr> <td>言語を用いて行う「言語コミュニケーション」と、それ以外の要素を用いて行う「非言語コミュニケーション」について解説する。</td><td></td></tr> <tr> <td>第 8 課 第 3 部 異文化コミュニケーション</td><td style="text-align: center;">レポート</td></tr> <tr> <td>他の文化や社会について理解を深めるための「異文化コミュニケーション」について解説する。</td><td></td></tr> </tbody> </table>									概 要	課 題	第 6 課 第 1 部 ビジネス日本語の目標		アカデミック日本語とビジネス日本語の学習目標の違い、ビジネス日本語の教師として必要とされる能力や教育内容について解説する。		第 6 課 第 2 部 ビジネス日本語の学習者		ビジネス日本語学習者の特性と、ビジネス日本語に必要な能力をどのように訓練すれば良いかを解説する。		第 6 課 第 3 部 言語教授理論	レポート	言語教授理論について解説します。ビジネス日本語教育というものが、どのような言語理論、どのような教授法理論に支えられているのかを解説する。		第 8 課 第 1 部 コミュニケーションとは		「コミュニケーションとは何か」ということを、その目的、定義、理論、性質、要素など、さまざまな観点から解説する。		第 8 課 第 2 部 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション		言語を用いて行う「言語コミュニケーション」と、それ以外の要素を用いて行う「非言語コミュニケーション」について解説する。		第 8 課 第 3 部 異文化コミュニケーション	レポート	他の文化や社会について理解を深めるための「異文化コミュニケーション」について解説する。	
概 要	課 題																																		
第 6 課 第 1 部 ビジネス日本語の目標																																			
アカデミック日本語とビジネス日本語の学習目標の違い、ビジネス日本語の教師として必要とされる能力や教育内容について解説する。																																			
第 6 課 第 2 部 ビジネス日本語の学習者																																			
ビジネス日本語学習者の特性と、ビジネス日本語に必要な能力をどのように訓練すれば良いかを解説する。																																			
第 6 課 第 3 部 言語教授理論	レポート																																		
言語教授理論について解説します。ビジネス日本語教育というものが、どのような言語理論、どのような教授法理論に支えられているのかを解説する。																																			
第 8 課 第 1 部 コミュニケーションとは																																			
「コミュニケーションとは何か」ということを、その目的、定義、理論、性質、要素など、さまざまな観点から解説する。																																			
第 8 課 第 2 部 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション																																			
言語を用いて行う「言語コミュニケーション」と、それ以外の要素を用いて行う「非言語コミュニケーション」について解説する。																																			
第 8 課 第 3 部 異文化コミュニケーション	レポート																																		
他の文化や社会について理解を深めるための「異文化コミュニケーション」について解説する。																																			
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)																																		
教科書	なし																																		
参考書(任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700 円(税込)、2004 年 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年																																		
必須ソフト・ツール																																			
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。																																		

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教授法B			担当者	高見澤 孟			
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>【指導法各論】</p> <p>1) 教案の作成法を学び、授業担当に際して効果的な教案の作成ができる。</p> <p>2) 日本語教育における「文法」指導の要点を学び、学習者の指導に役立てる。</p> <p>3) 日本語教育における「音声指導」の要点を学び、学習者の指導に役立てる。</p> <p>4) 聴解、読解の指導法を学び、学習者の指導に役立てる。</p> <p>5) 作文の指導法を学び、テーマの扱いや文の訂正法など学習者の指導に役立てる。</p> <p>【第二言語習得理論】</p> <p>1) 第二言語理論の概要が理解でき、学習者の指導において応用できる。</p> <p>2) 社会言語能力の構成を学習し、学習者の指導に役立てる。</p> <p>3) フォーカス・オン・フォームの理論を理解し、学習者の指導に役立てる。</p> <p>4) 接触場面の理論を学び、その面から授業のあり方を研究できる。</p> <p>5) ここで紹介されている第二言語習得理論の学習がさらに新しい習得理論への関心を広げていく契機になる可能性がある。</p>											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 											
学習内容	<p style="text-align: center;">概 要</p> <p>第 9 課 第 1 部 教案作成とさまざまな指導法 1～教案の書き方・文法指導法～</p> <p>教案の書き方・文法指導法について解説します。どのように教案を書くべきか、気をつける点はなにか、絵カードやフラッシュカードを使用する理由と活用方法についても解説する。</p> <p>第 9 課 第 2 部 教案作成とさまざまな指導法 2～文法・発音指導法～</p> <p>文法・発音指導法について解説します。動詞のグループごとの教え方と注意点、文法・文型、会話・読解の教え方についてを解説する。</p> <p>第 9 課 第 3 部 教案作成とさまざまな指導法 3～聴解・読解・作文・漢字指導法～</p> <p>聴解・読解・作文・漢字指導法について解説します。聴解を指導する際の注意点、読解を指導する際の注意点、作文を指導する際の注意点、漢字を指導する際の注意点についてを解説する。</p> <p>第 10 課 第 1 部 インプット・インタラクション・アウトプット</p> <p>インプット、インタラクション、アウトプットの3つに区切って、教室指導との関係、その理論と実際の研究、教室での実践の方法について解説する。</p> <p>第 10 課 第 2 部 フォーカス・オン・フォーム</p> <p>形式に焦点を絞って教えるのか、あるいは目標言語は道具であるとして、意味に焦点を絞って教えるのか、という点について、フォーカス・オン・フォームズ、フォーカス・オン・フォーム、そしてフォーカス・オン・ミーニングについて解説する。</p> <p>第 10 課 第 3 部 現実の接触場面でのコミュニケーション行動</p> <p>学習者が実際にコミュニケーションする場所である接触場面について解説する。</p>											
	<p>課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)</p>								レポート			
	<p>教科書</p> <p>なし</p>											
	<p>参考書(任意購入)</p> <p>『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700 円(税込)、2004 年</p> <p>『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p> <p>『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p>											
	<p>必須ソフト・ツール</p>											
	<p>備考</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>											

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語の特徴と発音			担当者	高見澤 孟			
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>【日本語の特徴】</p> <p>1) 日本語の特徴を理解し、外国人日本語学習者(学習者)を指導する言語的な必須知識が習得できる。</p> <p>2) 日本語が属する言語類型である「膠着語」の特徴を理解し、学習者の母語の言語類型と比較し、対照言語研究的解説が可能になる。</p> <p>3) 文脈依存性など、日本語の特殊な用法を学習者に実例の提示を通してわかり易く解説ができるようになる。</p> <p>4) 社会言語学的に重要な日本語の敬意表現を理解し、その正しい用法を学習者に指導できる。</p> <p>5) 配慮表現、婉曲表現など、日本語の特殊な表現方法を学習者に実例の提示を通してわかり易く解説ができるようになる。</p> <p>【日本語の発音】</p> <p>1) 日本語の音声にかかわる知識を再確認し、学習者の音声指導ができる。</p> <p>2) 学習者に日本語の音節構造の特徴を解説し、正しい発音ができるように訓練できる。</p> <p>3) 受講生自身が日本語の特殊音節の特徴を理解したうえで、学習者に正しい発音の方法を指導できる。</p> <p>4) 学習者に日本語のアクセントの構造を理解させ、正しい発音ができるように訓練できる。</p> <p>5) 学習者に日本語の息継ぎの位置やイントネーション、プロミネンスの用法を解説し、聞きやすい日本語の発話を指導できる。</p>											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1課第1部 語順や言語類型											
	日本語とその他の語順との違いや言語類型の解説に始まり、言語類型が日本語教育へ与える影響についても解説する。											
	第1課第2部 日本語の文脈依存性											
	文脈依存性の高い日本語での会話において、省略される情報というものにはどういったものがあるのか。また、感情表現と願望表現において主語が省略されるケースについても解説する。											
	第1課第3部 日本語の特性								レポート			
	日本文化における慣用表現の重要性など、日本語の特性について解説する。								レポート			
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	<p>『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700 円(税込)、2004 年</p> <p>『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p> <p>『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年</p>											
必須ソフト・ツール												
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。											

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語の文法と表現 I			担当者	高見澤 孟					
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆							
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—					
学習目標														
<p>【文法1】</p> <p>1) 外国人のための日本語教育文法と国文法との相違を理解できる。</p> <p>2) 日本語教育特有の文法用語が習得できる。</p> <p>3) 日本語教育特有の動詞、形容詞の活用方法を理解し、学習者に指導できる。</p> <p>4) 日本語の複雑な数詞の用法を学習者に指導し、正しい表現が使用できるよう訓練できる。</p>														
<p>【文法2】</p> <p>1) 日本語特有の眼前指示や文脈指示の用法を学習者に理解させ、正しい用法を指導できる。</p> <p>2) 日本語学習の困難点の一つであるオノマトペの特徴を学習者に理解させることができる。</p> <p>3) 日本語の多様な助詞の用法を学習者に理解させ、正しい用法を指導できる。</p> <p>4) 学習者が間違えやすい日本語の方法を誤用例を挙げて解説し、正しい用法を指導できる。</p>														
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。													
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 													
学習内容	概 要								課 題					
	第3課第1部 日本語教育の文法と国語教育の文法、文型の導入順序、名詞文、形容詞文													
	日本語教育と国語教育についてと、その文法の違いの解説に始まり、文型の導入順序、名詞文、形容詞文についてを解説する。													
	第3課第2部 動詞文													
	動詞の分類と動詞の活用(テ形)、テ形以外の動詞の活用について解説する。													
	第3課第3部 数詞、助数詞、副詞								レポート					
	数詞、助数詞、陳述(誘導)副詞、程度副詞、様態(情態)副詞について解説する。								レポート					
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)													
教科書	なし													
参考書(任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700 円(税込)、2004 年 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』高見澤孟著、アスク出版、1,900 円(税別)、2016 年													
必須ソフト・ツール														
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。													

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語の文法と表現Ⅱ			担当者	高見澤 孟
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—

学習目標	【文法3】 1)学習者に日本語のテンスとアスペクトの使い分けを解説し、正しい用法を指導できる。 2)日本語の多様な文末表現をムードとして解説し、学習者に正しい用法を指導できる。 3)日本語特有な受身形や使役形、使役受身形の特徴を解説し、学習者に正しい用法を指導できる。 4)以上の学習を通して、日本語文法の概要を理解し、その立場から学習者を指導する能力を向上させる。				
	【日本語の表記・表現】 1)日本語の表記法全般が学習でき、学習者に説明できる。 2)「ひらがな」や「カタカナ」の由来や用法を学習者に説明できる。 3)日本語教育における「漢字」の学習範囲や用法を学習者に説明できる。 4)「漢字」の訓読み、音読みの区別などを学習者に説明できる。 5)日本語の文章作成に必要な各種「符号」の使い方を学習者に指導できる。				
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。				
授業時間外学習	・授業開始後に el-Campus に設置されている参考資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。				
学習内容	概 要			課 題	
	第5課第1部 テンス・アスペクト いつ(現在・過去・未来)のことなのかを示す「テンス」と、動作がどの段階にあるのかをあらわす「アスペクト」について解説する。				
	第5課第2部 ムード(モダリティ) 話し手がどのように受け止めているかを文末で表現する「ムード(モダリティ)」について解説する。				
	第5課第3部 ヴォイス(受身・可能・使役・使役受身) 視点が話し手と聞き手の、どちらにあるのかによって表現を変える「ヴォイス」について解説する。			レポート	
	第7課第1部 平仮名と片仮名 平仮名と片仮名の筆順や似ている文字の見分け方、平仮名と片仮名の長音の違いなどについて解説する。				
	第7課第2部 漢字 漢字の成り立ちや、漢字を数多く覚える方法、漢字の筆順、部首・音訓・画数からの辞書の引き方、似ている漢字の見分け方などについて解説する。				
	第7課第3部 文を書くときの注意点 書きことばと話すことばの種類や、論文・新聞記事・説明文・連絡文などの文体の特徴について解説します。また、これらの文末表現の違いや、句読点の使い方、括弧の種類についても解説する。			レポート	
成績評価方法	課題レポート(40%)、単位修得試験(レポート試験 60%)				
教科書	なし				
参考書(任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円(税込)、2004年 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育 2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年				
必須ソフト・ツール					
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。				

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	日本語表現			担当者	秋田 久子			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	社会生活の中で正しく情報を受信し、また相手に自分の意図が正しく伝わるように発信するための日本語能力を養う。日本語の発声や発音、慣用句やことわざなども学び、さまざまな文章に触れることで「読む」能力を伸ばすと共に、課題発表などを通して「書く」能力も身に付ける。											
学習の進め方	(第1回～第14回) 本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。提出課題は、学んだ知識を基礎に、自らの日本語力を磨く機会として、取り組むこと。回ごとに確認テストがありますので、その確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。											
授業時間外学習	・普段無意識に使っている「日本語」に対して、客観的な視点を持ちながら、受講を進めること。 ・受講後には、学んだことを、実際の日常生活の中で活用していくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 社会生活と自己表現 コミュニケーションと日本語、話すことばと書きことば、挨拶やその受け答えなどについて、学ぶ。								ディスカッション 確認 テスト			
	第2回 音声表現 日本語の発声や発音について学ぶと共に、美しい日本語や魅力的な話し方、また話し方の基本とスピーチの方法を身に付ける。								確認テスト			
	第3回 語彙と表現 語彙の特徴や分類、修辞法や慣用句、比喩、ことわざ、四字熟語、漢字の標記、同訓・同音意義語などについて学ぶ。								確認テスト			
	第4回 ディスカッション 設定されたテーマについて発表し、他の受講者の発表についての感想を述べる。								ディスカッション 確認 テスト			
	第5回 敬語の基本 尊敬語・謙譲語・丁寧語の違いを理解し、正しく用いることができるようになる。								確認テスト			
	第6回 間違いやすい敬語 社会生活の中で間違いやすい敬語について考え、正しい敬語を身に付ける。								確認テスト			
	第7回 ビジネスでの日本語 ビジネス場面での日本語について学び、社会人としての基本を身に付ける。								プレゼンテーション課 題 確認テスト			
	第8回 中間まとめ								中間まとめ			
	第9回 さまざまな文章 文章の種類を理解し、美しい日本語の文章に触れる。								確認テスト			
	第10回 原稿用紙の用法 原稿用紙に正しい規則で文章を書くことを学ぶ。								確認テスト			
	第11回 文章の構成と推敲 序論や本論といった文章構成やパラグラフなどについて学び、目的に合った文章を作成する。								確認テスト			
	第12回 手紙とはがき 手紙やはがきの書き方のルールを学び、美しい文書を書くことを目的とする。								確認テスト			
	第13回 ビジネス文書 さまざまな種類のビジネス文書について学び、目的に合った正しい文書を作成する。								プレゼンテーション課 題 確認テスト			
	第14回 レポート作成 レポートを書くときのルールや構成について学ぶ。また実際に履歴書やエントリーシートなどを書き、社会生活に活かす。								確認テスト			
成績評価方法	前半のまとめ(40%)、単位修得試験(40%)、ディスカッションと課題発表(20%)により総合評価する。											
教科書	著書『新・日本語表現法』 著者 水原道子、福井愛美、上田知美 出版社 アイシー印刷株式会社 出版年度 2011年6月29日 改訂版											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	認知行動療法			担当者	池田 浩之			
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	<p>認知行動療法の実践的な事例や手法を修得し、日々の臨床現場で修得した内容を活かせるようになる。</p> <p>認知行動療法の基本的な理論や背景、意義、そして限界を理解し、実際の臨床現場や日常生活を想定したときに、その知識を適切に活用できるようになる。</p> <p>自身の行動や認知の傾向はどのようなものなのか分析できるようになる。また、それを踏まえて、臨床においてどのように作用しているのか説明できるようになる。</p>											
学習の進め方	本授業は、連続する2日間のそれぞれ1~4時間に開講する。本科目では、近年 evidence-basedな心理療法として注目される認知行動療法について学ぶ。基本的な構成理論(学習理論、ABC分析、ABC理論等)や実践的な事例や手法を修得し、日々の臨床現場や日常生活において、他者および自身に活かせるようになることを目指す。授業では講義と演習を織り交ぜ、実際の手法を用いたロールプレイを行い、実践力を高める。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・履修にあたっては、行動理論、ABC理論(認知療法の理論)について、あらかじめ調べたり、本を読むなどして概要を把握しておくことが望ましい。また、シラバスを確認して、興味のある内容を整理しておくこと。 ・受講後には、自分が関心を持った内容について日常生活の中での実践を心がけること。また、講義で通知した研修等に参加することを推奨します。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 認知行動療法と心理療法 本授業のガイダンスを行うことで、認知行動療法の概要を知る。臨床的な適応範囲や先進的な研究などについて触れ、認知行動療法の意義と限界について知る。											
	第2回 認知行動療法の位置づけ① 認知行動療法理論の基礎をなす、学習理論やそれらを基にした行動分析を学ぶ。日常生活に置き換えて行動を見る視点の重要性について押さえる。実際に行動を見るためのワークも行う。								ディスカッション			
	第3回 認知行動療法の位置づけ② 認知行動療法の代名詞的な理論となった、認知療法の基礎理論であるABC理論について学び、その理論を基にして構成されている認知再構成という技法について触れる。											
	第4回 認知行動療法の位置づけ③ 認知行動療法と他の心理療法について、比較をし、認知行動療法の意義と限界を知る。認知行動療法を生かすための基本的なカウンセリングマインドを知り、実際に演習も行う。								プレゼンテーション			
	第5回 認知行動療法の臨床的な適応範囲(精神障害) うつ病や神経症圏への認知行動療法の実践例を紹介する。それらを通して、精神障害への認知行動療法の展開について学ぶ。実際に事例で用いているワークシートなどを講義でも用いる。											
	第6回 認知行動療法の臨床的な適応範囲(発達障害) 近年関心が高まっている発達障害への認知行動療法の実践について知る。アセスメントから介入まで、実践するために必要な要素について、事例を通して学ぶ。											
	第7回 認知行動療法の臨床的な適応範囲(各領域から) 療育現場や教育現場、就労現場で行われている認知行動療法の実践を紹介する。各領域に合わせた実践を知り、現場で認知行動療法を行うために必要な要素について学ぶ。先行研究から情報を得るという視点についても学ぶ。グループ形式でワークも行う。								ディスカッション			
	第8回 認知行動療法の先進的な研究紹介 認知行動療法の第3世代と言われる技法について紹介する。また国内ではどのような機関で認知行動療法が実践されているか知り、今後自分で認知行動療法を学ぶ際のリソースを知る。								プレゼンテーション			
成績評価方法	授業中の発言と参加、レポート課題、グループワークでの発言と参加、他者のプレゼンに対する質問とコメントにより総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	認知行動療法ケースフォーミュレーション入門 マイケル・ブルック、フランク・W・ボンド編著 下山晴彦編訳 金剛出版 2006 ISBN-13: 978-4772409391 認知行動療法入門 短期療法の観点から B・カーウェン、S・パーマー、P・ルデル著 下山晴彦 監訳 2004 金剛出版											
必須ソフト・ツール												
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義 40名											

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	認知心理学			担当者	谷口 康祐			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>本授業で取り扱った専門的な語句の意味や理論を理解し、正確に説明できるようになる。</p> <p>認知心理学における研究の対象を理解し、それらがどのような手法を用いることによって理論や知見が得られているのかを説明できるようになる。</p> <p>自身の興味のある認知心理学的テーマに関して、自分なりに実験計画を組み立て、その目的や予測される結果を明確に説明できるようになる。</p>											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 関連する科目(特に「行動の科学」「学習心理学概論」)について十分に復習しておくこと。 この科目的難易度は高めに設定されているため、短期間で一気にやろうとせずに、計画的に授業を進めること。 ノートを取りながら受講し、それを使って復習すること。また、自身の興味のあるテーマに関する研究を調べることを推奨する。 授業の紹介した内容が日常生活とどのように関連しているのかについて考えることを推奨する。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 認知心理学概論								レポート			
	数ある心理学の中でも、認知心理学というのはどのような心理学なのかについて説明する。特に、心理学において認知とはどのようなものを示すのか、その歴史的背景も含めて紹介する。								レポート			
	第2回 認知心理学の方法論と心理統計								確認テスト			
	認知心理学の研究がどのような手法を用いて行われているのか、心理統計と合わせて紹介する。								確認テスト			
	第3回 感覚・知覚1								確認テスト			
	認知心理学における基本的な概念である、感覚・知覚・認知について再確認する。その後、人間にとつて最も重要な感覚である視覚を群化の法則や図地分離、錯覚(錯視)の観点から紹介する。								確認テスト			
	第4回 感覚・知覚2								確認テスト			
	感覚に関する閾値測定などの心理学の研究手法について説明する。また、複数の感覚に関する知見や時間知覚に関する研究についても紹介する。								確認テスト			
	第5回 注意1								確認テスト			
	覚醒度、選択、制御といった注意の機能を概説した後、さまざまな注意の分類について紹介する。その後、選択的注意についての研究を紹介する。また、注意の視覚や聴覚に関する研究、注意の見落としについて紹介する。								確認テスト			
	第6回 注意2								確認テスト			
	注意の中でも分離的注意について扱った研究を説明する。ここでは、注意資源の考え方や、注意の自動化について紹介する。								確認テスト			
	第7回 学習1								確認テスト			
	古典的条件付けや、オペンラント条件、連合学習といった基本的な学習理論を再確認した後、認知心理学との関係を紹介する。学習心理学の分野で行われている研究手法や知見について紹介を行う。								確認テスト			
	第8回 学習2								確認テスト			
	認知心理学で扱われてきた、知識や技能を身に着けていくプロセスについて概説する。ここでは、熟達化や並列分散処理、認知地図、メタ認知についての研究や知見を紹介する。								確認テスト			
	第9回 記憶1								確認テスト			
	記憶の構造や分類や理論を再確認した後、感覚記憶の特性を扱った研究や短期記憶の保持時間について、ワーキングメモリの理論とその研究といったに関する研究や知見を紹介する。								確認テスト			
	第10回 記憶2								確認テスト			
	主に長期記憶に関する説明を行う。長期記憶の中でも、意味記憶やエピソード記憶や潜在記憶に関する知見や研究を紹介し、最後に目撃証言といった現実場面を想定した研究についても紹介する。								確認テスト			
	第11回 思考								確認テスト			
	問題解決と推論についての再確認を行う。その後、ヒューリスティックスやバイアス、意思決定に関する研究を紹介する。								確認テスト			
	第12回 言語								確認テスト			
	言語と概念の関係を再確認する。その後に、語彙プライミングの影響や、文章の理解、会話の理解といった研究について紹介する。								確認テスト			
	第13回 社会的認知								確認テスト			
	社会的認知は、認知心理学の方法論や理論的な枠組みを取り込んだ社会心理学の研究である。ここでは、対人認知、認知的不協和、観察学習、帰属理論に関する研究や知見を紹介する。								確認テスト			
	第14回 ヒューマンエラー								レポート			
	ヒューマンエラーの原因は様々な種類に分類されている。認知心理学の観点から実際に起きたヒューマンエラーによる事故について取り上げ、どのような対策をすればよいのかを考察する。								レポート			
	第15回 まとめ								レポート			
	認知心理学に関する研究が実生活とどのように関連することができるのか、これまで扱った題材を基に考える。								レポート			
成績評価方法	単位修得試験(レポート)、各回の課題(確認テスト、レポート) 【A評価】B評価に加え、自分が考えた認知心理学的研究を実施することによって、どのような知見が得ることができるのか、またどのように応用できるのかを考え、明確に説明できている。											

	<p>【B 評価】C 評価に加え、自身で考えた認知心理学的な実験計画で調べたいことを明確に説明でき、どのような手法を用いれば調べたいことを明らかにできるかを説明できている。</p> <p>【C 評価】D 評価に加え、認知心理学の研究で用いられる様々な手法や考え方が、どのような研究でどのように用いられるのか説明できている。自分で考えたオリジナルの認知心理学的な実験計画を説明できている。</p> <p>【D 評価】各回の試験およびレポートを提出し、認知心理学における基本的な語句や理論の理解し、説明できている。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	『マンガ心理学入門』、ナイジェル・C.ベンソン、講談社、864 円(税込)、2001 年
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修の前提とするもの】 「行動の科学」「学習心理学」の内容を修得していること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「心理学統計法」の内容を修得していること。</p> <p>【注意】 本授業はこれまでに心理学をすでに学んでいることを前提にして、心理学の知識の幅をさらに広げることを目的とした授業になっております。 確認テストやレポートは難しいと感じるかと思いますので、履修する人は相応の覚悟を持って授業に臨んでください。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	脳の科学			担当者	西村 治彦			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	脳について知ることによって、心というものの理解に迫ります。 そして、「心とは意識と無意識を含めた脳活動の作用である」という観点に立って脳を科学することの大切さを理解します。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	・参考図書や関連サイトなども活用して、各自で自主的に学習するスタイルを身につけるよう努力してください。 ・設置されたレポート課題に納得できるまで取り組むようにしてください。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 脳の性質・無意識と脳の解釈											
	<ul style="list-style-type: none"> ○はじめに(脳を知り、心に迫る／脳を調べるメソドロジー／鍵を握る無意識の世界) ○サイエンスの視点:対象におけるデータの相関関係と因果関係 ○錯覚・ゲシュタルト群化原理・顔認識に観る脳の癖 ○変化盲・単純接触現象・錯誤帰属に観る脳の性質:行動への感情の妥協 ○サブリミナルな刺激への脳の反応と学習:やる気と直感のルーツ 								レポート			
	第2回 脳と記憶・記憶の役割								レポート			
	<ul style="list-style-type: none"> ○記憶の役割を探る:自我の存続とパターン・コンプリーション ○正誤の基準:慣れと記憶 ○好き嫌いの形成と記憶の再構築 								レポート			
	第3回 記憶の身体性								レポート			
	<ul style="list-style-type: none"> ○意識を越えた身体反応と感情の変化 ○分離脳・海馬損傷と記憶・行動 ○脳機能の前適応と心の構造 								レポート			
成績評価方法	第4回 生物の進化と感覚											
	<ul style="list-style-type: none"> ○脳のニューロン数と情報量、および生物の定義とチューリング・テスト ○脳と聴覚・皮膚感覚・嗅覚:そのしくみと機能 ○脳と視覚:そのしくみと機能 								レポート			
	第5回 意志と行動と脳活動								レポート			
	<ul style="list-style-type: none"> ○自由意志の測定とエイリアンアーム・シンドローム ○脳のゆらぎと行動 ○自由否定の存在、および行動の知覚 								レポート			
	第6回 脳の仕組み・自己言及の構造								レポート			
	<ul style="list-style-type: none"> ○脳の消費エネルギー・遺伝子と設計図・ニューロン活動 ○脳のフィードバックとりカージョン ○おわりに 								レポート			
成績評価方法	各回のレポート(60%)、単位修得試験(40%)											
教科書	著書 『単純な脳、複雑な「私」』 著者 池谷裕二 出版社 朝日出版社 出版年度 2010年3月1日 1版 ISBN 9784255004327											
参考書(任意購入)	『よくわかる最新「脳」の基本としくみ (How-nual Visual Guide Book)』、後藤和宏、秀和システム、1,470円(税込)、2009年 『心の脳科学「わたし」は脳から生まれる』、坂井克之、中央公論新社、945円(税込)、2008年											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	俳句と川柳			担当者	水野 達朗																																				
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★																																						
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—																																				
学習目標	<p>俳句がたぶん世界最短の「まじめな」詩であることは、よく知られている。とはいっても、それが現にどれほど短いかについては、日本人自身でさえ、本当によく実感しているとは言いがたい。西洋では、俳句はわずか三行の極端な短詩だと見なされている。たしかに西洋では、もっとも短い「まじめな」定型詩でも十四行の長さをもつだから、たった三行といえば、とんでもなく短い詩には違いない。だが実は、日本語俳句の五・七・五音、あわせて十七音は、英語やフランス語など西洋の言語の情報量に換算すれば、ほんの十音節にも足りない。つまり俳句は、西洋詩のわずか一行よりもっと短い詩なのであり、これは極端に短い詩か、コマーシャル・メッセージのみの信じがたい短小である。「閑(しづか)さや岩に浸(し)み入る蟬(せみ)の声」——ほとんど意味不明の片言(かたこと)に近いこのようなテキストが、そもそもどのようにして「詩」であり得るのか、なぜ複雑微妙な意味をはらんで、読者に深い感動を与えるのだろうか。この講座では、芭蕉の名句の数々をじっくり読み味わいながら、そうした俳句の不思議な成り立ちとしくみを、一から考え直してみたい。あわせて、たぶん世界最短の「おかしい」詩である川柳についても、同じ観点から、あらためて見直すことを目標とする。</p> <p>同じ五・七・五の短詩でも、俳句は季語と切字を含む芸術的な自然詩、川柳はそのどちらとも含まない軽快なユーモア詩・人情詩というのが一般的な見方であろう。そうした通念はおおむね当たっている。とはいっても、俳句と川柳がこれまでたどってきた歴史を考えても、またどちらもわずか十七字の極端に短い詩だという点から見ても、両者には意外に多くの共通点がある。この二つをはじめから別物だと決め付けず、むしろ兄弟のように近いもの、一本の木の枝分かれしたようなものと考えて、それぞれに似たところや異なるところを観察してみれば、色々とよく見えてくるものがありそうだ。</p> <p>本授業では、俳句と川柳の成り立ちや発展のあとをたどりながら、それぞれの詩としての特性を考え、あわせて俳句・川柳の古今の名作をじっくり味わうことができるようになる。</p>																																												
学習の進め方	<p>第1回、第2回と各回、順を追って学習を進める。</p> <p>まず、各回のオンデマンド教材で十分に学習をしてから教科書を熟読し、再度オンデマンド教材にて学習すること。</p>																																												
授業時間外学習	<p>・『芭蕉全句集』(角川ソフィア文庫)等で、講義で出て来た句を確認するとともに、それ以外の句についても、講義で示された読み方を応用して読み進めてみることを推奨。</p>																																												
学習内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>概要</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 十七字の世界</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 俳句の短さ 第2節 ハイクとイマジズム</td> </tr> <tr> <td>第2回 読者は作者</td> <td rowspan="2">ディスカッション、確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 俳句は脇が甘い 第2節 開かれた作品</td> </tr> <tr> <td>第3回 写生</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 リアリズム(写実主義) 第2節 俳句は十七字が出発点</td> </tr> <tr> <td>第4回 本意の働き</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 歌語とコノテーション 第2節 季語、俳言</td> </tr> <tr> <td>第5回 秋の夕暮</td> <td rowspan="4">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 『万葉集』の「秋の夕暮」 第2節 『古今集』の「秋の夕暮」 第3節 『後撰集』以後の「秋の夕暮」 第4節 『新古今集』の「秋の夕暮」と「三夕」</td> </tr> <tr> <td>第6回 俳句の二重構造</td> </tr> <tr> <td>第1節 滑稽の本質 第2節 詩的意義と文体特徴</td> </tr> <tr> <td>第7回 誇張—表現・意味の構造(1)</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 「も」考 第2節 「も」以外の誇張</td> </tr> <tr> <td>第8回 矛盾—表現・意味の構造(2)</td> <td rowspan="3">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 矛盾法(1) 第2節 矛盾法(2) 第3節 矛盾法(3)</td> </tr> <tr> <td>第9回 意義の方向づけ</td> </tr> <tr> <td>第1節 干渉部の働き(1) 第2節 干渉部の働き(2)</td> <td rowspan="2">ディスカッション、確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第10回 「閑かさや」の句</td> </tr> <tr> <td>第1節 「岩にしみいる蟬の声」 第2節 「閑かさや」</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第11回 俳句の翻訳</td> </tr> <tr> <td>第1節 俳句の翻訳における問題点 第2節 様々な俳句の英訳</td> <td rowspan="3">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第12回 芭蕉の桜</td> </tr> <tr> <td>第1節 ミモロジズム 第2節 「花」と「桜」</td> </tr> </tbody> </table>									概要	課題	第1回 十七字の世界	確認テスト	第1節 俳句の短さ 第2節 ハイクとイマジズム	第2回 読者は作者	ディスカッション、確認テスト	第1節 俳句は脇が甘い 第2節 開かれた作品	第3回 写生	確認テスト	第1節 リアリズム(写実主義) 第2節 俳句は十七字が出発点	第4回 本意の働き	確認テスト	第1節 歌語とコノテーション 第2節 季語、俳言	第5回 秋の夕暮	確認テスト	第1節 『万葉集』の「秋の夕暮」 第2節 『古今集』の「秋の夕暮」 第3節 『後撰集』以後の「秋の夕暮」 第4節 『新古今集』の「秋の夕暮」と「三夕」	第6回 俳句の二重構造	第1節 滑稽の本質 第2節 詩的意義と文体特徴	第7回 誇張—表現・意味の構造(1)	確認テスト	第1節 「も」考 第2節 「も」以外の誇張	第8回 矛盾—表現・意味の構造(2)	確認テスト	第1節 矛盾法(1) 第2節 矛盾法(2) 第3節 矛盾法(3)	第9回 意義の方向づけ	第1節 干渉部の働き(1) 第2節 干渉部の働き(2)	ディスカッション、確認テスト	第10回 「閑かさや」の句	第1節 「岩にしみいる蟬の声」 第2節 「閑かさや」	確認テスト	第11回 俳句の翻訳	第1節 俳句の翻訳における問題点 第2節 様々な俳句の英訳	確認テスト	第12回 芭蕉の桜	第1節 ミモロジズム 第2節 「花」と「桜」
概要	課題																																												
第1回 十七字の世界	確認テスト																																												
第1節 俳句の短さ 第2節 ハイクとイマジズム																																													
第2回 読者は作者	ディスカッション、確認テスト																																												
第1節 俳句は脇が甘い 第2節 開かれた作品																																													
第3回 写生	確認テスト																																												
第1節 リアリズム(写実主義) 第2節 俳句は十七字が出発点																																													
第4回 本意の働き	確認テスト																																												
第1節 歌語とコノテーション 第2節 季語、俳言																																													
第5回 秋の夕暮	確認テスト																																												
第1節 『万葉集』の「秋の夕暮」 第2節 『古今集』の「秋の夕暮」 第3節 『後撰集』以後の「秋の夕暮」 第4節 『新古今集』の「秋の夕暮」と「三夕」																																													
第6回 俳句の二重構造																																													
第1節 滑稽の本質 第2節 詩的意義と文体特徴																																													
第7回 誇張—表現・意味の構造(1)	確認テスト																																												
第1節 「も」考 第2節 「も」以外の誇張																																													
第8回 矛盾—表現・意味の構造(2)	確認テスト																																												
第1節 矛盾法(1) 第2節 矛盾法(2) 第3節 矛盾法(3)																																													
第9回 意義の方向づけ																																													
第1節 干渉部の働き(1) 第2節 干渉部の働き(2)	ディスカッション、確認テスト																																												
第10回 「閑かさや」の句																																													
第1節 「岩にしみいる蟬の声」 第2節 「閑かさや」	確認テスト																																												
第11回 俳句の翻訳																																													
第1節 俳句の翻訳における問題点 第2節 様々な俳句の英訳	確認テスト																																												
第12回 芭蕉の桜																																													
第1節 ミモロジズム 第2節 「花」と「桜」																																													
学習内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>概要</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 十七字の世界</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 俳句の短さ 第2節 ハイクとイマジズム</td> </tr> <tr> <td>第2回 読者は作者</td> <td rowspan="2">ディスカッション、確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 俳句は脇が甘い 第2節 開かれた作品</td> </tr> <tr> <td>第3回 写生</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 リアリズム(写実主義) 第2節 俳句は十七字が出発点</td> </tr> <tr> <td>第4回 本意の働き</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 歌語とコノテーション 第2節 季語、俳言</td> </tr> <tr> <td>第5回 秋の夕暮</td> <td rowspan="4">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 『万葉集』の「秋の夕暮」 第2節 『古今集』の「秋の夕暮」 第3節 『後撰集』以後の「秋の夕暮」 第4節 『新古今集』の「秋の夕暮」と「三夕」</td> </tr> <tr> <td>第6回 俳句の二重構造</td> </tr> <tr> <td>第1節 滑稽の本質 第2節 詩的意義と文体特徴</td> </tr> <tr> <td>第7回 誇張—表現・意味の構造(1)</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 「も」考 第2節 「も」以外の誇張</td> </tr> <tr> <td>第8回 矛盾—表現・意味の構造(2)</td> <td rowspan="3">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第1節 矛盾法(1) 第2節 矛盾法(2) 第3節 矛盾法(3)</td> </tr> <tr> <td>第9回 意義の方向づけ</td> </tr> <tr> <td>第1節 干渉部の働き(1) 第2節 干渉部の働き(2)</td> <td rowspan="2">ディスカッション、確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第10回 「閑かさや」の句</td> </tr> <tr> <td>第1節 「岩にしみいる蟬の声」 第2節 「閑かさや」</td> <td rowspan="2">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第11回 俳句の翻訳</td> </tr> <tr> <td>第1節 俳句の翻訳における問題点 第2節 様々な俳句の英訳</td> <td rowspan="3">確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第12回 芭蕉の桜</td> </tr> <tr> <td>第1節 ミモロジズム 第2節 「花」と「桜」</td> </tr> </tbody> </table>									概要	課題	第1回 十七字の世界	確認テスト	第1節 俳句の短さ 第2節 ハイクとイマジズム	第2回 読者は作者	ディスカッション、確認テスト	第1節 俳句は脇が甘い 第2節 開かれた作品	第3回 写生	確認テスト	第1節 リアリズム(写実主義) 第2節 俳句は十七字が出発点	第4回 本意の働き	確認テスト	第1節 歌語とコノテーション 第2節 季語、俳言	第5回 秋の夕暮	確認テスト	第1節 『万葉集』の「秋の夕暮」 第2節 『古今集』の「秋の夕暮」 第3節 『後撰集』以後の「秋の夕暮」 第4節 『新古今集』の「秋の夕暮」と「三夕」	第6回 俳句の二重構造	第1節 滑稽の本質 第2節 詩的意義と文体特徴	第7回 誇張—表現・意味の構造(1)	確認テスト	第1節 「も」考 第2節 「も」以外の誇張	第8回 矛盾—表現・意味の構造(2)	確認テスト	第1節 矛盾法(1) 第2節 矛盾法(2) 第3節 矛盾法(3)	第9回 意義の方向づけ	第1節 干渉部の働き(1) 第2節 干渉部の働き(2)	ディスカッション、確認テスト	第10回 「閑かさや」の句	第1節 「岩にしみいる蟬の声」 第2節 「閑かさや」	確認テスト	第11回 俳句の翻訳	第1節 俳句の翻訳における問題点 第2節 様々な俳句の英訳	確認テスト	第12回 芭蕉の桜	第1節 ミモロジズム 第2節 「花」と「桜」
概要	課題																																												
第1回 十七字の世界	確認テスト																																												
第1節 俳句の短さ 第2節 ハイクとイマジズム																																													
第2回 読者は作者	ディスカッション、確認テスト																																												
第1節 俳句は脇が甘い 第2節 開かれた作品																																													
第3回 写生	確認テスト																																												
第1節 リアリズム(写実主義) 第2節 俳句は十七字が出発点																																													
第4回 本意の働き	確認テスト																																												
第1節 歌語とコノテーション 第2節 季語、俳言																																													
第5回 秋の夕暮	確認テスト																																												
第1節 『万葉集』の「秋の夕暮」 第2節 『古今集』の「秋の夕暮」 第3節 『後撰集』以後の「秋の夕暮」 第4節 『新古今集』の「秋の夕暮」と「三夕」																																													
第6回 俳句の二重構造																																													
第1節 滑稽の本質 第2節 詩的意義と文体特徴																																													
第7回 誇張—表現・意味の構造(1)	確認テスト																																												
第1節 「も」考 第2節 「も」以外の誇張																																													
第8回 矛盾—表現・意味の構造(2)	確認テスト																																												
第1節 矛盾法(1) 第2節 矛盾法(2) 第3節 矛盾法(3)																																													
第9回 意義の方向づけ																																													
第1節 干渉部の働き(1) 第2節 干渉部の働き(2)	ディスカッション、確認テスト																																												
第10回 「閑かさや」の句																																													
第1節 「岩にしみいる蟬の声」 第2節 「閑かさや」	確認テスト																																												
第11回 俳句の翻訳																																													
第1節 俳句の翻訳における問題点 第2節 様々な俳句の英訳	確認テスト																																												
第12回 芭蕉の桜																																													
第1節 ミモロジズム 第2節 「花」と「桜」																																													

	第13回 川柳とは 第1節 川柳の成り立ち(1) 第2節 川柳の成り立ち(2)	確認テスト
	第14回 川柳の構造 第1節 川柳の構造(1) 第2節 川柳の構造(2)	ディスカッション、確認テスト
	第15回 川柳の名作 第1節 川柳を楽しむ(1) 第2節 川柳を楽しむ(2)	確認テスト
成績評価方法	平常点(オンデマンド教材学習、ディスカッション、確認テスト)50%、単位修得試験 50%	
教科書	著書 『日本詩歌の伝統－七と五の詩学－』 著者 川本皓嗣 出版社 岩波書店 出版年度 2010年4月5日 ISBN 9784000016889	
参考書(任意購入)		
必須ソフト・ツール		
備考		

メジャー(専修)名				授業科目名	パズルで情報活用			担当者	本田 直也			
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<p>パズルといえば、どのようなパズルを思い浮かべますか。ジグソーパズル、テトリス、脳トレ、スマートフォンでみんな電車の中でやっているやつ、などなど様々なパズルありますが、この授業では「覆面算」、「セレクトワーズ」、「数独」の3つのパズルを厳選し、学習テーマとして扱います。</p> <p>これらの3つのパズルを解く際には、いずれもデータ処理や数値処理を必要とします。能力としては、論理力、数理力はもちろんのこと、情報活用力も必要となってきます。パズルの解答や、パズルの表現の過程で、楽しみながら、頭を使いながら、情報活用力を養っていくことを目指します。</p> <p>パズル問題は表計算ソフトExcel上に表現し、Excelの機能を用いて様々な処理を行っていきます。ですから、この授業はExcelの学習も大きなテーマの1つです。</p> <p>【本授業の学びを通してできるようになること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「覆面算」、「セレクトワーズ」、「数独」パズルのルールを理解し、楽しむことができるようになる ・Excelの様々な機能を知り、それらを適切に扱うことができるようになる ・Excelで様々な関数や数式を正しく記述できるようになる ・コンピュータ操作やExcel操作を覚えて暗記するのではなく、思い出し方を身につけることで、時間が経っても修得した内容を再度活用できるようになる ・情報検索、情報分析といった情報活用力を駆使して課題解決ができるようになる ・課題に直面したときに、それを成し遂げるための必要な学習を自ら定め、自ら修得することができるようになる（自己学習能力の向上） 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>【学習前に準備しておくべきこと】 もし以前にExcelに関する学習を行ったことがあります、教科書などの教材があれば、参照できるように手元に用意しておきましょう。参考できると学習がスムーズになる場合もあります。 el-Campus その他の学習教材「レポートの書き方」に一通り目を通しておきましょう。必要となつたらいつでも参考して活用できるように準備しておきます。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の学習を終えるごとに、どのように情報活用力を駆使して課題解決を行ったのか、学習の過程でどのように情報活用力が鍛えられたのか、その都度思い返しておいてください。 本科目の学習以外でも、例えば仕事やその他の学習活動や研究活動において、情報活用力を用いることができた例などありましたら、その都度気に留めておいてください。</p>											
授業時間外学習	<p>【概要】</p> <p>第1回 表計算ソフトでの数式活用</p> <p>【第1回学習内容】 表計算ソフトでの数式の扱い方を学ぶ。教わるだけでなく、情報活用力を駆使して自ら課題解決できるようになることを目指す。</p> <p>【第1回課題】 基礎的な関数の扱い方を確認するための問題を解きます。問題指示入りのExcelブックファイルを配布しますので、指示に従って関数を利用した数式を記述してもらいます。完成したExcelブックファイルをel-Campusでアップロード提出する、という課題です。（文書作成のレポート課題ではありません）</p> <p>第2回 覆面算(1)</p> <p>【第2回学習内容】 表計算ソフトを用いて覆面算を解くための補助ツールの製作に着手する。そのために必要な関数と数式の扱い方について学ぶ。</p> <p>【第2回課題】 第2回の学習テーマの1つである表検索関数について、その関数の扱い方の修得と定着を目指して、Excel上で演習を行う。完成したExcelブックファイルをel-Campusで提出します。（文書作成のレポート課題ではありません）</p> <p>第3回 覆面算(2)</p> <p>【第3回学習内容】 覆面算を解くための補助ツールを完成させる。完成までの過程で情報活用力を駆使する。完成後のさらなる発展について考えをめぐらす。</p> <p>【第3回課題】 第2回、第3回の学習を通して作成した覆面算を解くための補助ツール（Excelファイル）を提出する課題です。独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ね、授業で完成したもの以上の作品を目指すことも良いでしょう。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われます。</p> <p>第4回 セレクトワーズ(1)</p> <p>【第4回学習内容】 表計算ソフトを用いてセレクトワーズを扱う。関数と数式の扱い方に加えて、数理力を用いた問題解決にも挑む。</p> <p>【第4回課題】 第1回～第4回までに学習した関数について、その用途や使い方について確認するための確認テストを出題します。</p>	課題		<p>レポート</p> <p>レポート</p> <p>レポート、ディスカッション</p> <p>確認テスト</p>								

	<p>第 5 回 セレクトワーズ(2)</p> <p>【第 5 回学習内容】 セレクトワーズを解答まで導き、ツールの完結まで至る。情報技術の中の特にネットを活用して言葉の意味の検索を行い、課題解決を行う。</p> <p>【第 5 回課題】 第 3 回課題と同じ形式の課題です。第 4 回、第 5 回の学習を通して作成したセレクトワーズ解答ツール(Excel ファイル)を提出します。可能であれば、独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ねます。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われます。</p> <p>第 6 回 数独(1)</p> <p>【第 6 回学習内容】 世界的に有名となり大流行を起こしたパズル、数独を扱う。数独のルールや特性を把握した上で、解答に向けての処理手続きを表現する。</p> <p>【第 6 回課題】 第 1 回～第 6 回までに学習した関数について、その用途や使い方について確認するための確認テストを出題します。</p> <p>第 7 回 数独(2)</p> <p>【第 7 回学習内容】 論理力を駆使した適切なデータ処理について学習する。セルアドレスの相対参照、複合参照、絶対参照をそれぞれ適切に使い分ける。</p> <p>【第 7 回課題】 第 7 回の学習の中で作成した Excel ファイルを提出します。学習指示通りに適切に数式を記述できていれば課題達成です。(文書作成のレポート課題ではありません)</p> <p>第 8 回 数独のまとめとパズルの情報活用力</p> <p>【第 8 回学習内容】 数独ツールの完成と、その後の発展について議論を通して深めていく。パズル問題を扱いつつ養ってきた情報活用力について振り返る。</p> <p>【第 8 回課題】 第 3 回、第 5 回課題と同じ形式の課題です。第 6 回、第 7 回、第 8 回の学習を通して作成した数独解答ツール(Excel ファイル)を提出します。独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ね、授業で完成したもの以上の作品を目指すことも良いでしょう。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われます。</p>	レポート、ディスカッション
	<p>各回の課題、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A 評価】レポート課題:本授業で学習した以上の成果をもって課題解決のための工夫が数多く施されている。ディスカッション:他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行えている。単位修得試験:課題解決力や自己学習力について触れつつ、情報活用力という能力について自分なりに語ることができており、読み手が十分納得できるようなレポートの仕上がりに到達している。</p> <p>表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に課題の特性を見抜き、論理力、数理力、情報活用力を駆使して総合的な課題解決が可能であり、その解決の方法または方向性を自分の言葉で適切に述べることができること。</p> <p>【B 評価】レポート課題:本授業で学習した内容を適切に用いて的確な課題解決に至っている。ディスカッション:適切な発言や受け答えが行われており、他者に何らかの影響を与えられている。単位修得試験:情報活用力という能力について本授業の教材の中で説明されていたことを踏まえつつ、自分なりに語ることができていること。形式面においては「レポートの書き方」に準じた仕上がりとなっており、適切な形式に仕上がっていること。</p> <p>表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時にいくつかの課題解決のパターンの中からの確な手法を自ら選択して実際に当てはめて解決が able こと。</p> <p>【C 評価】レポート課題:本授業で学習した内容を部分的に用いて課題解決に当たろうとしている。ディスカッション:双方向に何らかの話題が通じ合っている。単位修得試験:情報活用力という能力について本授業の教材や資料を参照したり、他者の意見や手助けを用いたりしながらまとめることができている。</p> <p>表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に解決方法のヒントやアドバイスを他者からもらい、自分の持っている知識や能力を引き出して活用することで課題解決ができるこ。</p> <p>【D 評価】レポート課題:何らかの課題解決を示している。ディスカッション:参加し、自分が発言することと他者の発言に耳を傾けることができている。単位修得試験:情報活用力とは何なのか自分なりに何かを語ることができている。</p> <p>表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に解決手順を他人から示されればそれに沿って自力で解決まで辿り着くことができること。</p>	レポート、ディスカッション
成績評価方法		
教科書	なし	
参考書(任意購入)	なし	
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Excel (バージョンは問わない)	
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>表計算ソフト(Excel)で四則計算(+ - × ÷)ができるこ。</p> <p>表計算ソフト(Excel)で合計を求める関数(SUM 関数)を使うことができること。</p> <p>表計算ソフト(Excel)に関する情報検索ができるこ。(書籍や Web サイトを用いることを想定している)</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>表計算ソフト(Excel)で SUM 関数以外の関数も使ったことがあれば望ましい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>	

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	働くことを考える			担当者	後藤 亮子			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	レポート③を試験とします。レポート③を提出するには、全授業へ出席する必要があります。 参画型授業ですので一部欠席された場合は単位をつけることはできません。			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	キャリア論の概要を理解し、社会を知ること、自分を知ることでキャリアへの肯定的な意図を創ります。さらに社会人基礎力を体感することも加えて、「何のために働くのか」という問の答えを探求していきます。											
学習の進め方	個人演習やグループワークなど参画型で構成されています。											
授業時間外学習	・人生全体や職歴を振り返り、その満足度について、授業で話していただく機会があります。記述用のフォーマットは授業中に配布しますが、お互いが自己開示できることを前提に授業が進みますので、心得て受講してください。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 現代社会とキャリアデザイン 現代社会におけるキャリアデザインの必要性を理解します。											
	第2回 キャリアデザインと人生設計 現代人のライフスタイルと職業について考察します。											
	第3回 キャリアデザインのための自己理解① 第3回、第4回、第6回、第7回では、自己のキャリア意識を明確にするために、自己理解の演習を行います。											
	第4回 キャリアデザインのための自己理解② 自己理解の演習											
	第5回 第1回～第4回の学びの整理 学びの整理として、振り返りを行います。 授業時間内にレポート課題①があります。								レポート①			
	第6回 キャリアデザインのための自己理解③ 自己理解の演習											
	第7回 キャリアデザインのための自己理解④ 自己理解の演習											
	第8回 キャリアデザインと仕事理解① 第8回、第9回では、キャリア形成の外的環境(社会、就労環境)を理解し、多様な働き方を考察します。											
	第9回 キャリアデザインと仕事理解② 働き方の考察											
	第10回 第5回～第10回の学びの整理 学びの整理として振り返りを行います。 授業時間内にレポート課題②があります。								レポート②			
	第11回 キャリア理論の基礎① 第11回～第12回ではキャリア形成に役立つキャリア理論の中から代表的な考え方を学びます。											
	第12回 キャリア理論の基礎② キャリア理論の学習											
	第13回 キャリアデザインと基礎能力～社会人基礎力の養成① 企業が職場で求める能力を「社会人基礎力」と呼びます。 第13回～第14回では、仕事と個人をつなぐ役割をなす社会人基礎力を体感し、働くことを考える材料のひとつに加えます。											
	第14回 キャリアデザインと基礎能力～社会人基礎力の養成② 社会人基礎力を体感する演習											
	第15回 全過程の学びの整理 質疑応答と意見交換を行います。 レポート課題③として当科目を受講した感想と学びを記述していただきます。								レポート③			
成績評価方法	・全授業への出席が必要です。 ・成績評価は、出席点(50%)と平常点(50% レポート①、②、③の提出と受講態度)で行います。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	筆記具をスクーリングに持参すること 受講者上限人数 グループワークを含む講義 40名											

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	犯罪心理学			担当者	枚田 香			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	一			
学習目標	<p>犯罪心理学という学問では基礎心理学をどのように応用して、社会でどのように役立てる学問なのか説明できるようになる。</p> <p>実際に起きている犯罪を例に挙げ、心理学をベースにした理論により考えられる犯罪が発生する要因について説明できるようになる。</p> <p>犯罪者の処遇について説明できるようになる。</p> <p>被害者の心理を理解し、被害者と親しい間柄の立場にいると想定した場合に自分にできる被害者への支援について具体案を述べられるようになる。</p> <p>犯罪を防止する環境整備について説明できるようになる。</p> <p>犯罪心理学が社会にどのように役立てるようになればよいか、自身の考えを述べられるようになる。</p>											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。心理学概論の教科書または心理学の入門書などの書籍で一通りの心理学の基礎知識を確認しておくこと。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。また、各回の内容をしっかり理解できているか自己評価し、自信がない場合は教材を読み直して復習すること。</p>											
授業時間外学習	・本授業に関連したサイトの閲覧や心理学概論に関する書籍購読をしておくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 犯罪心理学とは								レポート			
	学問としての犯罪心理学はどのように研究が行われているのか、また、犯罪心理学の専門家が活躍する現場はどのようなものなのか学ぶ。											
	第2回 犯罪とは								確認テスト			
	人間の行為が犯罪だとみなされ裁かれるまでの現代社会の仕組みを確認し、犯罪の定義と犯罪が起る要因について学ぶ。											
	第3回 さまざまな犯罪								確認テスト			
	暴力犯罪・窃盗・強盗・放火・ホワイトカラー犯罪・サイバー犯罪など、それぞれの犯罪の特徴と現状を学ぶ。											
	第4回 性犯罪と身近な暴力								レポート			
	犯罪として表面化しにくい性犯罪、身近な人が被害を受けている可能性があるストーカー、DV、虐待などの現状を学ぶ。											
	第5回 少年犯罪と非行								レポート			
	少年非行と犯罪、非行少年の心理について学び、社会が少年に与える影響について考える。											
	第6回 犯罪の原因を考える(生物学的アプローチ)								確認テスト			
	遺伝的要因や脳、神経伝達物質、精神疾患などの要因から犯罪の原因を考える生物学的アプローチについて学ぶ。											
	第7回 犯罪の原因を考える(臨床心理学的アプローチ)								確認テスト			
	精神力動および心の発達の理論、パーソナリティ、人間関係などの要因から犯罪の原因を考える臨床心理学的アプローチについて学ぶ。											
	第8回 犯罪の原因を考える(社会学的アプローチ)								確認テスト			
	社会との関係に焦点を当てた研究に関する理論から犯罪や非行の原因を考える社会学的アプローチについて学ぶ。											
	第9回 捜査の心理学								レポート			
	テレビなどの影響で世間一般に知られるようになったプロファイリングやポリグラフ検査をはじめとする犯罪心理学に関連する手法が現実の捜査の現場ではどのように活かされているか学ぶ。											
	第10回 成人犯罪者の処遇と矯正								確認テスト			
	検挙、起訴、裁判、判決までの流れと精神鑑定、裁判員制度について正しい知識を持ち、我が国での矯正(更生)の考え方と刑務所の役割について学ぶ。											
	第11回 非行少年の処遇と矯正								確認テスト			
	成人犯罪者とは異なる処遇の流れと目的を理解し、個々の少年に応じた矯正教育を行うための仕組みについて学ぶ。											
	第12回 犯罪被害者の心理								確認テスト			
	多くの人に正しく理解されていない被害者とその家族の心理について学ぶ。PTSDについての知識を得る。											
	第13回 被害者支援の実態								レポート			
	被害者支援に携わる人の活動内容を知る。事例を通して被害者の話を聞く上で留意すべき点などを学ぶ。											
	第14回 犯罪とメディア								レポート			
	マスメディアによる犯罪報道が過熱している現代社会に生きる人間の心理と、インターネット、ケータイ、ゲームが犯罪に与える影響について考える。											
	第15回 防犯の心理学								確認テスト			
	犯罪を抑止するための環境整備に関する研究と対策について、環境心理学・社会心理学的アプローチについて学ぶ。											

成績評価方法	<p>各回の課題、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A 評価】確認テストのほぼ全てが正解しており、犯罪心理学の体系を充分に理解した上で、様々な事例に対して的確な判断、推察、選択できるようになっている。レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子や、自分自身の考えをしっかりと論じられている様子がうかがえ、犯罪に関する現代社会の諸問題について基礎心理学を基盤とした犯罪心理学の観点からの的確な分析と解決案を論じることができている。各回で定めた学習目標をすべて達成し、レポートにおいては考察としてオリジナリティのある自分自身の考えを述べることできている。</p> <p>【B 評価】確認テストのほとんどが正解しており、犯罪心理学の体系を理解した上で、ある一定水準以上の判断ができるようになっている。レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子や、自分自身の考えをある程度論じられている様子がうかがえ、基礎心理学を基盤とした犯罪心理学の体系を踏まえた妥当な提案や主張が述べられている。</p> <p>各回で定めた学習目標をほとんど達成し、レポートにおいては考察として既存の理論や主張に沿った自分自身の考えを述べることできている。</p> <p>【C 評価】確認テストのほとんどが正解しており、犯罪心理学の体系に沿った最低限の判断ができるようになっている。レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子がうかがえ犯罪心理学の観点を取り入れた主張が含まれている。</p> <p>各回で定めた学習目標をおおむね達成し、レポートにおいては客觀性や妥当性はともかく独自の考察が述べられている。</p> <p>【D 評価】確認テストは正解の方が多く、最低限、犯罪心理学に触れたことがあるといえる判断力が身についている。レポートからオンデマンド教材の内容を最低限理解している様子がうかがえ、少なくとも犯罪心理学の用語は間違えずに用いることができている。</p> <p>各回で定めた学習目標を最低限達成し、レポートにおいては犯罪事例に対して独自の考察を述べことができないが、どの理論が当てはまるのか指し示すことができる。</p>
教科書	なし
参考書(任意購入)	
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修の前提とするもの】 「心理学概論」の内容を修得していること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「臨床心理学」の授業内容と同等の知識があること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の観光開発			担当者	四方 啓暉、田中 義次			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	明治以降の阪神間の開発において私鉄が核となって進められた観光開発の歴史について理解を深め、説明ができるようになる。 代表的な施設である甲子園球場の建設経緯並びに役割について理解し説明ができるようになる。											
学習の進め方	1日目は教室において明治以降の阪神間の開発と観光の歴史および2日目に訪れる甲子園球場について、午前・午後それぞれ講義と質疑応答を行い理解を深め各自ミニレポートにまとめる。 2日目は甲子園球場歴史館前に集合、歴史館を見学し、理解を深める。その後各自昼食をとり、教室にてグループごとにテーマに沿ってディスカッションと発表を行い理解を深め、各自レポートにまとめる。											
授業時間外学習	・関連する参考資料・図書等を機会を見つけて目を通しておくこと。 ・阪神間に古くから住んでおられる方に出来るだけテーマに関する昔話を聞いておくこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	<p>1日目</p> <p>本学さくら夙川キャンパスの教室にて講義とディスカッションを行う。 《講義》 明治以降の阪神間の発展において観光開発の果たした役割について講義。</p> <p>昼 食（各自自由に） 《ディスカッション》 質疑応答 《講義》 甲子園球場の建設経緯・役割・歴史等について講義 《ディスカッション、レポート》 質疑応答とミニレポートの作成 翌日のプログラム説明</p> <p>2日目</p> <p>甲子園球場 球場歴史館を見学したのち、教室での質疑応答・レポートの作成並びに発表を行う。 《見学》 甲子園球場に集合。 球場施設と「歴史館」の見学。 入場料￥600（各自負担）</p> <p>昼食をとり本学夙川キャンパスへ移動 ・昼食は各自球場周辺等で自由にとる。 ・学校への移動は阪神電車を利用 「甲子園～香櫻園」 各駅停車 4駅（乗車料金各自負担） 「香櫻園駅」から夙川キャンパスまで徒歩約10分（経路地図は当日配布します） 《グループディスカッション、プレゼンテーション》 テーマに沿ってグループディスカッションと発表。 レポートの作成と提出。</p>								レポート、ディスカッション			
成績評価方法	ディスカッションでの発言内容、見学への参加意欲、単位修得試験、ミニレポートの内容により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	必要に応じて資料を配布する。											
必須ソフト・ツール	なし											
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習30名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。											

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の文学めぐり			担当者	盛田 帝子			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	本授業や映画『細雪』の鑑賞を通して、『細雪』の内容を把握し、阪神間の文化の魅力をまとめ発表できるようになる。 『細雪』に描かれた阪神文化について、適切な課題を設定し、実地見学を通して見解を深め、論拠を示した上で、レポート用紙1枚に文章化することができる。											
学習の進め方	1日目は、谷崎潤一郎と『細雪』について概説を聴き、谷崎と『細雪』にゆかりのある阪神間の諸地域や文化について理解します。またペア・ワーク、グループ・ワークを通して、阪神文化の魅力についてまとめ発表します。2日目は、倚松庵、谷崎潤一郎記念館などを見学し、後日「『細雪』に描かれた阪神文化について」というテーマでレポート用紙に自分の見解をまとめます。											
授業時間外学習	・設置された課題やレポートについて、授業中にとったノートを見直し、図書館にある参考図書や辞書を活用しながら納得できるまで取り組むこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	<p>1日目</p> <p>本学さくら夙川キャンパスで講義と演習を行う。 《講義: 谷崎潤一郎と『細雪』》 (1) 谷崎潤一郎と谷崎をめぐる人々 (2) 谷崎潤一郎の関西移住と『細雪』の成立 (3) 授業内レポート 1 《講義:『細雪』と阪神文化》 (1)『細雪』のあらすじ (2) 藤岡家四姉妹と描かれた阪神文化 (3) 授業内レポート 2 《講義:「映画鑑賞」市川崑監督作品『細雪』》 ※船場ごとば、着物などの風俗、阪急電車や建物、描かれた阪神間の季節の移ろいや自然に注目して鑑賞。教科書との違いにも着目する。 《まとめ》 (1) 本日の授業のまとめ (2) 阪神文化の魅力について各自がまとめ、発表する。 (ペア・ワーク、グループ・ワーク) (3) 授業内レポート 3 </p>								レポート、プレゼンテーション、ディスカッション			
	<p>2日目</p> <p>夙川周辺で実地見学を行う。 《実地見学》 阪急夙川駅集合→夙川堤→倚松庵(谷崎潤一郎旧家、次女「藤岡幸子」の住んでいた家のモデル)→阪神芦屋駅 (昼食 阪神芦屋駅周辺) 《実地見学》 阪神芦屋駅→谷崎潤一郎記念館(資料・ビデオ・展示などを見学)→業平橋(阪神大水害の場面で描かれる橋)→津知バス停(妙子が本山の洋裁学校に通う時の最寄りのバス停)→重信医院(櫛田医院のモデル。櫛田医院は幸子、三女「雪子」、妙子の掛かり付け医)→「細雪」記念碑→阪急芦屋川駅(幸子の家から一番近い駅、『細雪』にもしばしば登場する)→解散 ※解散時までに授業内レポート 4 を作成し提出する。 授業内レポート4課題:『細雪』に描かれた阪神文化について、適切な課題設定(最終レポートのテーマ) ※後日、「細雪」に描かれた阪神文化について、2日目の最終時限に設定した課題を基にして授業外レポート 5 を作成・提出。 </p>								レポート			
成績評価方法	単位修得試験(最終レポート(授業外レポート 5))・各時限の授業内レポート(1~4)により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『細雪』(新潮文庫)(上、中、下)、谷崎潤一郎、新潮社、1955年、ISBN-10: 4101005125、ISBN-13: 978-4101005126 『細雪』(中公文庫)、谷崎潤一郎、中央公論新社、1983年、ISBN-10: 412200991X ISBN-13: 978-4122009912											
必須ソフト・ツール												
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習 20名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。 なお、状況によりシラバスの一部を変更することがあります。											

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の歴史紀行			担当者	川口 宏海			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(いたみ稻野キャンパス)			
学習目標	地域の歴史を自ら探索し、素晴らしさを体感する能力を身につける。阪神間の歴史の特徴などを学ぶことを通じて、歴史史料や遺跡などの歴史遺産を見出し、歴史史料の読み解き方、地域の歴史を考える力、地域の歴史を活用し役立てる力を身につけ、初步的に活用できるようになる。											
学習の進め方	阪神間の歴史について教室で史料や遺跡の写真などで学び、現地の歴史遺産(遺跡や博物館)を公共交通機関を利用して実地見学し、実物を見るとともに、活用のなされ方などについても学ぶ。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史に関するニュースや図書を読むこと。 ・後日の最終レポート作成では、できる限り自身の地域の歴史を実地確認すること。 											
学習内容	概 要								課 題			
	<p>1日目</p> <p>本学いたみ稻野キャンパスとその周辺地域にて講義と演習を行う。 《講義》 「阪神地域の原始時代と遺跡」旧石器時代から弥生時代までの様相と遺跡について講義します。(小課題) 《講義》 「阪神地域の古代と行基」古墳時代から平安時代までの様相と行基の足跡について講義します。 また、最後に御願塚古墳を見学します。(小課題) 《講義》 「阪神地域の中世・戦国時代と有岡城」鎌倉時代から安土桃山時代までの様相と有岡城について講義します。(小課題) 《講義》 「阪神地域の近世・近代と酒造業」江戸時代から明治時代までの様相と酒造業について講義します。(小課題) 《演習》 「阪神間の歴史遺産調査」講義で学んだ歴史遺産について、図書館などを利用して、自ら調べてレポートにします。</p>								レポート			
	<p>2日目</p> <p>伊丹周辺で実地見学を行う。 《実地見学》(受講者は見学場所で、案内解説をプレゼン) 阪急伊丹駅集合→バス→伊丹廃寺見学→徒歩→伊丹市立博物館見学・学芸員解説→バス→阪急伊丹駅 (昼食 阪急伊丹駅周辺) 《実地見学》(受講者は見学場所で、案内解説をプレゼン) 三軒寺→徒歩→猪名野神社→徒歩→岡田家住宅(酒蔵)→徒歩→柿衛文庫・学芸員解説→有岡城跡→JR 伊丹駅→解散 後日、見学についてのレポート提出</p>								レポート、プレゼンテーション			
成績評価方法	第1日目の小課題5題(25%)、第2日目の現地プレゼンテーション1回(25%)、後日のまとめレポート1回(50%)により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『伊丹市史』全7巻、『尼崎市史』全13巻、『池田市史』全6巻など											
必須ソフト・ツール	デジタルカメラ(必須ではない または、iPhone 代替え可)											
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習25名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。 見学に際しては、歩きやすい服装で授業に参加してください。											

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	ひとと動物の心理学			担当者	中島 由佳			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	ひとと家庭動物との絆を見つめることを通じて、家庭動物との関係における心理を理解し、ひとと動物の関係について深く考える機会を持つことを本授業の目的とする。 ・ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を得ることができる。 ・ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて深く考えることができる。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各週の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次に進みましょう。											
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 参考図書を読むことにより、より詳しい内容を理解する。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1週 ひとはどうして動物と暮らすのか どうして私たちは、家庭動物とともに暮らすのか。ともに暮らすことによって、私たちと動物の関係はどのように変わったのかについて学ぶ。								確認テスト、ディスカッション			
	第2週 動物は「効く」のか 「動物と暮らしていると、心身が健康になりそうだ」、「癒しの力が動物にはある」。そのように感じるひとが多い。動物との暮らしは本当に、ひとの心身の健康に良い影響を与えるのか、もしそうだとしたら、それはいったいなぜなのかについて、学んでいく。								確認テスト、ディスカッション			
	第3週 恩恵の光に対する「影」 動物との愛着の絆は、私たちに様々な恩恵を与える。しかし、光があれば必ず影ができるように、私たちと動物との関係も、良い部分、恩恵だけではない。動物との暮らしで得られる恩恵に対する「影」の部分について学ぶ。								確認テスト、ディスカッション			
	第4週 子どもたちになにを伝えよう? 子どもの心に、動物はどのように映るのだろうか。子どもたちが動物と愛着を築いて幸せに生きていくために、「おとな」は、子どもたちに何を伝えてあげればよいか、学ぶ。								確認テスト、ディスカッション			
成績評価方法	確認テスト、ディスカッション、単位修得試験(レポート) 【A 評価】確認テスト正答率:90%以上。ディスカッション:課題文の問い合わせをよく理解した上で、答えが述べられている。受講内容を理解した上で自分独自の考えが述べられたコメントである。また、複数の受講者を巻き込んで議論を活性化するようなコメントが含まれる。単位修得試験:問い合わせに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上で、授業内容をさらに発展させた自分独自の考えが述べられており、かつ説得性がある内容である。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を十分に修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて深く考えることができている。 【B 評価】確認テスト正答率:90%以上。ディスカッション:課題文の問い合わせに沿った答えが述べられている。受講内容への理解を踏まえてのコメントである。また、他の受講者との議論を活性化するようなコメントが含まれる。単位修得試験:問い合わせの趣旨を理解した上での答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上で、授業内容をさらに発展させた自分独自の考えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を十分に修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている。 【C 評価】確認テスト正答率:80%以上。ディスカッション:課題文の問い合わせに関連する答えが述べられている。受講内容に沿ったコメントである。また、他の受講者の意見に関連したコメントが見られる。単位修得試験:問い合わせに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上での答えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている。 【D 評価】確認テスト正答率:80%以上。ディスカッション:受講内容に関連するコメントである。また、他の受講者の意見に関連したコメントが見られる。単位修得試験:問い合わせに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容に関連した答えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を修得している部分がある。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている面が見受けられる。											
	教科書											
	参考書(任意購入)											
	必須ソフト・ツール											
	備考											

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	ファイナンシャル・プランニング			担当者	伊藤 亮太						
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★								
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—						
学習目標 子育てや介護、自身に起こるかもしれない不慮の出来事を想定し、受講生自身の人生・生活設計の問題点や課題を金銭面から指摘し、改善策を講じることができるようになる。 社会保険と民間保険の適用範囲をそれぞれ説明することができ、適切に保険の選択ができるようになる。 源泉徴収票の各項目の意味と、その社会的な役割を説明できるようになる。 ファイナンシャルプランナーの資格について、学習体系や取得までの流れ、難易度、取得後の活用について、説明できるようになる。															
学習の進め方 本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。															
授業時間外学習 ・受講前には新聞やテレビなどのニュースにおいて、経済動向などを知っておく。また、貯蓄や投資などの本を一冊読んで関心をよせてみましょう。 ・受講後には、実生活において、貯蓄・投資といった側面や贈与・相続などのライフイベントで授業で習ったことがいかせることを望みます。また、FP3級はぜひ受験してください。															
学習内容	概要								課題						
	第1回 ライフプランに関わるお金 生涯にわたるお金との接し方を考える。家計簿等の金銭管理、入出金管理のみならず、保険、税金、運用、年金、相続など、ライフプランには必要不可欠な金銭的側面について、その種類を学ぶ。								確認テスト、ディスカッション						
	第2回 社会保険の仕組み 社会保険(医療保険・介護保険・年金保険・労災保険・雇用保険)の仕組みと改正点を中心に、今後の動向も踏まえた社会保険の全体像を学ぶ。								確認テスト						
	第3回 民間保険の仕組み 民間の保険(生命保険、損害保険、第三分野の保険)の仕組みを学ぶ。 第2回で学習した社会保険でカバーされない範囲を考慮して、どういった場合にどんな保険に加入することが望ましいのか、様々な選択肢についても学ぶ。								確認テスト						
	第4回 保険のプランニング 第2回、第3回での学習内容を、学習者自身の状況に置き換えて、実際の保険のプランニングを行い、具体的な加入プランを導き出す。								確認テスト、ディスカッション						
	第5回 税金の仕組み 我が国の税制の仕組みについて学ぶ。徴収した税の用途や、社会と個への還元について学び、税は取られるものという意識から、納めるものという意識へと変えていく。今後の税制改正についても学ぶ。								確認テスト						
	第6回 源泉徴収と社会保険の仕組み 第2回の社会保険と、第5回の税金の仕組みを統合して、税徴収と社会保険料徴収、そしてそれらの仕組みとサービス全体を学ぶ。								確認テスト						
	第7回 支払(保険料・税)と受給の計算比較 実際の保険や税金の例を用いて、将来、加入者・納税者が受給したり還元されたりする金額を算出し、支払と受給のバランスを比較する。								確認テスト						
	第8回 ライフプランニングとファイナンシャルプランナー ファイナンシャルプランニングには、税と保険のみならず、さらに範囲を広げて資産運用、不動産、相続など、様々な要素を考慮しなければならないことを学ぶ。それらを統合した体系が FP 資格であり、その資格そのものについて学ぶ。								確認テスト						
成績評価方法	確認テスト、ディスカッションの内容(質問やコメント含む)、単位修得試験 【A評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができていること。 単位修得試験では、各内容においてバランスよく(選択式問題 18 問以上)回答ができていること、また論述試験では問題に対して的を射た意見・解決策(何が問題で、複数の解決策からどういった解決策を行うことが最適なのか)が記載されていること。ライフプランから保険、税の仕組みまで幅広く家計問題を解決できるようなアドバイスができる状態となっていること。 【B評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 単位修得試験では、各内容においてほぼ(選択式問題 15 問～17 問)回答ができていること、また論述試験では問題に対する自己の意見・解決策が複数記載されていること。その解決策が実際の状況において適用できること。ライフプランの設計ができるようになっていること。 【C評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。 単位修得試験では、各内容に 7 割程度の(選択式問題 13 問～14 問)回答ができていること。また論述試験においては実際の状況において選択可能な解決策として自己の意見が明確に述べられていること。ライフプランの設計上、問題点に沿った解決策が描けること。 【D評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。 単位修得試験では、各内容において 5 割程度(10 問～12 問程度)回答ができていること。また、論述試験においては自己の意見が明確に述べられていること。ライフプランの設計上、問題点に沿った解決策が描けること。														
	なし														
	『FP 技能士 3 級最速合格ブック('14→'15 年版)』家計の総合相談センター著、成美堂出版、1,512(税込)、2014 年 『FP 技能士 3 級重要過去問スピード攻略('14→'15 年版)』伊藤亮太著、成美堂出版、1,728(税込)、2014 年														

必須ソフト・ツール	授業時に計算を行うこともあるため、電卓を準備すること。
備考	<p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 保険や税金を考慮したプランニングの演習を行うので、契約中の保険の資料、検討中の保険の資料、自身の源泉徴収票などがあれば、具体的に理解を深めることができます。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	福祉住環境論			担当者	藤本 幹也			
レベルナンバー	300	単位	4	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	住宅という器は、人が生活していくためには必要不可欠なものであり、この場所は、安全で、快適であることが必要不可欠である。この授業では、高齢者、障害者の疾患の特徴をよく理解した上で、どのように住まいを改善すれば、本人自身が望む、住環境が提供できるのかを考えていくとともに、そのために建物の基礎的な知識から法律や様々な制度、福祉用具に関する知識を身につけ、建物をより、安全で快適なものに改修していくために必要な知識や、技術を幅広く学んでいくことを目的とする。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として学習を進めます。教科書を参照しながら進めていきますので、教科書を準備してオンデマンド教材を視聴すること。各回の学習の最後に確認テストを実施する。											
授業時間外学習	・参考図書で自己学習することと、ノートを取りながら受講することを推奨。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 高齢者を取り巻く社会状況(1) 世界でも類をみない本格的な高齢社会を日本は迎えている。また、出生率低下による少子化は、ライフスタイルや家族形態など色々な面で影響を及ぼすことが考えられます。ここでは、少子高齢社会において、高齢者人口および世帯構成を把握し、さらに今後の住環境整備の重要性・必要性について説明できるようになることが目標である。								確認テスト			
	第2回 高齢者を取り巻く社会状況(2) ここでは、介護保険制度の概要・基本的なしくみや改正後の内容や、さらには高齢者向けの住宅施策の変遷と概要について理解し、説明できるようになることが目標である。								確認テスト			
	第3回 障害者を取り巻く社会状況と住環境 ここでは、障害者が自立した社会生活を営むうえで、必要な地域支援事業や、これまで我が国が取り組んできた障害者に関連する福祉制度や住環境整備に関する知識を身に着け、さらに高齢者や障害者を支援する福祉住環境コーディネーターの役割とその必要性について説明できるようになることが目標である。								確認テスト			
	第4回 障害のリハビリテーションと自立支援 障害者に関する様々な制度や支援を理解した上で、障害のとらえ方を理解し、障害者の自立支援の手法および、障害者の身体的機能や生活環境に対応したリハビリテーション支援について提案できるようになることが目標である。								確認テスト			
	第5回 心身の特性と在宅介護での自立支援のあり方 高齢者の心身の特性や、かかりやすい疾患及び、障害者の身体的・心理的特性を把握し、それを住環境整備にどのように役立てるか、また、今後の高齢者、障害者の在宅介護において理解すべき視点と住環境整備の重要性について説明できるようになることが目標である。								確認テスト			
	第6回 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備(1) ここでは、高齢者がかかりやすい、脳血管障害・廃用症候群・骨折・認知症をとりあげ、疾患や特徴だけでなく、疾患によってもたらされる日常生活の不自由さについて把握し、具体的な福祉住環境整備の提案ができるようになることが目標である。								確認テスト			
	第7回 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備(2) 高齢者がかかりやすい関節リウマチ・パーキンソン病・糖尿病・心筋梗塞をとりあげ、特徴だけでなく、疾患によってもたらされる日常生活の不自由さについて把握し、具体的な福祉住環境整備の提案ができるようになることが目標である。								確認テスト			
	第8回 障害別に見た福祉住環境整備(1) 肢体不自由者・内部障害者が残存する機能を生かし、自立した日常生活がおくれるように、必要な知識をみにつけ、その特性に応じた福祉住環境整備の提案ができるようになることが目標である。								確認テスト			
	第9回 障害別に見た福祉住環境整備(2) 視覚障害者・聴覚・言語障害者・認知・行動障害者が残存する機能を生かし、自立した日常生活がおくれるように、必要な知識をみにつけ、その特性に応じた福祉住環境整備の提案ができるようになることが目標である。								確認テスト			
	中間テスト 中間テスト								中間テスト			
	第10回 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 ここでは、福祉住環境整備を進めるうえで、対象となる高齢者、障害者との接し方が非常に重要であることを理解し、相談援助において必要となる姿勢や配慮しなければならない項目、ケアマネジメントの観点について学び、実践に役立てることができるようになることが目標である。								確認テスト			
	第11回 福祉住環境整備の共通基本技術 建物の構造や、介助スペースの確保といった住環境整備に必要な基本技術は非常に重要である。ここでは、段差の解消・建具・照明・非常時の対応等の基本的な考え方と具体的な対応方法が提案できるようになることが目標である。								確認テスト			
	第12回 生活行為別福祉住環境整備の手法(1) 建物の構造や、介助スペースの確保といった住環境整備に必要な基本技術は非常に重要である。ここでは、外出・屋内移動・排泄における住環境整備の対応等の基本的な考え方と具体的な対応方法が提案できるようになることが目標である。								確認テスト			
	第13回 生活行為別福祉住環境整備の手法(2)								確認テスト			

	建物の構造や、介助スペースの確保といった住環境整備に必要な基本技術は非常に重要である。ここでは、入浴・更衣・洗面・整容・調理・就寝等における住環境整備の対応等の基本的な考え方と具体的な対応方法が提案できるようになることが目標である。	
	第14回 バリアフリーとユニバーサルデザイン バリアフリーおよびユニバーサルデザインについて、その誕生の背景と、法的な内容を理解し、さらに法的な内容を理解した上で、高齢者、障害者の住環境整備にどのように役立てることができるのか説明できるようになることが目標である。	確認テスト
	第15回 福祉用具の意味と適用および、生活行為別にみた福祉用具の活用 福祉用具の定義を理解し、その活用にあたり、使用者の身体状況や住環境を考慮した上で、適切な福祉用具を提案できるようになることが目標である。	確認テスト
成績評価方法	評価の割合は、毎回実施する確認テスト(10%)、中間テスト(30%)、単位修得試験(60%)で行う。	
教科書	著書 『福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト』 著者 東京商工会議所 出版社 東京商工会議所編 出版年度 2016年1月 改訂4版	
参考書(任意購入)	『福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト』、東京商工会議所、2014年	
必須ソフト・ツール		
備考		

メジャー(専修)名				授業科目名	物理学概論			担当者	庭瀬 敬右			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	物理学は物に関する考え方を教えてくれる学問です。飛行機や携帯電話などの人が創り出したものは、物理学の発展に依るところが大きいものです。現代社会は物理を基礎とした科学技術の上に成り立っていますが、多くの人は物理の学習を無味乾燥に感じてしまうようです。これは、物理現象に対してのイメージを持てずに学習を行っているところに原因があるようです。この授業では、図解を特徴とした教科書を用いて、物理学の発展の歴史から、ニュートン力学や熱力学、波動、電磁気学、そして相対性理論に関しての教養レベルでの基礎知識を獲得することを目標としています。											
学習の進め方	本授業は、教科書を主に活用して学習を進めます。学習を進めるうえで重要なポイントは小テストを行うことによって確認できるようになっています。また、補足説明をデジタル教材に掲載しますので活用してください。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書やビデオ教材で、専門的な用語および内容の理解に努めること。 ・確認テストで、理解度をチェックし、より深い内容理解に努めること。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1章 物理学のはじまり 物理学は、様々な星の動きを解明することで発展しました。古代ギリシャで地球を中心に天体が動くと考えた天動説は、以後千数百年にわたり信じられました。中世に太陽のまわりを地球が運動するという地動説に大転換しました。精密な天体観測の解析結果をもとに、ニュートンは万有引力の法則を見いだしました。ここでは、物理学誕生の歴史とその探求の過程について学習します。								確認テスト			
	第2章 ニュートン力学 物体の運動に関しての基本的な法則であるニュートン力学を学習します。ニュートン力学の確立によって、人類は月に行って、帰ってくるまでになりました。物体を動かす力に関する考察やガリレオの自由落下の考察、そして物体の運動の基本法則である、ニュートンの運動の3法則を学習します。また、衝突現象に関係する運動量保存則やエネルギー保存則を学習します。								確認テスト			
	第3章 熱力学 水が凍つたり、沸騰したり、冷房や暖房など、身のまわりには熱的現象がたくさんあります。熱力学は、熱と温度の違いを理解することで発展してきました。物質への熱の流入によって、物質は、固体、液体、気体の状態へと変化します。熱の伝わり方も物質によって違います。気体は温度や圧力の変化に対して大きな変化が現れます。ここでは、熱力学の基本法則から熱エネルギーの利用までを学習します。								確認テスト			
	第4章 波動 海辺の波と同様に音や光も波の性質をもっています。波は、重なり合って強めあったり弱めあったりする独特の性質があります。救急車が近づくときと遠ざかるときで音の高さが変化することも波の性質に起因しています。空の青さや虹の七色も波の性質です。地震も波として地中を伝わります。ここでは、これらの現象を記述する波の基本法則について学習します。								確認テスト			
	第5章 電磁気学 私たちの身のまわりには、電気製品や通信機器など電気や磁気に関係したもので溢れています。モーターや発電機は、電気や磁気の性質を明らかにすることによって作られました。電気や磁気では空間を通して力が伝わり、その連携によって電磁波として伝わります。電磁波は、テレビやラジオの電波として使われています。このような電磁気学の基本法則を学習します。								確認テスト			
	第6章 相対性理論 時間は過去から未来に誰にも等しく進んでいくような絶対的空間が存在していると私たちは考えがちです。しかしながら、マイケルソンとモーリーの実験によって絶対空間は確認できませんでした。アインシュタインは、この実験事実を説明するために相対性理論を構築しました。この理論では、物体の動きが光の速度に近づくと時間と空間が結び付いた時空での考えが必要となることが示されました。ここでは、相対性理論の基礎的な内容を学習します。								確認テスト			
成績評価方法	確認テスト(40%)、単位修得試験(60%)											
教科書	著書『図解雑学 物理のしくみ』 著者 井田屋文夫 出版社 ナツメ社 出版年 2005年8月 ISBN 9784816339776											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	プレゼンテーション演習 I (基礎)			担当者	福井 愛美			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	1. プrezentationとは何か、効果的なプレゼンテーションの基礎知識と技術を習得すること。 2. ノン・バーバルコミュニケーション技法を活用しながら、共感を得るような話し方ができること。 3. 身近なテーマでプレゼンテーションができること。											
学習の進め方	<p>本授業では、デジタル教材を活用して学習を進めます。学習を始める前にオリエンテーションをご覧下さい。またその回の講義のポイントを閲覧してから学習を始めてください。</p> <p>国内外のニュース番組やテレビの報道番組などを見て、キャスターがどのように話しているか、またどのようなツールを使って表現しているか研究してください。</p> <p>また、新聞記事等は音読をして滑舌の練習をしてください。各回の終わりには確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。プレゼンテーションは実施が伴って上達します。さまざまな場面で、発表の機会があれば、学んだ事を生かして積極的にプレゼンテーションしてください。また、授業内での演習問題は納得できるまで取り組んでください。</p> <p>教科書はデジタル教材で扱わない個所もありますがぜひ参考になさってください。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を事前に読んで自己学習することと、ノートをとりながら受講することを推奨します。 受講は、各自で規則的に学習するスタイルを身につけてください。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 プrezentationとは								自己紹介 確認テスト			
	プレゼンテーションの基本と定義を学び、コミュニケーションとの違いを理解する。											
	第2回 プrezentationを行うために								確認テスト			
	プレゼンテーションへの準備。全体の流れを理解し、構成の重要性を学ぶ。											
	第3回 プrezentationのツール								レポート 確認テスト			
	ツールの種類と特徴、活用上の注意点などを学ぶ。											
	第4回 話し方の基本								確認テスト			
	魅力的に話すための技術を学び、呼吸法や発声・発音などの練習をする。											
	第5回 バーバル・ノンバーバルコミュニケーション								確認テスト			
	言い回しのテクニックとボディーランゲージ・表情・態度・服装など第一印象の重要性について学ぶ。											
	第6回 聴衆に好感を持たれる話し方								確認テスト			
	話し方の具体例として実際に行われたスピーチを見ながら検証する。											
	第7回 ホームルーム(ディスカッションをしよう)								ディスカッション			
	これまでのふりかえりと、今後の目標など“el-Campus 上で”の自由な意見交換を行う。											
	第8回 身近なプレゼンテーション								確認テスト			
	地図による道案内や自己紹介など、日常のプレゼンテーションから、人にものを伝える際の伝え方のポイントを学ぶ。											
	第9回 紹介をしてみよう								確認テスト			
	自己分析をして構成を考え、より印象付ける自己紹介をしてみる。											
	第10回 インタビューをしてみよう								確認テスト			
	相手の立場を考え人間性を尊重して、その人の魅力を引き出す手法を学ぶ。											
	第11回 スピーチをしてみよう								確認テスト			
	テーブルスピーチを例にスピーチの準備や注意点について学ぶ。また司会とその進行を考える。											
	第12回 学校生活について話してみよう								確認テスト			
	自分の学校を紹介するという観点から、情報収集、原稿作成、リハーサルなど準備全般から、視覚資料としてのポスター制作までを行う。											
	第13回 テーマに合わせたさまざまな手法								確認テスト			
	新入生へのクラブ紹介を題材に、手法が異なればプレゼンテーションも異なる事を学ぶ。											
	第14回 プrezentationの実際 I								確認テスト			
	ビジネスの失敗談からのケーススタディー、業務処理の仕方を学ぶ。											
	第15回 プrezentationの実際 II								ディスカッション			
	受講生3名によるプレゼンテーションと、学習の成果を自由に話し合う。											
成績評価方法	各回の課題(確認テストとレポート)40%、単位修得試験 60%により評価します。											
教科書	著書『プレゼンテーション演習』 著者 伊藤 宏 福井愛美他 出版社 樹村房 出版年度 2016年4月1日 第4刷 ISBN 9784883672134											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	プレゼンテーション演習Ⅱ(応用)			担当者	福井 愛美			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	1. さまざまな場面で効果的な自己表現ができ、説得力を持って自分の考えを話せること。 2. 論理的に物事を考え、新たな内容を作り出すことができる。 3. 学んだ事を実社会で活用できること。 4. テーマを設定してプレゼンテーションがされること。											
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を活用して学習を進めます。学習を始める前にオリエンテーションをご覧下さい。またその回の講義のポイントを閲覧してから学習を始めてください。テレビのニュースや新聞に目を通し、身近な話題から話すテーマを見つけておくとよいでしょう。また、新聞記事等は音読をして滑舌の練習をしてください。各回の終わりには確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。プレゼンテーションは実施が伴って上達します。さまざまな場面で、発表の機会があれば、学んだ事を生かして積極的にプレゼンテ											
授業時間外学習	・教科書を事前に読んで自己学習することと、ノートをとりながら受講することを推奨します。 ・受講は、各自で規則的に学習するスタイルを身につけてください。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 プrezentation基礎知識								確認テスト			
	プレゼンテーション演習Ⅰの復習とプレゼンテーションの評価方法について学ぶ。											
	第2回 就職試験に向けてのプレゼンテーション								確認テスト			
	面接試験の挑み方や企業訪問のマナーについて再確認をする。											
	第3回 就職試験と自己PR								確認テスト			
	自己PRと志望動機の考え方を手順を追って学ぶ。											
	第4回 社会人としての話し方(企業内のプレゼンテーション)								確認テスト			
	社会人としての敬語の使い方をはじめ企業内スピーチなど基本的な話し方を身につける。											
	第5回 プrezentation・ブレイクタイム(掲示板の活用)								掲示板への参加			
	el-Campus上で他人の意見を聞いて自分の考え方との違いを実感する。											
	第6回 企業内でのミーティングと会議								確認テスト			
	ディベート・ディスカッション・ミーティングとプレゼンテーションとの関係を学ぶ。											
	第7回 ホームルーム(ディスカッションをしよう)								ディスカッション			
	自分の感想や目標など自由に意見交換をする。											
	第8回 業務としての会議(QCサークル活動)								確認テスト			
	QCサークルの概要、進め方、データの分析手法について学ぶ。											
	第9回 セールストーク①								確認テスト			
	成功するためのセールストークとはどのようなものかを実感する。											
	第10回 セールストーク②								確認テスト			
	顧客の購買心理を知り、セールストークの話法を実例から学ぶ。											
	第11回 ポスターセッションとクレームへの対応								キヤッヂコピー作成 確認テスト			
	パワーポイントを使ったポスター作りや、クレーム対応について学ぶ。											
	第12回 企画立案をしてみよう								確認テスト			
	企画立案から企画書作成までの一連の手順について学ぶ。											
	第13回 企画書を書いてみよう								確認テスト			
	本格的な企画書つくりを進める。また実際のビジネスの現場で使われた企画書を紹介、そのリアル感を体験する。											
	第14回 事例研究								まとめレポート 確認 テスト			
成績評価方法	各回の課題(確認テストとレポート)40%、単位修得試験 60%により評価します。											
教科書	著書『プレゼンテーション演習』 著者 伊藤 宏 福井愛美他 出版社 樹村房 出版年度 2016年4月1日 第4刷 ISBN 9784883672134											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考	プレゼンテーション演習Ⅰ(基礎)を先に受講していることが望ましい											

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	プレゼンテーション概論			担当者	水原 道子			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	自分の考え方や情報を、他の人に伝え、理解し、好意的に行動していただけるように、限られた時間や条件の中で最適の手法と技能を用いてプレゼンテーションできるようになりますことを目指す。											
学習の進め方	本授業では、オンライン教材を主教材に、教科書を副教材として学習を進める。各章には確認テストがある。この確認テストを完了し、次の回へと進む。第7回の中間テストは、繰り返し行うことで、しっかりと復習できる。最終の修得試験では、教科書とともに学びの集大成としてじっくりと取り組むこと。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習として、教科書を熟読し、各章のポイントと疑問点を書き出したうえで、メディア画面の学習に入ること。 事後学習として、印象に残った言葉や説明を書き出し、自分用のガイドラインノートを作成する。また、積極的に講演会や説明会などに参加し、プレゼンテーションの聴衆体験を積み重ねること。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 プrezentationとは何か プレゼンテーションが、社会における活動の効果をあげるために有利なノウハウであることを学ぶ								確認テスト			
	第2回 話す目的を考える 相手にどのような行動を求めるのかによって伝え方が異なることを、具体例を入れて学ぶ								確認テスト			
	第3回 聞き手分析が成功のカギ 相手の情報を、どのようにして収集するべきかを学ぶ								ディスカッション、確認テスト			
	第4回 組み立ては三段構成で プレゼンテーションの一つの要素である、原稿作りの基本を学ぶ								確認テスト			
	第5回 会場設定とレイアウト 会場や環境などの物理的なものが、プレゼンテーションに与える影響を学ぶ								確認テスト			
	第6回 表現技術を工夫しよう どのように表現すると、プレゼンテーションの効果があがるのかを、さまざまな手法を取り入れて学ぶ								確認テスト			
	第7回 中間まとめ 1回～6回までのポイントを確認する								中間まとめ、ディスカッション			
	第8回 話し方のテクニック 聞き手から好意を持ってもらえる話し方を学ぶ								確認テスト			
	第9回 非言語表現の力 視覚に訴える方法と内容を学ぶ								確認テスト			
	第10回 ビジュアル資料の種類と機能 ビジュアルツールの種類と特性を知り、目的や場面による使い分けを学ぶ								確認テスト			
	第11回 提示資料はインパクトが大切 効果的な資料の作成方法を学ぶ								確認テスト			
	第12回 レジュメの良さで差をつける 配布資料としてのレジュメ作成のポイントを学び、代表的なレジュメ事例を研究する								確認テスト			
	第13回 質疑応答を成功させるには 質疑応答が意見交換の場として重要であり、いかに活用するべきかを学ぶ								確認テスト			
	第14回 自分自身をプレゼンテーションする これまでに学んだ基本知識と手法を元に、身近な題材でプレゼンテーションを実習する								確認テスト			
	第15回 コミュニケーションについて考えてみよう プレゼンテーションがコミュニケーションの一つの形であり、一方向性の強い話し方であることを、事例を交えて学ぶ								ディスカッション、確認テスト			
成績評価方法	平常点として期間内の学習完了とディスカッションでの積極的な発言を高く評価し、20%とする。その他、各回確認テスト(20%)、中間まとめ(20%)、単位修得試験(40%)の総合評価とする。											
教科書	著書『新訂版 プrezentation概論』 著者 大島 武(編) 出版社 樹村房 出版年度 2014年 ISBN 9784883672349											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	文化心理学			担当者	亀井 美弥子			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	文化的存在である人間にとって、その心理的側面が文化と切り離せないものであることはいうまでもない。本授業では文化と人間の行為、活動、発達との関係についていくつかの理論的立場とその関連領域について理解を深めることをめざす。各章の論説の背後に共通した文化心理学的観点があることに気づいてほしい。具体的な学習目標としては重要なキーワードを適切な文脈において使用できることとする。											
学習の進め方	教科書を利用しての学習とするが、学習の順序が教科書の章立てと異なるので注意すること。適宜、補足説明や資料を提示する。学習者は基本的な心理学の知識を持っていることが望ましい。学習テーマの区切りには小テストを実施する。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からメディアなどから得られる文化に関連する情報を集めておくこと。 ・自分の関心のある文化的問題が文化心理学の理論によってどのように説明できるかまとめておくこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 文化心理学の起源と源流(教科書0章)								確認テスト			
	文化心理学の起源と源流について理解する。											
	第2回 社会心理学アプローチ(教科書8章)								確認テスト			
	文化心理学と比較心理学のアプローチの違い、集団主義-個人主義の問題について理解を深める。											
	第3回 文化認知論(教科書6章)								確認テスト			
	主にブルナーの理論から認知発達の文化的問題を理解する。											
	第4回 生物学的側面と文化的側面の統合(教科書7章)								確認テスト			
	主にトマセロの理論からヒトの生物学的側面と文化との関連について理解する。											
	第5回 ヴィゴツキー理論(教科書1章)								確認テスト			
	ヴィゴツキーの理論について理解する。											
	第6回 社会文化的アプローチ(教科書2章)								確認テスト			
	ワーチの理論の概要を理解する。											
	第7回 社会歴史的発達論(教科書3章)								確認テスト			
	社会的実践のなかでの発達について理解する。											
	第8回 活動理論(教科書4章)								確認テスト			
	活動理論と呼ばれる理論的立場について理解する。											
	第9回 状況論(教科書5章)								確認テスト			
	状況論と呼ばれる理論的立場について理解する。											
	第10回 認知科学と文化心理学(教科書9章)								確認テスト			
	文化心理学と共通する認知科学的視点について理解する。											
	第11回 心の社会理論(教科書10章)								確認テスト			
	相互行為分析について理解する。											
	第12回 日本語教育における「文化」解釈(教科書11章)								確認テスト			
	日本語教育における「文化」という問題について考える。											
成績評価方法	確認テスト(10%)、単位修得試験(90%)											
教科書	著書『朝倉心理学講座11「文化心理学』』 著者 田島信元(編) 出版社 朝倉書店 出版年度 2010年9月10日 ISBN 9784254526714											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	法学基礎			担当者	福田 高之			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	法律を学び始めた者にとって必要な、最も基本的な知識と、法律的なモノの「見方」「考え方」を学ぶ。その上で、今後さらに専門的に法律を学ぶにあたっての足元固めをする。さらに、公務員試験で出題された問題等を素材として、主に「憲法」「民法」「行政法」の基本的な分野について扱う。 知識習得の具体的な到達点としては、資料等を参照すれば標準的な公務員試験の問題が解けるようになることとする。											
学習の進め方	この授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 前回までの講義で扱ったことを見直した上で講義を聞くことが望ましい。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 講義で扱ったことを繰り返し見返す。 新聞やテレビのニュースに触れ、講義内容と関連する出来事があればノートなどにまとめておくことを勧める。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 法学基礎総論								確認テスト			
	初めて法律を学習することを想定して、「法」とは何かを知る。 また、「法」にはどのようなものがありどのような場面で使うのかを理解する。								確認テスト			
	第2回 法律学習における暗黙のルール								確認テスト			
	・法の解釈とは何かについて説明する。 ・法解釈の手法について説明する。 ・法を学ぶにあたっての重要語句について説明する。								確認テスト			
	第3回 憲法(1)憲法とは何か								確認テスト			
	・憲法とは何かについて説明する。 ・憲法のしくみについて説明する。 ・日本国憲法前文について説明する。								確認テスト			
	第4回 人権とは何か								確認テスト			
	・人権の意義について説明する。 ・人権享有主体性について説明する。 ・関連判例について解説する。								確認テスト			
	第5回 人権の類型								確認テスト			
	・自由権について説明する。 ・社会権について説明する。 ・参政権について説明する。 ・國務請求権(受益権)について説明する。								確認テスト			
	第6回 統治概略								確認テスト			
	・三権分立について説明する。 ・国会について説明する。 ・内閣について説明する。 ・裁判所について説明する。								確認テスト			
	第7回 民法の基礎①								確認テスト			
	・民法の役割について説明する。 ・民法の構成について説明する。 ・「総則」「物権」「債権」「親族」「相続」それぞれの意味について説明する。 ・民法学習の留意点について説明する。								確認テスト			
	第8回 民法の基礎②								確認テスト			
	・「権利・義務」について説明する。 ・「要件・効果」について説明する。 ・「物権・債権」について説明する。								確認テスト			
	第9回 民法の基礎③								確認テスト			
	私的自治の原則について、身近な事例である「契約」「不法行為」をとりあげて解説する。								確認テスト			
	第10回 民法の基礎④								確認テスト			
	家族法分野(親族・相続)の基本的な事項について解説する。								確認テスト			
	第11回 行政法の基礎①								確認テスト			
	「行政法」という名の統一法典がないことを説明した上で、行政法の分野について解説する。								確認テスト			
	第12回 行政法の基礎②								確認テスト			
	行政作用法分野について説明する。								確認テスト			
	第13回 行政法の基礎③								確認テスト			
	行政救済法分野について説明する。								確認テスト			
	第14回 行政法の基礎④								確認テスト			

	<ul style="list-style-type: none"> ・行政手続法について説明する。 ・地方自治法について説明する。 <p>第 15 回 憲法・民法・行政法の基本事項の確認</p> <p>公務員試験に出題された法律科目の問題のうち、比較的基本的なものを素材として法律の基本的事項についての定着を図る。</p>	
成績評価方法	<p>評価材料: 単位修得試験</p> <p>【A 評価】</p> <p>単位修得試験において 80 点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について十分な理解をしていると認められるレベルであり、今後専門的な学習に進むにあたっても問題ないといえる。</p> <p>■ 学習目標と照らし合わせた能力の状態 ■</p> <p>条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点を十分に超えているといえる。今後、専門的な分野に進んだ際にも問題なく入っていくことができる状態である。</p> <p>【B 評価】</p> <p>単位修得試験において 75 点以上 80 点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について十分な理解をしていると認められるレベルであるが、今後専門的な学習に進むにあたってはいま一度正確な知識の修得を要すると思われる。</p> <p>■ 学習目標と照らし合わせた能力の状態 ■</p> <p>条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点を超えていといえる。今後、専門的な分野に進んだ際、今後の学習次第で問題なく入っていくことができると思われる状態である。</p> <p>【C 評価】</p> <p>単位修得試験において 70 点以上 75 点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について一定程度の理解をしていると認められるレベルである。</p> <p>■ 学習目標と照らし合わせた能力の状態 ■</p> <p>条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点に達しているとは言えないながらも一定程度の成果は見られる状態である。</p> <p>【D 評価】</p> <p>単位修得試験を受験し、60 点以上 70 点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について最低限抑えてもらいたい水準には達していると思われるレベルであり、不十分ながらも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。</p> <p>■ 学習目標と照らし合わせた能力の状態 ■</p> <p>条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点に達しているとは言えず、今後、専門的な分野に進んだ際に折りにふれて復習することを推奨するレベルである。</p>	確認テスト
教科書	なし	
参考書(任意購入)		
必須ソフト・ツール		
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>	

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	簿記論・財務会計			担当者	小野 慎一郎			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	会計の基本的な用語や考え方を理解し、その内容について説明できるようになる。 会計数字の意味する内容を理解し、会計数字から企業活動を読み取ることができるようになる。											
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各章の学習の最後には、課題を設置しています。課題を終わらせたうえで、次の章に進みましょう。											
授業時間外学習	・事前に、日本商工会議所による簿記検定試験のサイト(https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping)を閲覧しておくことを推奨。 ・設置された課題を納得できるまで取り組むこと。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1章 会計情報の役割 経済社会における会計、企業活動と会計情報、会計の機能								確認テスト			
	第2章 会計制度と社会 株式会社の利害関係者、会社法の会計、金融商品取引法の会計、法人税法の会計								確認テスト			
	第3章 会計の仕組み 貸借対照表、当期純利益、損益計算書								確認テスト			
	第4章 貸借対照表 貸借対照表の役割、流動・固定分類、資産、負債、純資産								確認テスト			
	第5章 在庫の会計 商品の仕入と製品の生産、売上原価の計算、棚卸資産の期末評価、棚卸資産回転期間								確認テスト			
	第6章 生産設備の会計 固定資産の範囲と区分、有形固定資産の取得、減価償却、減損処理								確認テスト			
	第7章 金融資産の会計 金融資産の種類と目的、現金及び預金、有価証券、時価評価								確認テスト			
	第8章 負債と資本の会計 自己資本と他人資本による資金調達、営業負債と有利子負債、純資産の内訳と配当								確認テスト			
	第9章 損益計算書 損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、損益計算書にみる企業の経営形態								確認テスト			
	第10章 営業活動の会計 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性								確認テスト			
	第11章 儲かる仕組みの分析 収益性の分析、ROE の 3 分解、安全性の分析								確認テスト			
	第12章 利益構造の分析 損益分岐点、損益分岐分析にみる利益構造、内部経営分析としての CVP 分析								確認テスト			
	第13章 経営管理と会計 PDCA サイクル、原価管理								確認テスト			
	第14章 会計を活用する仕事 経理担当者、財務諸表の分析者、公認会計士、税理士、企業経営者								確認テスト			
成績評価方法	各回の確認テスト(50%)、単位修得試験(50%)											
教科書	著書『1からの会計』 著者 谷武幸・桜井久勝 出版社 碩学舎 出版年度 2011年6月10日 1版 ISBN 9784502299803											
参考書(任意購入)	『カラー版 会計のことが面白いほどわかる本(会計の基本の基本編)』、天野敦之、中経出版、1,728円(税込)、2012年 『財務会計・入門[第10版補訂]』、桜井久勝・須田一幸・有斐閣、1,944円(税込)、2016年											
必須ソフト・ツール	計算機											
備考	本授業は、本学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。											

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	マーケティングリサーチ入門			担当者	杉林 弘仁			
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングリサーチの基礎的な手法を理解し、マーケティングリサーチの事例について、習得したリサーチのフレームに照らして解説することができるようになる。 ・マーケティングにおいて直面しそうな架空の具体的な事例に対して、適切なマーケティングリサーチの手法を選択し、その狙いを説明できるようになる。 ・マーケティングリサーチによって得られた結果を、説得力を持って示すことができるようになる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p>											
授業時間外学習	<p>普段から「市場を見る」「消費者行動を捉える」ようにしてみましょう。複雑怪奇な消費者行動を捉るために、企業はさまざまにリサーチをおこなっています。どのように情報を集めようとしているのか、店頭にあるアンケートや送られてくるアンケートをチェックしてみて、何を目的としたものか、リサーチの意図や背景、アンケートの答えやすさや矛盾点を探ってみるようにしてください。アンケートだけではありません。街頭で行われているプロモーション、店舗のレイアウト、消費者行動を探る視点で日常を観察するようにしてみてください。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 リサーチとマーケティング								確認テスト			
	リサーチのフレームから、企業を主体として行われるマーケティングとマーケティングリサーチについて学習する。											
	第2回 マーケティングリサーチのデザイン								確認テスト			
	マーケティングリサーチをデザインするためのリサーチの分類と設計のためのプロセスについて学習する。											
	第3回 マーケティングリサーチのアプローチ								確認テスト			
	アプローチ別に代表的なマーケティングリサーチの種類とその内容について学習する。											
	第4回 マーケティングリサーチのアプローチとケース								確認テスト、ディスカッション			
	観察法、実験法の具体的な手法と、総合したマーケティングリサーチのケースについて学習する。											
成績評価方法	第5回 質問票によるデータ収集								確認テスト			
	代表的なデータ収集方法である質問票を作成するためのプロセスと尺度について学習する。											
	第6回 データの収集・集計と仮説検定								確認テスト			
	基本統計量とサンプリングのプロセス、データ集計への留意点、仮説検定の考え方について学習する。											
	第7回 データ分析と解釈								確認テスト			
	定量データの統計的分析手法とその種類、分析結果の解釈について学習する。											
	第8回 報告書とプレゼンテーション								確認テスト、ディスカッション			
	マーケティングリサーチの最終ステップである報告書の作成とプレゼンテーションの方法について学習する。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	『調査・リサーチ活動の進め方（日経文庫）』酒井 隆著、日本経済新聞社、2002年 『実践 アンケート調査入門』内田 治、醍醐 朝美著、日本経済新聞社、2001年											
必須ソフト・ツール												
備考	<p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>マーケティングの基礎的な知識、経営基礎科目、統計の基礎知識があれば望ましい。</p> <p>オンライン教材がモバイル端末で視聴できます。</p>											

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	マーケティング論			担当者	杉林 弘仁			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	2/3 以上の出席 レポート評価とディスカッションへの寄与度で評価します。			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)			
学習目標	マーケティングは企業活動のなかでどういう役割を果たしているのか、マーケティングとは何か、マーケティングの基本概念を体系的に学びます。しかし、マーケティングは企業活動だけのものではなく、日常の生活や仕事のなかに、問題解決の思考や、価値観や生き方を考えるヒントを取り入れることもあります。 本授業でのディスカッションを通じて、皆さんとともに市場を見る目、マーケティングセンスを磨いていく。											
学習の進め方	主にパワーポイントを使って、基礎的な知識・理論について説明しますが、時折、発言を求め、双方コミュニケーションを図ります。スクーリングの後半に、各自、業界・企業・商品について事例報告、または、消費者ニーズの探求についてレポートしていただき、それをもとにディスカッションします。											
授業時間外学習	1週間で、市場を読むマーケティングの基礎的なフレームワークを学びます。学んだフレームを使って、ショッピングセンターのような商業集積、個々の店舗、ネットやテレビのCMを見てみましょう。普段の何気なく見過ごしてきた企業行動がどのように見えるかを試してみてください。学習したフレームでは合わないところや説明できないところも考えるようにしてください。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 マーケティング概要(はじめに) まず、最初にマーケティングの全体像がわかるように企業をとりまく環境とマーケティングの関わりについて概要を理解します。											
	第2回 顧客満足と顧客創造 消費者のニーズとウォンツ、製品の性能でなく価値で考える「マーケティング発想」について学習します。											
	第3回 マーケティング・ミックスによる顧客創造 製品(product)、価格(price)、流通(place)、プロモーション(promotion)をどうデザインするか、マーケティング・ミックス・デザインによる顧客創造について考えます。											
	第4回 製品による顧客創造 ここからは、4Pの個別の内容に入っていきます。マーケティングの中心課題である製品、製品の分類商品、製品開発過程、製品ライフサイクルについて学習します。											
	第5回 価格による顧客創造 価格のもつ特性・消費者への効果について、価格のもつ意味、価格戦略について学習します。											
	第6回 チャネルによる顧客創造 チャネルとは何か、流通チャネルの構造、顧客の問題解決していくチャネル構築と管理について、顧客創造と市場展開の仕組みづくりについて考えます。											
	第7回 コミュニケーションにおける顧客創造 製品をいかに認知し、理解してもらうか、広告・プロモーション、人的販売、その他プロモーションの種類とその役割について学習します。											
	第8回 ブランドの構築・維持・強化 ブランドとは何か、目に見えない資産としてのブランド、ブランドを活性化させるための戦略について考えます。											
	第9回 プレゼンテーション 効果的に人々を説得するには、どのようにすればいいのか、マーケティングの視点からレポート課題とあわせて、アイデアを伝えることを考えてみます。											
	第10回 営業活動をデザインする 営業と販売の視点から、営業と「つなぐ力」、そして、マーケティングとの関係について考えます。								講義の内容を参考に「マーケティングの実践として消費者ニーズに探求」のレポートを作成			
	第11回 戦略とは 目標設定、自社資源の活用、環境分析、計画策定 戰略立案における2つの側面とマーケティングにおける戦略の進化について学習します。											
	第12回 消費者ニーズの探求・マーケティング・アイ(1) 各自のレポート発表に基づき、マーケティングセンスを高めるディスカッションを行います。											
	第13回 消費者ニーズの探求・マーケティング・アイ(2) 各自のレポート発表に基づき、マーケティングセンスを高めるディスカッションを行います。											
	第14回 消費者ニーズの探求・マーケティング・アイ(3) 各自のレポート発表に基づき、マーケティングセンスを高めるディスカッションを行います。											
	第15回 マーケティング論(おわりに) マーケティングとは何だったか、このスクーリングで得た知見をディスカッションしながら整理し、総括します。											
成績評価方法	課題レポート(70%)、ディスカッション寄与度(30%)											
教科書	なし											

参考書(任意購入)	著者 『マークティングを学ぶ』 著者 石井淳蔵 出版社 ちくま新書 出版年度 2010 年 ISBN 978-4-480-06530-8
必須ソフト・ツール	
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義 40 名

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	マネジメントとリーダーシップ			担当者	山縣 康浩			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	「自分が動く」ことで「人を動かす」ということについてマイケースを通じて実践に生かすことができる。											
学習の進め方	本授業では、みなさんが実際に経験したことを、「マイケース」として作成し、その内容の課題解決を中心に、オンデマンド教材と教科書を使って学習を進めていきます。まず、しっかりとマイケースを作成してみて下さい。各回の学習の最後には、課題のレポートがありますので、自分なりの理解をさらに深めて欲しいと思います。											
授業時間外学習	「人を動かす」ためには、「どのように自分が動くとよいか」という視点で、自身の行動を考え、職場で活用してください。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 マネジメント:行動科学アプローチ マネジメントについての理解、行動科学の考え方を学ぶ								レポート			
	第2回 意欲と行動:人間行動の基本的な理解促進 欲求段階説(マズロー)を中心に、人間行動の基礎的な考え方を学ぶ								レポート			
	第3回 意欲を育む状況条件:基礎理論の理解 ホーソン工場実験、X仮説とY仮説、意欲要因—環境要因論の考え方を学ぶ								レポート			
	第4回 リーダーシップ:基本的な概念の理解 リーダーシップ基礎理論、状況対応アプローチを学ぶ								レポート			
	第5回 マイケースにおける課題解決 今までの理論やモデルの振り返り、マイケースにおける課題解決に向けて、具体的な行動を考える											
成績評価方法	各回レポート(40%)、単位修得試験(60%) マイケース作成用紙1・2の提出、各回レポートの提出、マイケース課題解決用紙の提出が必須。 評価のポイントは、各理論とマイケース状況を繋げて具体的な行動が、論理的に一貫性をもって記述出来ていること。											
教科書	著書『入門から応用へ 行動科学の展開[新版] 人的資源の活用』 著者 P・ハーシィ K・H・ブランチャード D・E・ジョンソン 出版社 生産性出版 出版年度 2011年5月10日 ISBN 9784820116844											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名				授業科目名	民法			担当者	幸田 功			
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	民法の重要な基礎知識を理解し、定着させる。 選択肢式の問題を正答できるようになる。											
学習の進め方	この授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。											
授業時間外学習	予習として、各回の「学習内容」の概要に対応する範囲について、教科書の「ケーススタディ」の上段部分を中心に一読する(30分)。復習として、授業範囲の問題演習と授業で指摘した部分の確認(90分)。 生活の中で、授業で扱った内容と関連する出来事やニュースに接した場合などには、復習のきっかけとしてください。											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 ガイダンス、総則① 受講のガイダンス。民法とは、人、法人、物。								確認テスト			
	第2回 総則② 法律行為、代理。								確認テスト			
	第3回 総則③ 無効・取消し、条件・期限・期間、時効。								確認テスト			
	第4回 物権① 物権総論。								確認テスト			
	第5回 物権② 占有権、所有権、用益物権。								確認テスト			
	第6回 物権③ 担保物権総説、法定担保物権、質権。								確認テスト			
	第7回 物権④ 抵当権、非典型担保。								確認テスト			
	第8回 債権① 債権の目的、債務不履行の責任等、債権者代位権および詐害行為取消権。								確認テスト			
	第9回 債権② 多数当事者の債権および債務。								確認テスト			
	第10回 債権③ 債権の譲渡、債権の消滅。								確認テスト			
	第11回 債権④ 契約、売買。								確認テスト			
	第12回 債権⑤ 消費貸借・使用貸借、賃貸借、その他の典型契約。								確認テスト			
	第13回 債権⑥ 事務管理・不当利得、不法行為。								確認テスト			
	第14回 親族・相続① 婚姻、親子、親権、後見。								確認テスト			
	第15回 親族・相続② 相続、遺言。まとめ。								確認テスト			
成績評価方法	評価材料: 単位修得試験 【A 評価】 単位修得試験において 90 点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った内容を良く理解し、正確な知識を備えていることに加え、それらの理解と知識を応用できるレベルである。 【B 評価】 単位修得試験において 75 点以上 90 点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った内容を理解し、正確な知識を備えているレベルである。 【C 評価】 単位修得試験において 60 点以上 75 点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った内容をほぼ理解し、最低限の知識を備えているレベルである。 【D 評価】 単位修得試験を受験し、50 点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った内容のうち、一定の部分を理解し、その部分について最低限の知識を備えているレベルである。しかし、全体としての最低限の基盤的能力が備わっているとはいえないレベルである。											
	教科書											

参考書(任意購入)	『出た DATA 問【過去問精選問題集】⑫民法』、東京アカデミー編、七賢出版、※最新年度版
必須ソフト・ツール	特になし。必要な条文は教科書に載っていますので、六法は不要です。
備考	特になし。法学や憲法の履修後かそれと同等以上の法律の学習経験があると民法をより理解しやすいでしょう。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	リサイクル問題			担当者	渡辺 勉			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	一			
学習目標	世界人口が60億人を超える、限られた資源をいかに持続的に使っていくかは人類が生き残っていくかの問題といえる。それを可能にするのがリサイクルという環境の負荷を低減する方法だ。しかし、リサイクルには多くの問題がある。この講義ではリサイクルの現状を知り問題点を明らかにして、リサイクルについての理解を深めるとともに、将来的な望ましいリサイクル(循環型)社会のあり方を探る。											
学習の進め方	本授業は、教科書を主に活用して学習を進めます。教科書には掲載されていない事項、学習を進めるうえで重要なポイントや補足説明、新しいデータをオンデマンド教材に掲載しますので活用してください。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルは身近な問題なので、事前学習として生活の中でリサイクルに関するどのような課題があるのかを常に考えて授業にのぞむこと。 ・授業の内容に関して、具体的な事例を探し出す努力をすることで理解が深まる。探し出す方法はネットをはじめ、新聞や図書館など多様な手段を試みてください。 ・リサイクルに関する情報に常に关心をもつこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 リサイクルとは? リサイクルの概要を知る								レポート			
	第2回 リサイクルの歴史と背景 日本におけるリサイクルの歴史を知る								確認テスト			
	第3回 日本におけるリサイクルの現状 リサイクルの関連法とデータでリサイクルの現状を知る								確認テスト			
	第4回 捨てればごみ、分ければ資源 資源ごみの分別工場の現場。分別の重要性を知る								レポート			
	第5回 紙のリサイクルの現場 古紙回収とリサイクルの現状と問題点を知る								確認テスト			
	第6回 アルミや鉄のリサイクルの現場 アルミ、鉄のリサイクルの現状と問題点を知る								確認テスト			
	第7回 ガラスのリサイクルの現場 ガラスのリサイクルの現状と問題点を知る								確認テスト			
	第8回 プラスチックのリサイクルの現場 ペットボトルやDVDなどのリサイクルの現状と問題点								レポート			
	第9回 食品廃棄物のリサイクルの現場 食品廃棄物リサイクルの現状と問題点を知る								レポート			
	第10回 自動車のリサイクルの現場 自動車リサイクルの現状と問題点を知る								確認テスト			
	第11回 家電製品のリサイクルの現場 家電リサイクルの現状と問題点を知る								確認テスト			
	第12回 レアメタルのリサイクルの現場 レアメタルがなぜ注目されるのかを知る								確認テスト			
	第13回 ゼロエミッションとは? ゼロエミッションの模範ビール工場から現状を知る								レポート			
	第14回 リサイクル批判を考える 武田邦彦さんのリサイクル批判を中心に問題点を探る								レポート			
	第15回 循環型社会は可能か? リサイクルを中心とした循環型社会の現状と将来を考える								レポート			
成績評価方法	課題と平常の学習態度(40%)、単位修得試験の結果(60%)により総合評価する。											
教科書	著書『シリーズ地球と人間の環境を考える 06 リサイクル 回るカラクリ止まる理由』 著者 安井 至 出版社 日本評論社 出版年度 2007年5月20日 1版 ISBN 9784535048263											
参考書(任意購入)	学習内容に沿って適宜提示											
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	臨床心理学			担当者	酒井 健			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web 試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学に関する基礎理論や知識を簡潔に説明できるようになること。 ・心の病の分類や病理の理解について、心理学を専門としない患者の立場で理解できるレベルで基礎的な内容を説明できること。 ・臨床心理学の基本的な考え方(本科目で扱う精神分析、行動主義、人間性心理学など)について、知識のない人にわかりやすく説明できるための適切な知識をもっていること。 ・臨床場面で使用される心理検査(本科目で扱う知能検査、発達検査、パーソナリティ検査)について、正しく説明できるために必要な知識を持っていること。 ・代表的な、心理カウンセリングや心理療法について、それぞれの考え方や位置づけ、特徴などを簡潔に説明できるようになること。 ・心理援助のために必要な基本的な内容について、説明できるようになること。 ・臨床心理学と関連する他の心理学分野の基礎理論や知識について説明できるようになること。 ・学んだ知識を統合して、または関連する必要な知識を自ら学び、事例の理解を深めることができること。 例を挙げると、この授業ではマーラーの分離-個体化理論や、ボウルビーの愛着理論、エリクソンの発達論、などは他の授業での学習に任せるなどの理由で取り上げていないが、必要に応じて復習もしくは追加で自ら学ぶことをある程度期待している。 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>各回の確認テストには、オンデマンド教材で直接取り上げてはいませんが、その回の内容と関連する内容、用語、概念等も出題しますので、それらが出てきたときは調べながら考えることで、知識はより深まるものと思います。</p>											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <p>各自で読みやすいと思う入門的な位置づけの臨床心理学の図書を手に入れて読んでおくことが望ましいです。入門的なもしくは概論的な図書は、本によってボリュームがずいぶん異なります。講義でそのすべてを網羅することは困難であるので、授業はガイドラインの側面もあると考えて望んでほしいと思います。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <p>各回で講義している内容は、扱っているテーマやトピックをすべて網羅できているわけではありませんので、学習前の準備と併せて各自で学習ノートを作るなどの作業を、復習および事後学習として行なうことがとても望ましいと考えています。</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 臨床心理学とは何か								確認テスト			
	臨床心理学という学問がどういったものかについて、説明します。											
	第2回 主な理論と治療・介入技法1 精神分析								確認テスト			
	精神分析についての概要を説明いたします。											
	第3回 主な理論と治療・介入技法2 分析心理学								確認テスト			
	日本でも興味関心の高いユング心理学についての概要を説明します。											
	第4回 主な理論と治療・介入技法3 行動療法、認知・行動療法								確認テスト			
	臨床心理学における主要な理論である、行動主義と行動療法、さらにそこから認知療法、認知行動療法について説明します。											
	第5回 主な理論と治療・介入技法4 人間性心理学								確認テスト			
	臨床心理学における主要な理論である、人間性心理学について説明します。											
	第6回 主な理論と治療・介入技法5 その他の心理療法								確認テスト			
	第2回から第5回で取り上げてこなかった、理論や技法について説明します。催眠療法、短期療法、家族療法、EMDR、内観療法、森田療法などを取り上げます。											
	第7回 心理アセスメントの考え方と心理検査1								レポート			
	臨床心理の実践に関連して、主要なプロセスの一つであるアセスメントについて説明します。											
	第8回 心理アセスメントの考え方と心理検査2								確認テスト			
	アセスメントにおける主要な手法の一つである心理検査について、知能検査、発達検査、人格検査にわけて説明します。											
	第9回 様々な心の問題1								確認テスト			
	心の病をどのように捉え分類しようとしているのか、その考え方にはどのようなものがあるのかを含め疾患分類について説明します。											
	第10回 様々な心の問題2								確認テスト			
	第9回に統いて、心の病や症状について説明します。											
	第11回 心理臨床の場								確認テスト			
	心理臨床の場と、関連する法律および専門家の教育と倫理など、心理臨床と社会との関連に関わるトピックについて説明します。											
	第12回 ケースを理解する1								ディスカッション			
	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。											
	第13回 ケースを理解する2								ディスカッション			
	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。											

	<p>第 14 回 ケースを理解する 3 提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。</p> <p>第 15 回 ケースを理解する 4 提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。</p>	ディスカッション
	<p>第 12 回～15 回目のディスカッションにおける、コメントおよび他者へのコメントと単位修得試験の結果 【A 評価】ディスカッション：適切なコメントや判断を述べ、また他者へのコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体現していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、複数の内容を組み合わせて説明できるレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。 【B 評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠はやや正確さに欠けているが、おおむね妥当である内容を述べており、また他者に対するコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体現していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、多少不十分ではあるにせよ複数の内容を組み合わせて説明できるレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。 【C 評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠は正確さに欠くところがあり、知識の不十分さが見られるが、妥当な内容も述べていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、概ね正確な知識を有しているレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識に基づいた簡単な回答ができる。 【D 評価】ディスカッション：テーマに沿ったコメントを行っていること。正しい知識に基づいているとは言い難い面もあるが、妥当な内容のコメントもできていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、専門的にみて適切な知識を有しているレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、少なくとも妥当ではない回答はしない程度の知識を持っていること。</p>	ディスカッション
成績評価方法	第 12 回～15 回目のディスカッションにおける、コメントおよび他者へのコメントと単位修得試験の結果 【A 評価】ディスカッション：適切なコメントや判断を述べ、また他者へのコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体現していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、複数の内容を組み合わせて説明できるレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。 【B 評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠はやや正確さに欠けているが、おおむね妥当である内容を述べており、また他者に対するコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体現していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、多少不十分ではあるにせよ複数の内容を組み合わせて説明できるレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。 【C 評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠は正確さに欠くところがあり、知識の不十分さが見られるが、妥当な内容も述べていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、概ね正確な知識を有しているレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識に基づいた簡単な回答ができる。 【D 評価】ディスカッション：テーマに沿ったコメントを行っていること。正しい知識に基づいているとは言い難い面もあるが、妥当な内容のコメントもできていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、専門的にみて適切な知識を有しているレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、少なくとも妥当ではない回答はしない程度の知識を持っていること。	ディスカッション
教科書	なし	
参考書(任意購入)	<p>・臨床心理学の入門的位置づけの図書 これは各自が読みやすいと思ったものでかまいません。ただし出版時期の古いものは内容も古くなっているので、おおむね 7～5 年以内の出版(改定版)で見つけることが望ましいと思います。ただし古いものがいけないと言うことではありません。古いものも、概念の部分はよくまとめられた良書は多々あります。ただそういった図書の場合は客観的知識として古い面があることに注意してください。 例:『よくわかる臨床心理学』、下山晴彦編、ミネルヴァ書房、3,240 円(税込)、2009 年</p>	
必須ソフト・ツール		
備考	<p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「心理学概論」「生涯発達心理学」「青年心理学」「人格心理学」「学習心理学」「行動の科学」の内容はなるべく、また「精神分析学」の内容もできれば、修得していること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>	

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	臨床心理学実習			担当者	酒井 健、辻野 達也			
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度	☆☆☆					
単位修得試験受験資格	3/4 以上の出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャン パス)			
学習目標	臨床心理学の基本的な理論や技法について学びながら、さまざまなワークやエクササイズを通じて、自己理解および他者理解を深めることを目標とする。											
学習の進め方	講義部分では、実習のときの基本となる理論や考え方の習得をめざす。実習部分では、ワークやエクササイズを通じて、体験的に学習を深める。											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、心理学全般の基礎知識について復習しておくこと。任意の臨床心理学の概論的な入門書にあたり、臨床心理学全般についての理解を確かめておくこと。 受講後は、授業で扱った理論や技法、検査等に関して、各自でより専門的な図書にあたり、内容を深めていくこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 心理アセスメント 心理アセスメントとは何か 全30回の授業のなかで、前半15回は主に心理アセスメントを中心に授業と実習を行う。 第1回は、実習に備えて、心理アセスメントの意味や役割、内容等の概略を学ぶ。											
	第2回 心理アセスメント 描画法 描画法による心理査定の考え方と、具体的な方法について学ぶ。											
	第3回 心理アセスメント 投影法1 投影法の一つであるTATの実習を通して、投影法について理解を深める。											
	第4回 心理アセスメント 投影法2 パーソナリティ検査として広く使われている投影法の一つであるロールシャッハテストについて、その考え方を解説する。											
	第5回 心理アセスメント 投影法3 パーソナリティ検査として広く使われている投影法の一つであるロールシャッハテストについて、その考え方を解説する。同じ投影法であるTATも紹介する。								レポート			
	第6回 心理アセスメント その他のパーソナリティ検査1 TEGを用いて、質問紙によるパーソナリティ検査について学ぶ。 またPFスタディや20答法、SCTなど、ここまで紹介してこなかった検査について補助的に解説する。											
	第7回 心理アセスメント その他のパーソナリティ検査2 これまで施行した複数の検査を統合してパーソナリティを理解することを学ぶ。											
	第8回 心理アセスメント 知能検査1 これまで施行した複数の検査を統合してパーソナリティを理解することを学ぶ。											
	第9回 心理アセスメント 知能検査2 ここに病院臨床では必須の知能検査について、その代表であるWAISを取り上げ、知能とは何かについて検討する。											
	第10回 心理アセスメント 知能検査3 ここに病院臨床では必須の知能検査について、その代表であるWAISを取り上げ、知能とは何かについて検討する。								レポート			
	第11回 心理アセスメント 発達の理解1 発達検査について講義と実習を行う。											
	第12回 心理アセスメント 発達の理解2 発達検査について講義と実習を行う。											
	第13回 心理アセスメント 発達の理解3 発達検査について講義と実習を行う。											
	第14回 心理アセスメント 神経心理学検査 神経心理学的検査について講義と実習を行う。											
	第15回 まとめ 質疑を中心に、ここまで14回の内容についてのまとめを行う。								まとめレポート			
	第16回 ストレス・マネジメント ストレス・マネジメントの考え方と方法											
	第17回 認知行動療法 認知行動療法の理論と技法											
	第18回 アサーション・トレーニング アサーション・トレーニングの原則											
	第19回 イメージ療法 イメージ療法の特徴と種類											
	第20回 人間性・トランスペーソナル心理学 人間性心理学およびトランスペーソナル心理学について								レポート			

	第 21 回 ユング心理学① タイプ論	
	第 22 回 ユング心理学② 元型論	
	第 23 回 ユング心理学③ 個性化の過程	
	第 24 回 ユング心理学④ 共時性と布置	
	第 25 回 ユング心理学⑤ 夢分析	レポート
	第 26 回 心理アセスメント① エゴグラム	
	第 27 回 心理アセスメント② 描画法(バウム・テスト、風景構成法)	
	第 28 回 心理療法① アートセラピー	
	第 29 回 心理療法② 箱庭療法	
	第 30 回 単位修得試験と解説	
成績評価方法	第 1 回～第 15 回 二つの小レポート(30%)、授業への取組(授業中やディスカッションでの発言、実習への取り組み方を含む 30%)、まとめレポート(40%)	
	第 16 回～第 30 回 各回のレポート(50%)、単位修得試験(50%) なお、前半 15 回と後半 15 回の評価をそれぞれ 50% とし、合計したもので最終的な評価とする。	
教科書	なし。適宜レジュメを配布する。	
参考書(任意購入)	『よくわかる臨床心理学』、下山晴彦、ミネルヴァ書房、2011 年 10 月 30 日	
必須ソフト・ツール		
備考	受講者上限人数 実習 40 名 受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。 先修条件は、特にこの科目、という条件はありませんが、心理学関連の科目をなるべく履修していることが望ましく、また必要であれば各自で補ってください。	

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	倫理と道徳			担当者	石毛 弓			
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 各回の学習の最後に設けられた課題において、自分なりの考えを書くことができる。 すべての授業を受講し終えた時点で、自己の価値判断基準を自覚し、その基準でもって授業で習った課題を評価する(自分なりの考えを書く)ことができる。 											
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を読み問い合わせることで学習を進めます。 必要に応じて教科書を参照します。 各回の学習の最後には課題がありますので、提出してから次の回に進んでください。</p>											
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 科目に関連する書籍等を読んで自分なりの理解を深めること。 ディスカッションでその回のまとめ・復習を充分に行うこと。 											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 倫理って？ 道徳って？ ——概論 「倫理」と「道徳」の概念について 今後の学習の見通しについて								ディスカッション			
	第2回 「幸福」という基準 ——功利主義I 功利主義について ——ベンサムを中心に								ディスカッション			
	第3回 量の問題、質の問題 ——功利主義II 功利主義について ——ミルを中心に								ディスカッション			
	第4回 「人格」について ——義務論I 義務論について								ディスカッション			
	第5回 「嘘」について ——義務論II 倫理学における「嘘」のとらえ方について								ディスカッション			
	第6回 自然なルールとしての倫理・道徳 ——社会契約説 社会契約説について								ディスカッション			
	第7回 分配のルールとしての倫理・道徳 ——正義論 正義論について								ディスカッション			
	第8回 徳、ケア、共同体 ——徳倫理学 徳倫理学について								ディスカッション			
	第9回 「である」と「べきである」のちがい ——メタ倫理学 メタ倫理学について								ディスカッション			
	第10回 いかに生きるかということ ——生命倫理学I QOL、インフォームド・コンセントを中心とした生命倫理学について								ディスカッション			
	第11回 人格と責任 ——生命倫理学II 人格論を中心とした生命倫理学について								ディスカッション			
	第12回 自然の生存権の問題 ——環境倫理学I 自然の生存権の問題を中心とした環境倫理学について								ディスカッション			
	第13回 地球全体主義、世代間倫理 ——環境倫理学II 地球全体主義および世代間倫理を中心とした環境倫理学について								ディスカッション			
	第14回 現代倫理学あれこれ 現代におけるさまざまな倫理学について								ディスカッション			
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回の受講状況(確認問題や掲示板への書き込み含む):20% 単位取得試験(レポート):80% <p>※レポートは「単位取得試験」の回にある「レポート用紙」をダウンロードしその形式を使用すること。</p>											
教科書	著書『動物からの倫理学入門』 著者 伊勢田哲治 出版社 名古屋大学出版会 出版年度 2010年4月15日 1版 ISBN 9784815805999											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール												
備考												

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	ロジカル・シンキング			担当者	今宮 信吾			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	ツールの使い方について知り、課題に沿って使ってみる。その結果ツールの良さを感じ、日常での思考に生かすことができる。 各回の課題を提出し、ツール活用やロジカル・シンキングについてのリフレクションを行う。 この授業で学んだことをこれからの生活に生かしていくという意欲的な学びの姿勢を作ることができる。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 第2回～第7回では、ワークシートを使った演習を行います。											
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ワークシートを使って演習を行うので、別の紙にメモしながら学習できるよう、筆記用具を用意すること 現代的な課題を取り扱いながら学習を進めるので、テレビや新聞など日常的な話題の情報を集めておくこと 前の回で学習したことを振り返り、ツールの使い方や目的、思考の方法は、どこがどのように違うのかという学習の構えを作ること 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で修得したツールの活用方法を日常生活で使いながら、単位修得試験に備えること、専門用語などわからないことがあれば、調べておくこと											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 ロジカル・シンキングとラテラル・シンキング ロジカル・シンキングをするために、その反対軸にあるラテラル・シンキングを学び、ロジカル・シンキングの必要性について学ぶ。意識的にロジカルな頭を作るために、ツールの活用について紹介する。								ディスカッション			
	第2回 ロジカル・シンキングのためのツール活用1 ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「比べる」「わける」という思考の方法を学ぶ。								レポート(ワークシート提出)			
	第3回 ロジカル・シンキングのためのツール活用2 ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「つなぐ」「組み立てる」という思考の方法を学ぶ。								レポート(ワークシート提出)			
	第4回 ロジカル・シンキングのためのツール活用3 ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「筋道立てる」「価値づける」という思考の方法を学ぶ。								レポート(ワークシート提出)			
	第5回 ロジカル・シンキングのためのツール活用4 第2回～第4回で紹介した以外のツールの活用方法について学ぶ。								レポート(ワークシート提出)			
	第6回 パブリックスピーチと話し合いのためのロジカル・シンキング 思考ツールとして活用するものをスピーチや話し合いでも活用できることを学ぶ。								レポート(ワークシート提出)			
	第7回 ライティングスキルのためのロジカル・シンキング ロジカルに考えたことを記録として残し、文章にしていくための方法について学ぶ。ノート活用と小論文を書くための準備を学ぶ。								レポート(ワークシート提出)			
	第8回 ロジカル・シンキング活用法 能動的に学ぶこと、そして見ることでロジカルに考えることを学ぶ。今まで学んだロジカルな頭を活用する方法を学ぶ。								確認テスト			
成績評価方法	各回の演習課題(確認テスト)・単位修得試験 【A評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して、一覧表にあるように、思考のパターンに沿って適切に活用することができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして十分に理解できている。十分とは、解答例に照らして満足できる状態をいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされ、自分なりの活用方法を見出すことができている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。 【B評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して主体的に取り組むことができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できている。概ねとは、解答例に照らしてほぼねらい通りであることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、主体的に活用しようとしている。 【C評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方は不十分であるが、学ぶ意欲は感じることができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できているが、一部使い方が理解できていないものもあることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、意欲的に活用しようとしている。 【D評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方の理解が不十分であるが、意欲的に課題を捉え、記入している。											
	各回の演習課題(確認テスト)・単位修得試験 【A評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して、一覧表にあるように、思考のパターンに沿って適切に活用することができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして十分に理解できている。十分とは、解答例に照らして満足できる状態をいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされ、自分なりの活用方法を見出すことができている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。 【B評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して主体的に取り組むことができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できている。概ねとは、解答例に照らしてほぼねらい通りであることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、主体的に活用しようとしている。 【C評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方は不十分であるが、学ぶ意欲は感じができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できているが、一部使い方が理解できていないものもあることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、意欲的に活用しようとしている。 【D評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方の理解が不十分であるが、意欲的に課題を捉え、記入している。											
	各回の演習課題(確認テスト)・単位修得試験 【A評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して、一覧表にあるように、思考のパターンに沿って適切に活用することができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして十分に理解できている。十分とは、解答例に照らして満足できる状態をいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされ、自分なりの活用方法を見出すことができている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。 【B評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して主体的に取り組むことができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できている。概ねとは、解答例に照らしてほぼねらい通りであることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、主体的に活用しようとしている。 【C評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方は不十分であるが、学ぶ意欲は感じができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できているが、一部使い方が理解できていないものもあることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、意欲的に活用しようとしている。 【D評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方の理解が不十分であるが、意欲的に課題を捉え、記入している。											
	各回の演習課題(確認テスト)・単位修得試験 【A評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して、一覧表にあるように、思考のパターンに沿って適切に活用することができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして十分に理解できている。十分とは、解答例に照らして満足できる状態をいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされ、自分なりの活用方法を見出すことができている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。 【B評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して主体的に取り組むことができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できている。概ねとは、解答例に照らしてほぼねらい通りであることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、主体的に活用しようとしている。 【C評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方は不十分であるが、学ぶ意欲は感じができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できているが、一部使い方が理解できていないものもあることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、意欲的に活用しようとしている。 【D評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方の理解が不十分であるが、意欲的に課題を捉え、記入している。											
	各回の演習課題(確認テスト)・単位修得試験 【A評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して、一覧表にあるように、思考のパターンに沿って適切に活用することができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして十分に理解できている。十分とは、解答例に照らして満足できる状態をいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされ、自分なりの活用方法を見出すことができている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。 【B評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して主体的に取り組むことができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できている。概ねとは、解答例に照らしてほぼねらい通りであることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、主体的に活用しようとしている。 【C評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方は不十分であるが、学ぶ意欲は感じができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できているが、一部使い方が理解できていないものもあることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、意欲的に活用しようとしている。 【D評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方の理解が不十分であるが、意欲的に課題を捉え、記入している。											
教科書	なし											
参考書(任意購入)												
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word 2010 以上または Word for Mac 2011 以上											
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます											

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	私のライフデザイン論			担当者	中島 剛			
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★					
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—			
学習目標	「真の豊かさ」モデルや「キャリア」モデルに関する理解を深めながら、自分らしい生き方や生きがいの本質について自分自身を通して模索し、人生設計を立てることできる。											
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。											
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 各回のテーマに関連する社会問題(時事ネタ)やキーワードを新聞・雑誌記事等から探してくること</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回に提示する参考図書リストの文献を読むことで、自らの学びを深めておくこと</p>											
学習内容	概 要								課 題			
	第1回 ライフデザイン学習のねらい ライフデザインを学ぶ目的と意図を理解し、本講義の全体概要を掴む。								レポート			
	第2回 「真の豊かさ」モデルと人生設計 「真の豊かさ」について、「個人の生き方」と「社会の在り方」の両側面から模索する。								レポート			
	第3回 個人の発達とライフサイクル 自分や家族の加齢や環境の変化によって移り行くライフサイクルを概観する。								レポート			
	第4回 近代化とライフデザイン 人生を展開する土俵である社会空間がどのように作られ、どう進展していくかについて学習する。								ディスカッション			
	第5回 希望あふれるライフデザイン 自分の特徴や得意な能力が生かせる職業に就けてこそ、いきいきとしたライフデザインが行えることを職業適性の側面から学ぶ。								レポート			
	第6回 人生と生活のリスクマネジメント 労働法による保護が必要な層(非正規・女性)ほど、知識が疎いという現状を理解する。労働者の権利について実例を通して学ぶ。								確認テスト			
	第7回 豊かさの探求 真の豊かさを構成する4つの分野から豊かさを取り上げる。								ディスカッション			
	第8回 ライフデザインの実践 自分の能力を思う存分に発揮するために、自分自身を見つめ直す方法について学ぶ。								レポート			
成績評価方法	<p>評価材料:レポート、ディスカッション、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 レポート課題で、授業で修得したライフデザインの諸概念に則り、自身を客観的に熟考できておりそれを論理的にまとめ、自分の意見を述べることができている。 ディスカッション課題で、内容に適した意見を述べるとともに、積極的に受講者全體が課題をより深く理解するためのヒントや意見が述べられている。 単位修得試験レポートで、授業で修得したライフデザインの諸概念をふまえ、各回で行った自身についての分析の集大成として客観的かつ論理的に企画書にまとめられている。</p> <p>【B評価】 レポート課題で、授業で修得したライフデザインの諸概念に則り、自身を論理的にまとめ、自分の意見を述べることができている。 ディスカッション課題で、内容に適した意見を述べるとともに、積極的に他の受講者に意見が述べられている。 単位修得試験レポートで、授業で修得したライフデザインの諸概念をふまえ、客観的かつ論理的に企画書にまとめられている。</p> <p>【C評価】 レポート課題で、授業で修得したライフデザインの諸概念に則り、自分の意見を述べることができている。 ディスカッション課題で、内容に適した意見が述べられている。 単位修得試験レポートで、授業で修得したライフデザインの諸概念をふまえ、まとめられている。</p> <p>【D評価】 すべての課題を通して、客観的かつ論理的に分析できているとは言えないが、授業内容をおおむね理解していることが示されている。</p>											
教科書	なし											
参考書(任意購入)	<p>『改訂新版 ライフデザイン学概論—真に豊かな生活を求めて』宮田安彦著、日本教育訓練センター、¥2,484(税込)、2013年</p> <p>『キャリアデザイン入門テキスト』中島剛著、学事出版、¥1,296(税込)、2014年</p> <p>『ブラック企業に負けないリーガル・リテラシー』中島剛著、萌書房、¥2,376(税込)、2016年</p>											
必須ソフト・ツール												
備考	<p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本科目を受講する前に自分自身のこれまでの人生について振り返る機会を持つようにしておくこと。</p> <p>オンライン教材がモバイル端末で視聴できます。</p>											

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	浦畠 育生
研究テーマ	「日本語教育」 「大学教育」 「eラーニング」など その他希望のテーマがあれば必要に応じて相談にのる。
授業概要	<p>以下は授業概要例である。実際の授業内容は学生各人と話し合って決める。</p> <p>1.日本語教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本語教師として就職するために、国内外の機関(日本語学校、NPO、企業、大学など)で、外国人に日本語を教えるインターンシップ(就業体験)を積み、日本語教師としての実力をつけて、日本語教師として就職することを目指す。その過程と実践した日本語教授法を卒業論文にまとめる。 ②直説法の日本語教育eラーニングコンテンツを設計、開発、実践して、外国人の学習者に対して学習成果を出すことができるかどうかを検証して、卒業論文にまとめる。 ③日本語教育に関わる問題点を探り、どのように解決すれば良いか考察し卒業論文としてまとめる。 <p>2.大学教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大学教育について調査、考察した内容を卒業論文にまとめる。 ②通信教育について調査、考察した内容を卒業論文にまとめる。 <p>3.eラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ①eラーニングについて調査、考察した内容を卒業論文にまとめる。 ②eラーニングコンテンツを設計、開発、実践して、その学習効果を卒業論文としてまとめる。
卒論テーマ	<p>以下は卒論テーマ例である。実際の卒論テーマは学生各人と話し合って決める。</p> <p>1.日本語教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本語教師インターンシップで得たもの ②直説法による日本語教育の有効性 ③eラーニングで日本語は身につくか <p>2.大学教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本の大学の世界ランキングは正しいか ②MOOCの可能性について ③これからの中等教育はどうあるべきか <p>3.eラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大手前大学通信教育課程への提言 ②eラーニングの世界をまとめてみました
先修条件	<p>1.日本語教育</p> <p>日本語教員養成課程の必修科目を全て単位修得していること。 これから全て履修することを誓約する者も条件付きで認める。</p> <p>2.その他特になし</p>
授業の運営方法	学生各人と個別に話し合って決める。
履修生に伝えたいこと	海外で日本語教師として活躍したい方を応援します。

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	川口 宏海
研究テーマ	「日本考古学に関する研究」 「生活文化(衣・食・住)の歴史に関する研究」 「都市の歴史に関する研究」 「人間環境の歴史に関する研究」など
授業概要	日本の歴史や、考古学に関する研究、特に都市の歴史や生活文化(衣・食・住)の歴史、あるいは人間環境の歴史、産業の歴史などを専門としているので、それに近いテーマであればかまわない。江戸時代や明治時代でもかまわない。 文献史料や考古資料を使って、歴史を解明し、新たな発見をしていくように指導を行う。 過去を振り返ることによって、今後の日本が歩むべき道、あるいは私たちが歩むべき道を見つけてていきたい。
卒論テーマ	①「前方後円墳の変遷に関する研究」 ②「奈良時代の衣・食・住に関する研究」 ③「中世都市鎌倉の都市構造に関する研究」 ④「巨大都市江戸のごみ問題に関する研究」 ⑤「近世酒造業の発展に関する研究」など
先修条件	「考古学の世界」を修得していること
授業の運営方法	方 法:「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回 数:「面接指導」は進捗状況に応じて、1回以上適宜行う。 時 期:「面接指導」は8月または9月と進み具合によって適宜行う。「通信指導」は隨時実施する。 その他:テーマに応じた現地見学や資料調査を指示することがある。方法や行き先などは相談の上進める。
履修生に 伝えたいこと	楽しんで論文を書き、思い出に残るような経験にしてほしい。

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	酒井 健
研究テーマ	「臨床心理学とその周辺領域に関する、心理学的研究」
授業概要	<p>臨床心理学およびその周辺領域に関するテーマについて、卒業研究制作を通して深く学ぶ。心理学は実証科学であるということ、また臨床心理学分野における証拠に基づく研究の重視を踏まえて、卒業研究では各自の研究テーマについて調査や実験などを行い、データ分析の結果に基づいて論文作成することを基本とするが、文献研究なども含めることとする。</p> <p>テーマは各自の興味や関心から選んでいくことになるが、そのテーマを研究可能な内容にしていくためにも、積極的な自主学習を期待している。</p>
卒論テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ①リラクゼーションの心理効果とパーソナリティの関係 ②親子関係が、その後の対人関係に与える影響について ③学校臨床における、教員への有効なサポートの研究 ④統制の所在と自己コントロール感の関連について ⑤コミュニケーションにおける表情の影響についてなど
先修条件	<p>方法:「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回数:必要に応じて適宜。 時期:「面接指導」および「通信指導」は必要に応じて隨時実施する。その他:指導は進み具合などにより適宜変更する場合がある。</p>
授業の運営方法	<p>方 法:「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回 数:「面接指導」は進捗状況に応じて、1回以上適宜行う。 時 期:「面接指導」は8月または9月と進み具合によって適宜行う。「通信指導」は隨時実施する。 その他:テーマに応じた現地見学や資料調査を指示することがある。方法や行き先などは相談の上進める。</p>
履修生に 伝えたいこと	<p>卒論テーマで挙げたことはあくまで例ですので、研究雑誌などをみて各自でテーマを温めて臨んで欲しいと思います。卒業研究の作成は、主体的かつ自発的に取り組むほど得られる成果と達成感は大きいと思います。指導はそのお手伝いと思っております。ぜひがんばって取り組んでいただければと思います。</p> <p>楽しんで論文を書き、思い出に残るような経験にしてほしい。</p>

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	鈴木 基伸
研究テーマ	「日本語と日本語教育」
授業概要	日本語学又は日本語教育学に関連する分野の研究を行います。日本語学であれば、日本語の文法、語彙、音声、方言(地域方言、社会方言)に関する研究。日本語教育学であれば、日本語教授法、第二言語習得、学習者の心のケア等に関する研究が可能であり、その領域は広大です。受講生はそれぞれ興味のある分野、大まかな研究テーマを決定したうえで卒論の指導を行います。
卒論テーマ	①「現代の若者ことばについて」 ②「『させていただく』はなぜ乱用されるのか？」 ③「関西弁の語彙に関する研究」 ④「受身文の効果的な教授法に関する研究」 ⑤「日系ブラジル人日本語学習者が抱える問題について」など。
先修条件	「日本語教育」 「日本語の特徴と発音」 「日本語の文法と表現Ⅰ」 「日本語の文法と表現Ⅱ」 の4科目をすべて修得していること。
授業の運営方法	方 法:「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回 数:「面接指導」3回以上を含み、隨時行う。 時 期:「面接指導」は学生との相談のうえ決定する。「通信指導」は隨時。 その他:指導方法等については状況に応じて臨機応変に対応する。
履修生に 伝えたいこと	履修するからには、自分なりの研究計画をあらかじめ立てておいてください。

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	仲谷 伸子
研究テーマ	「ライフ・サイクルにおける諸事象の発達心理学的考察」
授業概要	<p>人生の中でのさまざまの事象を発達心理学的に考察し、次の発達段階に何が大切なかを考える。また、次の世代にとって何が大切なか、について考える。</p> <p>授業内容には、問題とそれとともに適切な研究法について考え、テーマを確定していくことを含む。「卒論テーマ」の欄に例を挙げるが、この中から選ばなければいけないのではない。主体的に、自分が何をしたいのか、それはなぜか、と考えて決定していってほしい。</p>
卒論テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ①「乳児期の発達の諸側面(身体・運動・認知・情動・対人関係等)の相互連関、またそれに伴う言語の問題」 ②「幼児期のことばの発達と対人関係の変化」 ③「児童期における『集団』の問題」 ④「青年期の職業観とアイデンティティの発達」 ⑤「中高年期の自己認知の問題 対人関係の再構築について」
先修条件	<p>「心理学概論」 「生涯発達心理学」 「心理学研究法」 「心理学統計法」の4科目すべてを修得していること。</p> <p>下記の「履修生に伝えたいこと」の内容を合わせて確認すること。</p>
授業の運営方法	<p>方法:通信指導、および面接指導で行う。 回数:「面接指導」数回、「通信指導」は随時。 時期:「面接指導」は、集団での面接・討論を中心に8月を含み随時。(追って通知する) 「通信指導」は随時。 その他:指導方法等、追って連絡することがある。</p>
履修生に 伝えたいこと	研究方法として調査・実験を行なう場合、そのフィールドの確保も学生自身がおこなう。このとき、研究の倫理をしっかりとわきまえて計画・実施・報告することが必要となる(該当の学生には改めて確認をおこなう)。

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	二階堂 達郎
研究テーマ	「わが国の家計をめぐる諸問題の現状の分析と考察」
授業概要	<p>家計、社会福祉、社会保障、消費者問題など、現代社会における家庭の経営にかかわる諸問題の中から、テーマを自分で選択し、必要な資料を調査・収集し、分析し、自らの考察を行って、論文の形にまとめる。</p> <p>現代の社会に生きる社会人として身につけておくことが求められる諸問題について、主に経済的な側面から追究することによって、それらについての理解を深めることをめざす。そして、こうした作業を通じて、問題解決能力や物事についての洞察力を養うとともに、経済的な考え方についても身に付けてもらうことを狙いとする。</p>
卒論テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ①「勤労者世帯の家計収支とその構成の変化についての研究」 ②「家事労働の世帯類型ごとに見られる動向と特徴についての研究」 ③「高齢者世帯の家計収支の現状と動向についての研究」 ④「ライフステージごとの家計収支の特徴と変化についての研究」 ⑤「近年の消費者被害と消費者行政の対応についての研究」
先修条件	<p>「家庭の経営」 を修得していること 「消費者のための法律知識」(2018年度不開講) 「暮らしの安全と消費者問題」 「暮らしから見る福祉」 のうち、1科目以上を修得していること</p>
授業の運営方法	<p>方 法:「通信指導」を主として、「面接指導」を必要に応じて実施する。ただし、遠方住の受講生は、「通信指導」のみ実施する。</p> <p>回 数:「通信指導」は必要に応じて実施し、「面接指導」は3回以上実施する。</p> <p>時 期:「面接指導」は相互に調整して実施し、「通信指導」は随時実施する。</p> <p>その他:特になし。</p>
履修生に 伝えたいこと	

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	西村 道信
研究テーマ	「英文の文体研究」
授業概要	<p>英文の文体的特徴をコンピュータを使用して解明する。対象とする英文は、文学でも、メディアの英語でも、歌の歌詞でもよい。それぞれの英文には、作者自身の特徴が現れることもあれば、ジャンル毎の特徴が見られることが多い。</p> <p>研究内容としては、ある作者についての英文の特徴を探り出したり、別の作者との対比をしたり、英字新聞や英文雑誌、あるいはウェブ上の英文の比較研究を行う。また、英文コーパスの利用と作成の仕方も解説する。そしてその際に使用するソフトウェアはフリーのものを紹介し、使用方法も詳しく指導する。</p>
卒論テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ①「作家の文体解析」 ②「新聞の文体」 ③「メディアの英文の特徴」 ④「コンピュータによる文体解析」 ⑤「コーパス研究」
先修条件	なし
授業の運営方法	<p>方 法:「通信指導」及び「面接指導」で行う。ただし、遠方住の受講生は、「通信指導」のみ実施する。</p> <p>回 数:「面接指導」1回以上を含み、3回以上行う。</p> <p>時 期:「面接指導」は8月または9月、「通信指導」は随時実施する。</p> <p>その他:特になし</p>
履修生に 伝えたいこと	英語とコンピュータの両方に特に興味のある学生を対象とする。コンピュータで英文の処理をするので、ある程度のコンピュータリテラシーが必要。コンピュータ環境はWINDOWSが好ましいが、MACも対応可。

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	野波 侑里
研究テーマ	「医療と健康に関する社会文化的研究」 「病気と治療に関する社会文化的研究」 「心と身体のセラピー・補完代替医療に関する社会文化的研究」
授業概要	<p>人間の健康・病気・治療について社会文化的な背景をもとに研究を行う。研究は、基本的には医療人類学の観点を視野に入れて考察を行う。</p> <p>西洋医学の台頭と科学の進歩により人間は様々な病いを克服することができるようになった。しかし一方で慢性病への治療効果や薬害、延命治療の問題には様々な議論がある。</p> <p>このような状況において補完代替医療が注目を集めている。補完代替医療の範囲は中国医学やアーユルヴェーダなどの伝統医学からアロマセラピー・音楽セラピーなどの新しい民間医療まで多岐にわたる。また治療や癒しという観点において、心と身体の治療のみならず、靈性(スピリチュアリティ)を含んだ統合的な治療の試みも進んでいる。</p> <p>本卒業研究では、医療従事者・患者・患者の家族といった様々な視点から、健康、病気、治療について学生の興味・関心に応じて研究を行う。</p> <p>目標は、健康・病気・治療を切り口として、社会・文化的背景に基づいた様々な考え方、価値観から多面的に事象を考察することができるようになることである。</p>
卒論テーマ	①「漢方と西洋医学の効果的な共存の可能性に関する研究」 ②「笑いが身体や疾患に与える影響に関する研究」 ③「精神疾患の治療とマインドフルネスに関する研究」 ④「医療現場における医療従事者と患者の語り(ナラティブ)に関する研究」 ⑤「高齢者介護におけるスピリチュアルケアに関する研究」など
先修条件	医療人類学入門、「心と身体のセラピー演習」を修得していることが望ましい。 まだ履修していない学生は「卒業研究」と同時に履修しても良い。
授業の運営方法	<p>方 法:「通信指導」及び「面接指導」で行う。</p> <p>回 数:「面接指導」は5回程度行う。 (遠方に在住の方には、希望があればスカイプによる指導も可)。</p> <p>時 期:「面接指導」は、個人あるいはグループでのディスカッションなど学生と相談の上、決定する。 「通信指導」は随時。</p> <p>その他:指導方法は、状況に応じて隨時変更する場合がある。</p>
履修生に 伝えたいこと	医療従事者・患者・患者の家族の立場で病気と向き合った身近な経験などから、現代の医療に関する疑問点を解明し、新たな角度で医療を見直すことに興味のある学生を歓迎します。

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	藤田 道代
研究テーマ	「家族、ジェンダーおよびそれらに関連する事象の社会学的考察」
授業概要	<p>家族やジェンダー、および、それらに関連する事象について社会学的視点から、かたい言葉を使えば「考察」する。しかし、広く社会学的な好奇心を持って取り組む意欲があれば、テーマはそれほど厳しく限定しない。可能であれば、履修生個々の関心テーマを中心に展開したい。</p> <p>そこで、履修生個々の卒業論文のテーマを掘り下げるために前半は、文献・資料収集と、その中の主要なものの整理とまとめを行う。平行して、自分自身で行動して調べるフィールドワークに取り組み、卒業論文作成への足掛かりとする。後半は個々の論文作成指導。</p>
卒論テーマ	<p>過去の卒業論文のテーマを一部紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「認知症高齢者における行方不明者の防止策について」 ②「鉄軌道駅構内における福祉マップの提案」 ③「宮崎駿作品に描かれる家族」 ④「現代家族の食卓」 ⑤「高齢者介護とジェンダー」 ⑥「少年漫画の変遷と現代社会 —週刊少年ジャンプを代表する3作品の比較検討—」
先修条件	<p>「現代社会と家族」、「ジェンダーと社会」の2科目を修得していること。</p> <p>ただし、「少子高齢社会の家族」を、2014年度以前に修得した場合、当該科目を含めて2科目以上を修得していること。</p>
授業の運営方法	<p>方 法:「通信指導」及び「面接指導」で行う。</p> <p>回 数:「面接指導」2回以上を含み、3回以上行う。</p> <p>時 期:「面接指導」は4月、8月または9月、12月、「通信指導」は随時実施する。</p> <p>その他:面接指導の回数は履修生が可能であれば、上記回数には拘らない。</p>
履修生に 伝えたいこと	<p>事前の面接選考時に大まかな関心を聞き、関連科目を個別に指導するので、先修条件に挙げた科目は履修して欲しい。</p> <p>履修希望者には、良い意味で社会学的な好奇心を持って卒業研究のテーマに主体的に取り組む意欲が欲しい。指示待ちのタイプの方は履修しても苦しいかもしれない。</p>

2018 年度「卒業研究」概要

教員名	堀川 諭
研究テーマ	「精神保健」をめぐる問題
授業概要	<p>わが国の精神保健は、現在、さまざまな問題に直面しています。たとえば、高齢社会の進展に伴う認知症患者の増加、職場におけるいわゆる新型うつ病や過労にともなう自殺への対応、学校におけるいじめの多発や発達障害児の療育上の課題、などといった問題です。その一方で、急増する患者や多様化した疾患に対する精神保健医療体制は決して十分に整備されているとは言えません。</p> <p>この授業では、こうしたわが国が現在直面している精神保健の諸問題について、調査・研究したいと思います。</p>
卒論テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ①青年期の心を巡る問題 ②発達障害の現状 ③認知症高齢者の対応 ④新型うつ病 ⑤過重労働とうつ病および自殺の問題 ⑥性同一性障害を巡る問題 ⑦精神障害者の社会復帰 などなど。 <p>* 卒論テーマは相談しながら決めたいと思います。 一例として上記のテーマをあげました。参考にして下さい。</p>
先修条件	「精神保健学」および「医学一般」の2科目を修得していることが望ましい。
授業の運営方法	<p>方法:「面接指導」および「通信指導」で行います。el-Campusを通してのみの受講は不可。</p> <p>回数:「面接指導」は1回以上行います。</p> <p>時期:「面接指導」は5月、10月、12月を予定、「通信指導」は随時行います。</p>
履修生に 伝えたいこと	事前面接によって所属の可否を決めますので、所定の面接には必ず参加すること。

	ページ	科 目 名	教 員 名	備 考
英	1	NPO 概論	前田 佐保	
	2	Web 制作応用	栗谷 幸助	
	4	Web 制作入門	栗谷 幸助	
	6	Web ライティング	福田 多美子	
ア	7	アカデミック・ライティング	杉田 米行	
	8	医学一般	堀川 諭	
	9	イギリスの文化と歴史	太田 素子	
	10	異文化コミュニケーション	神谷 善美	
	12	異文化コミュニケーション演習	安藤 幸一	(ス)
	13	医療人類学入門	野波 侑里	
	15	宇宙科学	山田 義弘	
	16	英語A(実用文法)	石谷 春奈	
	18	英語B(翻訳)	日下 元及	
	20	英語C(文書作成)	石谷 春奈	
	21	英語D(英会話)	田中 キャサリン	(ス)
	23	英語表現I(基礎)	堂村 由香里	
	24	英語表現II(応用)	西村 道信	
	25	映像制作入門	小倉 以索	
	27	音楽とコミュニケーション	萬 圭介	
	28	オンライン教育概論	合田 美子	
カ	29	カウンセリング心理学	辻 達也、具 英姫	(ス)
	30	化学概論	牧野 壮一	
	31	学習心理学	枚田 香	
	32	家庭の経営	二階堂 達郎	
	33	韓国語I(基礎)	村上 純	
	34	韓国語II(応用)	村上 純	
	35	企業経営論	小江 茂徳	
	37	基礎ゼミナール	野波 侑里、畠 耕治郎、本田 直也	
	39	キャリア概論	岩波 薫	(ス)
	40	キャリア形成と社会	山縣 康浩	
	42	キャリアの心理学	坂本 理郎	(ス)
	43	キャリアマネジメント	山縣 康浩	
	44	教育・学校心理学	寺田 未来	
	46	行政法	野村 康春	
	48	暮らしから見る福祉	二階堂 達郎	(ス)
	49	暮らしの安全と消費者問題	二階堂 達郎	
	50	経営学総論	藤本 秀俊	
	52	経営組織論	小江 茂徳	
	53	経済学基礎	金森 啓介	
	55	経済学入門	大沼 穣	
	57	経済原論	金森 啓介	
	59	健康心理学	北島 順子	
	60	現代社会と家族	藤田 道代	
	61	憲法	山谷 真	
	62	考古学の世界	川口 宏海	
	63	行動の科学	櫻本 和也	
	65	心と身体のセラピー演習	野波 侑里	
	67	子育てと仕事	細見 正樹	
	69	子育てと食育	山下 陽子	
	71	コミュニケーション概論	森川 知史	
	72	コンピュータと通信	中崎 修一	
サ	73	財務分析	上野 精一	
	74	産業・組織心理学	服部 泰宏	
	76	ジェンダーと社会	藤田 道代	(ス)
	77	色彩論I	山下 真知子	
	78	社会科学	岩波 薫	
	80	社会心理学	森下 朝日	
	82	社会福祉援助技術	須川 重光	(ス)
	83	社会福祉概論	須川 重光	(ス)

	ページ	科 目 名	教 員 名	備 考
サ	84	宗教学	長谷川 琢哉	
	86	障害児・障害者心理学	楠 敬太	
	88	障害者福祉	須川 重光	(ス)
	89	生涯発達心理学	松並 知子	
	91	情報活用 I (基礎)	本田 直也、野波 侑里、奥村 紀之	(ス)
	93	情報活用 II (応用)	本田 直也	(ス)
	95	情報機器プレゼンテーション	佐々木 英洋	
	96	情報セキュリティー事例研究	鳥巣 泰生	
	97	資料分析学	近藤 伸彦	
	99	人格心理学	五十嵐 英樹	
	100	人事・労務管理	中嶋 哲夫	
	102	身体科学	渡辺 勉	
	103	心理学概論	松並 知子	
	104	心理学研究法	西本 実苗	
	105	心理学実験演習A	櫻本 和也、布井 雅人、高橋 裕美、八木 彩乃	(ス)
	107	心理学実験演習B	櫻本 和也、布井 雅人、高橋 裕美、八木 彩乃	(ス)
	109	心理学総合演習	枚田 香、具 英姫	(ス)
	110	心理学統計法	西本 実苗	
	111	スイーツ学で神戸スイーツ探訪	松井 博司	(ス)
	112	数学	浦畠 育生	
	113	政治学	石黒 太	
	115	精神分析学	赤坂 和哉	
	117	精神保健学	堀川 諭	
	118	青年心理学	芳田 茂樹	
	119	生物学概論	杉本 敏美	
	121	生命科学	渡辺 勉	
タ	122	対人関係論	森下 朝日	
	124	対人コミュニケーションのトレーニング	後藤 亮子	(ス)
	126	第二言語習得研究 I	高見澤 孟	
	127	第二言語習得研究 II	高見澤 孟	
	128	地球環境問題と対策	内山 雄介	
	130	地球環境論	貝柄 徹	
	131	中国語入門	公文 三佐子	
	132	調査研究方法 I	谷村 要、坂本 理郎、酒井 健、中嶋 哲夫	
	134	調査研究方法 II	内田 啓太郎	
	136	データベース論	森本 雅博	
	137	デジタルデザイン入門	栗谷 幸助	
	139	哲学	石毛 弓	
	140	統計入門	浦畠 育生	(ス)
	141	統計入門	浦畠 育生	
	142	特別演習 I	川島 正章	(ス)
ナ	143	日本語教育	高見澤 孟	
	144	日本語教育演習 I	梅野 由香里	
	146	日本語教育会話演習	新 聖子	
	147	日本語教育作文演習	清水 泰行	
	148	日本語教育実習	鈴木 基伸、加藤 恵梨	(ス)
	150	日本語教育聴解演習	加藤 恵梨	
	151	日本語教育聴解研究	阿曾村 陽子	
	152	日本語教育読解演習	加藤 恵梨	
	153	日本語教育読解研究	阿曾村 陽子	
	154	日本語教育特講	鈴木 基伸、大和 祐子、小森 万里	(ス)
	155	日本語教育特講	鈴木 基伸、大和 祐子、小森 万里	
	156	日本語教育文法研究 I	高見澤 孟	
	157	日本語教育文法研究 II	高見澤 孟	
	158	日本語教育文字・語彙演習	加藤 恵梨	
	159	日本語教授法A	高見澤 孟	
	160	日本語教授法B	高見澤 孟	
	161	日本語の特徴と発音	高見澤 孟	
	162	日本語の文法と表現 I	高見澤 孟	

	ページ	科 目 名	教 員 名	備 考
ナ	163	日本語の文法と表現Ⅱ	高見澤 孟	
	164	日本語表現	秋田 久子	
	165	認知行動療法	池田 浩之	(ス)
	166	認知心理学	谷口 康祐	
	168	脳の科学	西村 治彦	
ハ	169	俳句と川柳	水野 達朗	
	171	パズルで情報活用	本田 直也	
	173	働くことを考える	後藤 亮子	(ス)
	174	犯罪心理学	枚田 香	
	176	阪神間の観光開発	四方 啓暉、田中 義次	(ス)
	177	阪神間の文学めぐり	盛田 帝子	(ス)
	178	阪神間の歴史紀行	川口 宏海	(ス)
	179	ひとと動物の心理学	中島 由佳	
	180	ファイナンシャル・プランニング	伊藤 亮太	
	182	福祉住環境論	藤本 幹也	
	184	物理学概論	庭瀬 敬右	
	185	プレゼンテーション演習Ⅰ(基礎)	福井 愛美	
	186	プレゼンテーション演習Ⅱ(応用)	福井 愛美	
	187	プレゼンテーション概論	水原 道子	
	188	文化心理学	亀井 美弥子	
	189	法学基礎	福田 高之	
	191	簿記論・財務会計	小野 慎一郎	
マ	192	マーケティングリサーチ入門	杉林 弘仁	
	193	マーケティング論	杉林 弘仁	(ス)
	195	マネジメントとリーダーシップ	山縣 康浩	
	196	民法	幸田 功	
ラ	198	リサイクル問題	渡辺 勉	
	199	臨床心理学	酒井 健	
	201	臨床心理学実習	酒井 健、辻野 達也	(ス)
	203	倫理と道徳	石毛 弓	
	204	ロジカル・シンキング	今宮 信吾	
	205	私のライフデザイン論	中嶌 剛	
卒業研究	206	卒業研究	浦畠 育生	
	207	卒業研究	川口 宏海	
	208	卒業研究	酒井 健	
	209	卒業研究	鈴木 基伸	
	210	卒業研究	仲谷 伸子	
	211	卒業研究	二階堂 達郎	
	212	卒業研究	西村 道信	
	213	卒業研究	野波 侑里	
	214	卒業研究	藤田 道代	
	215	卒業研究	堀川 諭	